

2023年度 授業概要【幼児保育専攻】

科目コード:13100

科目ナンバリング:PC20A01K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教教育論 a(Introduction to Christian Education a)

担当者:結城 敏也

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素:

11 討論

16 振り返り

授業の概要:

宗教としての「キリスト教」は、西ヨーロッパ文明を介して、現在の世界の在り方に大きな影響を与えています。「キリスト教」(あるいは「キリスト教」文明と他の文明の軋轢を)理解することは、世界の現状を読み解くためには欠かせない鍵となっています。ここでは、宗教としてのキリスト教を、他宗教と比較しながら、現代文明を読み解くための一助となる知識を獲得することを目的とします。「宗教」としての「キリスト教」が歴史の流れの中でどのような機能を果たしてきたのかを概観する。「キリスト教」が及ぼした影響をを外側から規定しようとするもの、別な言い方をすれば高度な組織体としてのキリスト教会・キリスト教を基盤とする文明が歴史に及ぼした影響を考察する。政治の流れの中で、宗教家たちは様々な扱いを受け、利用され、旗頭に挙げられ、あるいは自分が持つごく狭い常識の中ではぐくまれた「正しさ」に拘泥し、他者に対する悪影響を及ぼすこともある。この講義では、宗教と文明とのかかわりを考察する。

キーワード: 宗教 キリスト教 ユダヤ教 イスラム 世界理解 現代世界の源泉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: キリスト教がどのように今の姿になったか。キリスト教をベースとすると西ヨーロッパ文明がどのように形成されたかを把握する。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を各自に適合して方法で系統的に整理することを推奨する。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしながら、現代世界の状況を把握するためには重要な事項でもあるので、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、不公正な言動がある場合、また、カンニングなどの不正行為は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 「宗教」と「文明」
 2. ユダヤ教とその発展
 3. キリスト教発生前後の宗教的状況
 4. キリスト教の成立
 5. ローマ帝国の国教として 1
 6. ローマ帝国の国教として
 7. 教会と修道院
 8. 教会と修道院2
 9. 十字軍
 10. 教会分裂
 11. 宗教改革
 12. プロテスタント宗教改革と近代的教育制度
 13. キリスト教と植民地支配 あるいは「宣教」
 14. 宗教と政治の問題
 15. まとめ

使用テキスト： 資料などはICUNIPAの掲示にファイルとして添付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

予習のポイント(30分～90分)

icunipaの資料に目を通し、わからない単語など調べておく。

講義の対象となる時代背景などを高校の世界史教科書とか通史などを通読して把握しておく。

復習のポイント(30分～90分)

講義内容をもとに、自分なりにノートをまとめてみる。ノートの提出は求めない。

参考文献

(ごく一般的な教科書的なもの)

「キリスト教の歴史 増補新版」斎藤正彦 新教出版社 2011

(ヨーロッパと日本のキリスト教についてより詳しく知りたいならば)

「キリスト教史」藤代泰三 講談社学術文庫 2017

(西欧のキリスト教の歴史について詳しく知りたい場合には)

キリスト教の2000年史 ポール ジョンソン 共同通信社 1999

タミム・アンサーリー 「イスラームから見た『世界史』」 紀伊國屋書店

飯山陽 著「イスラーム教の論理」新潮新書

ウィリアム・H・マクニール 「世界史」 上・下 中公文庫

浅野 典夫 ものがたり宗教史 (ちくまプリマー新書)

キリスト教の2000年史は入手困難かもしれないが、通読をお勧めする。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： メール

留意事項： 呼吸器系の疾患を抱えているために、コロナウィルスのまんえん状況によってはオンライン授業になる可能性があります。

科目コード:13100

科目ナンバリング:PC20A01K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教教育論 b(Introduction to Christian Education b)

担当者:結城 敏也

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 11 討論

16 振り返り用紙と応答

授業の概要:

宗教とは何だろうか?生きていく上で「宗教」は何故必要なのだろうか。「宗教」と「道徳」とはどのような関係するのだろうか?

現在の日本の学校教育では、私立学校においては「道徳」ではなく「宗教」を当てることができる。

社会のありかたによっては、「宗教」を教えるのは学校の役割ではない。しかしながら社会が正常に存続するためには、市民に「宗教」あるいは「道徳」を教え、規範意識を持たせることが不可欠である。市民の大多数が規範意識を失ったとき、その社会は劣化し、衰亡する。

現在の日本の社会状況においては、「宗教」は等閑視される。初詣をしたり、クリスマスを祝ったりはするものの「宗教」の意義について考えることは少ない。

キリスト教教育とは、「キリスト教」という宗教を媒介として「人間」をあるべき姿へと導くことを目標とする教育である。ここでは、宗教、キリスト教、そしてキリスト教を介した宗教教育について概括したい。

キーワード: 宗教 政治 キリスト教 ユダヤ教 イスラム 教育 ルター コメニウス 反宗教改革 教育制度 教授 学者 義務教育 公教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 宗教、道徳、倫理の違いはどこにあるのか、宗教と社会とはどのような関係にあるか。関係。教育と宗教との関係、そして、キリスト教教育とは何かを理解する。

評価方法: レポート

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を各自に適合して方法で系統的に整理することを推奨する。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしながら、現代世界の状況を把握するためには重要な事項でもあるので、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、

不公正な言動がある場合には減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 宗教と教育の関係
 2. キリスト教とはどんな宗教か
 3. ユダヤ教とその発展 旧約聖書
 4. キリスト教発生前後の宗教的状况 新約聖書 4福音書
 5. キリスト教の成立
 6. ローマ帝国の国教として
 7. 教会と修道院
 8. 十字軍
 9. キリスト教と植民地支配 あるいは「宣教」
 11. 宗教改革 1
 12. 宗教改革 2
 13. 宗教改革と教育
 14. キリスト教と義務教育の発生
 15. 近代教育とキリスト教理念

使用テキスト： 聖書(新約・旧約)
講義資料はIC-UNIPAで公開。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習のポイント ～90分
資料などを通読し、不明な事項などを調べておく。シラバスに書かれた、あるいは講義中に
提示する参考文献などを通読し、自分なりにまとめてみる。

復習のポイント ～90分
講義に基づいてノートを作成、不明な点があれば調べる。それでもわからない点などはリアク
ションペーパーで質問をする。

参考文献
(ごく一般的な教科書的なもの)
「キリスト教の歴史 増補新版」斎藤正彦 新教出版社 2011

「キリスト教の歴史」小田垣雅也 講談社学術文庫 1995
『『新約聖書』の『たとえ』を解く』加藤隆 ちくま新書 2006
「人を生かすキリスト教教育」船本弘毅 創元社 2008
「キリスト教文化の常識」石黒マリーローズ 講談社現代新書 1994
「キリスト教教育の背景」小林公一編著 ヨルダン社 1979
「イスラム教の論理」飯山陽 著新潮新書 2018

(ヨーロッパと日本のキリスト教についてより詳しく知りたいならば)
「キリスト教史」藤代泰三 講談社学術文庫 2017
(西欧のキリスト教の歴史について詳しく知りたい場合には)
キリスト教の2000年史 ポール ジョンソン 共同通信社 1999

キリスト教の2000年史は入手困難かもしれないが、通読をお勧めする。

障がいのある
履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの問い合わせ

留意事項： 呼吸器系疾患を抱えているために、コロナの蔓延状況によってteamsを利用しているオンライン講義になり

ます。

科目コード : 13102 科目ナンバリング : PC10C02K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 教育原理 a(Principles of Education a)

担当者 : 柳橋 晃

基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 月曜1限

履修可能学科・専攻 : Pc

関連資格 : 教職 保育 社教 福祉主

AL要素 : 08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要 : この授業は、教育という営みとは何かという問いについて、様々な角度から問い直すものです。この授業では、教育の歴史、教育を可能/不可能にするメカニズム、教育の目的や理想(あるべき姿)について、太古の時代から現代まで幅広く取り上げ、教育という営みの奥深さと難しさ、そして、その重要性についてじっくり考えてもらいます。また、理論と実践の両方を取り上げ、それを通じて教師という実践者たりうるために必要な思考の技法を学ぶことを目的とします。

なお、この科目は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する科目です。

キーワード : 教育思想、教育史、学校、近代教育、公教育、子供中心主義、新教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で扱った教育の理念・歴史・思想についておおむね理解し、それに関する問いに中間試験と定期試験で80%解答することができる。

評価方法 : ・中間試験

評価割合 : 30%

・定期試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った教育の理念・歴史・思想について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、中間試験と定期試験で自らの所見を表現することができる。

評価方法 : ・中間試験

評価割合 : 60%

・定期試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容及び発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうか、を評価の基準とする。

また、各授業回で提出してもらうコメントシートへの記入内容もまた授業への参加点の評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。

評価割合 : 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が中間試験や定期試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やコメントシートの記述、中間試験・定期試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1週 オリエンテーション:これまで受けてきた教育体験を振り返る
 - 第2週 教育は必要か:狼に育てられた子どもの逸話やそれに関連する発達論の検討を通して教育の必要性や社会化の意義を考える(グループディスカッション)
 - 第3週 教育をめぐる思想(1)子どもの固有性の発見:ルソー・ペスタロッチ・フレーベルの思想を概観し、保護の対象から教育の対象となったその歴史的経緯を学ぶ
 - 第4週 教育をめぐる思想(2)教科書の誕生から一斉授業の成立へ:コメニウス『世界図絵』、産業革命と授業スタイルの変遷
 - 第5週 教育をめぐる思想(3)学校教育の拡大と教育の合理化:ヘルバルトからデューイへ
 - 第6週 日本の学校教育(1)戦前の教育:学制の成立から大正新教育、そして大政翼賛下の教育へ
 - 第7週 日本の学校教育(2)戦後民主主義と教育の展開:教育基本法に見る教育観と人間観
 - 第8週 日本の学校教育(3)現代の教育問題:いじめ・不登校・子どもの権利条約
 - 第9週 学校教育の問い直し(1)不登校という現象とその思想:不登校概念の変遷と実態、オルタナティブスクールの現在
 - 第10週 学校教育の問い直し(2)保護者のクレーム対応:モンスターペアレント問題をどう乗り越えるか(事例検討のグループディスカッション)
 - 第11週 学校教育の問い直し(3)人権と教育:教師として人権問題について対処する際に踏まえる法律や規範
 - 第12週 現代教育の論点(1)SDGs時代の教育:子どもの貧困と教育に関するこれまでとこれから
 - 第13週 現代教育の論点(2)専門職としての教師:ILO・ユネスコ教師の地位勧告から家庭や地域に対する教師の役割について考える
 - 第14週 現代教育の論点(3)実践記録の役割とその注意点:実践記録(幼児教育におけるエピソード記述を含む)を書く際のポイントと個人情報保護等の注意点について考える(グループディスカッション)
 - 第15週 まとめ:理念としての教育の意義

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマとなっている人名、事項について調べることが望ましい。授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

教科書として以下のものを購入しておくこと。

・沼野一男他著『教育の原理』(第四版)学文社、2010年。

参考資料として次の4点を推薦する。

・汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2013年、3,080円。

・勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年、1,980円。

・北村友人ほか『SDGs時代の教育』学文社、2019年、3,300円。

・田嶋一ほか『やさしい教育原理』(第三版)有斐閣、2016年、1,980円。

※その他については、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせしま

す。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：13102 科目ナンバリング：PC10C02K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育原理 b(Principles of Education b)

担当者：柳橋 晃

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育 社教 福祉主

AL要素：08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： この授業は、教育という営みとは何かという問いについて、様々な角度から問い直すものです。この授業では、教育の歴史、教育を可能/不可能にするメカニズム、教育の目的や理想(あるべき姿)について、太古の時代から現代まで幅広く取り上げ、教育という営みの奥深さと難しさ、そして、その重要性についてじっくり考えてもらいます。また、理論と実践の両方を取り上げ、それを通じて教師という実践者たりうるために必要な思考の技法を学ぶことを目的とします。

なお、この科目は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する科目です。

キーワード： 教育思想、教育史、学校、近代教育、公教育、子供中心主義、新教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った教育の理念・歴史・思想についておおむね理解し、それに関する問いに中間試験と定期試験で80%解答することができる。

評価方法： ・中間試験

評価割合： 30%

・定期試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った教育の理念・歴史・思想について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、中間試験と定期試験で自らの所見を表現することができる。

評価方法： ・中間試験

評価割合： 60%

・定期試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容及び発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうか、を評価の基準とする。

また、各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容もまた授業への参加点の評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が中間試験や定期試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やコメントシートの記述、中間試験・定期試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1週 オリエンテーション:これまで受けてきた教育体験を振り返る
 - 第2週 教育は必要か:狼に育てられた子どもの逸話やそれに関連する発達論の検討を通して教育の必要性や社会化の意義を考える(グループディスカッション)
 - 第3週 教育をめぐる思想(1)子どもの固有性の発見:ルソー・ペスタロッチ・フレーベルの思想を概観し、保護の対象から教育の対象となったその歴史的経緯を学ぶ
 - 第4週 教育をめぐる思想(2)教科書の誕生から一斉授業の成立へ:コメニウス『世界図絵』、産業革命と授業スタイルの変遷
 - 第5週 教育をめぐる思想(3)学校教育の拡大と教育の合理化:ヘルバルトからデューイへ
 - 第6週 日本の学校教育(1)戦前の教育:学制の成立から大正新教育、そして大政翼賛下の教育へ
 - 第7週 日本の学校教育(2)戦後民主主義と教育の展開:教育基本法に見る教育観と人間観
 - 第8週 日本の学校教育(3)現代の教育問題:いじめ・不登校・子どもの権利条約
 - 第9週 学校教育の問い直し(1)不登校という現象とその思想:不登校概念の変遷と実態、オルタナティブスクールの現在
 - 第10週 学校教育の問い直し(2)保護者のクレーム対応:モンスターペアレント問題をどう乗り越えるか(事例検討のグループディスカッション)
 - 第11週 学校教育の問い直し(3)人権と教育:教師として人権問題について対処する際に踏まえる法律や規範
 - 第12週 現代教育の論点(1)SDGs時代の教育:子どもの貧困と教育に関するこれまでとこれから
 - 第13週 現代教育の論点(2)専門職としての教師:ILO・ユネスコ教師の地位勧告から家庭や地域に対する教師の役割について考える
 - 第14週 現代教育の論点(3)実践記録の役割とその注意点:実践記録(幼児教育におけるエピソード記述を含む)を書く際のポイントと個人情報保護等の注意点について考える(グループディスカッション)
 - 第15週 まとめ:理念としての教育の意義

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマとなっている人名、事項について調べることが望ましい。授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

教科書として以下のものを購入しておくこと。
・沼野一男他著『教育の原理』(第四版)学文社、2010年。

参考資料として次の4点を推薦する。
・汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2013年、3,080円。
・勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年、1,980円。
・北村友人ほか『SDGs時代の教育』学文社、2019年、3,300円。
・田嶋一ほか『やさしい教育原理』(第三版)有斐閣、2016年、1,980円。
※その他については、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項: デバイスの持参を推奨します。

科目コード:13103 科目ナンバリング:PC11C01K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育の心理学 a(Early Childcare, Education and Development a)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 07. 発表

08. 共同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 教科書や資料をもとに、幼児、児童、生徒における、1)心身の発達の過程と特徴および、2)学習に関する基礎的知識、発達をふまえた学習を支える指導について学びます。これらの学びをもとに、幼児、児童、生徒の心身の発達および学習の過程について理解することを目標とします。授業のあとに、感想や意見、質問などをコメントシートに書いて提出します。

キーワード: 子ども 保育 心理学 発達心理学 乳幼児 児童 青年 障害児 親子 家族 保育所 幼稚園 小学校 学習過程 学習心理学 言語発達 認知発達 社会性の発達 運動発達 臨床発達心理 教育 教育心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけること、また、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目的とします。具体的には、人の心や行動が一生を通じてどのように変化してゆくのか、また、乳児期から青年期までの各発達段階において、人がどのような課題に出会うのかを理解します。その際、運動発達・言語発達、認知発達、社会性の発達など、領域ごとの発達についても解説し、これらを理解します。以上の学びを基盤として、子どもたちにどのように関わるのか、また、支援や指導を行うかについて理解します。上記の内容について概ね80%の内容を暗記し解答することができることを目標とします。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 70%

小テスト(各单元ごと)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上述の知識について深く理解し、考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想や考察・疑問など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。

上記については、毎回のコメントシートの作成、グループディスカッション、個人での発表などを通して行う。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・討論への参加・コメントシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内

容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合：授業中の私語、授業とは関係のない

授業計画： 第1回：人間の発達の特徴(1)：発達の概念・教育における発達理解の意義
第2回：人間の発達の特徴(2)：生物進化におけるヒト・発達の特徴
第3回：遺伝と環境(1)：幼児・児童・生徒の発達における外的・内的要因の相互作用
第4回：遺伝と環境(2)：幼児・児童・生徒の発達に関する代表的理論
第5回：乳幼児期の発達(1)：乳幼児の運動発達・認知発達
第6回：乳幼児期の発達(2)：乳幼児の言語発達
第7回：乳幼児期の発達(3)：乳幼児の社会性の発達
第8回：児童期・青年期の発達(1)：児童・生徒の運動発達・言語発達
第9回：児童期・青年期の発達(2)：児童・生徒の認知発達・社会性の発達
第10回：幼児・児童・生徒の学習過程(1)：様々な学習と代表的理論
第11回：幼児・児童・生徒の学習過程(2)：主体的学習・動機付け・集団づくり
第12回：幼児・児童・生徒の学習過程(3)：学習評価の在り方
第13回：乳幼児期(幼児)の発達と主体的な学びを支える指導
第14回：児童・青年期(児童・生徒)の発達と主体的な学びを支える指導
第15回：幼児・児童・生徒の発達と学習のまとめ
学期末筆記試験

使用テキスト：「よくわかる乳幼児心理学」内田伸子(編) ミネルヴァ書房
「DVDとイラストでよくわかる手あそびうたブック」永岡書店
上記以外で授業に関連する資料は、配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日頃から新聞や書籍を通して、子供をめぐる様々な問題に触れておいて下さい。また、学期を通して、最低1冊は、発達心理学や教育心理学の入門的テキストを読んでください。文章の書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 1)本授業は保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により、受講生数を50名以下とします。
2)子ども・保育・心理学関係の授業を他にも履修することが望ましいです。
3)この授業では座席を指定します。
4)担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード:13103

科目ナンバリング:PC11C01K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育の心理学 b(Early Childcare, Education and Development b)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 07. 発表

08. 共同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 教科書や資料をもとに、幼児、児童、生徒における、1)心身の発達の過程と特徴および、2)学習に関する基礎的知識、発達をふまえた学習を支える指導について学びます。これらの学びをもとに、幼児、児童、生徒の心身の発達および学習の過程について理解することを目標とします。授業のあとに、感想や意見、質問などをコメントシートに書いて提出します。

キーワード: 子ども 保育 心理学 発達心理学 乳幼児 児童 青年 障害児 親子 家族 保育所 幼稚園 小学校 学習過程 学習心理学 言語発達 認知発達 社会性の発達 運動発達 臨床発達心理 教育 教育心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけること、また、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目的とします。具体的には、人の心や行動が一生を通じてどのように変化してゆくのか、また、乳児期から青年期までの各発達段階において、人がどのような課題に出会うのかを理解します。その際、運動発達・言語発達、認知発達、社会性の発達など、領域ごとの発達についても解説し、これらを理解します。以上の学びを基盤として、子どもたちにどのように関わるのか、また、支援や指導を行うかについて理解します。
上記の内容について概ね80%の内容を暗記し解答することができることを目標とします。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 70%

小テスト(各单元ごと)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上述の知識について深く理解し、考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想や考察・疑問など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。
上記については、毎回のコメントシートの作成、グループディスカッション、個人での発表などを通して行う。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・討論への参加・コメントシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記

述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合：授業中の私語、授業とは関係のない

授業計画： 第1回：人間の発達の特徴(1)：発達の概念・教育における発達理解の意義
第2回：人間の発達の特徴(2)：生物進化におけるヒト・発達の特徴
第3回：遺伝と環境(1)：幼児・児童・生徒の発達における外的・内的要因の相互作用
第4回：遺伝と環境(2)：幼児・児童・生徒の発達に関する代表的理論
第5回：乳幼児期の発達(1)：乳幼児の運動発達・認知発達
第6回：乳幼児期の発達(2)：乳幼児の言語発達
第7回：乳幼児期の発達(3)：乳幼児の社会性の発達
第8回：児童期・青年期の発達(1)：児童・生徒の運動発達・言語発達
第9回：児童期・青年期の発達(2)：児童・生徒の認知発達・社会性の発達
第10回：幼児・児童・生徒の学習過程(1)：様々な学習と代表的理論
第11回：幼児・児童・生徒の学習過程(2)：主体的学習・動機付け・集団づくり
第12回：幼児・児童・生徒の学習過程(3)：学習評価の在り方
第13回：乳幼児期(幼児)の発達と主体的な学びを支える指導
第14回：児童・青年期(児童・生徒)の発達と主体的な学びを支える指導
第15回：幼児・児童・生徒の発達と学習のまとめ
学期末筆記試験

使用テキスト：「よくわかる乳幼児心理学」内田伸子(編) ミネルヴァ書房
「DVDとイラストでよくわかる手あそびうたブック」永岡書店
上記以外で授業に関連する資料は、配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日頃から新聞や書籍を通して、子供をめぐる様々な問題に触れておいて下さい。また、学期を通して、最低1冊は、発達心理学や教育心理学の入門的テキストを読んでください。文章の書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 1)本授業は保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により、受講生数を50名以下とします。
2)子ども・保育・心理学関係の授業を他にも履修することが望ましいです。
3)この授業では座席を指定します。
4)担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード：13105

科目ナンバリング：PC20C08K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子育て支援論(Childcare Support Theory)

担当者：中島 美那子、長谷川 幸介、長谷川 鈴子、水口 進

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜6限

履修可能学科・専攻：Pe Pc W

関連資格：保育

AL要素：08.共同学修

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要： 子どもの育ち・発達を支える保護者、行政、地域について理解を深めます。子どもの育ちを保障するためには、ときに保護者への支援を要し、また保護者、行政、地域との連携が必要になることもあります。

子どもの育ちに欠かせない子育て支援について、担当教員の実務経験も共有しつつ、多面的に学びます。また最終回は、実際の子育て支援現場へ赴き、その役割、機能、支援者の仕事について学びます。

キーワード： 子育て支援、発達支援、保護者支援、子どもの人権、地域連携、ペアレンティング・プログラム

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. なぜ現代には子育て支援が必要なのか、「地域」の歴史や現在の地域のあり方に関連付けながら考え、説明することができる。
2. 子どもの育ちを支える人々、機関について知り、実際の支援、連携のあり方についての理解を深め、説明することができる。

評価方法： レポート、学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 子育て支援は保護者支援の要素が大きいことを踏まえ、保護者のさまざまな状況を理解したうえで支援する方法について考え、示すことができる。
2. 子どもの権利を守るためにすべき子育て支援について考え、自らの考えを表すことができる。

評価方法： レポート、学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。しかし、主体的な取り組みによると思われる気づきや理解の深まりがレポートや定期筆記試験の中に認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、レポートや学期末筆記試験で子どもの人権侵害や差別的発言等が見られた時には減点の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回 子育て支援とは（中島美那子）
第2回 行政の行う子育て支援(1)（長谷川幸介）

- 第3回 地域の子育て支援(1)(長谷川幸介)
 - 第4回 地域の子育て支援(2)(長谷川鈴子)
 - 第5回 地域の子育ての歴史とこれからの姿(長谷川幸介)
 - 第6回 子どもの権利と子育て支援(長谷川鈴子)
 - 第7回 子育て支援の中の発達保障(長谷川鈴子)
 - 第8回 発達支援とその具体的方法(1)(水口進)
 - 第9回 発達支援とその具体的方法(2)(水口進)
 - 第10回 発達支援の地域連携(水口進)
 - 第11回 発達支援における保護者支援(1)(水口進)
 - 第12回 発達支援における保護者支援(2)(水口進)
 - 第13回 外国に由来のある子どもと家族(1)我が国の動向(中島美那子)
 - 第14回 外国に由来のある子どもと家族(2)支援の実際(中島美那子)
 - 第15回 地域および本学の子育て支援現場訪問(中島美那子)
- 定期試験

使用テキスト: 立花直樹・安田誠人監修『子ども・保護者に寄り添う「子育て支援」』(晃洋書房、2022年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前学修として、現代社会の中にある子どもの育ちや子育て支援に関する問題について、日ごろから関心を持ち、書籍や新聞報道等を通してその現状に触れておいてください。事後学修では、発達検査やペアレント・トレーニング・プログラムなどについて改めて整理し、その位置付けや提供の仕方について考えを深めてください。また子どもの権利についても、さらに知見を深めることが望ましいです。参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で中島が対応します。他の担当教員に連絡を取りたい場合には、学務部に相談してください。

留意事項:

- ・ 今後、「地域子育て支援実践演習」および「地域発達支援実践演習」を履修するためには、原則として本授業を履修することが必要となります。
- ・ 最終回の分は、実際の子育て支援の現場へ赴き、その役割、機能、支援者の仕事について学びます。ほとんどの受講生が本学子育て支援施設「アンネローゼ」にて研修をすることとなりますが、アンネローゼの事業日に予定が立たない場合には、別途地域の子育て支援施設での研修となることがあります。

科目コード:13109

科目ナンバリング:PC10A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育基礎演習A a(Education Basic Seminar A a)

担当者:清水悦子、佃彰一郎、飛田隆、天野秀哉、穂積訓、佐藤真紀、高野暁子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素:

01. 実地訓練
02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修
09. 実地調査
13. 役割演技と疑似体験
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 第1回では、この授業が大学4年間の学びの基礎および2年次以降の実習への導入として位

置づけられることを理解する。

第2回・6～9回では、「大学生活へ向けて」と題し、大学生活での仲間づくりや図書館の使い方、レポートの書き方、キャリア支援を題材に、フレッシュマンセミナーとしての題材を取り扱う。

第3～5回では、附属園での現場体験にあたって必要な準備と実習生としての態度について学び、附属園での現場体験、その後の振り返りを経験する。2年次以降の実習に際し必須となる実習日誌を書く技術についても実際の子どもの姿の観察から実践的に学ぶ。

第10～15回では、2年次以降の実習で必要とされる基礎知識・技能に関する入門的演習(身体表現、音楽、制作)を経験し、各自が実習までの期間に、どのように準備を進めていったらよいのかを理解する。

キーワード： 大学生活へ向けて、実習日誌、音楽表現、身体表現、制作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 大学での学びに必要な知識・技能とともに、保育・幼児教育に携わるものとして必要な知識・技能について、概ね80%の内容を理解し、修得することができている。

評価方法： レポート課題 **評価割合：45%**
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自身の知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。現場体験をふまえて、自己の保育観を深めることができる。実習に向けて子どもの姿を思い描いて表現することができる。

評価方法： レポート課題 **評価割合：45%**
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学習により自身の知見に追加された成果や、主体的な思索の深まりを評価する。

評価割合：10%

▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、子どもとごすボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言・レポートの記述等において人権侵害・差別的な発言・剽窃など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点・厳重注意の対象とする。

また、子どもの人権に配慮し、特に園での現場体験の際には、子どもの健やかな成長を支える者としての自覚を持って行動すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 授業のねらい・進め方(清水)
第2回 大学生活へ向けて① 仲間づくり／運動とゲーム(天野)
第3回 記録技術 実習準備(飛田)
第4回 現場実習体験 みらい園での実習(各アドバイザー教員)

- 第5回 記録技術 実習振り返り(各アドバイザー教員)
- 第6回 図書館ガイダンス (各アドバイザー教員)
- 第7回 大学生活へ向けて 文章表現①(清水)
- 第8回 大学生活へ向けて 文章表現②(清水)
- 第9回 キャリア支援 EQ (佃)
- 第10回 実技 身体表現①(高野)
- 第11回 実技 身体表現②(高野)
- 第12回 実技 音楽入門①(佐藤真)
- 第13回 実技 音楽入門②(佐藤真)
- 第14回 実技 制作①(飛田)
- 第15回 実技 制作②(飛田)

使用テキスト: 必要な資料はその都度、授業の中で配布、またはTeamsに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 基礎演習での学びを充実したものにするために、日常生活の中で以下のことを意識して行って下さい。

- (1)新聞や書籍を通して、保育や幼児教育、また子どもについて考える機会を持つこと。
- (2)実技を練習する機会をもつこと。
- (3)子どもと触れ合う経験をなるべく多くもつこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話し下さい。

授業時間外の連絡手段: 各教員がオフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は各教員に問い合わせてください。

留意事項: この授業は、オムニバス形式(各回異なる教員が担当)で行われるため、担当教員および教室が、その都度異なってくる。従って、受講生はガイダンスで配布される資料や、学務部の掲示板、IC UNIPA上の掲示を確認し、毎回の授業がどこで行われるかを把握しておくこと。各回課題が出される可能性が高く、実習・実技を含む授業も多いため、基本的に一度も欠席しないこと。

デバイスの使用については、初回授業時に説明を行う。初回授業に持参する必要はない。

科目コード:13109 科目ナンバリング:PC10A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育基礎演習A b(Education Basic Seminar A b)

担当者:清水悦子、佃彰一郎、飛田隆、天野秀哉、穂積訓、佐藤真紀、高野暁子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

- AL要素:**
01. 実地訓練
 02. 模擬実践
 03. 実験・実技・体験
 07. 発表
 08. 協同学修
 09. 実地調査
 13. 役割演技と疑似体験
 16. 振り返り用紙と応答
 17. 発問と回答

授業の概要: 第1回では、この授業が大学4年間の学びの基礎および2年次以降の実習への導入として位置づけられることを理解する。

第2回・6～9回では、「大学生活へ向けて」と題し、大学生活での仲間づくりや図書館の使い方、レポートの書き方、キャリア支援を題材に、フレッシュマンセミナーとしての題材を取り扱う。

第3～5回では、附属園での現場体験にあたって必要な準備と実習生としての態度について学び、附属園での現場体験、その後の振り返りを経験する。2年次以降の実習に際し必須となる実習日誌を書く技術についても実際の子どもの姿の観察から実践的に学ぶ。

第10～15回では、2年次以降の実習で必要とされる基礎知識・技能に関する入門的演習(身体表現、音楽、制作)を経験し、各自が実習までの期間に、どのように準備を進めていったらよいのかを理解する。

キーワード: 大学生活へ向けて、実習日誌、音楽表現、身体表現、制作

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 大学での学びに必要な知識・技能とともに、保育・幼児教育に携わるものとして必要な知識・技能について、概ね80%の内容を理解し、修得することができている。

評価方法: レポート課題
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況
評価割合: 45%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自身の知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。現場体験をふまえて、自己の保育観を深めることができる。実習に向けて子どもの姿を思い描いて表現することができる。

評価方法: レポート課題
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況
評価割合: 45%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学習により自身の知見に追加された成果や、主体的な思索の深まりを評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、子どもとごすボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言・レポートの記述等において人権侵害・差別的な発言・剽窃など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点・嚴重注意の対象とする。

また、子どもの人権に配慮し、特に園での現場体験の際には、子どもの健やかな成長を支える者としての自覚を持って行動すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 授業のねらい・進め方(清水)
第2回 大学生活へ向けて① 仲間づくり／運動とゲーム(天野)
第3回 記録技術 実習準備(飛田)
第4回 現場実習体験 みらい園での実習(各アドバイザー教員)
第5回 記録技術 実習振り返り(各アドバイザー教員)
第6回 図書館ガイダンス (各アドバイザー教員)
第7回 大学生活へ向けて 文章表現①(清水)
第8回 大学生活へ向けて 文章表現②(清水)

- 第9回 キャリア支援 EQ (佃)
- 第10回 実技 身体表現①(高野)
- 第11回 実技 身体表現②(高野)
- 第12回 実技 音楽入門①(佐藤真)
- 第13回 実技 音楽入門②(佐藤真)
- 第14回 実技 制作①(飛田)
- 第15回 実技 制作②(飛田)

使用テキスト: 必要な資料はその都度、授業の中で配布、またはTeamsに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 基礎演習での学びを充実したものにするために、日常生活の中で以下のことを意識して行って下さい。

- (1)新聞や書籍を通して、保育や幼児教育、また子どもについて考える機会を持つこと。
- (2)実技を練習する機会をもつこと。
- (3)子どもと触れ合う経験をなるべく多くもつこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話し下さい。

授業時間外の連絡手段: 各教員がオフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は各教員に問い合わせてください。

留意事項: この授業は、オムニバス形式(各回異なる教員が担当)で行われるため、担当教員および教室が、その都度異なってくる。従って、受講生はガイダンスで配布される資料や、学務部の掲示板、IC UNIPA上の掲示を確認し、毎回の授業がどこで行われるかを把握しておくこと。各回課題が出される可能性が高く、実習・実技を含む授業も多いため、基本的に一度も欠席しないこと。

デバイスの使用については、初回授業時に説明を行う。初回授業に持参する必要はない。

科目コード:13109 科目ナンバリング:PC10A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育基礎演習A c(Education Basic Seminar A c)

担当者:清水悦子、佃彰一郎、飛田隆、天野秀哉、穂積訓、佐藤真紀、高野暁子

基本情報

年次:1	単位数:2	授業形式:演習
曜時:火曜1限		履修可能学科・専攻: Pc
関連資格:		AL要素: 01. 実地訓練 02. 模擬実践 03. 実験・実技・体験 07. 発表 08. 協同学修 09. 実地調査 13. 役割演技と疑似体験 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答

授業の概要: 第1回では、この授業が大学4年間の学びの基礎および2年次以降の実習への導入として位置づけられることを理解する。
 第2回・6～9回では、「大学生活へ向けて」と題し、大学生活での仲間づくりや図書館の使い方、レポートの書き方、キャリア支援を題材に、フレッシュマンセミナーとしての題材を取り扱う。
 第3～5回では、附属園での現場体験にあたって必要な準備と実習生としての態度について学び、附属園での現場体験、その後の振り返りを経験する。2年次以降の実習に際し必須となる実習日誌を書く技術についても実際の子どもの姿の観察から実践的に学ぶ。
 第10～15回では、2年次以降の実習で必要とされる基礎知識・技能に関する入門的演習(身

体表現、音楽、制作)を経験し、各自が実習までの期間に、どのように準備を進めていったらよいのかを理解する。

キーワード: 大学生活へ向けて、実習日誌、音楽表現、身体表現、制作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 大学での学びに必要な知識・技能とともに、保育・幼児教育に携わるものとして必要な知識・技能について、概ね80%の内容を理解し、修得することができている。

評価方法: レポート課題
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況
評価割合: 45%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自身の知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。現場体験をふまえて、自己の保育観を深めることができる。実習に向けて子どもの姿を思い描いて表現することができる。

評価方法: レポート課題
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況
評価割合: 45%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学習により自身の知見に追加された成果や、主体的な思索の深まりを評価する。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、子どもと過ごすボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言・レポートの記述等において人権侵害・差別的な発言・剽窃など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点・厳重注意の対象とする。

また、子どもの人権に配慮し、特に園での現場体験の際には、子どもの健やかな成長を支える者としての自覚を持って行動すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回 授業のねらい・進め方(清水)
- 第2回 大学生活へ向けて① 仲間づくり／運動とゲーム(天野)
- 第3回 記録技術 実習準備(飛田)
- 第4回 現場実習体験 みらい園での実習(各アドバイザー教員)
- 第5回 記録技術 実習振り返り(各アドバイザー教員)
- 第6回 図書館ガイダンス (各アドバイザー教員)
- 第7回 大学生活へ向けて 文章表現①(清水)
- 第8回 大学生活へ向けて 文章表現②(清水)
- 第9回 キャリア支援 EQ (飛田)
- 第10回 実技 身体表現①(高野)
- 第11回 実技 身体表現②(高野)
- 第12回 実技 音楽入門①(佐藤真)

- 第13回 実技 音楽入門②(佐藤真)
第14回 実技 制作①(飛田)
第15回 実技 制作②(飛田)

使用テキスト: 必要な資料はその都度、授業の中で配布、またはTeamsに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 基礎演習での学びを充実したものにするために、日常生活の中で以下のことを意識して行って下さい。

- (1)新聞や書籍を通して、保育や幼児教育、また子どもについて考える機会を持つこと。
- (2)実技を練習する機会をもつこと。
- (3)子どもと触れ合う経験をなるべく多くもつこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話し下さい。

授業時間外の連絡手段: 各教員がオフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は各教員に問い合わせてください。

留意事項: この授業は、オムニバス形式(各回異なる教員が担当)で行われるため、担当教員および教室が、その都度異なってくる。従って、受講生はガイダンスで配布される資料や、学務部の掲示板、IC UNIPA上の掲示を確認し、毎回の授業がどこで行われるかを把握しておくこと。各回課題が出される可能性が高く、実習・実技を含む授業も多いため、基本的に一度も欠席しないこと。

デバイスの使用については、初回授業時に説明を行う。初回授業に持参する必要はない。

科目コード:13109 科目ナンバリング:PC10A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育基礎演習A d(Education Basic Seminar A d)

担当者:清水悦子、佃彰一郎、飛田隆、天野秀哉、穂積訓、佐藤真紀、高野暁子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 01. 実地訓練
02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修
09. 実地調査
13. 役割演技と疑似体験
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 第1回では、この授業が大学4年間の学びの基礎および2年次以降の実習への導入として位置づけられることを理解する。
第2回・6～9回では、「大学生活へ向けて」と題し、大学生活での仲間づくりや図書館の使い方、レポートの書き方、キャリア支援を題材に、フレッシュマンセミナーとしての題材を取り扱う。
第3～5回では、附属園での現場体験にあたって必要な準備と実習生としての態度について学び、附属園での現場体験、その後の振り返りを経験する。2年次以降の実習に際し必須となる実習日誌を書く技術についても実際の子どもの姿の観察から実践的に学ぶ。
第10～15回では、2年次以降の実習で必要とされる基礎知識・技能に関する入門的演習(身体表現、音楽、制作)を経験し、各自が実習までの期間に、どのように準備を進めていったらよいのかを理解する。

キーワード: 大学生活へ向けて、実習日誌、音楽表現、身体表現、制作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 大学での学びに必要な知識・技能とともに、保育・幼児教育に携わるものとして必要な知識・技能について、概ね80%の内容を理解し、修得することができる。

評価方法: レポート課題 **評価割合: 45%**
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自身の知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。現場体験をふまえて、自己の保育観を深めることができる。実習に向けて子どもの姿を思い描いて表現することができる。

評価方法: レポート課題 **評価割合: 45%**
及び授業内で与えられた実技課題の達成状況

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学習により自身の知見に追加された成果や、主体的な思索の深まりを評価する。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、子どもと過ごすボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言・レポートの記述等において人権侵害・差別的な発言・剽窃など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点・嚴重注意の対象とする。

また、子どもの人権に配慮し、特に園での現場体験の際には、子どもの健やかな成長を支える者としての自覚を持って行動すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 授業のねらい・進め方(清水)
 - 第2回 大学生活へ向けて① 仲間づくり／運動とゲーム(天野)
 - 第3回 記録技術 実習準備(飛田)
 - 第4回 現場実習体験 みらい園での実習(各アドバイザー教員)
 - 第5回 記録技術 実習振り返り(各アドバイザー教員)
 - 第6回 図書館ガイダンス (各アドバイザー教員)
 - 第7回 大学生活へ向けて 文章表現①(清水)
 - 第8回 大学生活へ向けて 文章表現②(清水)
 - 第9回 キャリア支援 EQ (飛田)
 - 第10回 実技 身体表現①(高野)
 - 第11回 実技 身体表現②(高野)
 - 第12回 実技 音楽入門①(佐藤真)
 - 第13回 実技 音楽入門②(佐藤真)
 - 第14回 実技 制作①(飛田)
 - 第15回 実技 制作②(飛田)

使用テキスト： 必要な資料はその都度、授業の中で配布、またはTeamsに掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 基礎演習での学びを充実したものにするために、日常生活の中で以下のことを意識して行って下さい。

- (1)新聞や書籍を通して、保育や幼児教育、また子どもについて考える機会を持つこと。
- (2)実技を練習する機会をもつこと。
- (3)子どもと触れ合う経験をなるべく多くもつこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話し下さい。

授業時間外の連絡手段： 各教員がオフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は各教員に問い合わせてください。

留意事項： この授業は、オムニバス形式(各回異なる教員が担当)で行われるため、担当教員および教室が、その都度異なってくる。従って、受講生はガイダンスで配布される資料や、学務部の掲示板、IC UNIPA上の掲示を確認し、毎回の授業がどこで行われるかを把握しておくこと。各回課題が出される可能性が高く、実習・実技を含む授業も多いため、基本的に一度も欠席しないこと。

デバイスの使用については、初回授業時に説明を行う。初回授業に持参する必要はない。

科目コード：13114 **科目ナンバリング：PC10C01K** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：保育原理(Principles of Childcare)

担当者：清水悦子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育 福祉士

**AL要素：10. 資料調査課題
17. 発問と回答**

授業の概要： この授業では、保育の意義や基本について概観することを目的に、保育について多様な視点から総合的に学びます。具体的には、保育の思想や歴史、制度、内容や方法などについて基礎的な用語や概念を学習し、のぞましい保育を考える基礎を習得していきます。担当教員の保育士や子育て支援活動の実務経験をもとに、今日の保育を取り巻く状況や社会環境、家庭や地域社会での子育ての問題などについて幅広く講義し、保育の現状と課題について考察できるようになるための基礎知識を学習します。

キーワード： 保育所保育指針、保育の歴史、子ども観、現状、課題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 保育の意義について説明できる。
保育所保育指針における保育の基本について理解し説明できる。
保育の思想と歴史の変遷について理解する。

評価方法： 授業内での小テストや課題、レポートにより **評価割合：60%**
総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 保育の現状と課題について考察し、自分の言葉で説明することができる。

評価方法： レポートにより評価する。 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業やグループワークへの参加態度が悪く、他の学生の学修意欲

をそぐ場合には減点の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】この授業の到達目標と概略及びガイダンス

【第02回】保育とは何か

【第03回】子どもの発達

【第04回】保育が行われている場所

【第05回】保育の基本「保育所保育指針」

【第06回】保育のねらいと内容と方法①

【第07回】保育のねらいと内容と方法②

【第08回】小学校との接続

【第09回】保育の計画

【第10回】これからの保育者論

【第11回】子育て支援

【第12回】海外の保育思想と歴史

【第13回】日本の保育思想と歴史

【第14回】保育の現状と課題

【第15回】まとめ

使用テキスト：「シリーズ 知のゆりかご つながる保育原理」 井上孝之、小原敏郎、三浦主博(編) 株式会社みらい 2018年

予習・復習のポイントと 教科書に添って必ず復習を行い、次の授業に臨むこと。

参考文献・資料等：《参考資料》

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部または担当教員まで相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 2回目の授業から、追加の授業資料の紙での配布は行いません。
授業時のデバイスの使用については初回授業時にアナウンスします。

科目コード：13115

科目ナンバリング：PC10C03K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育者論(Nursery Teacher Theory)

担当者：山路 千華

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc

関連資格：保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 保育者について、多角的な視点から検討することができるようになる。
保育の中での「遊び」が子どもの育ちに大きな価値を持つことが再認識されるようになり、幼

幼稚園教育要領や保育所保育指針、そして認定こども園教育保育要領の全てが一度に改訂され、日本の保育は新たな局面を迎えている。また、乳幼児期の「遊びこむ」経験が社会情動的スキルや非認知的能力などの人間力を育むことが証明され、子どもの遊びこむ経験を支える保育者に求められる現代的課題は多い。そこで本講義では、それら課題に向き合いながら、単に保育技術・教育方法の習得に留まるのではなく、保育や教育の奥深さと面白さを感じ、自身の子ども観を深め、広い視野を持った職業観を培っていくものである。なお、保育者としての実務経験を活かし、必要に応じて保育現場の事例や子どもの様子、子どもたちの作品などを紹介しながら理解を深めていきます。

キーワード： 保育の指導 遊び 生活 教育 養護 保育者像 保育者の資質 保育者の専門性 保育者の協働

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・保育者の社会における位置付けや職務内容について理解する。
・保育者の協働と専門家としての成長について理解する。

評価方法： ・授業後の小レポート
・学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・保育者の専門性や役割、倫理について考察する。
・保育者に求められる資質と専門性について理解し、目指す保育者像について考察する。
・保育の現代的課題について考察し、子どもや人の生活の多様性を尊重する視点を持つ

評価方法： ・授業後の小レポート
・学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業の最後に記入する小レポートの内容は、各授業テーマに沿って、上記の項目「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。自主的な学習によって自身の知見に追加された成果が小レポートに認められることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回： 保育者の歴史の変遷と今日的課題
第2回： 保育者の役割と倫理
第3回： 幼稚園教育要領等の理解と保育者の役割
第4回： 保育者の仕事における「教育」と「養護」に見る諸側面
第5回： これからの保育者に求められる基礎的な資質能力
第6回： 保育者の専門性と子ども理解の視点
第7回： 保育文化財の理解と教材研究の実際
第8回： 地域の中で育つ子どもを支える保育者の専門性と役割
第9回： 保育者の仕事における同僚性
第10回： 協働する保育者と自身の成長
第11回： 幼保小連携を含む関係諸機関や地域との連携

- 第12回： 現代社会の変化と多文化理解保育の現状
- 第13回： 多様化する保育ニーズと子育て支援の現状
- 第14回： 保育者の職務と生活
- 第15回： 保育者のキャリア形成
- 第16回： 定期試験

使用テキスト： 教科書は特に使用しない。毎回、作成したレジュメに基づいて授業を進行し、必要な資料等は随時、配布する。教科書としては指定しないが、平成29年告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び各解説については各自が確認できる状態であることを前提とする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の予習として、授業回の内容やその関連する事柄について新聞やニュースでの課題について考察しておく(60分)
 毎回の復習として、授業回の内容をレジュメに沿って振り返り、学習の記録をまとめておく。また、授業内で紹介した資料や関連するニュースについてまとめて記録しておく(120分)
 日頃から「保育者」へ向ける意識が必須であり、授業での誠実な取り組みを期待すると共に、授業外の学生生活内においても、対人援助職といわれる保育者の職務を目指す人材として、積極的に子ども・保育文化財についての探求心を持ったり、相手の立場を思いやる心持ちと言動を心がけて生活をしたりするなど、学びを有意義に自分の財産としてほしい。
 以下、参考書として次のテキストを推薦する。
 『子どもと共に育ちあう エピソード保育者論』 井上孝之・山崎敦子編 株式会社みらい

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後に質問等は受け付ける。
 また、メールは常時受け付ける。
 chika_yamaji@icc.ac.jp

留意事項： 特になし

科目コード：13116 科目ナンバリング：PC20C05K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会的養護I(Social Care for Children I)

担当者：安藤 みゆき

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：講義
 曜時：水曜5限 履修可能学科・専攻：Pc
 関連資格：保育 AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 社会的養護について、その意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護、制度や実施体系、今後の課題などを総合的に学びます。なお、具体的に理解できるように、社会的養護の施設職員としての実務経験を生かし、事例を用いて解説してゆきます。

キーワード： 子どもの人権擁護、社会的養護の制度、社会的養護の歴史の変遷、子ども虐待

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について説明することができる。

評価方法： レポート **評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の現状と課題について考察を深め、論理的に自らの意見を表現することができる。

評価方法： レポート **評価割合：** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修に主体的に取り組んだ成果をレポートや授業中の発言で表現することができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践によって、深められた知見等が、レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの内容において、人権侵害、差別的発言など著しく公平性を欠くものがあつた場合は、嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション、社会的養護とは何か
第2回:現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 (1) 社会的養護の理念と概念
第3回:現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 (2) 社会的養護の歴史の変遷
第4回:社会的養護の基本(1) 子どもの人権擁護と社会的養護
第5回:社会的養護の基本(2) 社会的養護の基本原則
第6回:社会的養護における保育士等の倫理と責務
第7回:社会的養護の制度と実施状況(1) 乳児院
第8回:社会的養護の制度と実施状況(2) 児童養護施設等
第9回:社会的養護の制度と実施状況(3) 里親等
第10回:社会的養護とソーシャルワーク
第11回:社会的養護の対象
第12回:家庭的養護と施設養護
第13回:社会的養護に関わる専門職
第14回:社会的養護に関する社会的状況
第15回:施設等の運営管理

使用テキスト：「図解で学ぶ社会的養護1」萌文書林 2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、子ども虐待・児童養護施設・乳児院等に関する報道に興味関心を持ち、その内容や考察をレポートに反映してください(90分)。授業後には、授業中にわからなかった単語や、興味を持った内容について学修することが望ましいです(90分)。
参考文献「明日の子供たち」相川浩 幻冬舎 2014年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問合せください。

留意事項： なし

科目コード：13117 科目ナンバリング：PC30C15K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子ども家庭福祉(Child and Family Welfare)

担当者：富田 浩子、猪狩 美奈子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育 福祉主

AL要素：08.共同学習

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要： 子育て・育て環境の変化に伴う様々な問題が浮き彫りになった今日、もはや子どもが育つための環境づくりを各家庭だけに課すことはできません。本授業は、現在子どもと家族の置かれている状況を把握し、その課題に対する子ども家庭福祉のあり方について学びます。子ども家庭福祉の基本的概念、児童福祉施策、実践、さらには今日的課題について理解を深め、よりよい子ども家庭福祉のあり方について検討します。また、子どもの人権について考えを深めます。

キーワード： 児童福祉施策、子どもの人権、地域、ひとり親家庭、外国に由来のある子ども、子どもの貧困、非行

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史について、説明することができる。
2. 現在の子ども家庭福祉の施策と実施体系について知り、説明することができる。
3. 子どもの権利条約について説明することができる。

評価方法： 振り返りシート、レポート、小テスト

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 子ども家庭福祉の制度を適切に活用する力を養い、状況に応じて示すことができる。
2. 子どもの最善の利益について考えを深め、状況に応じて判断することができる。
3. 子ども家庭福祉の今日的課題について知り、その改善・解決について考えを深めることができる。

評価方法： 振り返りシート、レポート、小テスト

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。しかし、主体的な取り組みによると思われる気付きや理解の深まりが、振り返りシートやレポートの中に認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等が振り返りシートやレポートの内容に認められた時には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし、共同学習等における発言、振り返りシートやレポート等で、子どもの人権に関する侵害や差別的発言等が見られた時には減点の対象とする。特に本授業では、「子どもの権利条約」を通して子どもの人権について学ぶことから、十分に注意することが必要となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第 1回ガイダンス・子ども家庭福祉とは（富田）
第 2回子ども家庭福祉の意義と現代社会（猪狩）
第 3回子ども家庭福祉と家庭支援（猪狩）
第 4回子ども家庭福祉の歴史の変遷（猪狩）
第 5回子ども家庭福祉の法体系（猪狩）
第 6回子ども家庭福祉の行財政と実施体系（猪狩）
第 7回子ども家庭福祉と専門職（猪狩）
第 8回母子保健と子どもの健全育成（猪狩）

- 第9回現代における保育とは（富田）
- 第10回少子化対策と子育て支援（富田）
- 第11回障害のある子ども・家族と子ども家庭福祉（富田）
- 第12回子ども虐待（富田）
- 第13回地域の子育て家庭への支援の現状と課題（富田）
- 第14回貧困家庭の子ども・少年非行への対応（富田）
- 第15回子ども家庭福祉の動向と展望（富田）

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前学習として、現代社会の中にある子どもの育ち、そしてその福祉的課題について、書籍や新聞報道等を通してその現状を理解することをお勧めします。事後学習では、子ども家庭福祉に関する法律や制度、実施機関について理解し、子どもの人権、子どもを取り巻く福祉的課題等について整理してください。さらには保育職として、また国民としてのこれからの福祉的課題への対応について考え、知見を深めることも求められます。参考文献や資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： 学部を通しておこなうこと。

留意事項： 特になし。

科目コード：13118 **科目ナンバリング：**PC20C04K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：社会福祉(Social Welfare)

担当者：吉田 滋

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育 福祉主

AL要素：08 協同学修
10 資料調査課題

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要： 社会人として最低限必要な社会福祉の原理、仕組み、法制度やその運用利用方法を体系的に理解することを目的としている。日々の生活の中で福祉という言葉は見聞していても具体的内容を知らないまま使っていることが多い。この講義を通して福祉を身近に感じ、役立つものとしてもらいたい。

コロナは終息したと推量されるが、大学等の指示があった場合はやむを得ずオンラインに切り替える場合もある。

キーワード： 社会福祉、社会福祉政策、社会福祉制度、社会福祉援助。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会福祉の原理や仕組み制度政策を理解し、今後の人生の場面で日常生活の場面で起こった課題を解決し、知識を総動員して福祉援助につなげることができるようにする。

評価方法： 期末試験による評価。

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会福祉を総合的に学ぶことで福祉現場で起きている課題を福祉的に解決、あるいは福祉の専門家や福祉制度に結び付けていく能力を涵養する。

評価方法: 期末試験による評価。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。

学生として積極的に学修することは当然だからである。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。

上記同様、学生としての姿勢に期待する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価とはしない。

ただし、日ごろの言動や試験時の記述、コメント等で公平性に欠ける記述がみられた場合には、直接指導注意を行ったうえで減点する場合がある。

評価割合: 0%

▼その他

出席は毎回Unipa上で授業の感想を提出した場合カウントする。詳細はガイダンス時に指示するが、出席していても感想(コメント)を提出しない場合は遅刻欠席扱いとする。

評価割合: 出席は毎回Unipa上で授業の感想

- 授業計画:**
- 第1回 社会福祉の歴史'1) 日本の歴史。
 - 第2回 社会福祉の歴史(2)欧米の歴史。
 - 第3回 現代の社会問題 社会問題への視点。
 - 第4回 社会福祉の思想と哲学(1) 思想。
 - 第5回 社会福祉の思想と哲学(2)哲学、価値観。
 - 第6回 社会福祉の理論。社会福祉の理論。福祉国家の理論。福祉政策の理論。
 - 第7回 福祉政策の機能。福祉政策の機能と実施過程、政策決定、政策の実施方法、政策評価。
 - 第8回 福祉政策における財政(1)。財政の果たす役割。福祉国家の財政。
 - 第9回 福祉政策における財政(2)日本の福祉財政と今後の課題。
 - 第10回 福祉政策の供給と利用(1)公的部門、民間部門。
 - 第11回 福祉政策の供給と利用(2)各部門間連携、調整、協同。福祉人材、利用者支援。
 - 第12回 関連政策の動向(1)保健医療政策、教育政策
 - 第13回 関連政策の動向(2)住宅政策、労働政策
 - 第14回 社会福祉の国際比較
 - 第15回 新しい社会福祉とは?
 - 第16回 期末試験

使用テキスト: 『社会福祉の原理と政策』岩崎晋也他編。ミネルヴァ書房。新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック。

予習・復習のポイントと 毎回あらかじめ提示してあるテキスト部分を読み込んでおくこと(90分)。

参考文献・資料等: 講義を聞いた後、講義内容について自分なりにまとめたり、調べたりしておく(90分)これを繰り返すことで確実に知識が身につくはずである。
参考文献等は随時指示する。毎回のレジュメは授業開始までにUnipaの課題管理画面に掲示するので各自プリントアウトしておくこと。

障がいのある履修者への対応: 大学事務局と連携して可能な限り合理的配慮を行う。講義開始時または開始前に該当者は申し出て欲しい。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡用アドレスを公開している。

留意事項: 特になし。

科目コード:13121 科目ナンバリング:PC20C13K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 子ども文化論 a(Child Culture Theory a)

担当者: 飛田 隆

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:保育

AL要素: 07 発表

08 協同学修

11 討論

授業の概要: 子どもの生活や遊びの中にある文化を色々な角度から考え、実際に授業の中で体験する。伝承遊びや昔話が伝えられてきた歴史についても学ぶ。子どもが好む遊びの種類、遊び方などについても実践を通して学んでいく。玩具についても調べ、手作りの玩具等も授業の中で作り発表する。保育園、幼稚園等で主に遊ばれている「遊び」についても学んでいく

キーワード:

手作りおもちゃ、教材研究、子どもの遊び、いろいろな物の制作。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 子どもの生活や遊びの中にある文化を説明できる。
手作り玩具の作り方を理解し子どもに説明できる。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもが好む遊びの種類、遊び方などについても説明できる。
保育園、幼稚園等で主に遊ばれている「遊び」について実践できるようにする。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、子どもに関係のある作品、文化等に興味を持ち新聞、雑誌等を読んでおくこと。また玩具、絵本などにも関心を持っておくことが望ましい。積極的に制作に取り組む姿勢。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的評価はしないが、教材準備、片づけ等積極的に行うこと。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 以下の項目を調べたり作ったり実際に体験し、それぞれに得たことを考察し項目によっては発表する。

- 第1回. 子ども文化とは何か解説する
- 第2回. 紙を使った手作りおもちゃ等
- 第3回. 紙コップを使った手作りおもちゃ等
- 第4回. 素材を使つての玩具づくり
- 第5回. 紙皿を使った手作りおもちゃ等
- 第6回. 生活の中にある手作りおもちゃ
- 第7回. 切り紙遊び等についての実践
- 第8回. 保育園での遊び
- 第9回. 幼稚園での遊び
- 第10回. 壁面等
- 第11回. 伝統的な玩具を作る
- 第12回. 手作り玩具(紙コップ、紙皿等)身近な素材を使つて作る
- 第13～15回. その他の遊びと手作り玩具を作る

使用テキスト： 適宜こちらで用意する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 普段から子どもの作品や町中の造形物を意識して観察する。教材等の意識を持ち製作に使用できるか考えておく。
参考文献等は適宜紹介する。資料等は必要に応じてこちらで準備する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り、対応し相談に応じる。

授業時間外の連絡手段： 可能な限り、研究室で対応する。

留意事項： 製作があるので毎回はさみ、セロテープ、工作ノリを用意しておくこと。その他の教材・道具等はこちらで用意する。

科目コード：13121 科目ナンバリング：PC20C13K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子ども文化論 b(Child Culture Theory b)

担当者：飛田 隆

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：07 発表

08 協同学修

11 討論

授業の概要： 子どもの生活や遊びの中にある文化を色々な角度から考え、実際に授業の中で体験する。伝承遊びや昔話が伝えられてきた歴史についても学ぶ。子どもが好む遊びの種類、遊び方などについても実践を通して学んでいく。玩具についても調べ、手作りの玩具等も授業の中で作り発表する。保育園、幼稚園等で主に遊ばれている「遊び」についても学んでいく

キーワード： 手作りおもちゃ、教材研究、子どもの遊び、いろいろな物の制作。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 子どもの生活や遊びの中にある文化を説明できる。

手作り玩具の作り方を理解し子どもに説明できる。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもが好む遊びの種類、遊び方などについても説明できる。
保育園、幼稚園等で主に遊ばれている「遊び」について実践できるようにする。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、子どもに関係のある作品、文化等に興味を持ち新聞、雑誌等を読んでおくこと。また玩具、絵本などにも関心を持っておくことが望ましい。積極的に制作に取り組む姿勢。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的評価はしないが、教材準備、片づけ等積極的に行うこと。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 以下の項目を調べたり作ったり実際に体験し、それぞれに得たことを考察し項目によっては発表する。

- 第1回. 子ども文化とは何か解説する
- 第2回. 紙を使った手作りおもちゃ等
- 第3回. 紙コップを使った手作りおもちゃ等
- 第4回. 素材を使つての玩具づくり
- 第5回. 紙皿を使った手作りおもちゃ等
- 第6回. 生活の中にある手作りおもちゃ
- 第7回. 切り紙遊び等についての実践
- 第8回. 保育園での遊び
- 第9回. 幼稚園での遊び
- 第10回. 壁面等
- 第11回. 伝統的な玩具を作る
- 第12回. 手作り玩具(紙コップ、紙皿等)身近な素材を使って作る
- 第13～15回. その他の遊びと手作り玩具を作る

使用テキスト: 適宜必要に応じてこちらで用意する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 普段から子どもの作品や町中の造形物を意識して観察する。教材等の意識を持ち製作に使用できるか考えておく。
参考文献等は適宜紹介する。資料等は必要に応じてこちらで準備する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り、対応し相談に応じる。

授業時間外の連絡手段: 可能な限り研究室で対応する。

留意事項: 製作があるので毎回はさみ、セロテープ、工作ノリを用意しておくこと。その他の教材・道具等はこちらで

用意する。

科目コード : 13125 科目ナンバリング : PC20C15K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 発達障害学(Developmental Disabilities Studies)

担当者 : 三橋 翔太

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 水曜1限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N M

関連資格 : 保育

AL要素 : 03.実験・実技・体験

04. 課題解決

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要 : 学校教育や保育において特別な支援が必要とされる障害の中から、代表的なものをいくつか取り上げ、その障害の特性について各心理機能の基礎的事柄と共に概説する。具体的には、知能や認知機能に関わる障害(知的障害, 学習障害, 注意欠陥多動性障害)、運動行為に関わる障害(脳性マヒ, 発達性協調運動障害)、社会性やコミュニケーションに関わる障害(自閉症スペクトラム障害)を取り上げる。

キーワード : 特別支援教育, 発達障害, 心理機能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 様々な発達障害の基礎的事柄を理解する。

評価方法 : 学期末課題

評価割合 : 85%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 個に応じた支援の在り方についての知識を応用することができる。

評価方法 : コメントペーパー

評価割合 : 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に発達障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が授業終了時に回収するコメントペーパーなどに記載されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : 1 はじめに

- 2 心理機能の生涯発達とその障害
- 3 知的障害とは何か？①知的発達・認知発達の基礎的事柄
- 4 知的障害とは何か？②適応機能
- 5 知的障害とは何か？③知的発達障害の原因_生理型
- 6 知的障害とは何か？③知的発達障害の原因_病理型
- 7 限局性学習障害とは何か？
- 8 自閉症スペクトラム障害とは何か？①社会性発達の基礎的事柄
- 9 自閉症スペクトラム障害とは何か？②自閉症の歴史・定義
- 10 自閉症スペクトラム障害とは何か？③自閉スペクトラム症について
- 11 注意欠如多動性障害について
- 12 運動障害とは何か①運動発達の基礎的事柄
- 13 運動障害とは何か②脳性マヒについて
- 14 運動障害とは何か③発達性協調運動障害について
- 15 まとめ

使用テキスト： 適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習については、初回に紹介する発達障害児・者全般に関する文献に目を通しておくことが望ましい。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。障害に関する参考文献：滝川一廣, 子どものための精神医学, ISBN-10: 426003037X.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：13129 **科目ナンバリング：**PC20C16K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：言語発達心理学(Language Acquisition and Development)

担当者：江尻 桂子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pc

関連資格：保育 日本語

AL要素：07. 発表

08. 共同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 人がどのようにしてことばを話すようになるのかということを、生物学、心理学、言語学、教育学、社会学的な観点から学びます。進化の過程でなぜヒトのみが言語を持ちえたのか、また、言語を獲得するためにはどのような発達の基盤や社会的な環境が必要なのかについて学びます。さらに言語発達心理学や、発達臨床心理学の立場から、ことばの障害について、その種類や状態について理解し、具体的にどのような支援ができるかを理解します。ことばをめぐる諸問題としては、言語発達心理学の立場から、第二言語(外国語)習得について考えます。これらの学びをもとに、保育や教育の現場、特別支援教育、外国語教育の現場において、子供たちの言語活動にどのように関われば良いか、ことばに課題をもつ子どもや大人に対してどのような支援が適切であるのかを理解します。なお、各単元終了ごとに小テストを行います。授業内での個人発表や、グループディスカッション、学期末試験等も実施予定です。課題の多い授業ですので、その旨ご了解の上、受講して下さい。

キーワード： 言語 発達 言語発達 言語獲得 障害 ことば 乳幼児 児童 障害 生物進化 第二言

語習得

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた内容について、概ね80%の内容を暗記し、解答することができる。これらの到達度については小テスト(各单元ごと・全部で5回程度)および期末試験(筆記試験)で確認します。

評価方法: 学期末筆記試験
小テスト(各单元ごと) **評価割合: 70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 上述の知識について深く理解し、考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想や考察・疑問など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。

評価方法: 授業への参加・討論への参加・コメントシート **評価割合: 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合: 授業中の私語、授業とは関係のない

- 授業計画:**
- 第1回 授業の概略と到達目標
 - 第2回 人類の進化と言語習得
 - 第3回 言語習得の生物学的基盤と学習
 - 第4回 初期言語発達(1) 新生児～乳児期
 - 第5回 初期言語発達(2) 乳児～幼児期
 - 第6回 初期言語発達(3) 幼児～児童期
 - 第7回 言語発達の基盤となる認知・情動・社会的発達
 - 第8回 ことばの障害の種類と定義(1) 理論的枠組み
 - 第9回 ことばの障害の種類と定義(2) 事例: 構音障害・吃音・語用障害など
 - 第10回 ことばの障害の種類と定義(3) 読字障害・聴覚障害など
 - 第11回 ことばに障害を持つ子どもへの支援(構音障害・吃音など)
 - 第12回 ことばに障害を持つ子どもへの支援(語用障害・発達障害など)
 - 第13回 ことばの問題に関する相談とその支援の事例(1) (CODAの発達)
 - 第14回 ことばの問題に関する相談とその支援の事例(2) (CODAの支援)

第15回 総まとめ
学期末試験(筆記試験)

使用テキスト: 授業に関連する資料は、配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1) 参考文献や参考図書は、授業の中で紹介します。
2) 予習については、日頃から新聞や書籍を通して、言語の発達や障害に関する話題に触れるようにしておいてください。
3) 復習については、授業で配布した資料を基に復習を行い、各単元終了ごとに実施される小テストに備えてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: この授業では座席を指定します。
担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード:13131 科目ナンバリング:PC30C04E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 障害児保育 a(Care for Disabled Children a)

担当者: 齋藤 遼太郎、三橋 翔太

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験
08. 協同学修
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 今日保育所や幼稚園等の保育現場において、障害のある乳幼児が多数在籍している。本授業では、前半は特別支援教育と各種指導(保育)要領や保幼小連携の在り方について、後半は発達障害等の特性や発達アセスメントの使用方法について学習する。毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

キーワード: 障害児、特別支援教育、インクルージョン、保護者支援、アセスメント

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 障害児保育の理念、保幼小連携、発達アセスメント等に関する基礎的・基本的な事項について、概ね80%説明することができる。

評価方法: 学期末課題

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 障害児保育の理念、保幼小連携、発達アセスメント等についての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

評価方法: グループワークシート

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: ガイダンス 障害児保育と特別支援教育(斎藤、三橋)
第2回: 障害児保育の歴史—インテグレーションからインクルージョンへ—(斎藤)
第3回: 保育所保育指針と特別支援教育—個別の支援計画と個別の指導計画—(斎藤)
第4回: 幼稚園教育要領と特別支援教育—校内委員会と特別支援教育コーディネーター—(斎藤)
第5回: 保幼小連携の在り方(斎藤)
第6回: 乳幼児健診と発達相談(斎藤)
第7回: 障害がある乳幼児の保護者支援(斎藤)
第8回: 障害児養育を支える関係機関(斎藤)
第9回: 発達障害・言語障害児の理解と援助 (1)ADHD/LD(三橋)
第10回: 発達障害・言語障害児の理解と援助 (2)ASD(三橋)
第11回: 発達障害・言語障害児の理解と援助 (3)言語障害(三橋)
第12回: 視覚障害・聴覚障害児の理解と援助(三橋)
第13回: 肢体不自由・病弱児の理解と援助(三橋)
第14回: 知的障害・ダウン症児の理解と援助(三橋)
第15回: 重症心身障害児・医療的ケア児の理解と援助(三橋)
学期末課題

使用テキスト: 小林徹・栗山宣夫編「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」みらい ISBN 978-4-86015-504-9 C3337
加えて授業者が独自に作成したワークシートを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード:13131

科目ナンバリング:PC30C04E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 障害児保育 b(Care for Disabled Children b)

担当者: 斎藤 遼太郎、三橋 翔太

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 今日保育所や幼稚園等の保育現場において、障害のある乳幼児が多数在籍している。本授業では、前半は特別支援教育と各種指導(保育)要領や保幼小連携の在り方について、後半は発達障害等の特性や発達アセスメントの使用方法について学習する。毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

キーワード: 障害児、特別支援教育、インクルージョン、保護者支援、アセスメント

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 障害児保育の理念、保幼小連携、発達アセスメント等に関する基礎的・基本的な事項について、概ね80%説明することができる。

評価方法: 学期末課題

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 障害児保育の理念、保幼小連携、発達アセスメント等についての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

評価方法: グループワークシート

評価割合: 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：ガイダンス 障害児保育と特別支援教育(斎藤、三橋)
第2回：障害児保育の歴史—インテグレーションからインクルージョンへ—(斎藤)
第3回：保育所保育指針と特別支援教育—個別の支援計画と個別の指導計画—(斎藤)
第4回：幼稚園教育要領と特別支援教育—校内委員会と特別支援教育コーディネーター—(斎藤)
第5回：保幼小連携の在り方(斎藤)
第6回：乳幼児健診と発達相談(斎藤)
第7回：障害がある乳幼児の保護者支援(斎藤)
第8回：障害児養育を支える関係機関(斎藤)
第9回：発達障害・言語障害児の理解と援助 (1)ADHD/ASD/LD(三橋)
第10回：発達障害・言語障害児の理解と援助 (2)言語障害(三橋)
第11回：視覚障害・聴覚障害児の理解と援助(三橋)
第12回：肢体不自由・病弱児の理解と援助(三橋)
第13回：知的障害・ダウン症児の理解と援助(三橋)
第14回：重症心身障害児・医療的ケア児の理解と援助(三橋)
第15回：アセスメントと発達段階(三橋)
学期末課題

使用テキスト： 小林徹・栗山宣夫編「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」みらい ISBN 978-4-86015-504-9 C3337
加えて授業者が独自に作成したワークシートを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード：13132 科目ナンバリング：PC20C06E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会的養護II a(Social Care for Children II a)

担当者：安藤 みゆき

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：11.討論

授業の概要：

児童養護施設、乳児院、里親などでの子どもの生活や支援の実際について説明します。行動観察などのアセスメント、治療的支援、自立支援についても解説し、施設の小規模化、家庭的養護など、社会的養護の現状の課題と展望についても学びます。なお、具体的に理解できるように、社会的養護の職員としての実務経験を生かし、事例を用いて解説します。

キーワード： 家庭的養護、里親、施設の小規模化、治療的支援

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 施設養護及び家庭養護について具体的に述べることができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会的養護における子どもの支援及び虐待防止と家庭支援について議論することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修に主体的に取り組んだ成果をレポートや授業中の発言で表現することができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践によって、深められた知見等が、レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの内容において、人権侵害、差別的発言など著しく公平性を欠くものがあつた場合は、嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回:オリエンテーション、社会的養護 I の復習
 - 第2回:社会的養護における子どもの理解
 - 第3回:社会的養護における日常生活支援
 - 第4回:社会的養護における治療的支援
 - 第5回:社会的養護における自立支援
 - 第6回:施設養護の生活特性及び実際(1)乳児院
 - 第7回:施設養護の生活特性及び実際(2)児童養護施設
 - 第8回:施設養護の生活特性及び実際(3)児童心理治療施設、児童自立支援施設
 - 第9回:家庭養護の生活特性及び実際
 - 第10回:社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成
 - 第11回:社会的養護における記録及び自己評価
 - 第12回:社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
 - 第13回:社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
 - 第14回:今後の課題(1)社会的養護における家庭支援
 - 第15回:今後の課題(2)社会的養護の課題と展望

使用テキスト:

「子どもと社会的養護の基本」相澤譲治・今井慶宗編著 学文社 2017年9月発行

予習・復習のポイントと 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(60)。

参考文献・資料等: 授業後、配布資料について復習する(60分)。

「ジソウのお仕事 50の物語(ショートストーリー)で考える子ども虐待と児童相談所」青山さくら、川松亮著フェミックス(2020/1/10)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせください

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする

科目コード:13132

科目ナンバリング:PC20C06E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 社会的養護II b(Social Care for Children II b)

担当者: 安藤 みゆき

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:保育

AL要素: 11.討論

授業の概要:

児童養護施設、乳児院、里親などでの子どもの生活や支援の実際について説明します。行動観察などのアセスメント、治療的支援、自立支援についても解説し、施設の小規模化、家庭的養護など、社会的養護の現状の課題と展望についても学びます。なお、具体的に理解できるように、社会的養護の職員としての実務経験を生かし、事例を用いて解説してゆきます。

キーワード: 家庭的養護、里親、施設の小規模化、治療的支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標:施設養護及び家庭養護について具体的に述べるができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会的養護における子どもの支援及び虐待防止と家庭支援について議論することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修に主体的に取り組んだ成果をレポートや授業中の発言で表現することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践によって、深められた知見等が、レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの内容において、人権侵害、差別的発言など著しく公平性を欠くものがあつた場合は、嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション、社会的養護 I の復習

第2回:社会的養護における子どもの理解

第3回:社会的養護における日常生活支援

第4回:社会的養護における治療的支援

第5回:社会的養護における自立支援

第6回:施設養護の生活特性及び実際(1)乳児院

第7回:施設養護の生活特性及び実際(2)児童養護施設

第8回:施設養護の生活特性及び実際(3)児童心理治療施設、児童自立支援施設

- 第9回:家庭養護の生活特性及び実際
- 第10回:社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成
- 第11回:社会的養護における記録及び自己評価
- 第12回:社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
- 第13回:社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
- 第14回:今後の課題(1)社会的養護における家庭支援
- 第15回:今後の課題(2)社会的養護の課題と展望

使用テキスト:

「子どもと社会的養護の基本」相澤譲治・今井慶宗編著 学文社 2017年9月発行

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(60)。授業後、配布資料について復習する(60分)。
「ジソウのお仕事 50の物語(ショートストーリー)で考える子ども虐待と児童相談所」青山さくら、川松亮著フェミックス(2020/1/10)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせください

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする

科目コード: 13133 **科目ナンバリング:** PC20C26K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 子ども家庭支援論 a(Child and Family Support a)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 火曜2限 **履修可能学科・専攻:** Pc

関連資格: 保育 **AL要素:** 07. 発表
08. 共同学習
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 現代の家族を取り巻く社会的状況やそこで生じる諸問題、子育て家庭の支援体制について理解します。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。さらに、保育所や幼稚園における「子育て支援」の社会的役割について理解し、子供たちだけでなく親をも含めた家族が、保育や支援の対象であることを理解します。以上について基礎的な知識を得た上で、それぞれの家族のニーズに応じた家族福祉を図るための様々な援助活動や関係機関との連携についても学びます。

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 障害児者 心理 家族 家族心理学 家庭支援 家庭福祉 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 家庭の意義とその機能について理解する。
 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。
 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。
 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。
- 上記の1～4の内容について概ね80%の内容を暗記し解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 70%

小テスト(各单元ごと)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 上述の知識について深く理解し、考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想や考察・疑問など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。

評価方法: **評価割合: 30%**

授業への参加・討論への参加・コメントシート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合: 授業中の私語、授業とは関係のない

授業計画: 第1回: 家庭支援の意義と役割(その1) 家庭の意義と機能・家庭支援の必要性
第2回: 家庭支援の意義と役割(その2) 保育士等が行う家庭支援の原理
第3回: 家庭生活を取り巻く社会的状況(その1) 現代の家庭における人間関係
第4回: 家庭生活を取り巻く社会的状況(その2) 地域社会の変容と家庭支援
第5回: 家庭生活を取り巻く社会的状況(その3) 男女共同参画社会とワークライフバランス
第6回: 子育て家庭の支援体制(その1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第7回: 子育て家庭の支援体制(その2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
第8回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その1) 子育て支援サービスの概要
第9回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その2) 保育所入所児童の家庭への支援
第10回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その3) 地域の子育て家庭への支援
第11回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その4) 要保護児童及びその家庭に対する支援
第12回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その5) 子育て支援における関係機関との連携
第13回: 子育て支援サービスの課題(その1)
第14回: 子育て支援サービスの課題(その2)
第15回: 授業全体のまとめ
学期末筆記試験

使用テキスト: 「みんなで考える家族・家庭支援論一知っていますか? いろいろな家族・家庭があることを」 草野いづみ(著) 同文書院
上記以外で授業に関連する資料は、配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」「家族」「家庭支援」などの問題や話題に触れるよう

にしておきましょう。文章の書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 子ども・支援・家族・保育・心理学関係の授業を他にも履修することが望ましいです。この授業では座席を指定します。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード：13133 **科目ナンバリング：PC20C26K** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：子ども家庭支援論 b(Child and Family Support b)

担当者：江尻 桂子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：07. 発表

08. 共同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 現代の家族を取り巻く社会的状況やそこで生じる諸問題、子育て家庭の支援体制について理解します。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。さらに、保育所や幼稚園における「子育て支援」の社会的役割について理解し、子供たちだけでなく親をも含めた家族が、保育や支援の対象であることを理解します。以上について基礎的な知識を得た上で、それぞれの家族のニーズに応じた家族福祉を図るための様々な援助活動や関係機関との連携についても学びます。

キーワード： 子ども 家族 乳幼児 児童 障害児者 心理 家族 家族心理学 家庭支援 家庭福祉 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 家庭の意義とその機能について理解する。
2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。
3. 子育て家庭の支援体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。
上記の1～4の内容について概ね80%の内容を暗記し解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験
小テスト(各单元ごと)

評価割合：70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 上述の知識について深く理解し、考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想や考察・疑問など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。

評価方法:

授業への参加・討論への参加・コメントシート

評価割合: 30%**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や厳重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、厳重注意や減点の対象となります。

評価割合: 授業中の私語、授業とは関係のない

- 授業計画:**
- 第1回: 家庭支援の意義と役割(その1) 家庭の意義と機能・家庭支援の必要性
 - 第2回: 家庭支援の意義と役割(その2) 保育士等が行う家庭支援の原理
 - 第3回: 家庭生活を取り巻く社会的状況(その1) 現代の家庭における人間関係
 - 第4回: 家庭生活を取り巻く社会的状況(その2) 地域社会の変容と家庭支援
 - 第5回: 家庭生活を取り巻く社会的状況(その3) 男女共同参画社会とワークライフバランス
 - 第6回: 子育て家庭の支援体制(その1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
 - 第7回: 子育て家庭の支援体制(その2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
 - 第8回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その1) 子育て支援サービスの概要
 - 第9回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その2) 保育所入所児童の家庭への支援
 - 第10回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その3) 地域の子育て家庭への支援
 - 第11回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その4) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 第12回: 多様な支援の展開と関係機関との連携(その5) 子育て支援における関係機関との連携
 - 第13回: 子育て支援サービスの課題(その1)
 - 第14回: 子育て支援サービスの課題(その2)
 - 第15回: 授業全体のまとめ
- 学期末筆記試験

使用テキスト: 「みんなで考える家族・家庭支援論—知っていますか? いろいろな家族・家庭があることを」 草野 いづみ (著) 同文書院
上記以外で授業に関連する資料は、配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」「家族」「家庭支援」などの問題や話題に触れるようにしておきましょう。文章の書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: 子ども・支援・家族・保育・心理学関係の授業を他にも履修することが望ましいです。
この授業では座席を指定します。
担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード: 13134 **科目ナンバリング:** PC30C16E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 地域子育て支援実践演習 a(Practical Seminar in Community-based Childcare Support)
担当者: 中島 美那子、菅野 ひろみ、佐藤 美年子

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 月曜5限 **履修可能学科・専攻:** Pe Pc
関連資格: 保育 **AL要素:** 01.実地訓練
07.発表
11.討論

授業の概要: 本授業はおもに、地域の子育て支援施設の協力をいただきながら、少人数に分かれて学内外の子育て支援施設に赴きます。受講者は主体的に親子にかかわり、現代の子育て事情や子どもと保護者とのかかわりについて実践から学びます。
また、現場で支援者として従事するスタッフの親子へのかかわり方を観察し、子育て支援者のあるべき姿についても考えます。

キーワード: 子育て支援、学外研修、保護者支援、地域連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 子育て支援施設の役割や機能を理解し、知識として身につけている。
2. 子育て支援施設における保育士や子育て支援員の職務について理解している。

評価方法: 訪問毎に提出するレポート、最終回での発表 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 研修先で出会う乳幼児とその保護者に対して自分ができ得る最善のかかわりについて考え、工夫し、表現することができる。

評価方法: 訪問毎に提出するレポート、最終回での発表 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

研修先で出会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや最終発表の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合: 0%

▼ その他

内外の子育て支援施設に赴きます。受講者は主体的に親子にかかわり、現代の子育て事情や子どもと保護者とのかかわりについて実践から学びます。

また、現場で支援者として従事するスタッフの親子へのかかわり方を観察し、子育て支援者のあるべき姿についても考えます。

キーワード： 子育て支援、学外研修、保護者支援、地域連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 子育て支援施設の役割や機能を理解し、知識として身につけている。
2. 子育て支援施設における保育士や子育て支援員の職務について理解している。

評価方法： 訪問毎に提出するレポート、最終回での発表 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 研修先で出会う乳幼児とその保護者に対して自分ができ得る最善のかかわりについて考え、工夫し、表現することができる。

評価方法： 訪問毎に提出するレポート、最終回での発表 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

研修先で出会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや最終発表の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

評価対象ではないが、外部での研修が主な授業内容となるため、乳幼児とその保護者とかかわるうえで失礼のないよう留意すること。

身だしなみに関しては、保育実習や初等教育実習と同様にとらえること。

評価割合：評価対象ではないが、外部での研

授業計画： 少人数に分かれて、学内(アンネローゼ)や学外(日立市子どもセンター等)の施設を訪問し、子育て支援について学ぶ。単に子育て支援の現場を経験するだけでなく、施設での活動の後には授業内での発表とディスカッションを通した振り返りの時間を持つ。

【第1回】学内授業 ー子育て支援施設について知る(担当者:中島)

【第2回】学内授業 ー授業における自己目標を定める(担当者:菅野)

【第3回】学外施設での研修 ー日立市子どもセンターでの活動に参加する(担当者:佐藤)

【第4回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:菅野)

【第5回】学外施設での研修 ー日立市子どもセンターでの活動に参加する(担当者:佐藤)

【第6回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:菅野)

【第7回】学内授業 ーこれまでの実践の振り返り(担当者:菅野)

【第8回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:佐藤)

【第9回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:中島)

【第10回】学外施設での研修 ー日立市子どもセンターでの活動に参加する(担当者:菅野)

【第11回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:佐藤)

【第12回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:菅野)

【第13回】学内施設での研修 ーアンネローゼでの活動に参加する(担当者:菅野)

【第14回】学内授業 -これまでに参加した子育て支援事業について報告し、省察する1(担当者:佐藤)

【第15回】学内授業 -これまでに参加した子育て支援事業について報告し、省察する2(担当者:菅野)

使用テキスト: 立花直樹・安田誠人監修『子ども・保護者に寄り添う「子育て支援」』(2022年3月刊行予定:晃洋書房)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 子育て支援施設での学修が中心となることから、事前学修としては、子どもの発達全般、保護者の心理やその対応等についての新聞記事や書籍に触れておいてください。事後学修としては、訪問毎に提出するレポートを通して、自己のかかわり等の振り返り等を行ってください。参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します(中島のみ)。佐藤先生、菅野先生と連絡を取りたいときは、学務部または中島に問い合わせてください。

留意事項: 受講者は、「子育て支援論」を履修していることが望ましいです。「子育て支援論」を履修せずに受講を希望する者は、担当教員(中島)に事前に相談してください。本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下としています。

科目コード:13135

科目ナンバリング:PC30C05K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):地域発達臨床論(Developmental Disabilities and Community)

担当者:飛田 隆

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素:07.発表

10資料調査課題

授業の概要: 実際に公共施設等で行われている子育て支援等を中心に調べる。いろいろと子育て家庭への支援が考えられてきましたが、配慮が必要な子どもへの支援、貧困問題、虐待等様々な問題にどのように対応していけばより良い支援につながるのか、学んでいく。なるべく具体例をあげて子育ての現状を確認し、各自が子育て支援について調べて発表する。支援のあり方について自分が支援を行うことを想定し考えを深めていく。

キーワード: 子育て支援全般について、ひとり親の状況。好ましくない育児、配慮が必要な子どもを持つ家庭への支援。様々な支援の方法。子育て支援の具体的な方法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
- 1.様々な子育て支援及び子育て家庭の現状について理解を深め説明ができるようにする。
 - 2.行政の支援について学び、ある程度説明ができるようにする。
 - 3.今後のより良い子育て支援について自分の考えを発表できるようにする。

評価方法: ・子育て支援の具体案の提案及び発表

評価割合: 45%

- ・レポート
- ・授業態度

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1.現状の子育て支援について考察し、子育て支援の具体案を提案できる。
2.子育て支援に求められるニーズや課題等について、広い視点で考察できる。
3.行政との連携について考え、課題等についても説明できる。

評価方法: ・子育て支援の具体案の提案及び発表 **評価割合:** 45%
・レポート
・授業態度

▼学修に主体的に取り組む態度

学びを深めるために情報等を集め活用し発表に生かす場合は知識・技能・思考力等で評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、子育て支援を行う時に役に立つことが多い事も理解して自分の考えで行うこと。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:授業の進め方等の確認
第2回:幼稚園の中の子育て支援
第3回:保育園での子育て支援
第4回:認定子ども園での子育て支援
第5回:各地域の子育て支援を調べる
第6回:各地域の子育て支援を調べ発表する
第7回: //
第8回: //
第9回:今後の子育て支援のあり方を考え、討論する。
第10回:自分なりに考えたテーマで子育て支援の具体案を発表する
第11回: //
第12回: //
第13回: //
第14回:難しいケースの場合の支援について検討する
第15回:まとめ

使用テキスト: 必要に応じて用意する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 子育て支援関係の情報を集めて活用する。必要に応じて見学、ボランティア等に参加してみる。

必要な文献は、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて研究室で対応する。

留意事項: 特になし。

科目コード:13140

科目ナンバリング:PC30C02E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):子どもの食と栄養 a(Child Food and Nutrition a)

担当者：梶田 麻子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：発問、解答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(オンデマンド型)

子どもの発育段階(乳児期・幼児期・学童期・思春期)について、さらには女性の妊娠期・授乳期に応じた栄養・食事・食生活について学習し、発育・発達を評価できるようにすることを目的とする。また、子どもの各種疾患についても学習し理解を深める。

キーワード： 食育基本法、食生活指針、食事バランスガイド、食事摂取基準、保育所保育指針

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：子どもの健やかな発育・発達を促すための、正しい食事の摂取、食習慣についての基本的知識を習得する。

子どもの食育をはじめ、食環境と地域社会についても学び、保育士としての子どもの食と栄養について総合的に理解する。これらについて、概ね80%の項目を理解し解答することができる。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で習得した知識を課題学習に生かし、子どもの食に関する知識を実際に役立てることができるようになること。

評価方法： 課題学習
(レポート)

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

課題学習の際は書籍、web上のものを参考としてよいが、必ず自己理解のもと、自身の知識を表現する手段のものとする。(複写不可)

私語やスマートフォンの使用は他人の集中力を侵害するものとする。

評価割合：課題学習の際は書籍、web上のもの

- 授業計画：**
1. 子どもの健康と食生活
 2. 保育所等における「食」に関する指針
 3. 栄養の基本的概念と栄養素の働き～エネルギー産生栄養素～
 4. 栄養の基本的概念と栄養素の働き～微量栄養素～
 5. 日本人の食事摂取基準、食品の基礎知識
 6. 子どもの発育・発達と栄養生理
 7. 授乳期の栄養
 8. 離乳期の栄養

9. 幼児期の栄養
 10. 学童期の栄養
 11. 思春期の栄養
 12. 妊娠期の栄養
 13. 食育の基本と内容
 14. 幼児期の献立作成、食育の演習
 15. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
- 定期試験

使用テキスト： テキスト…子どもの食と栄養演習(建帛社)
資料…適宜印刷したものを配布する。

予習・復習のポイントと ・授業前は、テキストの次の単元の個所を読んでおく。
参考文献・資料等： ・授業後は、テキストとそれに関連する配布資料について復習し理解を深める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールにて受け付けます。学務部等に問い合わせください。

留意事項： 特になし

科目コード：13140 **科目ナンバリング：**PC30C02E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：子どもの食と栄養 b(Child Food and Nutrition b)

担当者：梶田 麻子

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**演習

曜時：金曜3限 **履修可能学科・専攻：**Pc

関連資格：保育 **AL要素：**発問、解答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(オンデマンド型)
子どもの発育段階(乳児期・幼児期・学童期・思春期)について、さらには女性の妊娠期・授乳期に応じた栄養・食事・食生活について学習し、発育・発達を評価できるようにすることを目的とする。また、子どもの各種疾患についても学習し理解を深める。

キーワード：食育基本法、食生活指針、食事バランスガイド、食事摂取基準

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：子どもの健やかな発育・発達を促すための、正しい食事の摂取、食習慣についての基本的知識を習得する。
子どもの食育をはじめ、食環境と地域社会についても学び、保育士としての子どもの食と栄養について総合的に理解する。これらについて、概ね80%の項目を理解し解答することができる。

評価方法：学期末
筆記試験 **評価割合：**70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で習得した知識を課題学習に生かし、子どもの食に関する知識を実際に役立てることができるようになること。

評価方法：課題学習
(レポート) **評価割合：**30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

課題学習の際は書籍、web上のものを参考としてよいが、必ず自己理解のもと、自身の知識を表現する手段のものとする。(複写不可)

私語やスマートフォンの使用は他人の集中力を侵害するものとする。

評価割合：課題学習の際は書籍、web上のも

- 授業計画：
1. 子どもの健康と食生活
 2. 保育所等における「食」に関する指針
 3. 栄養の基本的概念と栄養素の働き～エネルギー産生栄養素～
 4. 栄養の基本的概念と栄養素の働き～微量栄養素～
 5. 日本人の食事摂取基準、食品の基礎知識
 6. 子どもの発育・発達と栄養生理
 7. 授乳期の栄養
 8. 離乳期の栄養
 9. 幼児期の栄養
 10. 学童期の栄養
 11. 思春期の栄養
 12. 妊娠期の栄養
 13. 食育の基本と内容
 14. 幼児期の献立作成、食育の演習
 15. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
定期試験

使用テキスト： テキスト…子どもの食と栄養演習(建帛社)
資料…適宜印刷したものを配布する。

予習・復習のポイント ・授業前は、テキストの次の単元の個所を読んでおく。
参考文献・資料等： ・授業後は、テキストとそれに関連する配布資料について復習し理解を深める。

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールにて受け付けます。学務部等に問い合わせください。

留意事項： 特になし

科目コード：13142 科目ナンバリング：PC20C17E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：身体表現 a(Expression through Body Movement a)

担当者：鎌形 由貴乃

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc

関連資格：保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要：【どのような授業を展開するか】

◎大人になった私たちは「身体表現」という言葉に対してどのようなイメージを持っているでしょうか。「何か特別なこと」「取り組むには少々敬遠してしまいそうなこと」など感じてはいま

せんか。しかしながら「身体で表現する＝身体表現する」ということは、子どもにとって、とても身近で楽しいことであり、とても大切に意義深い活動なのです。

その大切さ意義深さを理解するためには「大人になった私達が、子どもたちの活動を追体験すること」が必要であると考えます。本授業では「心・身体・動き・音・音楽」をテーマに、エミール・ジャック＝ダルクローズの提唱した『リトミック』の理念に基づいたメソッドを通して、「受講者自身が子どもたちと同じ立場で身体表現することを体験」しながら、子どもたちの「身体表現」に対しての理解を深めていこうと思います。また、いまだ明確な見通しのつかないコロナ禍において、ソーシャルディスタンスなどを考慮した身体表現活動をどのように進めていくかについても考えていきたいと思っています。

【授業担当者の実務経験について】

◎現在、授業担当者は保育従事者として保育園に勤務しています。また保育者(幼稚園教諭・保育士)を対象とした実技講習会(茨城県教育委員会主催、他)の講師を長く務めた経験があります。勤務している保育園での活動内容やエピソードを紹介したり、実技講習会にて現役の保育者の方々にお伝えしたこと等を授業に生かして、保育者と子どもたちが、共に楽しみ、共に豊かな心に成長していくためのヒントになるような授業を行いたいと思っています。

キーワード：「心・身体・動き・音・音楽」「リトミック」「エミール・ジャック・ダルクローズ」「表出と表現」「自分に対して素直に正直になろう」

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価方法：「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価 **評価割合：**「思考力・判断力・表現力」とあわせる。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：毎回の授業の体験で得た知識・技能に基づき、与えられた課題に対して真摯に向き合い、自らの考察に自信を持って身体表現、及び、記述表現を行うことができる。

評価方法：授業計画 第14回並びに第15回 授業のまとめ(1)(2)における課題への取り組み。 **評価割合：**60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

【到達目標】

授業で得た体験や知見をよくふまえて考察し、自分の言葉で自らの所見を表現することができる。

【評価方法】

- ・毎回の授業内容について、受講者自身の感想や考察を短文で記述し提出 する。
- ・特別な課題として提出する記述文により確認する。

評価割合：40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動の実践により深められた考えや行動が記述文の内容や授業に取り組む姿勢に反映されることは望ましいことである。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、それについて話し合いを持つ。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】音・音楽と一緒に動こう(1)オリエンテーション“リトミック”について

- 【第02回】音・音楽と一緒に動こう(2)初めて出会う人々と心を通わせよう
- 【第03回】音・音楽と一緒に動こう(3)インナーイヤー(内的聴覚)を意識しよう
- 【第04回】音を探しにいこう(無意識の意識化)
- 【第05回】子どもの身体表現について考える:VTR(保育者と子どもたちの作る空間について考える。人的環境としての保育者の存在について考える。)
- 【第06回】子どもの表現から私達(おとな)の表現を発展させよう
- 【第07回】人間彫刻-自分の感覚を再確認しよう ※コロナの状況によって変更有
- 【第08回】人間彫刻-自分の感覚を大切にしながら動こう ※コロナの状況によって変更有
- 【第09回】“自分の身体”と“相手の身体”を感じて動く
- 【第10回】「和音・音符」に隠された“時間”“空間”“エネルギー”を感じて動く
- 【第11回】海外(スイス)におけるリトミック教育:VTR
- 【第12回】“身体が楽器”-プラスチックアニメへの誘い
- 【第13回】子どもの身体表現について考える:VTR(子どものプラスチックアニメから動きの本質を考える)
- 【第14回】授業のまとめ(1):授業での体験を通して、どのようなことを感じ、考えたかを自分の言葉で記述する。
- 【第15回】授業のまとめ(2):空間を意識し、自分自身と向き合って動いてみる。

使用テキスト: テキストは「なし」。授業で使用する資料等は、印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・授業前にはシラバスの授業計画を参考にして、どのような授業になるのかを自分なりに想像し、テーマについて考えてみましょう。また日頃から「身の回りの事象」や「自然の移ろい」等に興味や関心を持って生活することを心がけましょう。
- ・授業後は、授業内容について振り返ると共に、自身が同じテーマで授業を担当するとしたらどの様に展開するか、等を考えてみましょう。30分
- ・参考資料として、『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社を推薦します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 本務(保育園)があるため、基本的に当授業後の休み時間に教室にて対応いたします。

留意事項:

- ・本授業は、保育士資格関連の科目に関する児童福祉法施行規則、並びに授業の進行形態、及び新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、受講者数を26名以下とします。

- ・“動き”の授業なので、動きやすい服装で受講すること。
- ・コロナの状況に適した活動を体験したり考えたりするために授業内でペットボトルを使います。両手に持って活動しますので各自2本(500mlくらいの容量)を用意してください。
- ・コロナウイルス対策として、受講時のマスク着用・受講前後の手指の消毒を徹底すること。
- ・体調不良の際の出席は絶対に無理をしないこと。

科目コード:13142 科目ナンバリング:PC20C17E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 身体表現 b(Expression through Body Movement b)

担当者: 鎌形 由貴乃

基本情報

年次:カリキュラム 単位数:2 授業形式:演習

曜時:月曜4限 履修可能学科・専攻: Pe Pc

関連資格:保育 AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 【どのような授業を展開するか】

◎大人になった私たちは「身体表現」という言葉に対してどのようなイメージを持っているでしょうか。「何か特別なこと」「取り組むには少々敬遠してしまいそうなこと」などと感じてはいませんか。しかしながら「身体で表現する-身体表現する」ということは、子どもにとって、とても

身近で楽しいことであり、とても大切に意義深い活動なのです。

その大切さ意義深さを理解するためには「大人になった私達が、子どもたちの活動を追体験すること」が必要であると考えます。本授業では「心・身体・動き・音・音楽」をテーマに、エミール・ジャック＝ダルクローズの提唱した『リトミック』の理念に基づいたメソッドを通して、「受講者自身が子どもたちと同じ立場で身体表現することを体験」しながら、子どもたちの「身体表現」に対しての理解を深めていこうと思います。また、いまだ明確な見通しのつかないコロナ禍において、ソーシャルディスタンスなどを考慮した身体表現活動をどのように進めていくかについても考えていきたいと思っています。

【授業担当者の実務経験について】

◎現在、授業担当者は保育従事者として保育園に勤務しています。また保育者(幼稚園教諭・保育士)を対象とした実技講習会(茨城県教育委員会主催、他)の講師を長く務めた経験があります。勤務している保育園での活動内容やエピソードを紹介したり、実技講習会にて現役の保育者の方々にお伝えしたこと等を授業に生かして、保育者と子どもたちが、共に楽しみ、共に豊かな心に成長していくためのヒントになるような授業を行いたいと思っています。

キーワード：「心・身体・動き・音・音楽」「リトミック」「エミール・ジャック・ダルクローズ」「表出と表現」「自分に対して素直に正直になろう」

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。

評価方法：「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価 **評価割合：**「思考力・判断力・表現力」とあわせる。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：毎回の授業の体験で得た知識・技能に基づき、与えられた課題に対して真摯に向き合い、自らの考察に自信を持って身体表現、及び、記述表現を行うことができる。

評価方法：授業計画 第14回並びに第15回 授業のまとめ(1)(2)における課題への取り組み。 **評価割合：60%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

【到達目標】

授業で得た体験や知見をよくふまえて考察し、自分の言葉で自らの所見を表現することができる。

【評価方法】

- ・毎回の授業内容について、受講者自身の感想や考察を短文で記述し提出 する。
- ・特別な課題として提出する記述文により確認する。

評価割合：40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動の実践により深められた考えや行動が記述文の内容や授業に取り組む姿勢に反映されることは望ましいことである。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、それについて話し合いを持つ。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】音・音楽と一緒に動こう(1)オリエンテーション“リトミック”について
【第02回】音・音楽と一緒に動こう(2)初めて出会う人々と心を通わせよう

- 【第03回】音・音楽と一緒に動こう(3)インナーイヤー(内的聴覚)を意識しよう
- 【第04回】音を探しにいこう(無意識の意識化)
- 【第05回】子どもの身体表現について考える:VTR(保育者と子どもたちの作る空間について考える。人的環境としての保育者の存在について考える。)
- 【第06回】子どもの表現から私達(おとな)の表現を発展させよう
- 【第07回】人間彫刻—自分の感覚を再確認しよう ※コロナの状況によって変更有
- 【第08回】人間彫刻—自分の感覚を大切にしながら動こう ※コロナの状況によって変更有
- 【第09回】“自分の身体”と“相手の身体”を感じて動く
- 【第10回】「和音・音符」に隠された“時間”“空間”“エネルギー”を感じて動く
- 【第11回】海外(スイス)におけるリトミック教育:VTR
- 【第12回】“身体が楽器”—プラスチックアニメへの誘い
- 【第13回】子どもの身体表現について考える:VTR(子どものプラスチックアニメから動きの本質を考える)
- 【第14回】授業のまとめ(1):授業での体験を通して、どのようなことを感じ、考えたかを自分の言葉で記述する。
- 【第15回】授業のまとめ(2):空間を意識し、自分自身と向き合って動いてみる。

使用テキスト: テキストは「なし」。授業で使用する資料等は、印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・授業前にはシラバスの授業計画を参考にして、どのような授業になるのかを自分なりに想像し、テーマについて考えてみましょう。また日頃から「身の回りの事象」や「自然の移ろい」等に興味や関心を持って生活することを心がけましょう。
- ・授業後は、授業内容について振り返ると共に、自身が同じテーマで授業を担当するとしたらどの様に展開するか、等を考えてみましょう。30分
- ・参考資料として、『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社を推薦します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 本務(保育園)があるため、基本的に当授業後の休み時間に教室にて対応いたします。

留意事項:

- ・本授業は、保育士資格関連の科目に関する児童福祉法施行規則、並びに授業の進行形態、及び新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、受講者数を26名以下とします。

- ・“動き”の授業なので、動きやすい服装で受講すること。
- ・コロナの状況に適した活動を体験したり考えたりするために授業内でペットボトルを使います。両手に持って活動しますので各自2本(500mlくらいの容量)を用意してください。
- ・コロナウイルス対策として、受講時のマスク着用・受講前後の手指の消毒を徹底すること。
- ・体調不良の際の出席は絶対に無理をしないこと。

科目コード:13148 科目ナンバリング:PC40C03S 主な使用言語:日本語

授業名(英文):卒業研究(Graduation Thesis)

担当者:天野 秀哉

基本情報

年次:4 単位数:4 授業形式:—

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻:

関連資格: AL要素: 03. 実験・実技・体験
 04. 課題解決
 07. 発表
 09. 実地調査
 10. 資料調査課題
 11. 討論
 15. レポート指導

授業の概要: 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法: 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法: 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト: 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 初回の授業で説明する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項: 特になし

科目コード: 13148

科目ナンバリング: PC40C03S

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Thesis)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 一

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表
09. 実地調査
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 研究課題(心理学に関連するテーマ)について、研究計画を立てて実施し、その成果をもとに卒業論文を執筆する。研究の進捗状況について、毎授業ごとに発表を行い、それをもとに指導を行う。具体的な進め方や研究課題については学生と話し合っ決めて。なお、履修要覽『卒業研究規程』該当ページも参照すること。

キーワード： 卒業研究 研究論文 心理学 保育 教育 乳幼児 児童 生徒 子ども 家族 親 母親 父親 家庭支援 発達心理学 家族心理学 教育学 社会福祉 障害

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分自身の研究テーマに沿って、研究計画を立案し、調査や実験、観察、文献研究などを通して、新たな研究知見を得る。また、これらの研究知見をもとに、論文を作成、発表することができる。

評価方法： 実践レポートおよびその発表

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 上記の研究活動のなかで、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。また、自身の研究を通して得た先行研究の知見や、データ、そこから導いた結果や考察について、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。また、これらを論理的かつ簡潔に口頭で発表することができる。

評価方法：

実践レポートおよびその発表

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身で設定した研究テーマに基づき、積極的に資料を収集し、それについて知識や考察を深めていくことを求めます。また、研究活動を通して得た知識やデータ、そこから導かれた結果、考察したことについて簡潔かつ論理的にレポートにまとめ、発表を行うことを求めます。また、自分自身の発表に対する質問やコメントに対して適切に回答を行うことを期待します。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回. この授業の到達目標と概略
第2回. 卒業論文の作成方法(1)構成
第3回. 卒業論文の作成方法(2)執筆の手順
第4回. 卒業論文の作成方法(3)研究方法
第5回. 卒業論文の作成方法(4)執筆の具体的な方法
第6回. 研究手法の解説(1)調査研究
第7回. 研究手法の解説(2)事例研究
第8回. 研究手法の解説(3)文献研究
第9回. 研究手法の解説(4)研究倫理

- 第10回. 卒業論文構成発表(1)
 - 第11回. 卒業論文構成発表(2)
 - 第12回. 卒業論文構成発表(3)
 - 第13回. 卒業論文構成発表(4)
 - 第14回. 卒業論文構成発表(5)
 - 第15回. 卒業論文作成方法と研究手法の総まとめ
- その他は、履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照してください。

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**
- 1) 第一回目の前に、研究課題や研究手法について指導教員と相談しておいてください。
 - 2) 論文執筆に必要な資料を適宜、読んでおいてください。
 - 3) 発達心理学、教育心理学を含め、心理学についての基礎的な知識を得ておいてください。
 - 4) 単に指導を受けるだけの立場ではなく、この授業に積極的にに関わり、貢献することが期待されます。
 - 5) 指導の中で課せられる、全ての期日(締切)を厳守することを求めます。
 - 6) 研究のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: この授業の受講は、担当者の研究指導を受けている学生を、対象とします。
受講を希望する者は3年次のうちに、指導教員に相談を行っておいてください。

科目コード: 13148 **科目ナンバリング:** PC40C03S **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Thesis)

担当者: 佐藤 真紀

基本情報

年次: 4	単位数: 4	授業形式: 演習
曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)	履修可能学科・専攻:	
関連資格:	AL要素: 03. 実験・実技・体験 04. 課題解決 07. 発表 09. 実地調査 10. 資料調査課題 11. 討論 15. レポート指導	

授業の概要: 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと 卒業研究で扱うテーマに関連した参考文献を読んでおくことが望ましい。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に
問い合わせてください。

留意事項： 状況により授業計画の順を多少変更する場合があります。

科目コード：13148 科目ナンバリング：PC40C03S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：清水 悦子

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：一

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 初回の授業で説明する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13148 科目ナンバリング：PC40C03S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：高橋 和将

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
04. 課題解決
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)

初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと 初回の授業で説明する。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

科目コード：13148

科目ナンバリング：PC40C03S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素： 03. 実験・実技・体験
04. 課題解決
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題

授業の概要: 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法: 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合:** 60%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法: 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合:** 40%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ **公正性**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ **その他**

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト: 初回の授業で説明する。

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** 初回の授業で説明する。

**障がいのある
履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項: 特になし

科目コード: 13148 **科目ナンバリング:** PC40C03S **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Thesis)

担当者: 飛田 隆

基本情報

年次: 4 **単位数:** 4 **授業形式:** 演習

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:**

関連資格: **AL要素:** 03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修

授業の概要： 幼児保育演習の中で対応する。
幼児教育に必要な事を学ぶ。
子ども関連の専門的な知識の習得。

キーワード： 子どもの遊び、親子支援、障碍児、子どもの貧困、子どもの問題、教材、おもちゃ、子ども文化、子どもへの虐待

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 子どもの生活や遊びを色々な角度から考え。時には実際に授業の中で遊び道具を作る体験し、指導案が作成できるようにする。
子どもが好む遊びの種類、遊び方などについて子どもに教えられるようにする。
紙芝居の読み方等についても実際に読んで見て読み方等を理解する。
保育園、幼稚園等での環境等についても学び、環境整備ができるようにする。
保護者支援についても学び、支援の方法等について計画できるようにする。
以上を踏まえ、子ども関連の専門的な知識をまとめられるようにする。

評価方法： レポート、論文。

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもの発達の理解、教師のあたえる影響と関わり方について学び、実習、ボランティア等で実践できるようにする。
遊びと環境について、また友達へ関心への広がりについて学び、それぞれが子どもにあたえる事柄について説明ができるようにする。
ボランティアを通して保育士、教員の役割について具体的に学ぶ。
教材研究について学び、実践で活用できるようにする。
配慮の必要な子どもについて学び、適切な指導方法がわかるようにする。

以上を踏まえより専門的な知識を習得する。

評価方法： レポート、論文。

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの研究テーマに沿って計画的に取り組む。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

研究の必要性に応じて検討する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

データの扱いに気を付ける。
公平性、個人情報に基づいたデータの収集等に取り組む。

評価割合： 0%

▼ その他

担当教員と定期的な打ち合わせをする。

評価割合： 担当教員と定期的な打ち合わせを

授業計画：

- ・卒業研究の計画の作成。
- ・進め方の確認。
- ・研究の方法について確認。
- ・文献の選別方法等
- ・必要に応じて中間の研究論文の提出。
- ・その他、必要と考えられること。

使用テキスト： 適宜、紹介する。

予習・復習のポイントと 定期的担当教員と打ち合わせをする。必要に応じて文献の紹介。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13148 科目ナンバリング：PC40C03S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：中島 美那子

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
04. 課題解決
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文、卒業制作

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業制作としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文や卒業制作の内容

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文や卒業制作の内容

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト: 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと 初回の授業で説明する。

参考文献・資料等:

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項: 特になし

科目コード: 13148

科目ナンバリング: PC40C03S

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Thesis)

担当者: 原口 なおみ

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 一

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験
04. 課題解決
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要: 初回の授業で説明する。

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法: 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法: 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 初回の授業で説明する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

科目コード：13148 科目ナンバリング：PC40C03S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：穂積 訓

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
04. 課題解決
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要： 初回の授業で説明します。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 初回の授業で説明する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

科目コード：13148 科目ナンバリング：PC40C03S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：齋藤 遼太郎

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要： 初回の授業で説明する。
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：子どもの健康の捉え方と現状
第2回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「健康」領域のねらい
第3回：子どもの発育発達の特徴
第4回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「健康」領域の内容
第5回：子どもの動作発達と運動遊び
第6回：子どもの安全管理と事故の防止
第7回：子どもの基本的な生活習慣の形成
第8回：子どもの健康教育のあり方と情報機器の活用
第9回：指導計画の作成1（運動遊びに関する事項）
第10回：指導計画の作成2（安全管理に関する事項）
第11回：指導計画の作成3（病気の予防に関する事項）
第12回：模擬運動遊び1（多様な動きを高める運動遊び）
第13回：模擬運動遊び2（器械・器具を使つての運動遊び）
第14回：模擬運動遊び3（ボールを使った運動遊び）
第15回：幼児教育・保育内容の整理
定期試験は実施しない

使用テキスト： 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示・厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示・内閣府・文部科学省・厚生労働省）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示・厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示・内閣府・文部科学省・厚生労働省）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時間外に連絡を取る必要があるときには、メールを使用して連絡してください。模擬指導準備に関する連絡はメールでは受け付けません。

留意事項： 模擬指導回ではジャージや体育館シューズ等、運動ができる服装等で参加すること

科目コード：13151 科目ナンバリング：PC20C24E 主な使用言語：日本語

授業名（英文）： 保育内容教育法・健康 b (Educational Methods for Nursery School: Health b)

担当者： 吉野 聡

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：発問と回答

授業の概要： 幼稚園教育要領に示されている健康領域の内容を理論的に理解したり、指導計画を立てたりするとともに運動遊びを中心とする模擬保育を通して保育構想の方法を実践的に理解する。

キーワード： 模擬指導 運動領域 生活習慣 指導案 安全

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説した健康領域の基本的な考えや幼稚園教育要領の内容を概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 小テスト
評価割合

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、模擬指導等によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 小論文

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

模擬指導における取り組みの積極性、仲間と協力する態度、合意形成に貢献する態度、健康・安全に留意する態度等を評価する。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回: 子どもの健康の捉え方と現状
- 第2回: 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「健康」領域のねらい
- 第3回: 子どもの発育発達の特徴
- 第4回: 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「健康」領域の内容
- 第5回: 子どもの動作発達と運動遊び
- 第6回: 子どもの安全管理と事故の防止
- 第7回: 子どもの基本的生活習慣の形成
- 第8回: 子どもの健康教育のあり方と情報機器の活用
- 第9回: 指導計画の作成1(運動遊びに関する事項)
- 第10回: 指導計画の作成2(安全管理に関する事項)
- 第11回: 指導計画の作成3(病気の予防に関する事項)
- 第12回: 模擬運動遊び1(多様な動きを高める運動遊び)
- 第13回: 模擬運動遊び2(器械・器具を使った運動遊び)
- 第14回: 模擬運動遊び3(ボールを使った運動遊び)
- 第15回: 幼児教育・保育内容の整理

定期試験は実施しない

使用テキスト: 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年告示・厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示・内閣府・文部科学省・厚生労働省)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 模擬指導においては、担当回において予め指導計画を作成し用具等の準備をしておくこと

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時間外に連絡を取る必要があるときには、メールを使用して連絡してください。模擬指導準備に関する連絡はメールでは受け付けません。

留意事項： 模擬指導回ではジャージや体育館シューズ等、運動ができる服装等で参加すること

科目コード：13152 科目ナンバリング：PC10C05E 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：保育内容教育法・人間関係 a (Educational Methods for Nursery School: Human Relati
担当者：菅野 ひろみ

基本情報

年次：1 単位数：2 授業形式：演習
曜時：月曜2限 履修可能学科・専攻：Pc
関連資格：教職 保育 AL要素：07発表
08協働学修
11討論
13役割演技と疑似体験
17発問と回答

授業の概要： 人間関係が子どもの発達にどのように関連し自立を促し社会性を高めていくのかの理解を深めつつ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み込んでいく。実際の子どもの姿がイメージできるように、各発達段階の子ども映像資料を活用する。それを参考に、具体的な場面を想定した教材研究や模擬保育を行う。また、各回の授業の冒頭では、新聞や各種メディアで発信される保育、子育て、子どもの育ちに関する最新の情報に触れ、領域「人間関係」に関連する現代的な課題を検討していく。

キーワード： 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、発達心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 領域「人間関係」のねらいと内容及び指導上の留意点を理解することができる。
子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、適切な関わりができる。
子どもの発達にともなう人間関係の変化を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想できる。

評価方法： 討議や発表の内容 **評価割合：** 60%
小テスト
レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、討議や協働学習、教員の発問を通して、考えを深めることができる。さらに、自らの所見を、口頭または筆記で表現することができる。

評価方法： **評価割合：** 40%
討議や発表の内容
小テスト
レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果が、討議や発表、レポートの内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、討議や発表、

レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的な発言など著しく言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：保育、子育て、子どもの育ちに関する最新の情報とその理解（毎回の授業の冒頭で行う）

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体像と5領域

第2回：領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い

第3回：ねらいの理解を深める（1）愛情、信頼感

第4回：ねらいの理解を深める（2）自立心、協同性

第5回：子どもの発達と人との関わり（1）出生から1歳

第6回：子どもの発達と人との関わり（2）1歳から2歳

第7回：指導案について

第8回：子どもの遊びと仲間関係（3歳）年齢に応じた環境や教材

第9回：子どもの遊びと仲間関係（4歳）幼児教育における評価の考え方

第10回：子どもの遊びと仲間関係（5歳）幼児期から学童期へ

第11回：教材研究（情報機器を含めた様々な教材の活用を模索する）

第12回：個の育ちと集団の育ち（1）育ちの理解と評価の視点

第13回：個の育ちと集団の育ち（2）道徳性、規範意識の芽生え

第14回：指導案の作成と模擬保育

第15回：模擬保育とディスカッション

使用テキスト：「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
原本>（文部科学省 厚生労働省 内閣府、チャイルド本社）」

予習・復習のポイントと 授業前にテキストを読んでおく。

参考文献・資料等： 授業後に、授業内容について復習し、関連事項について自主学習を通じ知見を深める。
参考書・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせること。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード：13152

科目ナンバリング：PC10C05E

主な使用言語：日本語

授業名（英文）：保育内容教育法・人間関係 b(Educational Methods for Nursery School: Human Relati

担当者：菅野 ひろみ

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：07発表

08協働学修
11討論
13役割演技と疑似体験
17発問と回答

授業の概要： 人間関係が子どもの発達にどのように関連し自立を促し社会性を高めていくのかの理解を深めつつ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み込んでいく。実際の子どもの姿がイメージできるように、各発達段階の子ども映像資料を活用する。それを参考に、具体的な場面を想定した教材研究や模擬保育を行う。また、各回の授業の冒頭では、新聞や各種メディアで発信される保育、子育て、子どもの育ちに関する最新の情報に触れ、領域「人間関係」に関連する現代的な課題を検討していく。

キーワード： 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、発達心理学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 領域「人間関係」のねらいと内容及び指導上の留意点を理解することができる。
子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、適切な関わりができる。
子どもの発達にともなう人間関係の変化を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想できる。

評価方法： 討議や発表の内容
小テスト
レポート

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、討議や協働学習、教員の発問を通して、考えを深めることができる。さらに、自らの所見を、口頭または筆記で表現することができる。

評価方法：
討議や発表の内容
小テスト
レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果が、討議や発表、レポートの内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、討議や発表、レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的な発言など著しく言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回:保育、子育て、子どもの育ちに関する最新の情報とその理解(毎回の授業の冒頭で

行う)

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体像と5領域
第2回:領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い
第3回:ねらいの理解を深める(1)愛情、信頼感
第4回:ねらいの理解を深める(2)自立心、協同性
第5回:子どもの発達と人との関わり(1)出生から1歳
第6回:子どもの発達と人との関わり(2)1歳から2歳
第7回:指導案について
第8回:子どもの遊びと仲間関係(3歳)年齢に応じた環境や教材
第9回:子どもの遊びと仲間関係(4歳)幼児教育における評価の考え方
第10回:子どもの遊びと仲間関係(5歳)幼児期から学童期へ
第11回:教材研究(情報機器を含めた様々な教材の活用を模索する)
第12回:個の育ちと集団の育ち(1)育ちの理解と評価の視点
第13回:個の育ちと集団の育ち(2)道徳性、規範意識の芽生え
第14回:指導案の作成と模擬保育
第15回:模擬保育とディスカッション

使用テキスト: 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(文部科学省 厚生労働省 内閣府、チャイルド本社)」

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前にテキストを読んでおく。
授業後に、授業内容について復習し、関連事項について自主学習を通じ知見を深める。
参考書・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせること。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード:13153

科目ナンバリング:PC20C25E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育内容教育法・環境 a(Educational Methods for Nursery School: Environment a)

担当者: 穂積 訓

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験
08.協同学修
09.実地調査
13.役割演技と模擬体験
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII】同時双方向型、【授業形態ガイドライン・レベルII】オンデマンド型・同時双方向型

本授業では、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」の内容や全体構造を理解し、幼児期の教育や保育に関わる基礎知識や指導上の留意点の習得を目指す。また子どもと身近な地域・自然環境の関係から、子どもの自然観や学習が発達段階とともに発展することについて学習する。さらに、野外における観察や園場での活動を基にして教材研究や指導案作成の要点について学ぶとともに、身の回りにある素材を用いた遊びについての模擬保育を行うなど、子どもが環境に関わ

り遊ぶことの意味を実践的に理解する。最後に、幼児保育の環境分野に関わるICTの活用についての実際を学び、これからの保育と環境について考える。

オンライン授業になったときは、オンデマンド型同時双方向型を組み合わせる予定です。詳しくはUNIPA掲示やTeamsで送付します。
TeamsのコードはUNIPA掲示を確認してください。

キーワード： 幼児保育, 環境, 子どもの自然観

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 幼稚園教育要領の領域「環境」の基本的な視点、保育における環境の意義、指導上の留意点などについて理論的・実践的に習得することができる。

評価方法： レポート
指導案

評価割合： 60

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業を通して、幼児と環境の関わりについて考え、五感を通じた幼児の心身の発達やその支援を促す教材や指導案の作成、保育の方法を考えることができる。
自然観察や身近な物の活用、園場の整備などの実践を通して、子どもにふさわしい環境の整備について考察することができる。

評価方法： 指導案
振り返りシート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業時に取り組む振り返りシートにおいて、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が指導案やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回：はじめにー幼稚園教育における「環境」とその概要ー
第2回：環境を通して行う保育の意義
第3回：子どもの発達と環境
第4回：地域環境への理解ー小学校・生活科との関わりー
第5回：学内の自然環境ー小学校・理科との関わりー
第6回：身近な環境との関わりと教材研究1ー園場および周囲環境の観察に関する指導案の作成ー
第7回：身近な環境との関わりと教材研究2ー園場の整備と道具の使用法ー
第8回：身近な環境との関わりと教材研究3ー樹木の観察に関する指導案の作成ー

- 第9回:身近な環境との関わりと教材研究4-節足動物の観察に関する指導案の作成-
 - 第10回:自然と子どもの遊びに関する模擬保育1-植物を活用した遊び-
 - 第11回:自然と子どもの遊びに関する模擬保育2-物の特性を活用した遊び-
 - 第12回:季節の変化と行事1-「環境」から見た行事の構成と指導案の作成-
 - 第13回:季節の変化と行事2-作物収穫の実践に関する模擬保育-
 - 第14回:環境分野におけるICTの活用と保育者の役割-国内外のICTの活用事例を通して-
 - 第15回:まとめ-子どもたちに適した環境-
- 定期試験

使用テキスト: 必要な資料を授業ごとに配布します。

予習・復習のポイントと 参考書

参考文献・資料等:

- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。授業担当者(穂積)または学務部まで連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。詳細は初回授業時に連絡します。

留意事項: 天候等により授業内容の順番が変わることがあります。野外活動を行うことがありますので、適切な服装等で出席するようにして下さい。

科目コード: 13153

科目ナンバリング: PC20C25E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 保育内容教育法・環境 b(Educational Methods for Nursery School: Environment b)

担当者: 穂積 訓

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験
08.協同学修
09.実地調査
13.役割演技と模擬体験
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII】同時双方向型、【授業形態ガイドライン・レベルII】オンデマンド型・同時双方向型

本授業では、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」の内容や全体構造を理解し、幼児期の教育や保育に関わる基礎知識や指導上の留意点の習得を目指す。また子どもと身近な地域・自然環境の関係から、子どもの自然観や学習が発達段階とともに発展することについて学習する。さらに、野外における観察や園場での活動を基にして教材研究や指導案作成の要点について学ぶとともに、身の回りにある素材を用いた遊びについての模擬保育を行うなど、子どもが環境に関わり遊ぶことの意味を実践的に理解する。最後に、幼児保育の環境分野に関わるICTの活用についての実際を学び、これからの保育と環境について考える。

オンライン授業になったときは、オンデマンド型同時双方向型を組み合わせる予定です。詳しくはUNIPA掲示やTeamsで送付します。TeamsのコードはUNIPA掲示を確認してください。

キーワード: 幼児保育, 環境, 子どもの自然観

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼稚園教育要領の領域「環境」の基本的な視点, 保育における環境の意義, 指導上の留意点などについて理論的・実践的に習得することができる。

評価方法: レポート
指導案

評価割合: 60

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して, 幼児と環境の関わりについて考え, 五感を通した幼児の心身の発達やその支援を促す教材や指導案の作成, 保育の方法を考えることができる。
自然観察や身近な物の活用, 園場の整備などの実践を通して, 子どもにふさわしい環境の整備について考察することができる。

評価方法: 指導案
振り返りシート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし, 毎回の授業時に取り組む振り返りシートにおいて, 自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は, 上記の「思考力, 判断力, 表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし, ただしボランティアの実践に基づく知見等が指導案やレポート等に深く反映される場合は, 上記の「思考力, 判断力, 表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし, 授業中の発言やレポートの記述等において, 人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は, 減点や厳重注意, 懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回: はじめにー幼稚園教育における「環境」とその概要ー
- 第2回: 環境を通して行う保育の意義
- 第3回: 子どもの発達と環境
- 第4回: 地域環境への理解ー小学校・生活科との関わりー
- 第5回: 学内の自然環境ー小学校・理科との関わりー
- 第6回: 身近な環境との関わりと教材研究1ー園場および周囲環境の観察に関する指導案の作成ー
- 第7回: 身近な環境との関わりと教材研究2ー園場の整備と道具の使用法ー
- 第8回: 身近な環境との関わりと教材研究3ー樹木の観察に関する指導案の作成ー
- 第9回: 身近な環境との関わりと教材研究4ー節足動物の観察に関する指導案の作成ー
- 第10回: 自然と子どもの遊びに関する模擬保育1ー植物を活用した遊びー
- 第11回: 自然と子どもの遊びに関する模擬保育2ー物の特性を活用した遊びー
- 第12回: 季節の変化と行事1ー「環境」から見た行事の構成と指導案の作成ー
- 第13回: 季節の変化と行事2ー作物収穫の実践に関する模擬保育ー
- 第14回: 環境分野におけるICTの活用と保育者の役割ー国内外のICTの活用事例を通してー
- 第15回: まとめー子どもたちに適した環境ー

定期試験

使用テキスト: 必要な資料を授業ごとに配布します。

予習・復習のポイントと参考書

参考文献・資料等: 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。授業担当者(穂積)または学務部まで連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。詳細は初回授業時に連絡します。

留意事項: 天候等により授業内容の順番が変わることがあります。野外活動を行うことがありますので、適切な服装等で出席するようにして下さい。

科目コード: 13154

科目ナンバリング: PC10C06E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 保育内容教育法・言葉 a(Educational Methods for Nursery School: Language a)

担当者: 原口 なおみ

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 02. 模擬実践

13. 役割演技と疑似体験

15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 誕生から入学までのまでの子どもの言葉の発達過程を示し、それぞれの発達段階に合った児童文化財について学ぶ。乳児期のわらべうた、赤ちゃん絵本、幼児期の紙芝居、物語絵本、簡単な人形劇(てぶくろ人形、エプロンシアターを含む)などを紹介し、それぞれのジャンルの特徴を認識して、保育の現場で活用できる保育実技を習得する。一人ひとり実技を発表し、保育教材を選ぶ視点と、子どもたちに届ける技を獲得する。

また、子どもの言葉を育てるという視点から、赤ちゃんアプリや繰り返し視聴可能なビデオ・電子ゲーム等と、人の声で仲立ちをしなければ子どもに届かない、わらべうた・絵本・紙芝居・人形劇などの保育教材との本質的な違い、電子メディアが子どもの言葉の育ちに与える影響について考える。

保育記録を取る意味、子どもの学びを読み取る視点を知り、保育者として、子ども観を問いなおす。

第11回~14回の模擬保育では、一人ひとり実技を発表し、子どもの発達に合わせて保育教材を選び届ける技を獲得し、子どもの集中を高める環境を構成する指導案を作成できる力を養う。

キーワード: 言語の身体性、わらべうた、幼児の言語習得、赤ちゃん絵本、紙芝居、パネルシアター、一人人形劇、読み聞かせ、保育指導案

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 誕生から入学までの幼児の言語発達の過程を理解している。

発達段階に応じた絵本等の児童文化財のうち、基本的なものを理解している。

評価方法: * 授業終了時提出の振り返り用紙

評価割合: 50%

- * 保育指導案形式のレポート
- * 読み聞かせ等の実技発表

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で得た知識・考え方を、自らの体験と照らし合わせて、自らの子ども観を深め、広げることができる。
子どもの発達段階に合った児童文化財を保育教材として選び、作品に合わせた表現をすることができる。

評価方法: * 授業終了時提出の振り返り用紙 **評価割合:** 50%
* 保育指導案形式のレポート
* 読み聞かせの実技発表

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、振り返り用紙やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深める考察や、保育教材となる児童文化財についての探求と気づきが記載されている場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 新生児と「ことば」
 2. 愛着形成と子守唄
 3. 1歳児の言葉の発達 育児語とわらべうた、
 4. 赤ちゃん絵本とブックスタート
 5. 2歳児の言葉の発達:言葉が生まれる時
 6. 3歳児の言葉「○○ちゃんのおはなし」
 7. 物語絵本との出会い・集団への絵本読み聞かせ
 8. 4歳児の言葉:イメージする力を育てる
 9. 5歳児の言葉:広がる世界
 10. おはなし・昔話・幼年童話～非認知能力を育てる～

11. 模擬保育1:人形劇ワークショップ
 12. 模擬保育2:集団遊びとしてのわらべうた(情報機器を活用し、保育指導案を書く1)
 13. 模擬保育3:紙芝居・大型絵本(情報機器を活用し、保育指導案を書く2)
 14. 模擬保育4:導入と絵本の読み聞かせ(情報機器を活用し、保育指導案を書く3)
 15. 情報機器を活用した保育記録～「学びの物語」とは？
- 定期試験

使用テキスト: 教科書は定めず、授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと 参考文献

参考文献・資料等:

『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
 岡本夏木 『子どもとことば』『ことばと発達』『幼児期』 岩波新書
 汐見稔幸 『はじめて出会う育児の百科』 小学館
 小林衛己子『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』 のら書店
 近藤信子『にほんのわらべうた 全四巻』 近藤信子 福音館書店
 ドロシー・バトラー『クシュラの奇跡-140冊の絵本との日々』 のら書店
 瀧薫『新版 保育と絵本 発達の道すじにそった絵本の選び方』 エイデル研究所

授業で得た知識を真に自分のものとするためには、参考文献を自分の体験・実習と結び付けて読み込むことが大切。

実技習得のためには、参考文献に紹介されているような、わらべうたや読み継がれてきた絵本を、自分の声で、子どもに伝えるつもりで唄ってみる、読み聞かせてみる必要がある。

パネルシアター等、小道具を使った保育実技の参考書・見本等は、授業の中で、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード:13154

科目ナンバリング:PC10C06E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育内容教育法・言葉 b(Educational Methods for Nursery School: Language b)

担当者: 原口 なおみ

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 02. 模擬実践

13. 役割演技と疑似体験

15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 誕生から入学までのまでの子どもの言葉の発達過程を示し、それぞれの発達段階に合った児童文化財について学ぶ。乳児期のわらべうた、赤ちゃん絵本、幼児期の紙芝居、物語絵本、簡単な人形劇(てぶくろ人形、エプロンシアターを含む)などを紹介し、それぞれのジャンルの特徴を認識して、保育の現場で活用できる保育実技を習得する。一人ひとり実技を発表し、保育教材を選ぶ視点と、子どもたちに届ける技を獲得する。

また、子どもの言葉を育てるという視点から、赤ちゃんアプリや繰り返し視聴可能なビデオ・電

子ゲーム等と、人の声で仲立ちをしなければ子どもに届かない、わらべうた・絵本・紙芝居・人形劇などの保育教材との本質的な違い、電子メディアが子どもの言葉の育ちに与える影響について考える。

保育記録を取る意味、子どもの学びを読み取る視点を知り、保育者として、子ども観を問いなおす。

第11回～14回の模擬保育では、一人ひとり実技を発表し、子どもの発達に合わせて保育教材を選び届ける技を獲得し、子どもの集中を高める環境を構成する指導案を作成できる力を養う。

キーワード： 言語の身体性、わらべうた、幼児の言語習得、赤ちゃん絵本、紙芝居、パネルシアター、一人人形劇、読み聞かせ、保育指導案

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 誕生から入学までの幼児の言語発達の過程を理解している。
発達段階に応じた絵本等の児童文化財のうち、基本的なものを理解している。

評価方法： * 授業終了時提出の振り返り用紙
* 保育指導案形式のレポート
* 読み聞かせ等の実技発表

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た知識・考え方を、自らの体験と照らし合わせて、自らの子ども観を深め、広げることができる。
子どもの発達段階に合った児童文化財を保育教材として選び、作品に合わせた表現をすることができる。

評価方法： * 授業終了時提出の振り返り用紙
* 保育指導案形式のレポート
* 読み聞かせの実技発表

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、振り返り用紙やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深める考察や、保育教材となる児童文化財についての探求と気づきが記載されている場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言

など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 新生児と「ことば」
 2. 愛着形成と子守唄
 3. 1歳児の言葉の発達 育児語とわらべうた、
 4. 赤ちゃん絵本とブックスタート
 5. 2歳児の言葉の発達:言葉が生まれる時
 6. 3歳児の言葉「〇〇ちゃんのおはなし」
 7. 物語絵本との出会い・集団への絵本読み聞かせ
 8. 4歳児の言葉:イメージする力を育てる
 9. 5歳児の言葉:広がる世界
 10. おはなし・昔話・幼年童話～非認知能力を育てる～
 11. 模擬保育1:人形劇ワークショップ
 12. 模擬保育2:集団遊びとしてのわらべうた(情報機器を活用し、保育指導案を書く1)
 13. 模擬保育3:紙芝居・大型絵本(情報機器を活用し、保育指導案を書く2)
 14. 模擬保育4:導入と絵本の読み聞かせ(情報機器を活用し、保育指導案を書く3)
 15. 情報機器を活用した保育記録～「学びの物語」とは？
定期試験

使用テキスト：教科書は定めず、授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献

- 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
岡本夏木 『子どもとことば』『ことばと発達』『幼児期』 岩波新書
汐見稔幸 『はじめて出会う育児の百科』 小学館
小林衛己子『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』 のら書店
近藤信子『にほんのわらべうた 全四巻』 近藤信子 福音館書店
ドロシー・ノトラー『クシュラの奇跡-140冊の絵本との日々』 のら書店
瀧薫『新版 保育と絵本 発達の道すじにそった絵本の選び方』 エイデル研究所

授業で得た知識を真に自分のものとするためには、参考文献を自分の体験・実習と結び付けて読み込むことが大切。

実技習得のためには、参考文献で紹介されているような、わらべうたや読み継がれてきた絵本を、自分の声で、子どもに伝えるつもりで唄ってみる、読み聞かせてみる必要がある。パネルシアター等、小道具を使った保育実技の参考書・見本等は、授業の中で、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード:13155

科目ナンバリング:PC31C03E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育内容教育法・表現I a (Educational Methods for Nursery School Materials: Express

担当者: 佐藤 真紀

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学習

授業の概要: 幼児の音楽表現を5つの視点(歌う・動く・聞く・奏でる・つくる)で捉え、それらの経験が得られるような音楽表現活動に取り組み、教材研究を行う。創作活動では動画記録を行い、個人、グループの表現力向上に活用しつつ、幼児への指導上の留意点について検討する。また指導案の構成を理解し、手作り楽器の作成を通して実際の保育現場を想定した保育計画案を作成する。特に保育の展開、他領域との関わりの可能性も視野に入れ、保育計画に組み込む。

キーワード: 音楽 表現活動 保育計画立案 模擬保育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 多様な音楽体験を通して自身の感性を拓き、幼児の音楽表現活動への理解を深める。

評価方法: 演習課題への取り組み

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児の主體的な活動を促す音楽表現活動を構想し、幼児の発達に即した保育計画が立案できるようになる。

評価方法: 演習課題への取り組み
課題レポート

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 1 オリエンテーション／領域「表現」について

- 2 乳幼児の音楽的成長と発達／【動く】ボディパーカッション
- 3 乳幼児の生活と遊び【歌う・動く】歌の振り付け(1)教材研究
- 4 感性と表現の教育／【歌う・動く】歌の振り付け(2)創作活動(動画記録)
- 5 【歌う・動く】グループ発表(ボディパーカッション、歌の振り付け)
- 6 【聴く】サウンドスケープ・音探し
- 7 【奏でる】新聞紙アンサンブル・ハンドベル
- 8 【奏でる・つくる】言葉のアンサンブル(1)教材研究
- 9 【奏でる・つくる】言葉のアンサンブル(2)創作活動(動画記録)
- 10 乳幼児と楽器／ベビーリトミック
- 11 幼児の音楽教育に影響を与えた人々／3～5歳児リトミック
- 12 保育計画案(1)基本的な考え方
- 13 保育計画案(2)保育計画案の作成
- 14 保育計画案(3)手作り楽器の制作(模擬保育)
- 15 保育計画案(4)手作り楽器の発表、保育計画案の提出

使用テキスト： 神原雅之・鈴木恵津子『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 弾き歌いなどの実技に関しては、自宅や校内練習室での予習・復習が必要となります。

〈参考資料等〉

文部科学省『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)

厚生労働省『保育所保育指針』(平成29年告示)

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年告示)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード：13155

科目ナンバリング：PC31C03E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育内容教育法・表現I b(Educational Methods for Nursery School Materials: Express

担当者：佐藤 真紀

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：PC

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学習

授業の概要： 幼児の音楽表現を5つの視点(歌う・動く・聞く・奏でる・つくる)で捉え、それらの経験が得られるような音楽表現活動に取り組み、教材研究を行う。創作活動では動画記録を行い、個人、グループの表現力向上に活用しつつ、幼児への指導上の留意点について検討する。また指導案の構成を理解し、手作り楽器の作成を通して実際の保育現場を想定した保育計画案を作成する。特に保育の展開、他領域との関わりの可能性も視野に入れ、保育計画に組み込む。

キーワード： 音楽 表現活動 保育計画立案 模擬保育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 多様な音楽体験を通して自身の感性を拓き、幼児の音楽表現活動への理解を深める。

評価方法: 演習課題への取り組み

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児の主體的な活動を促す音楽表現活動を構想し、幼児の発達に即した保育計画が立案できるようになる。

評価方法: 演習課題への取り組み
課題レポート

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1 オリエンテーション／領域「表現」について
 - 2 乳幼児の音楽的成長と発達／【動く】ボディパーカッション
 - 3 乳幼児の生活と遊び／【歌う・動く】歌の振り付け(1)教材研究
 - 4 感性と表現の教育／【歌う・動く】歌の振り付け(2)創作活動(動画記録)
 - 5 【歌う・動く】グループ発表(ボディパーカッション、歌の振り付け)
 - 6 【聴く】サウンドスケープ・音探し
 - 7 【奏でる】新聞紙アンサンブル・ハンドベル
 - 8 【奏でる・つくる】言葉のアンサンブル(1)教材研究
 - 9 【奏でる・つくる】言葉のアンサンブル(2)創作活動(動画記録)
 - 10 乳幼児と楽器／ベビーリトミック
 - 11 幼児の音楽教育に影響を与えた人たち／3～5歳児リトミック
 - 12 保育計画案(1)基本的な考え方
 - 13 保育計画案(2)保育計画案の作成
 - 14 保育計画案(3)手作り楽器の制作(模擬保育)
 - 15 保育計画案(4)手作り楽器の発表、保育計画案の提出

使用テキスト: 神原雅之・鈴木恵津子『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 弾き歌いなどの実技に関しては、自宅や校内練習室での予習・復習が必要となります。

(参考資料等)

文部科学省『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)

厚生労働省『保育所保育指針』(平成29年告示)

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年告示)

と。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：幼児の発達過程と表現
第2回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「表現」
第3回：教材研究1(手形押し)
第4回：教材研究2(紙工作)
第5回：教材研究3(粘土遊び)
第6回：教材研究4(折紙遊び)
第7回：教材研究5(新聞紙遊び)
第8回：教材研究6(表現遊び)
第9回：教材研究7(情報機器の活用法)
第10回：指導計画1(指導案の作成)
第11回：指導計画2(留意事項と配慮事項)
第12回：模擬保育1(題材設定と導入)
第13回：模擬保育2(活動の展開)
第14回：模擬保育3(振り返りと評価)
第15回：まとめ(「表現」における現状と問題点、小学校図画工作との関連)

使用テキスト： 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習のポイント
・授業前には、その回のテーマについて調べる。
・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料
授業時に参考資料を配布したりスクリーンに投影したりします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・表現活動に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。
・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13156 科目ナンバリング：PC32C01E 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：保育内容教育法・表現II b(Educational Methods for Nursery School Materials: Expressions)
担当者：信太 進

基本情報

年次：3 単位数：2 授業形式：演習
曜時：水曜1限 履修可能学科・専攻：Pc
関連資格：教職 保育 AL要素：02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修
13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： 初めに、画像から幼児の発達過程に見られる表現の特徴を追う。それをもとに、幼稚園教育

要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「表現」について考える。その後、一連の教材研究で修得した技能を活用して、指導計画を立てる。最後に、模擬保育を通し、実践的な指導方法を学修する。

キーワード： 造形、表現、保育、幼児教育、保育教材、指導案

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の基本をふまえ、領域「表現」のねらいおよび内容の理解を深めるとともに、グループワークによる教材研究を通し、指導上の方法や留意点および評価の考え方について、十分な内容を習得することができる。

評価方法： レポートの内容

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 指導場面を想定した模擬保育により、実践的な保育計画を立案しながら保育を構想する力を伸ばすことができる。

評価方法： 模擬保育の内容

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回：幼児の発達過程と表現
- 第2回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「表現」
- 第3回：教材研究1(手形押し)
- 第4回：教材研究2(紙工作)
- 第5回：教材研究3(粘土遊び)
- 第6回：教材研究4(折紙遊び)
- 第7回：教材研究5(新聞紙遊び)
- 第8回：教材研究6(表現遊び)
- 第9回：教材研究7(情報機器の活用法)
- 第10回：指導計画1(指導案の作成)
- 第11回：指導計画2(留意事項と配慮事項)
- 第12回：模擬保育1(題材設定と導入)
- 第13回：模擬保育2(活動の展開)
- 第14回：模擬保育3(振り返りと評価)
- 第15回：まとめ(「表現」における現状と問題点、小学校図画工作との関連)

使用テキスト： 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習のポイント
・授業前には、その回のテーマについて調べる。
・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料
授業時に参考資料を配布したりスクリーンに投影したりします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・表現活動に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。
・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13156 **科目ナンバリング：**PC32C01E **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)： 保育内容教育法・表現II c(Educational Methods for Nursery School Materials: Expressions)
担当者： 信太 進

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**演習
曜時：木曜1限 **履修可能学科・専攻：** Pc
関連資格：教職 保育 **AL要素：** 02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修
13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： 初めに、画像から幼児の発達過程に見られる表現の特徴を追う。それをもとに、幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「表現」について考える。その後、一連の教材研究で修得した技能を活用して、指導計画を立てる。最後に、模擬保育を通し、実践的な指導方法を学修する。

キーワード： 造形、表現、保育、幼児教育、保育教材、指導案

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の基本をふまえ、領域「表現」のねらいおよび内容の理解を深めるとともに、グループワークによる教材研究を通し、指導上の方法や留意点および評価の考え方について、十分な内容を習得することができる。

評価方法： レポートの内容 **評価割合：** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 指導場面を想定した模擬保育により、実践的な保育計画を立案しながら保育を構想する力を伸ばすことができる。

評価方法： 模擬保育の内容 **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

る。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回：幼児の発達過程と表現
 - 第2回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「表現」
 - 第3回：教材研究1(手形押し)
 - 第4回：教材研究2(紙工作)
 - 第5回：教材研究3(粘土遊び)
 - 第6回：教材研究4(折紙遊び)
 - 第7回：教材研究5(新聞紙遊び)
 - 第8回：教材研究6(表現遊び)
 - 第9回：教材研究7(情報機器の活用法)
 - 第10回：指導計画1(指導案の作成)
 - 第11回：指導計画2(留意事項と配慮事項)
 - 第12回：模擬保育1(題材設定と導入)
 - 第13回：模擬保育2(活動の展開)
 - 第14回：模擬保育3(振り返りと評価)
 - 第15回：まとめ(「表現」における現状と問題点、小学校図画工作との関連)

使用テキスト： 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- 予習・復習のポイント
 - ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
 - ・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料

授業時に参考資料を配布したりスクリーンに投影したりします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

- 留意事項：**
- ・表現活動に適した服装やエプロンなどを用意してください。
 - ・可能ならデバイスを持参してください。
 - ・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13157

科目ナンバリング：PC30C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育方法の研究 a(Studies in Nursery School Methodology a)

担当者：諏訪 健一郎、富田 浩子、増井 紀子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：発問と回答

授業の概要： 各担当者が、それぞれの保育実践を紹介しながら、現代日本の保育者に求められている保育的課題を、具体的に指摘します。また、課題に応えるために必要な様々な保育方法を研究していきます。

キーワード： 幼児教育 家庭と子ども

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 様々な保育実践の研究を通して、多様な保育方法を知り、更に、多様な保育観・子ども観に触れて、自らの保育者観を問い直すことができる。

評価方法： 授業の中で課題が示されます。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について得た知見、自主学習によって得た経験を踏まえて考察し、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業の中で示されます。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象となしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象となしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第01回（諏訪） 入園期の幼児の姿と対応
- 第02回（諏訪） 保育者の一日(ミニ製作①)
- 第03回（諏訪） 保護者・幼児との信頼関係作り(ミニ製作②)
- 第04回（諏訪） 保育の中での製作遊び(折り紙の色使い)
- 第05回（諏訪） 保育の中での製作遊び(木工)
- 第06回（富田） 事例から学ぶ災害時における対応と健康で安全な環境
- 第07回（富田） 事例から学ぶ保育者の資質・大切な考え方(ミニ製作①)
- 第08回（富田） 事例から学ぶ児童虐待(ミニ製作②)
- 第09回（富田） 事例から学ぶ保育現場における食物アレルギー対応(ミニ製作③)
- 第10回（富田） 事例から学ぶ保護者対応の考え方・まとめ(ミニ製作④)
- 第11回（増井） 園生活の中での保育者の役割
- 第12回（増井） 子どもの遊びと保育者の援助(ミニ製作①)
- 第13回（増井） 絵本に親しむための保育方法(絵本の読み聞かせ)
- 第14回（増井） 子どもの心を育てる園行事のあり方(ミニ製作②)
- 第15回（増井） 子どもも保育者も共に楽しむ保育実践(ミニ製作③)

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部を通して連絡してください。

留意事項： 特になし

科目コード：13157 **科目ナンバリング：**PC30C01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：保育方法の研究 b(Studies in Nursery School Methodology b)

担当者：諏訪 健一郎、富田 浩子、増井 紀子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：発問と回答

授業の概要： 各担当者が、それぞれの保育実践を紹介しながら、現代日本の保育者に求められている保育的課題を、具体的に指摘します。また、課題に応えるために必要な様々な保育方法を研究していきます。

キーワード： 幼児教育 家庭と子ども

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 様々な保育実践の研究を通して、多様な保育方法を知り、更に、多様な保育観・子ども観に触れて、自らの保育者観を問い直すことができる。

評価方法： 授業の中で課題が示されます。

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について得た知見、自主学習によって得た経験を踏まえて考察し、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業の中で示されます。

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象となしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象となしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回 (増井) 園生活の中での保育者の役割
第02回 (増井) 子どもの遊びと保育者の援助(ミニ製作①)
第03回 (増井) 絵本に親しむための保育方法(絵本の読み聞かせ)

- 第04回 (増井) 子どもの心を育てる園行事のあり方(ミニ製作②)
- 第05回 (増井) 子どもも保育者も共に楽しむ保育実践(ミニ製作③)
- 第06回 (諏訪) 入園期の幼児の姿と対応
- 第07回 (諏訪) 保育者の一日(ミニ製作①)
- 第08回 (諏訪) 保護者・幼児との信頼関係作り(ミニ製作②)
- 第09回 (諏訪) 保育の中での製作遊び(折り紙の色使い)
- 第10回 (諏訪) 保育の中での製作遊び(木工)
- 第11回 (富田) 事例から学ぶ災害時における対応と健康で安全な環境
- 第12回 (富田) 事例から学ぶ保育者の資質・大切な考え方(ミニ製作①)
- 第13回 (富田) 事例から学ぶ児童虐待(ミニ製作②)
- 第14回 (富田) 事例から学ぶ保育現場における食物アレルギー対応(ミニ製作③)
- 第15回 (富田) 事例から学ぶ保護者対応の考え方・まとめ(ミニ製作④)

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部を通して連絡してください。

留意事項: 特になし

科目コード:13160 科目ナンバリング:PC31C04J 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育実習I(保育所)(Nursery School Practicum I (Daycare))

担当者: 飛田 隆、中島 美那子、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次:カリキュラム	単位数:2	授業形式:実習
曜時:前期(実習)、後期(実習)	履修可能学科・専攻: Pc	
関連資格: 保育	AL要素: 01.実地訓練 03.実験・実技・体験	

授業の概要: 保育実習を通して、以下のことを習得する。

1. 実習生としての責任とふさわしい態度、心構え。
2. 保育の基礎的な理論と技術の習得。
3. 保育所における保育の方法や援助の方法。
4. 子ども一人ひとりに合った保育計画の立案、および準備や指導の方法。
5. 子どもの遊びについて。

キーワード: 保育実習、児童福祉、子育て支援、障害児保育、指導案、子どもの遊び等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 保育所における保育士の役割を理解できる。
子どもの発達に対する理解を深めることができる。

評価方法: 保育所の判断による評価。実習日誌、事後指導のレポート等 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもの特徴に合わせた対応の仕方を知ることができる。
保育所の環境について学び理解することができる。

子どもの遊びについて理解を深める。
子育て支援について知る。
配慮が必要な子どもについて学ぶ。

評価方法: 保育所の判断による評価。実習日誌、事後指導のレポート等 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

実習前の事前学習、事前準備としての指導案作成、教材準備等。
保育所からの報告・評価等、実習日誌から評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価とはしないが、実習園でのボランティア活動への参加が次の実習への学びにつながることを理解する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価とはしないが、日誌、レポートや実習事後の振り返り等の中で子どもの人権を侵害するような発言・記載等があった場合は反省を促す。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 保育実習によって、実践的に以下のことを学ぶ。

1. 保育所の概要(沿革・特徴・地域性など)。
2. 子ども一人ひとりに合った指導計画・援助方法。
3. 保育士の職務内容と役割。
4. 実践の場における理論と技術や支援の方法。
5. 実習生としての責任と社会人としてのふさわしい行動。

事前に細菌検査をすませる。

実習先を事前に訪問し、オリエンテーションを受ける。『保育実習の手引き』はよく読んでおく。

指定の11日間に保育所実習を行う。実習の進め方に関しては実習先の指示に従う。

実習終了後には必ず礼状を出す。

使用テキスト: 「保育所保育指針」、「保育実習の手引き」

予習・復習のポイントと 保育所保育指針の熟読、子どもの遊び、環境について事前に学んでおく。

参考文献・資料等: 障害児、虐待、子育て支援、紙芝居、手遊び、絵本等についても可能な限り学習しておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。事前の相談も受け付ける。心配なことは実習指導室で適宜対応する。
担当教員も相談に応じる。

授業時間外の連絡手段: 可能な限り研究室で対応する。実習指導室でも適宜対応する。指導室を通じて担当教員に連絡も可能。

留意事項: 保育実習は原則として遅刻、欠席、早退は認めないが、事情がある場合には可能な限り事前に相談すること。
病気、怪我、交通機関等の問題が起きた時には、実習先と保育実習指導室に必ず連絡すること。
欠席、遅刻、早退をした場合は必ず実習先と保育実習指導室に連絡すること。
実習等で心配なことは電話でもよいので相談すること。

授業名(英文): 保育実習 I (施設) (Nursery School Practicum I (Facilities))

担当者: 中島 美那子、飛田 隆、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 01.実地訓練
03.実験・実技・体験

授業の概要: 1. 児童福祉施設の役割や機能について、現場での体験を通して実践的に学ぶ。
2. 子どもや施設利用者一人ひとりへの適切な対応について実践力を養う。
3. 保育士の役割や職業倫理について、実際の現場の保育士業務から実践的に学ぶ。

キーワード: 保育実習、児童福祉、社会的養護、障害理解

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 児童福祉施設の役割や機能を具体的に学び、説明することができる。
2. さまざまな障害あるいは背景をもつ子ども(利用者)一人ひとりに対する理解を深め、その障害特性および背景と行動の関連性などについて説明することができる。
3. 児童福祉施設における保育士の役割や職業倫理について理解を深め、説明することができる。

評価方法: 実習施設の判断による評価、実習日誌、事後報告書等 **評価割合:** 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. さまざまな背景をもつ子ども一人ひとりに対する理解を深め、対応の仕方を知り、それぞれについて適切に対応することができる。
2. 障害のある子ども(利用者)の個性や障害を理解し、一人ひとりに適した生活支援や余暇支援を行うことができる。

評価方法: 実習施設の判断による評価、実習日誌、事後報告書等 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習施設からの報告をもとに評価する。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等が実習内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、実習中の偏見や差別的態度は減点の対象となる。また、実習日誌や事後報告書等での人権侵害や差別的記載があった場合にも減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 指定の12日間、福祉施設での実習を行う。実習の進め方については実習先施設の指示に従うことが基本となるが、以下の内容を意識して実習に取り組むこと。

- 1 実習施設について理解を深める。
- 2 観察を通して、子どもの1日の流れを把握する。

- 3 保育士の1日の業務を把握する。
- 4 子どもと積極的に関わることを通して、一人ひとりの保育ニーズへの理解を深める。
- 5 援助計画、指導計画について理解を深める。
- 6 職員間の役割分担や連携について、観察や質疑応答の場をとおして学ぶ。
- 7 子どもの安全な生活や健康管理における保育士の役割について学ぶ。
- 8 実際の現場の取り組みから、児童福祉施設と地域や子どもの家庭との関係づくりについて理解する。
- 9 児童福祉施設で働く保育士の職業倫理について知る。
- 10 責任実習(部分実習、余暇活動支援等)をとおして、子どもの福祉および保育士としてのあり方を考える。

使用テキスト: 『保育実習の手引き』(保育実習指導 I で配布)

予習・復習のポイント 【実習前】

参考文献・資料等: 社会的養護や障害に関する内容を扱う授業を熱心に受講するのは当然であり、さらに自ら理解を深めるための学習が必要となる。とくに実習施設の配当が確定した後は、当該施設の特徴、施設を利用する子ども等の特徴や職員としてのかかわり方等について理解を進めておくこと。

【実習後】

自らの実習の取り組みの中での反省点とその改善策について考えること。また実習全般についての振り返りを行うこと。とくに疑問の残った点はそのままにせず、解決に向けて努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。あるいは保育実習指導室を通じて連絡を取ること。

留意事項: ・「保育実習指導 I」を同時履修することが実習の必須条件となる。
・実習中に知り得た個人情報や施設の事情等に関しては、守秘義務があることを留意すること。

科目コード: 13162 **科目ナンバリング:** PC42C02J **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 保育実習II(保育所) (Nursery School Practicum II (Daycare))

担当者: 飛田 隆、中島 美那子、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素:

01.実地訓練03.実験・実技・体験

授業の概要: 保育実習を通して、以下のことを習得する。

1. 実習生としての責任とふさわしい態度、社会人としての心構え。
2. 保育の理論と技術の習得。
3. 保育所における保育の方法や援助の方法。
4. 子ども一人ひとりに合った保育計画の立案、および準備や指導の方法。
5. 職員間の協力と連携の方法、およびそのあり方。

キーワード: 保育実習を通して、以下のことを習得する。

1. 実習生としての責任とふさわしい態度、社会人としての心構え。
2. 保育の理論と技術の習得。
3. 保育所における保育の方法や援助の方法。
4. 子ども一人ひとりに合った保育計画の立案、および準備や指導の方法。
5. 職員間の協力と連携の方法、およびそのあり方。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習を通して学んだ内容をふまえ、保育士として必要な知識・技術を習得することができる。
保育制度について理解することができる。

評価方法: 保育所の判断による評価。
実習日誌、指導案。
実習後のレポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 児童虐待、障害児保育、病児保育等についても理解することができる。
保育士の社会的役割等について理解できる。
保育士の職務内容について理解できる
子育て支援の理解を深める。
教材研究、環境構成についても理解を深める。

評価方法: 保育所の判断による評価。
実習日誌、指導案。
実習後のレポート

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習前の事前学習、事前準備としての指導案作成、教材準備等。
保育所からの報告・評価等、実習日誌、指導案等から評価する。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価とはしないが、実習園でのボランティア活動への参加が進路選びの手がかりや学びにつながることを理解する。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価とはしないが、日誌、レポートや実習事後の振り返り等の中で子どもの人権を侵害するような発言・記載等があった場合は反省を促す。
評

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. 実習前
自己課題を明確にし、実習日誌や指導案等に関する事を学ぶ。
保育士として必要な資質・能力・技術を学ぶ。
 2. 実習
指定の保育所で11日間の実習を行う。保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
子どもの個人差を理解し対応方法を学ぶ。
保育士の職務内容を理解する。
 3. 実習終了後 実習での学習事項、反省、今後の課題などに関する報告レポートを作成する。
保育実習から学んだ今後の自己の課題を明確化させる。

使用テキスト: 「保育所保育指針」、「保育実習の手引き」

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 保育所保育指針の熟読、子どもの遊び、環境について事前に学んでおく。
障害児、虐待、子育て支援、環境構成、教材研究、紙芝居、手遊び、絵本等についても可

可能な限り学習しておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。事前の相談も受け付ける。心配なことは実習指導室で適宜対応する。
担当教員も相談に応じる。

授業時間外の連絡手段: 可能な限り研究室で対応する。実習指導室でも適宜対応する。指導室を通じて担当教員に連絡も可能。

留意事項: 保育実習は原則として遅刻、欠席、早退は認めないが、事情がある場合には可能な限り事前に相談すること。
病気、怪我、交通機関等の問題が起きた時には、実習先と保育実習指導室に必ず連絡すること。
欠席、遅刻、早退をした場合は必ず実習先と保育実習指導室に連絡すること。
実習等で心配なことは電話でもよいので相談すること。

科目コード:13163 科目ナンバリング:PC43C01J 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 保育実習Ⅲ(施設)(Nursery School Practicum III (Facilities))

担当者: 中島 美那子、飛田 隆、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次:カリキュラム 単位数:2 授業形式:実習
曜時:前期(実習)、後期(実習) 履修可能学科・専攻: Pc
関連資格: 保育 AL要素: 01.実地訓練
03.実験・実技・体験

授業の概要: 保育実習Ⅰ(施設)での学修を基盤としつつ、本実習ではさらに以下の内容を深める。
1. 実習生としての責任とふさわしい行動様式
2. 理論と技術の実践の場における統合
3. 施設における保育の方法や技術
4. 子ども(利用者)一人ひとりに合った養護計画・援助方法の立案および準備や指導方法
5. 職員間の協力と連携の方法、およびそのあり方

キーワード: 保育実習、児童福祉、社会的養護、障害理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 保育実習Ⅰ(施設)を通して学んだ内容をふまえ、社会的養護系の施設あるいは障害児(者)施設の保育士として必要な専門的知識・技術について説明することができる。
2. さまざまな障害あるいは背景をもつ子ども(利用者)一人ひとりに対する理解を深め、その障害特性および背景と行動の関連性などについて説明することができる。

評価方法: 実習施設の判断による評価、実習日誌、事後の発表 **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. さまざまな背景をもつ子ども(利用者)一人ひとりへの対応の仕方を知り、それぞれについて適切に対応することができる。
2. 保育士をはじめとした施設内職員との連携・協力体制について理解を深め、実習生として適切な連携・協力体制をとることができる。

評価方法: 実習施設の判断による評価、実習日誌、事後の発表 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

実習施設からの報告をもとに評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等が実習内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、実習中の偏見や差別的態度は減点の対象となる。また、実習日誌や事後の発表等での人権侵害や差別的記載があった場合にも減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 指定の12日間、福祉施設での実習を行う。
実習の進め方については実習先施設の指示に従うことが基本となるが、保育実習Ⅰ（施設）での学修内容および課題点やその改善策等を意識して実習に取り組むこと。

使用テキスト：『保育実習の手引き』（保育実習指導Ⅰで配布済み）

予習・復習のポイントと 【実習前】

参考文献・資料等： 保育実習Ⅰ（施設）で明らかとなった課題やその改善策について改めて振り返り、本実習での解決、さらなる学習の深まりを目指すこと。
また、実習施設の配当が確定した後は、当該施設の特徴、施設を利用する子ども等の特徴や職員としてのかかわり方等について理解を進めておくこと。

【実習後】

自らの実習の中で新たな課題点が見出された場合には、その改善策等について考えること。また実習全般についての振り返りをする。とくに疑問の残った点はそのままにせず、解決に向けて努めること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。あるいは保育実習指導室を通じて連絡を取ること。

留意事項： ・「保育実習指導Ⅱ」を同時履修することが実習の必須条件となる。
・実習中に知り得た個人情報や施設の事情等に関しては、守秘義務があることを留意すること。

科目コード：13167 科目ナンバリング：PC42C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育実習指導Ⅱ a (Nursery School Practicum Guidance II a)

担当者：飛田 隆、中島 美那子、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：実習

曜時：前期(木曜4限)、後期(木曜4限)

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：07.発表

08.共同学修

11.討論

17.発問と回答

授業の概要： 第1回、2回、3回、6回は、保育実習指導Ⅰの学修をふまえ、改めて実習生としての責任とふさわしい態度、倫理観、社会人としての心構えについて学ぶ。また、現代の保育制度や保育所・児童福祉施設における保育ニーズへの理解を深める。

第4回、5回は保育所実習の事後指導、第7回、8回は児童福祉施設実習の事後指導となり、受講生一人ひとりが実習における振り返りをする。

キーワード： 保育実習、児童福祉、社会的養護、障害理解、保育日誌、指導案

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
1. 保育実習指導Ⅰを通して学んだ内容をふまえて自己点検をし、保育士として必要な知識・技術について説明することができる。
 2. 保育制度について理解を深め適切な資料を用いて説明することができる。
 3. 児童虐待、障害児保育、病児保育等について説明することができる。
 4. 保育士の社会的役割について理解し、説明することができる。

評価方法: 授業内でのレポート、実習事後のレポート および発表 **評価割合: 50%**

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」を通して学んだ内容をふまえて、子ども(利用者)への適切なかかわりについて柔軟に考えることができる。
 2. 現代の保育制度や保育ニーズを捉えつつ、本来の保育士としてのあり方について思考することができる。

評価方法: 授業内でのレポート、実習事後のレポート および発表 **評価割合: 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

1. 「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」を通して学んだ内容をふまえて、子ども(利用者)への適切なかかわりについて柔軟に考えることができる。
2. 現代の保育制度や保育ニーズを捉えつつ、本来の保育士としてのあり方について思考することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや最終発表の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、レポートや最終発表での子どもの人権を侵害するような発言・記載および差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第1回】

保育実習指導Ⅰを通して学んだ事を振り返り自己課題を明確にする。
保育士として必要な資質・能力・技術について考える。

【第2回】

子どもの発達や個人差を理解し、関わりについて考える。
障害児保育や児童虐待への対応について学ぶ。

【第3回】

指導計画を立案し、準備や指導について学ぶ。
実習生としての責任を自覚し、ふさわしい態度を身に付ける。

【第4回】

保育所実習の振り返りをする。
生活環境にともなう多様な保育ニーズを理解し、その対応について考えを深める。

【第5回】

保育所実習の振り返りをする。
さまざまな背景をもつ家庭に対する支援について理解を深める。

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 1. 「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」を通して学んだ内容をふまえて、子ども(利用者)への適切ななかかわりについて柔軟に考えることができる。
2. 現代の保育制度や保育ニーズを捉えつつ、本来の保育士としてのあり方について思考することができる。

評価方法: 授業内でのレポート、実習事後のレポート および発表 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

1. 「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」を通して学んだ内容をふまえて、子ども(利用者)への適切ななかかわりについて柔軟に考えることができる。
2. 現代の保育制度や保育ニーズを捉えつつ、本来の保育士としてのあり方について思考することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや最終発表の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、レポートや最終発表での子どもの人権を侵害するような発言・記載および差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第1回】

保育実習指導Ⅰを通して学んだ事を振り返り自己課題を明確にする。
保育士として必要な資質・能力・技術について考える。

【第2回】

子どもの発達や個人差を理解し、関わりについて考える。
障害児保育や児童虐待への対応について学ぶ。

【第3回】

指導計画を立案し、準備や指導について学ぶ。
実習生としての責任を自覚し、ふさわしい態度を身に付ける。

【第4回】

保育所実習の振り返りをする。
生活環境にともなう多様な保育ニーズを理解し、その対応について考えを深める。

【第5回】

保育所実習の振り返りをする。
さまざまな背景をもつ家庭に対する支援について理解を深める。

【第6回】

地域社会に対する理解を深め、連携の方法や支援のあり方について学ぶ。
保育士としての職業倫理を学ぶ。

【第7回】

児童福祉施設での実習の振り返りをする。
あらためて子どもの最善の利益とは何かについて考える。

【第8回】

児童福祉施設での実習の振り返りをする。
総まとめ

使用テキスト: 『保育実習の手引き』(保育実習指導Ⅰで配布済み)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前学修として、「保育実習指導Ⅰ」や「保育実習Ⅰ」で明らかとなった課題について改めて振り返り、本授業に臨むこと。
事後学修としては、実践(実習)経験の総まとめ、総点検をすること。とくに保育職として必要となる知識・技術、および自分に未だ不十分だと思われるこれらについて見定め、学修を深めること。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。あるいは保育実習指導室を通じて連絡を取ること。

留意事項： 保育実習と結びつく授業であることから、原則として欠席、遅刻、早退は認めない。

科目コード：13168 **科目ナンバリング：**PC10C07K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：教職論 a(Teaching Profession Theory a)

担当者：高野 暁子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：07 発表

08 協同学修

16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 義務教育やその後の教育の基礎を育むのが幼稚園をはじめとする「幼児教育施設」です。この授業では、幼児教育の専門家である幼稚園教諭の意義や専門家としての職務・権利について概説します。また、教諭になるための道筋や留意点、課題についても取り上げます。幼稚園教諭という仕事の重要性を理解し、子どもに向き合う心構えを学んでいきます。

キーワード： 幼稚園教諭、小学校教諭、園内研修、幼保小の連携、子育て支援、教師の職務と権利、教師の養成

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で取り上げた教職の基本的な知識について、明確に理解することができる。

評価方法： 学期末のレポート

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた内容を踏まえて、教職についての現代の問題を考え、自分なりに表現することができる。

評価方法： 学期末のレポート

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組みが求められます。評価の対象とはしません。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、厳重注意のうえ減点の対象となることがあります。

評価割合：0%

▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

- 授業計画：**
- 第1回 「教職」について学ぶ意義：「教職」概念の整理 教員・教師・教諭
 - 第2回 教諭の仕事(1):幼稚園教諭
 - 第3回 教諭の仕事(2):小学校教諭
 - 第4回 教育実践と省察:幼稚園教諭による教育のサイクル
 - 第5回 幼稚園教諭の専門性と園内研修:教諭同士の対話を通じた専門性の向上
 - 第6回 幼保小の連携:幼稚園・保育園・小学校の相互交流
 - 第7回 家族・地域と幼稚園教諭:園・家族・地域の連携による子育て支援
 - 第8回 幼稚園教諭の責務:法律に規定された義務
 - 第9回 幼稚園教諭の権利:労働者としての権利と身分保障
 - 第10回 幼稚園教諭の仕事の一場面(1):一日のスケジュールと具体的な仕事
 - 第11回 幼稚園教諭の仕事の一場面(2):男性幼稚園教諭
 - 第12回 幼稚園教諭の養成:資格取得に向けた道のり
 - 第13回 実習:幼稚園教諭養成における実習の位置づけ
 - 第14回 幼稚園教諭という仕事を選ぶ:幼稚園教諭の仕事の魅力
 - 第15回 これからの幼稚園教諭:現代の課題と未来の展望

使用テキスト： 授業で使用する資料はTeams等に掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修をを深めるとともに、時事的な教育の問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 公開されているメール等で連絡してください。

留意事項： デバイス必携とします。

科目コード：13168 科目ナンバリング：PC10C07K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教職論 b(Teaching Profession Theory b)

担当者：高野 暁子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：07 発表

08 協同学修

16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 義務教育やその後の教育の基礎を育むのが幼稚園をはじめとする「幼児教育施設」です。この授業では、幼児教育の専門家である幼稚園教諭の意義や専門家としての職務・権利について概説します。また、教諭になるための道筋や留意点、課題についても取り上げます。幼稚園教諭という仕事の重要性を理解し、子どもに向き合う心構えを学んでいきます。

キーワード： 幼稚園教諭、小学校教諭、園内研修、幼保小の連携、子育て支援、教師の職務と権利、教

師の養成

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で取り上げた教職の基本的な知識について、明確に理解することができる。

評価方法: 学期末のレポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げた内容を踏まえて、教職についての現代の問題を考え、自分なりに表現することができる。

評価方法: 学期末のレポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組みが求められます。評価の対象とはしません。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、厳重注意のうえ減点の対象となることがあります。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

- 授業計画:**
- 第1回 「教職」について学ぶ意義:「教職」概念の整理 教員・教師・教諭
 - 第2回 教諭の仕事(1):幼稚園教諭
 - 第3回 教諭の仕事(2):小学校教諭
 - 第4回 教育実践と省察:幼稚園教諭による教育のサイクル
 - 第5回 幼稚園教諭の専門性と園内研修:教諭同士の対話を通じた専門性の向上
 - 第6回 幼保小の連携:幼稚園・保育園・小学校の相互交流
 - 第7回 家族・地域と幼稚園教諭:園・家族・地域の連携による子育て支援
 - 第8回 幼稚園教諭の責務:法律に規定された義務
 - 第9回 幼稚園教諭の権利:労働者としての権利と身分保障
 - 第10回 幼稚園教諭の仕事の一場面(1):一日のスケジュールと具体的な仕事
 - 第11回 幼稚園教諭の仕事の一場面(2):男性幼稚園教諭
 - 第12回 幼稚園教諭の養成:資格取得に向けた道のり
 - 第13回 実習:幼稚園教諭養成における実習の位置づけ
 - 第14回 幼稚園教諭という仕事を選ぶ:幼稚園教諭の仕事の魅力
 - 第15回 これからの幼稚園教諭:現代の課題と未来の展望

使用テキスト: 授業で使用する資料はTeams等に掲示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修をを深めるとともに、時事的な教育の問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 公開されているメール等で連絡してください。

留意事項: デバイス必携とします。

科目コード:13169 科目ナンバリング:PC20C21K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育行政学(Public Administration in Education)

担当者: 池内 耕作

基本情報

年次:2 単位数:2 授業形式:講義

曜時:水曜3限 履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 社教 AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: この授業では、現代公教育制度の意義・原理・構造、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、そこに内在する課題について解説します。また、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について取り組み事例を踏まえて紹介し、あわせて学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて学校安全の目的と具体的な取組について解説していきます。

キーワード: 教育諸条件の整備、公教育制度、文部科学省、教育委員会、教育行財政

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた教育行政に関わる社会的・制度的事項等について、概ね 80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります) **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った教育行政に関わる課題について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります) **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：教育行政学とはどんな学問か(授業概要説明含む)
第2回：公教育の原理及び理念
第3回：公教育制度を構成する教育関係法規：教育基本法と学校教育法
第4回：公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み1：中央教育行政組織(各国と日本)
第5回：公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み2：地方教育行政組織(各国と日本)
第6回：公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み3：教育行政のあり方(日本)
第7回：公教育制度をめぐる諸課題
第8回：諸外国の教育行政改革(英・米)
第9回：諸外国の教育行政改革(仏・独)
第10回：諸外国の教育行政改革(中・韓)
第11回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法
第12回：地域との連携に基づく開かれた学校作り
第13回：学校の危機管理と学校安全の必要性
第14回：新たな安全上の課題と安全管理
第15回：安全教育
定期試験

使用テキスト： 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考資料として次の2点を推薦する。

『教育学基礎資料 第6版』新井郁男ほか編著、樹村房、1,512円
『文部科学白書』文部科学省、日経印刷、2,100円(毎年7月頃に最新版が発行されることに留意すること)
また、関係省庁等から公表される最新の教育関係法令、中央教育審議会の答申などに可能な限り目を通すこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 教育行政学は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。(特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育行政学を受講しても要件を満たさないので注意すること)

科目コード：13170 科目ナンバリング：PC20C22K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育方法論 a(Education Methodology a)

担当者：生越 達

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：07

17

・授業中における発表及び教師とのやり取り
・課題となる資料の読み込みとレポートの執筆

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

現代社会を生きる子どもたちに求められる力を育成するために求められる教育の方法や技術に関わる基礎的な知識技能を身に付ける。できる限り幼児教育に焦点をあて、保育士となったときに自ら教育方法をデザインできるようにする力を育てる。

キーワード： 授業、学習指導、デザイン、教師(保育士)、子ども理解、現代社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1) 授業で扱った教育方法に関する知識・技能について、概ね80パーセントの事項を知識として備えている。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った教育方法に関する知識や技能を、自らの経験や主体的学修を踏まえて、論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 学期末期末試験

評価割合： 50%

レポート執筆

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし提示された資料を読み込みレポートを執筆したり、また授業中の発表や応答をとおして主体的に取り組む態度を見て取ることができる。したがって上記の思考力・判断力・表現力の項目によって評価することがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により授業内容を深めることは強く求められるので、思考力・判断力・表現力の項目において評価することはありうる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象とはしない。ただしカンニング等や人権侵害については、原点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

毎回出席をとる。

評価割合： 毎回出席をとる。

授業計画：

- 第1回:教育方法の基本(教育という営みの本質と危険性)
- 第2回:教育方法と子ども理解(カマラとアマラの事例を考える、子どもに学ぶ)
- 第3回:教育の本質と教育方法(保育にとっての子ども理解の重要性)
- 第3回:現代社会と「主体的・対話的で深い学び」(保育士と子どもの三つの関係)
- 第4回:教育の課題と教師の存在(自己理解の重要性)
- 第5回:教育実践の評価(誰が評価されるのか、コミュニケーションの窓)
- 第6回:教育方法と教師の存在Ⅰ～聴くこと・待つことの大切さ
- 第7回:教育方法と教師の存在Ⅱ～向き合うことの大切さ
- 第8回:教育実践の評価(エピソード記述をとおして)
- 第9回:保育の実践をとらえる(一つの実践を取り上げて)
- 第10回:保育における家庭との連携
- 第11回:教育方法としての聴くこと
- 第12回:教育方法としての向き合うこと
- 第13回:授業における三つの重要なポイント(三つのD)(情報機器の活用含む)
- 第14回:環境としてのユニバーサルデザインと情報機器の活用
- 第15回:教育方法論のまとめ(現代の子どもたちに求められる能力をはぐくむ教育方法)

使用テキスト： レジュメを配布する。

予習・復習のポイントと 授業の最後に課題が出る。

参考文献・資料等： 授業外において論文を読んでもらい、課題に答えてもらう(レポート)。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 非常勤講師であるため、授業時及び公開されているメールに問い合わせをしてください。

留意事項： なし

科目コード：13170 科目ナンバリング：PC20C22K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育方法論 b(Education Methodology b)

担当者：生越 達

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：07

17

- ・授業中における発表及び教師とのやり取り
- ・課題となる資料の読み込みとレポートの執筆

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

現代社会を生きる子どもたちに求められる力を育成するために求められる教育の方法や技術に関わる基礎的な知識技能を身に付ける。できる限り幼児教育に焦点をあて、保育士となったときに自ら教育方法をデザインできるようにする力を育てる。

キーワード： 授業、学習指導、デザイン、教師、子ども理解、現代社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：1)授業で扱った教育方法に関する知識・技能について、概ね80パーセントの事項を知識として備えている。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った教育方法に関する知識や技能を、自らの経験や主体的学修を踏まえて、論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法：学期末期末試験

評価割合：50%

レポート執筆

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし提示された資料を読み込みレポートを執筆したり、また授業中の発表や応答をとおして主体的に取り組む態度を見て取ることができる。したがって上記の思考力・判断力・表現力の項目によって評価することがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により授業内容を深めることは強く求められるので、思考力・判断力・表現力の項目において評価することはありうる。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしない。ただしカンニング等や人権侵害については、原点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

毎回出席をとる。

評価割合：毎回出席をとる。

- 授業計画：
- 第1回：教育方法の基本(教育という営みの本質と危険性)
 - 第2回：教育方法と子ども理解(カマラとアマラの事例を考える、子どもに学ぶ)
 - 第3回：教育の本質と教育方法(保育にとっての子ども理解の重要性)
 - 第3回：現代社会と「主体的・対話的で深い学び」(保育士と子どもの三つの関係)
 - 第4回：教育の課題と教師の存在(自己理解の重要性)
 - 第5回：教育実践の評価(誰が評価されるのか、コミュニケーションの窓)
 - 第6回：教育方法と教師の存在Ⅰ～聴くこと・待つことの大切さ
 - 第7回：教育方法と教師の存在Ⅱ～向き合うことの大切さ
 - 第8回：教育実践の評価(エピソード記述をとおして)
 - 第9回：保育の実践をとらえる(一つの実践を取り上げて)
 - 第10回：保育における家庭との連携
 - 第11回：教育方法としての聴くこと
 - 第12回：教育方法としての向き合うこと
 - 第13回：授業における三つの重要なポイント(三つのD)(情報機器の活用含む)
 - 第14回：環境としてのユニバーサルデザインと情報機器の活用
 - 第15回：教育方法論のまとめ(現代の子どもたちに求められる能力をはぐくむ教育方法)

使用テキスト： レジユメを配布する。

予習・復習のポイントと 授業の最後に課題が出る。

参考文献・資料等： 授業外において文章を読んでもらい、課題に答えてもらう。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 非常勤講師であるため、授業時及び公開されているメールに問い合わせをしてください。

留意事項： なし

科目コード：13173

科目ナンバリング：PC30C08K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 小学校国語科研究 a (Subject Study of Elementary School Japanese Language Teach

担当者： 鈴木 範子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：教職

AL要素：07発表

08協同学修

16振り返り用紙と応答

授業の概要：

幼稚園と小学校の接続教育を視野に入れた国語の指導内容や指導法について、教科書教材等を用いて理論的かつ実践的に学ぶ。

キーワード： 接続教育、幼児の言葉の発達、言語の特質、国語科教育の意義と目標、ことばによる見方・考え方、言語活動、情報の扱い方、語彙と読解力の育成

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 幼稚園教育要領および小学校学習指導要領に基づいた国語の指導内容と指導法について理解することができる。

評価方法： グループ活動およびレポート

評価割合：40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り扱う国語の教科書教材について分析し、教材の特色を生かした指導計画を立案することができる

評価方法： グループ活動およびレポート

評価割合：30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主学習および課題に対する積極的な取り組み、グループ活動への主体的な取り組みを評価の対象とする。

評価割合：30%

▼ 実践的ボランティア

特別な支援を必要とする学生に対する手助け、欠席者等に対する授業内容の情報提供およびグループ活動における発表資料の準備や連絡調整を率先して行う。

評価割合：0%

▼ 公正性

他者の発言を傾聴し尊重する態度をとること。差別的言動をとらないこと。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】シラバスと授業展開について
【第02回】「接続教育」の意味と重要性
【第03回】幼児のことばの発達
【第04回】幼児と絵本の世界
【第05回】小学校国語科の特徴ー幼児期からの関連ー
【第06回】話すこと・聞くことの指導①ー話すこと・聞くことと言語活動ー
【第07回】話すこと・聞くことの指導②ー話し合うことの指導過程ー
【第08回】語彙と文字の指導
【第09回】書くことの指導①ー書くことのジャンルと指導ー
【第10回】書くことの指導②ー体験と書くことー
【第11回】読むことの指導①ー低学年物語教材の内容と学びー
【第12回】読むことの指導②ー低学年物語教材の研究ー
【第13回】読むことの指導③ー低学年説明文教材の研究ー
【第14回】国語科教育におけることばの実践的指導①(アクティブラーニング)
【第15回】国語科教育におけることばの実践的指導②(アクティブラーニング)

使用テキスト： 「幼稚園教育要領」及び「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 平成29年7月 文部

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で配布した資料を使って、次授業の課題について考えを文章にまとめる。
参考資料：小学校学習指導要領国語編（平成29年告示）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします

留意事項： なし

科目コード：13173 **科目ナンバリング：**PC30C08K **主な使用言語：**日本語|
授業名(英文)：小学校国語科研究 b (Subject Study of Elementary School Japanese Language Teach
担当者：鈴木 範子

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**講義
曜時：水曜2限 **履修可能学科・専攻：** Pc
関連資格：教職 **AL要素：** 07発表
08協同学修
16振り返り用紙と応答

授業の概要：

幼稚園と小学校の接続教育を視野に入れた国語の指導内容や指導法について、教科書教材等を用いて理論的かつ実践的に学ぶ。

キーワード： 接続教育、幼児の言葉の発達、言語の特質、国語科教育の意義と目標、ことばによる見方・考え方、言語活動、情報の扱い方、語彙と読解力の育成

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 幼稚園教育要領および小学校学習指導要領に基づいた国語の指導内容と指導法について理解することができる。

評価方法： グループ活動およびレポート **評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り扱う国語の教科書教材について分析し、教材の特色を生かした指導計画を立案することができる

評価方法： グループ活動およびレポート **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主学習および課題に対する積極的な取り組み、グループ活動への主体的な取り組みを評価の対象とする。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

特別な支援を必要とする学生に対する手助け、欠席者等に対する授業内容の情報提供およびグループ活

動における発表資料の準備や連絡調整を率先して行う。

評価割合：0%

▼公正性

他者の発言を傾聴し尊重する態度をとること。差別的言動をとらないこと。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】シラバスと授業展開について
【第02回】「接続教育」の意味と重要性
【第03回】幼児のことばの発達
【第04回】幼児と絵本の世界
【第05回】小学校国語科の特徴―幼児期からの関連―
【第06回】話すこと・聞くことの指導①―話すこと・聞くことと言語活動―
【第07回】話すこと・聞くことの指導②―話し合うことの指導過程―
【第08回】語彙と文字の指導
【第09回】書くことの指導①―書くことのジャンルと指導―
【第10回】書くことの指導②―体験と書くこと―
【第11回】読むことの指導①―低学年物語教材の内容と学び―
【第12回】読むことの指導②―低学年物語教材の研究―
【第13回】読むことの指導③―低学年説明文教材の研究―
【第14回】国語科教育におけることばの実践的指導①(アクティブラーニング)
【第15回】国語科教育におけることばの実践的指導②(アクティブラーニング)

使用テキスト：「幼稚園教育要領」及び「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 平成29年7月 文部科学省」

予習・復習のポイントと 授業で配布した資料を使って、次授業の課題について考えを文章にまとめる。
参考文献・資料等： 参考資料：小学校学習指導要領国語編(平成29年告示)

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします

留意事項： なし

科目コード：13174 科目ナンバリング：PC30C09K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 小学校算数科研究 a (Subject Study of Elementary School Math Teaching a)

担当者： 佐々木 隆宏

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：8. 協同学修

授業の概要： この授業は小学校算数科研究という名称であるが、幼稚園教諭や保育士にとって必要な資質・能力の育成を目的とする授業である。授業全体の流れは小学校算数科における領域区分「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」に合わせたものが、それらの内容を環境領域における数と図形の視座から学習する。制作も取り入れるが、制作物は、その背景にある数学的な知識や考え方、制作物を現場でどのように活用するかまで理解することで意味を持つ。そこで、この授業では、知識、政策、模擬授業を1セットとし、4領域分を扱う。

キーワード： 数と図形、算数、数学的活動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 小学校算数科における4領域の内容を理解して、説明することができる。また、算数における用語や考え方を理解するとともに、計算や作図などを行うだけの技能がある。

評価方法： ・学期末の
筆記試験

評価割合： 40 %

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 現実の世界や数学の世界の問題を数学的な問題として捉え(数学化)、数学的な見方・考え方を働かせながら問題が解決できる。

評価方法： 授業中の課題

評価割合： 40 %

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容と回数の評価する。また、課題やレポート内容に算数・数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。また、「授業中の居眠り」「忘れ物」「提出期限超過」は減点する。

評価割合： 20 %

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。

評価割合： 0 %

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。

評価割合： 0 %

▼その他

特記事項なし

評価割合： 特記事項なし

授業計画： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ, レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
チームコードはIC-UNIPAを参照のこと。

毎回10分間程度で「数と形」に関する基礎的な内容を学習する。

第1回:オリエンテーション(本授業の目的と授業の進め方について)

第2回:「数」に関する視聴覚教材をもとに話し合い、模擬授業内容の決定

第3回:指導案の作成、掲示物の製作(画用紙・ノリ・ハサミ・ペンなどを持参する)

第4回:「数」についてのマイクロティーチングと協議(1回目)

第5回:「数」についてのマイクロティーチングと協議(2回目)

第6回:算数を用いた遊びと数学的意味:「すうじのうた」のペーパーサートづくり

(ペン・ハサミ・ノリ・割りばし10本持参する)

第7回:「形」に関する視聴覚教材をもとに話し合い、模擬授業内容の決定

第8回:指導案の作成、掲示物の製作(画用紙・ノリ・ハサミ・ペンなどを持参する)

第9回:「形」についてのマイクロティーチングと協議(1回目)

第10回:「形」についてのマイクロティーチングと協議(2回目)

第11回:算数を用いた遊びと数学的意味:三角コマ

(ハサミ・ノリ・つま楊枝1本を持参する)

第12回:小学校第1学年の算数科の授業を視聴して話し合う(幼小接続)

第13回: 幼児期および小学校におけるプログラミング教育
第14回: 算数を用いた遊びと数学的意味: ヒンメリ
(ハサミ・タコ糸・ストロー10本程度を持参する)
第15回: 授業のまとめ
試験 [40点]

使用テキスト: ・平成29年告示の幼稚園教育要領(文部科学省)
・必要な資料を授業中に配布するので、ファイルを用意してください。【必須】
クリアファイルなどではなくポケットファイル形式のファイルを用意してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習: 配布資料を読んでおくこと。また、使用する道具等を準備すること。
復習: 授業で扱った用語や考え方を説明できるようにする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。

授業時間外の連絡手段: 研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

留意事項: 特記事項なし

科目コード: 13174 **科目ナンバリング:** PC30C09K **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 小学校算数科研究 b (Subject Study of Elementary School Math Teaching b)
担当者: 佐々木 隆宏

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義
曜時: 木曜4限 **履修可能学科・専攻:** Pc
関連資格: 教職 **AL要素:** 8. 協同学修

授業の概要: この授業は小学校算数科研究という名称であるが、幼稚園教諭や保育士にとって必要な資質・能力の育成を目的とする授業である。授業全体の流れは小学校算数科における領域区分「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」「データ の活用」に合わせているが、それらの内容を環境領域における数と図形の視座から学習する。制作も取り入れるが、制作物は、その背景にある数学的な知識や考え方、制作物を現場でどのように活用するかまで理解することで意味を持つ。そこで、この授業では、知識、製作、模擬授業を1セットとし、4領域分を扱う。

キーワード: 数と図形、算数、数学的活動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 小学校算数科における4領域の内容を理解して、説明することができる。また、算数における用語や考え方を理解するとともに、計算や作図などを行うだけの技能がある。

評価方法: ・学期末の筆記試験 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 現実の世界や数学の世界の問題を数学的な問題として捉え(数学化)、数学的な見方・考え方を働かせながら問題が解決できる。

評価方法: 授業中の課題 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容と回数进行评估する。また、課題やレポート内容に算数・数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。また、「授業中の居眠り」「忘れ物」「提出期限超過」は減点する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特記事項なし

評価割合：特記事項なし

授業計画：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ, レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
チームコードはIC-UNIPAを参照のこと。

毎回10分間程度で「数と形」に関する基礎的な内容を学習する。

- 第1回:オリエンテーション(本授業の目的と授業の進め方について)
 - 第2回:「数」に関する視聴覚教材をもとに話し合い, 模擬授業内容の決定
 - 第3回:指導案の作成, 掲示物の製作(画用紙・ノリ・ハサミ・ペンなどを持参する)
 - 第4回:「数」についてのマイクロティーチングと協議(1回目)
 - 第5回:「数」についてのマイクロティーチングと協議(2回目)
 - 第6回:算数を用いた遊びと数学的意味:「すうじのうた」のペープサートづくり
(ペン・ハサミ・ノリ・割りばし10本持参する)
 - 第7回:「形」に関する視聴覚教材をもとに話し合い, 模擬授業内容の決定
 - 第8回:指導案の作成, 掲示物の製作(画用紙・ノリ・ハサミ・ペンなどを持参する)
 - 第9回:「形」についてのマイクロティーチングと協議(1回目)
 - 第10回:「形」についてのマイクロティーチングと協議(2回目)
 - 第11回:算数を用いた遊びと数学的意味:三角コマ
(ハサミ・ノリ・つま楊枝1本を持参する)
 - 第12回:小学校第1学年の算数科の授業を視聴して話し合う(幼小接続)
 - 第13回:幼児期および小学校におけるプログラミング教育
 - 第14回:算数を用いた遊びと数学的意味:ヒンメリ
(ハサミ・タコ糸・ストロー10本程度を持参する)
 - 第15回:授業のまとめ
- 試験 [40点]

使用テキスト：・平成29年告示の幼稚園教育要領(文部科学省)
・必要な資料を授業中に配布するので、ファイルを用意してください。【必須】
クリアファイルなどではなくポケットファイル形式のファイルを用意してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：予習:配布資料を読んでおくこと。また、使用する道具等を準備すること。
復習:授業で扱った用語や考え方を説明できるようにする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。

授業時間外の連絡手段: 研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

留意事項: 特記事項なし

科目コード:13175 科目ナンバリング:PC30C10K 主な使用言語:日本語
授業名(英文): 小学校生活科研究 a (Subject Study of Elementary School LifeStudies Teaching a)
担当者: 久松 正樹

基本情報

年次:3	単位数:2	授業形式:講義
曜時:月曜2限		履修可能学科・専攻: Pc
関連資格:教職		AL要素: 03 07 08 10 11 16 17

授業の概要: 学習指導要領生活科の目標は「具体的な活動や体験」を通して、「身近な人々、社会及び自然とのかかわり」に関心をもち「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことを目指しています。そこで本講義では、「身近な人々、社会及び自然とのかかわる活動に関する内容」において、“自然の見方”“社会とのかかわり”“物づくり”について、生物学的、社会学的視点から見方・考え方を深めていきます。併せて授業を組み立てる際に必要な教材・素材に実際に触れ、その特徴を抑えていきます。

キーワード: 見方・考え方 自然の見方 社会とのかかわり 物づくり 体験活動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 生活科の授業に必要な基礎知識を理解し、授業展開に必要な教材・素材を選択することができる。

評価方法: 提出物 **評価割合: 70%**
定期試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で履修したことや自学自修で学んだことを基に、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自分の考えを様々な方法で表現し伝えることができる。

評価方法: 提出物 **評価割合: 30%**
定期試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能について履修した内容以外にも興味関心を広げようとする態度が見られる場合は加点する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などに積極的にに関わり、提出物や定期試験の記述内容に認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」に加点する。

評価割合：0%

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動がとれるようにする。不適切な行動が見られた場合は、減点の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 01 生活科とは(生活科の目標、理科、社会との違い、学習指導要領)
 - 02 教科書を見てみよう(教科書の内容分析)
学校の1日、自己紹介、学校ルール(小一プロブレム、保幼小連携プログラム)
 - 03 分類とは(分類の基礎、動物と植物)
 - 04 秋の植物・動物、生きものあそび(春の生きものの種類や生態)
 - 05 花や野菜となかよし(野菜の種類、野菜の育て方、畑について、里山について)
 - 06 学校探検、町探険(学校の施設、交通安全の基礎、地図の基礎知識)
 - 07 昆虫の見分け方(昆虫の分類、検索表の使い方)
 - 08 昆虫の一生、不思議な生態(ハチ、セミ、カブトムシ、モンシロチョウほか)
 - 09 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.1 紙コップ ストロー
 - 10 雨の日発見(天気について、水の行方、池や川の生きもの)
 - 11 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.2 割りばし 空き缶
 - 12 身近な生きもの(カタツムリ、ダンゴムシ、ザリガニ)の飼い方(危険な生きもの)
 - 13 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.3 新聞紙 ペットボトル その他
 - 14 春、夏、冬の学習(季節による生き物、四季の変化、雪や氷の話、冬の生き物)
 - 15 いろいろなあそび(折り紙、むかしあそび)
- 定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は、印刷・配布する。タブレット、携帯電話の検索機能やカメラを利用し、授業の提出物を作成してもらう。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。内容については授業の進行に合わせて提示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務課に問い合わせてください。

留意事項： なし

科目コード：13175

科目ナンバリング：PC30C10K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校生活科研究 b(Subject Study of Elementary School LifeStudies Teaching b)

担当者：久松 正樹

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：03

07

08

10

11

16

17

授業の概要： 学習指導要領生活科の目標は「具体的な活動や体験」を通して、「身近な人々、社会及び自然とのかかわり」に関心をもち「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことを目指しています。そこで本講義では、「身近な人々、社会及び自然とのかかわる活動に関する内容」において、“自然の見方”“社会とのかかわり”“物づくり”について、生物学的、社会学的視点から見方・考え方を深めていきます。併せて授業を組み立てる際に必要な教材・素材に実際に触れ、その特徴を抑えていきます。

キーワード： 見方・考え方 自然の見方 社会とのかかわり 物づくり 体験活動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 生活科の授業に必要な基礎知識を理解し、授業展開に必要な教材・素材を選択することができる。

評価方法： 提出物
定期試験

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で履修したことや自学自修で学んだことを基に、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自分の考えを様々な方法で表現し伝えることができる。

評価方法： 提出物
定期試験

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能について履修した内容以外にも興味関心を広げようとする態度が見られる場合は加点する。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などに積極的に関わり、提出物や定期試験の記述内容に認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」に加点する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動がとれるようにする。不適切な行動が見られた場合は、減点の対象とする。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 01 生活科とは(生活科の目標、理科、社会との違い、学習指導要領)
- 02 教科書を見てみよう(教科書の内容分析)
学校の1日、自己紹介、学校ルール(小一プロブレム、保幼小連携プログラム)
- 03 分類とは(分類の基礎、動物と植物)
- 04 秋の植物・動物、生きものあそび(春の生きものの種類や生態)
- 05 花や野菜となかよし(野菜の種類、野菜の育て方、畑について、里山について)
- 06 学校探検、町探検(学校の施設、交通安全の基礎、地図の基礎知識)
- 07 昆虫の見分け方(昆虫の分類、検索表の使い方)
- 08 昆虫の一生、不思議な生態(ハチ、セミ、カブトムシ、モンシロチョウほか)
- 09 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.1 紙コップ ストロー
- 10 雨の日発見(天気について、水の行方、池や川の生きもの)
- 11 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.2 割りばし 空き缶
- 12 身近な生きもの(カタツムリ、ダンゴムシ、ザリガニ)の飼い方(危険な生きもの)
- 13 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.3 新聞紙 ペットボトル その他

- 14 春、夏、冬の学習(季節による生き物、四季の変化、雪や氷の話、冬の生き物)
15 いろいろなあそび(折り紙、むかしあそび)
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は、印刷・配布する。タブレット、携帯電話の検索機能やカメラを利用し、授業の提出物を作成してもらう。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 大学設置基準により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。内容については授業の進行に合わせて提示する。

障がいのある履修者への対応: 担当者と直接相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務課に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード:13176 科目ナンバリング:PC30C11K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校体育科研究 (Subject Study of Elementary School Physical Education Teaching)

担当者: 天野 秀哉

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: PC

関連資格:教職

AL要素:16

授業の概要: 子どもの発育発達や運動の発達について理解し、小学校における体育科のあり方を考える。また、運動・スポーツについての知識を身に付け、それを体育科の授業に還元できる思考力を身に付ける。

キーワード: 子どもの発育発達、運動の発達、小学校体育、運動・スポーツ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児期・児童期の発育発達および運動の特徴を理解している。
運動学習について理解している。
小学校体育科の目標と内容を理解している。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った、運動・スポーツについての知識を、体育科の授業に還元できる思考力を身に付ける。

評価方法: 授業内レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業内レポートにより認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポート、筆記試験の記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1.オリエンテーション
 - 2.子どもの運動発達と運動能力の発達(幼児期)
 - 3.子どもの運動発達と運動能力の発達(児童期)
 - 4.体育教材の構造
 - 5.体育科教育を取り巻く制度的条件
 - 6.評価基準の作成と評価方法
 - 7.学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領における体育カリキュラム
 - 8.運動領域の内容理解(1)体づくり運動領域
 - 9.運動領域の内容理解(2)器械運動領域
 - 10.運動領域の内容理解(3)陸上運動領域
 - 11.運動領域の内容理解(4)水泳運動領域
 - 12.運動領域の内容理解(5)ボール運動領域
 - 13.運動領域の内容理解(6)表現運動領域
 - 14.運動領域の内容理解(7)保健領域
 - 15.授業のまとめ
定期試験

使用テキスト： 文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」(東洋館出版)

予習・復習のポイントと 配布資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ見を深めることが
参考文献・資料等： 望ましい。
参考文献 新版「体育科教育学入門」(大修館書店)高橋健夫他編著

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項： 体育施設を使用する際は、運動に適した服装を準備すること。

科目コード：13177 科目ナンバリング：PC40C04E 主な使用言語：日本語|

授業名(英文)： 保育・教職実践演習(幼稚園) a (Childcare and Teaching Practical Seminar (Kindergar

担当者： 清水 悦子、飛田 隆、綿引 喜恵子、高野 暁子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：01実地訓練
02模擬実践
07発表
08協同学修
11討論
13役割演技と疑似体験
15レポート指導

授業の概要： 教育実習や保育実習を含めたこれまでの学びの軌跡を振り返り、自らの学習課題を明確にし、確かな実践力を付けるための授業である。
オリエンテーション、模擬保育(ロールプレイ)とディスカッション、保育現場の観察を通しての

理解の3つのパートから構成されている。

第8回は附属認定こども園での現場観察、第9回は、保育現場の保育者(教師)から指導計画に基づいた保育について講話を受け、指導方法の意図を学ぶ。第2回から4回では、自己理解と子ども理解を通して、自らの保育観を深める。第5回から7回では、おたより・連絡帳・指導案の書き方を、実際に書くことを通して学ぶ。第10回から12回では、子どもの事故や安全管理について現場に出る前に改めて考える。第13回から15回では実践事例から3歳、4歳、5歳児の育ちに合った関わり方、協同的経験についてや小学校への接続について進めていく。全体を通して、指導案作成、模擬保育(ロールプレイ)やディスカッションを中心に授業を展開する。

なお、この授業は4名の教員によるオムニバス授業である。どの日程でどの教員が担当となるかは、初回授業時にアナウンスする。

キーワード: 子ども理解、保護者理解、協同的経験、指導計画、模擬保育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児教育(保育)に必要な知識・技能を総合的に身に付けている。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 十全な子ども理解に基づき、保育計画を立て、子どもの育ちを評価することができる。

保育者の職務を理解し、子どもの育ちを支える対人関係構築能力を養うことができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや履修カルテの記述内容において、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・履修カルテ等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回(清水、高野、綿引、飛田)

オリエンテーション：履修カルテ振り返り、到達目標確認、学習課題明確化

第2回(清水)グループ討議 子ども理解と自己理解

第3回(清水)グループ討議 自己理解と保育観形成

第4回(清水)グループ討議 気になる子の保育への試み

第5回(高野)書く クラスや園全体での子どもたちの様子を伝えるおたより

第6回(高野)書く 個別に子どもの日々の様子を伝える連絡帳

第7回(高野)書く 子どもの育ちに見通しをたてる指導案

第8回(清水・高野)保育現場(大学附属認定こども園)観察

ークラス指導案を手がかりに、環境構成・指導方法を理解するー

第9回(綿引・飛田)保育現場(大学附属認定こども園)保育者の講話とディスカッション

第10回(飛田)園内で考えられる事故と家庭等で考えられる子どもの事故について

第11回(飛田)子どもが園内にいるときの自然災害と火災等(避難訓練等)についての対応について

第12回(飛田)不審者対応等、どのように園児を守るのか、園内外の環境等についても考える

第13回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 子どもの気持ちにより添うとは(実践事例)

第14回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 3歳、4歳、5歳児の育ちに合ったかかわり方

第15回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 協同的経験とは(指導日案と映像から)

使用テキスト： 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』

そのほか必要な資料は、授業の中で配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 常に自己の課題を意識して生活すること。子どもに関する新聞記事や情報を収集し、視野を広くしておくこと。また、子どもの絵画展や音楽会などがある場合には見に行くことを心がけること。

参考書：文部科学省『一人ひとりに応じた指導』(保育資料集)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。担当者に直接申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 担当者の研究室でオフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 第8回、第9回は、変則時間割になる。初回ガイダンス時に、詳細を連絡する。

科目コード：13177

科目ナンバリング：PC40C04E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育・教職実践演習(幼稚園) b(Childcare and Teaching Practical Seminar (Kinderga

担当者：清水 悦子、飛田 隆、綿引 喜恵子、高野 暁子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：01実地訓練

02模擬実践

07発表

08協同学修

11討論

13役割演技と疑似体験

15レポート指導

授業の概要： 教育実習や保育実習を含めたこれまでの学びの軌跡を振り返り、自らの学習課題を明確に

し、確かな実践力を付けるための授業である。
オリエンテーション、模擬保育(ロールプレイ)とディスカッション、保育現場の観察を通しての理解の3つのパートから構成されている。

第8回は附属認定こども園での現場観察、第9回は、保育現場の保育者(教師)から指導計画に基づいた保育について講話を受け、指導方法の意図を学ぶ。第2回から4回では、自己理解と子ども理解を通して、自らの保育観を深める。第5回から7回では、おたより・連絡帳・指導案の書き方を、実際に書くことを通して学ぶ。第10回から12回では、子どもの事故や安全管理について現場に出る前に改めて考える。第13回から15回では実践事例から3歳、4歳、5歳児の育ちに合った関わり方、協同的経験についてや小学校への接続について進めていく。全体を通して、指導案作成、模擬保育(ロールプレイ)やディスカッションを中心に授業を展開する。

なお、この授業は4名の教員によるオムニバス授業である。どの日程でどの教員が担当となるかは、初回授業時にアナウンスする。

キーワード: 子ども理解、保護者理解、協同的経験、指導計画、模擬保育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児教育(保育)に必要な知識・技能を総合的に身に付けている。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 十全な子ども理解に基づき、保育計画を立て、子どもの育ちを評価することができる。

保育者の職務を理解し、子どもの育ちを支える対人関係構築能力を養うことができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや履修カルテの記述内容において、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・履修カルテ等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回(清水、高野、綿引、飛田)

オリエンテーション：履修カルテ振り返り、到達目標確認、学習課題明確化

第2回(清水)グループ討議 子ども理解と自己理解

第3回(清水)グループ討議 自己理解と保育観形成

第4回(清水)グループ討議 気になる子の保育への試み

第5回(高野)書く クラスや園全体での子どもたちの様子を伝えるおたより

第6回(高野)書く 個別に子どもの日々の様子を伝える連絡帳

第7回(高野)書く 子どもの育ちに見通しをたてる指導案

第8回(清水・高野)保育現場(大学附属認定こども園)観察

ークラス指導案を手がかりに、環境構成・指導方法を理解するー

第9回(綿引・飛田)保育現場(大学附属認定こども園)保育者の講話とディスカッション

第10回(飛田)園内で考えられる事故と家庭等で考えられる子どもの事故について

第11回(飛田)子どもが園内にいるときの自然災害と火災等(避難訓練等)についての対応について

第12回(飛田)不審者対応等、どのように園児を守るのか、園内外の環境等についても考える

第13回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 子どもの気持ちにより添うとは(実践事例)

第14回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 3歳、4歳、5歳児の育ちに合ったかかわり方

第15回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 協同的経験とは(指導日案と映像から)

使用テキスト： 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』

そのほか必要な資料は、授業の中で配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 常に自己の課題を意識して生活すること。子どもに関する新聞記事や情報を収集し、視野を
広くしておくこと。また、子どもの絵画展や音楽会などがある場合には見に行くことを心がける
こと。

参考書：文部科学省『一人ひとりに応じた指導』(保育資料集)

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応します。担当者に直接申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 担当者の研究室でオフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせ
します。

留意事項： 第8回、第9回は、変則時間割になる。初回ガイダンス時に、詳細を連絡する。

科目コード：13177

科目ナンバリング：PC40C04E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育・教職実践演習(幼稚園) c(Childcare and Teaching Practical Seminar (Kindergar

担当者：清水 悦子、飛田 隆、綿引 喜恵子、高野 暁子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：01実地訓練

02模擬実践

07発表

08協同学修

11討論

13役割演技と疑似体験

授業の概要： 教育実習や保育実習を含めたこれまでの学びの軌跡を振り返り、自らの学習課題を明確にし、確かな実践力を付けるための授業である。
オリエンテーション、模擬保育(ロールプレイ)とディスカッション、保育現場の観察を通しての理解の3つのパートから構成されている。
第8回は附属認定こども園での現場観察、第9回は、保育現場の保育者(教師)から指導計画に基づいた保育について講話を受け、指導方法の意図を学ぶ。第2回から4回では、自己理解と子ども理解を通して、自らの保育観を深める。第5回から7回では、おたより・連絡帳・指導案の書き方を、実際に書くことを通して学ぶ。第10回から12回では、子どもの事故や安全管理について現場に出る前に改めて考える。第13回から15回では実践事例から3歳、4歳、5歳児の育ちに合った関わり方、協同的経験についてや小学校への接続について進めていく。全体を通して、指導案作成、模擬保育(ロールプレイ)やディスカッションを中心に授業を展開する。

なお、この授業は4名の教員によるオムニバス授業である。どの日程でどの教員が担当となるかは、初回授業時にアナウンスする。

キーワード： 子ども理解、保護者理解、協同的経験、指導計画、模擬保育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 幼児教育(保育)に必要な知識・技能を総合的に身に付けている。

評価方法： レポート

評価割合： 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 十全な子ども理解に基づき、保育計画を立て、子どもの育ちを評価することができる。

保育者の職務を理解し、子どもの育ちを支える対人関係構築能力を養うことができる。

評価方法： レポート

評価割合： 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや履修カルテの記述内容において、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・履修カルテ等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよ

う努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回(清水、高野、綿引、飛田)

オリエンテーション：履修カルテ振り返り、到達目標確認、学習課題明確化

第2回(清水)グループ討議 子ども理解と自己理解

第3回(清水)グループ討議 自己理解と保育観形成

第4回(清水)グループ討議 気になる子の保育への試み

第5回(高野)書く クラスや園全体での子どもたちの様子を伝えるおたより

第6回(高野)書く 個別に子どもの日々の様子を伝える連絡帳

第7回(高野)書く 子どもの育ちに見通しをたてる指導案

第8回(清水・高野)保育現場(大学附属認定こども園)観察

ークラス指導案を手がかりに、環境構成・指導方法を理解するー

第9回(綿引・飛田)保育現場(大学附属認定こども園)保育者の講話とディスカッション

第10回(飛田)園内で考えられる事故と家庭等で考えられる子どもの事故について

第11回(飛田)子どもが園内にいるときの自然災害と火災等(避難訓練等)についての対応について

第12回(飛田)不審者対応等、どのように園児を守るのか、園内外の環境等についても考える

第13回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 子どもの気持ちにより添うとは(実践事例)

第14回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 3歳、4歳、5歳児の育ちに合ったかかわり方

第15回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 協同的経験とは(指導日案と映像から)

使用テキスト： 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』

そのほか必要な資料は、授業の中で配布する。

予習・復習のポイントと 常に自己の課題を意識して生活すること。子どもに関する新聞記事や情報を収集し、視野を
参考文献・資料等： 広くしておくこと。また、子どもの絵画展や音楽会などがある場合には見に行くことを心がける
こと。

参考書：文部科学省『一人ひとりに応じた指導』(保育資料集)

障がいのある 可能な限り対応します。担当者に直接申し出てください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 担当者の研究室でオフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 第8回、第9回は、変則時間割になる。初回ガイダンス時に、詳細を連絡する。

科目コード：13177

科目ナンバリング：PC40C04E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 保育・教職実践演習(幼稚園) d(Childcare and Teaching Practical Seminar (Kinderga

担当者： 清水 悦子、飛田 隆、綿引 喜恵子、高野 暁子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：01実地訓練

02模擬実践

07発表

08協同学修

授業の概要: 教育実習や保育実習を含めたこれまでの学びの軌跡を振り返り、自らの学習課題を明確にし、確かな実践力を付けるための授業である。
オリエンテーション、模擬保育(ロールプレイ)とディスカッション、保育現場の観察を通しての理解の3つのパートから構成されている。
第8回は附属認定こども園での現場観察、第9回は、保育現場の保育者(教師)から指導計画に基づいた保育について講話を受け、指導方法の意図を学ぶ。第2回から4回では、自己理解と子ども理解を通して、自らの保育観を深める。第5回から7回では、おたより・連絡帳・指導案の書き方を、実際に書くことを通して学ぶ。第10回から12回では、子どもの事故や安全管理について現場に出る前に改めて考える。第13回から15回では実践事例から3歳、4歳、5歳児の育ちに合った関わり方、協同的経験についてや小学校への接続について進めていく。全体を通して、指導案作成、模擬保育(ロールプレイ)やディスカッションを中心に授業を展開する。

なお、この授業は4名の教員によるオムニバス授業である。どの日程でどの教員が担当となるかは、初回授業時にアナウンスする。

キーワード: 子ども理解、保護者理解、協同的経験、指導計画、模擬保育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児教育(保育)に必要な知識・技能を総合的に身に付けている。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 十全な子ども理解に基づき、保育計画を立て、子どもの育ちを評価することができる。

保育者の職務を理解し、子どもの育ちを支える対人関係構築能力を養うことができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

発表

教職履修カルテの完成度

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや履修カルテの記述内容において、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・履修カルテ等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言

など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回(清水、高野、綿引、飛田)

オリエンテーション：履修カルテ振り返り、到達目標確認、学習課題明確化

第2回(清水)グループ討議 子ども理解と自己理解

第3回(清水)グループ討議 自己理解と保育観形成

第4回(清水)グループ討議 気になる子の保育への試み

第5回(高野)書く クラスや園全体での子どもたちの様子を伝えるおたより

第6回(高野)書く 個別に子どもの日々の様子を伝える連絡帳

第7回(高野)書く 子どもの育ちに見通しをたてる指導案

第8回(清水・高野)保育現場(大学附属認定こども園)観察

ークラス指導案を手がかりに、環境構成・指導方法を理解するー

第9回(綿引・飛田)保育現場(大学附属認定こども園)保育者の講話とディスカッション

第10回(飛田)園内で考えられる事故と家庭等で考えられる子どもの事故について

第11回(飛田)子どもが園内にいるときの自然災害と火災等(避難訓練等)についての対応について

第12回(飛田)不審者対応等、どのように園児を守るのか、園内外の環境等についても考える

第13回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 子どもの気持ちにより添うとは(実践事例)

第14回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 3歳、4歳、5歳児の育ちに合ったかかわり方

第15回(綿引)模擬保育(ロールプレイ)とグループ討議 協同的経験とは(指導日案と映像から)

使用テキスト： 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』

そのほか必要な資料は、授業の中で配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 常に自己の課題を意識して生活すること。子どもに関する新聞記事や情報を収集し、視野を広くしておくこと。また、子どもの絵画展や音楽会などがある場合には見に行くことを心がけること。

参考書：文部科学省『一人ひとりに応じた指導』(保育資料集)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。担当者に直接申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 担当者の研究室でオフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 第8回、第9回は、変則時間割になる。初回ガイダンス時に、詳細を連絡する。

科目コード：13179

科目ナンバリング：PC12C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもの理解と援助 a(Understanding and Supporting Children a)

担当者：照山 久美子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：03・13・16

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型

幼い子ども一人一人が、その子らしく生き生きと生活し、後に自己実現を果たしてゆくために、保育者は子どもの個性を十分に理解して、個々に応じた関りをする必要があります。その理解に基づいてこそ、その子の個性(発達の偏り、発達特性)に合った保育実践が可能になるからです。そのため本講座では、子ども理解に裏付けられた発達援助について、実務経験から事例や場面を豊富に提示して学んでゆきたいと思います。また、ロールプレイ、ワークシート作成、実技などの活動を通して、その学びを深めたいと思います。

キーワード： 個性 脳機能 アセスメント 発達の偏り 神経発達症(発達障害) 肯定的関り 施設支援

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 子ども一人一人の個性を理解する意義や、そのための視点、具体的方法、発達援助についての問いに概ね80%正答することができる。

評価方法： 毎回実施する小テスト

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見、あるいは、これまでの生活経験をふまえて考察し、論理的かつオリジナリティーのある文章表現をもって自らの所見を述べるができる。

評価方法： レポート作成

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回:子ども理解の意義 —子どもの個性とその尊重—
第2回:子ども理解の視点 —発達の偏りと神経発達症—
第3回:子どもの個性を把握するためのアセスメント(1)
第4回:子どもの個性を把握するためのアセスメント(2)
第5回:子ども理解に基づく発達援助(1) —子ども一人一人の発達課題に応じた工夫—
第6回:子ども理解に基づく発達援助(2) —発達援助のための有効なコミュニケーション—
第7回:子ども理解に基づく発達援助(3) —発達援助のための基本的な考え方—
第8回:地域における発達支援・就学支援の実際 —関係機関との連携—

使用テキスト： 授業で使用する資料は、事前にユニパに掲示するので持参すること。その他に、必要に応じて授業時に配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前に配布された資料を熟読して授業に臨むこと。(20分)
授業中に配布された資料を熟読して復習すること。
宿題をすること。(20分)
小テストの誤りを資料を参照しながら確認し、十分理解すること。
自主学修として、子どもに関する新聞記事をスクラップすることを奨励する。
参考文献「発達障害の子どもたち」 杉山登志朗 著 講談社現代新書 講談社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 教務部等に仲介を依頼してください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行により50名以下とする。

科目コード：13179 科目ナンバリング：PC12C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもの理解と援助 b(Understanding and Supporting Children b)

担当者：照山 久美子

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：演習

曜時：木曜6限 履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育 AL要素：03・13・16

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型

幼い子ども一人一人が、その子らしく生き生きと生活し、後に自己実現を果たしてゆくために、保育者は子どもの個性を十分に理解して、個々に応じた関りをする必要があります。その理解に基づいてこそ、その子の個性(発達の偏り、発達特性)に合った保育実践が可能になるからです。そのため本講座では、子ども理解に裏付けられた発達援助について、実務経験から事例や場面を豊富に提示して学んでゆきたいと思います。また、ロールプレイ、ワークシート作成、実技などの活動を通して、その学びを深めたいと思います。

キーワード： 個性 脳機能 アセスメント 発達の偏り 神経発達症(発達障害) 肯定的関り 施設支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 子ども一人一人の個性を理解する意義や、そのための視点、具体的方法、発達援助についての問いに概ね80%正答することができる。

評価方法： 毎回実施する小テスト **評価割合：** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見、あるいは、これまでの生活経験をふまえて考察し、論理的かつオリジナリティーのある文章表現をもって自らの所見を述べるができる。

評価方法： レポート作成 **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述

内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：子ども理解の意義 ー子どもの個性とその尊重ー
第2回：子ども理解の視点 ー発達の違いと神経発達症ー
第3回：子どもの個性を把握するためのアセスメント(1)
第4回：子どもの個性を把握するためのアセスメント(2)
第5回：子ども理解に基づく発達援助(1) ー子ども一人一人の発達課題に応じた工夫ー
第6回：子ども理解に基づく発達援助(2) ー発達援助のための有効なコミュニケーションー
第7回：子ども理解に基づく発達援助(3) ー発達援助のための基本的な考え方ー
第8回：地域における発達支援・就学支援の実際 ー関係機関との連携ー

使用テキスト： 授業で使用する資料は、事前にユニパに掲載するので持参すること。その他に、必要に応じて授業時に配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前に配布された資料を熟読して授業に臨むこと。(20分)
授業中に配布された資料を熟読して復習すること。
宿題をすること。(20分)
小テストの誤りを資料を参照しながら確認し、十分理解すること。
自主学修として、子どもに関する新聞記事をスクラップすることを奨励する。
参考文献「発達障害の子どもたち」 杉山登志朗 著 講談社現代新書 講談社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 教務部等に仲介を依頼してください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行により50名以下とする。

科目コード：13181 科目ナンバリング：PC33C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもの健康と安全 a(Child Health and Safety a)

担当者：清水悦子

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： コメディカルの臨床経験を活かし、保育現場で必要となる子どもの健康観察の方法、体調不良時の対応、ケガの応急手当や一次救命処置法などについて実践し、習得を図ります。また、望ましい保育環境と安全対策や危機管理体制についての理解を深め、グループ学習を通して、保健的視点からよりよい保育を考えます。

キーワード： 応急手当、一次救命処置、安全対策、危機管理、食物アレルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について説明できる。
子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動を実践できる。
救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に実践できる。

評価方法: レポートや課題、定期試験の結果等から **評価割合: 40%**
総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもの疾病とその予防及び適切な対応についての実践を説明できる。
現代社会における子どもの心身の健康問題や地域保健活動等について理解し、他者にわかりやすくまとめることができる。

評価方法: レポートや課題、定期試験の結果等から **評価割合: 30%**
総合的に評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

グループワークや実践的な演習授業への参加態度を評価対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

【第01回】授業の到達目標と概略及びガイダンス/年間保健指導計画:保健指導案

【第02回】保育における応急手当① 嘔吐処理・手洗い

【第03回】保育における応急手当② 軽微なケガ・包帯等の扱い

【第04回】保健指導発表会準備

【第05回】保育における応急手当③ エピペン・三角巾

【第06回】保健指導発表会

【第07回】子どもの体調不良への対応:実践編

【第08回】子どもの発育・発達の評価:実践編

【第09回】望ましい保育環境と安全対策:ヒヤリハット・チャイルドビジョン/マウス

【第10回】保健指導の実際:幼児からの性教育(外部講師)

【第11回】年間保健指導計画:保健だよりを作る

【第12回】年間保健指導計画:保健だより発表会

【第13回】個別的配慮を要する子どもへの対応:障害・見た目問題を考える

【第14, 15回】(2月の補講・集中講義期間中)

日立市消防署の協力のもと、乳幼児の一次救命講習を実施するため必ず出席すること。

使用テキスト: 「保育救命-保育者のための安心安全ガイド-」遠藤 登(著) ひろばブックス 2016年

予習・復習のポイントと 子どもの保健 I の講義内容の復習を十分に行うこと。

参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応するので、まずは担当教員もしくは学務部に相談すること。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード：13181 科目ナンバリング：PC33C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもの健康と安全 b (Child Health and Safety b)

担当者：清水 悦子

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： コ・メディカルの臨床経験を活かし、保育現場で必要となる子どもの健康観察の方法、体調不良時の対応、ケガの応急手当や一次救命処置法などについて実践し、習得を図ります。また、望ましい保育環境と安全対策や危機管理体制についての理解を深め、グループ学習を通して、保健的視点からよりよい保育を考えます。

キーワード： 応急手当、一次救命処置、安全対策、危機管理、食物アレルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について説明できる。
子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動を実践できる。
救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に実践できる。

評価方法： レポートや課題、定期試験の結果等から **評価割合：40%**
総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもの疾病とその予防及び適切な対応についての実践を説明できる。
現代社会における子どもの心身の健康問題や地域保健活動等について理解し、他者にわかりやすくまとめることができる。

評価方法： レポートや課題、定期試験の結果等から総 **評価割合：30%**
合的に評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

グループワークや実践的な演習授業への参加態度を評価対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 【第01回】授業の到達目標と概略及びガイダンス／年間保健指導計画:保健指導案
- 【第02回】保育における応急手当① 嘔吐処理・手洗い
- 【第03回】保育における応急手当② 軽微なケガ・包帯等の扱い
- 【第04回】保健指導発表会準備
- 【第05回】保育における応急手当③ エピペン・三角巾
- 【第06回】保健指導発表会
- 【第07回】子どもの体調不良への対応:実践編
- 【第08回】子どもの発育・発達の評価:実践編
- 【第09回】望ましい保育環境と安全対策:ヒヤリハット・チャイルドビジョン/マウス
- 【第10回】保健指導の実際:幼児からの性教育(外部講師)
- 【第11回】年間保健指導計画:保健だよりを作る
- 【第12回】年間保健指導計画:保健だより発表会
- 【第13回】個別的配慮を要する子どもへの対応:障害・見た目問題を考える

【第14, 15回】(2月の補講・集中講義期間中)
 日立市消防署の協力のもと、乳幼児の一次救命講習を実施するため必ず出席すること。

使用テキスト: 「保育救命-保育者のための安心安全ガイド-」遠藤 登(著) ひろばブックス 2016年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 子どもの保健 I の講義内容の復習を十分に行うこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは担当教員もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード: 13182 **科目ナンバリング:** PC10C10K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 保育の計画と評価 a(Childcare Planning and Evaluation a)

担当者: 猪狩 美奈子

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 木曜3限		履修可能学科・専攻: Pc
関連資格: 保育		AL要素: 15レポート指導 16振り返り用紙と応答 17発問と回答

授業の概要: <授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ>課題研究型

- ・保育における計画の意義について、保育所保育指針・幼稚園教育要領などに基づいて解説します。
- ・幼児理解に基づく指導計画作成の方法について、教員としての実務経験を生かし、事例の分析や指導案の読み取りなどを通して具体的に解説します。

キーワード: ・指導計画、評価、幼児理解、幼児の主体性、ねらい・内容・環境構成・援助

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた保育の計画について概ね理解し、レポートなどにおいて的確に記述することができる。

評価方法: レポート **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について自主的に学習を進め、実際の指導計画作成において表記すること

ができる。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の態度・発表への意欲、グループ協議への取り組みなどを評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象としない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回 幼稚園教育の基本と保育課程
 - 第2回 幼児の育ちの方向性と保育計画
 - 第3回 幼稚園の教育課程と保育所の全体的な計画
 - 第4回 保育の目標と計画の基本的な考え方
 - 第5回 計画に基づく保育の柔軟な展開
 - 第6回 保育実践の過程と記録の重要性
 - 第7回 幼児理解と保育の構想
 - 第8回 幼児の主体性と保育の計画
 - 第9回 幼児の発達とねらい・内容の設定
 - 第10回 計画的な環境の構成と保育の展開
 - 第11回 指導計画の作成の手順
 - 第12回 教材研究、部分指導計画作成
 - 第13回 評価と指導計画の改善
 - 第14回 実習日誌に基づく指導計画の作成
 - 第15回 全日指導計画作成

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領は事前に授業のテーマに関係する部分を読んでおく。
授業後、配布資料について復習するとともに出された課題について、自分なりに深めて記述できるようにする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部を通して連絡してください。

留意事項: 特になし

科目コード: 13182

科目ナンバリング: PC10C10K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 保育の計画と評価 b (Childcare Planning and Evaluation b)

担当者: 猪狩 美奈子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：保育

AL要素： 15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要： <授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ>課題研究型

- ・保育における計画の意義について、保育所保育指針・幼稚園教育要領などに基づいて解説します。
- ・幼児理解に基づく指導計画作成の方法について、教員としての実務経験を生かし、事例の分析や指導案の読み取りなどを通して具体的に解説します。

キーワード： ・指導計画、評価、幼児理解、幼児の主体性、ねらい・内容・環境構成・援助

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた保育の計画について概ね理解し、レポートなどにおいて的確に記述することができる。

評価方法： レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について自主的に学習を進め、実際の指導計画作成において表記することができる。

評価方法： レポート

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の態度・発表への意欲、グループ協議への取り組みなどを評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象としない。
ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 幼稚園教育の基本と保育課程
第2回 幼児の育ちの方向性と保育計画
第3回 幼稚園の教育課程と保育所の全体的な計画
第4回 保育の目標と計画の基本的な考え方
第5回 計画に基づく保育の柔軟な展開
第6回 保育実践の過程と記録の重要性
第7回 幼児理解と保育の構想
第8回 幼児の主体性と保育の計画
第9回 幼児の発達とねらい・内容の設定
第10回 計画的な環境の構成と保育の展開
第11回 指導計画の作成の手順
第12回 教材研究、部分指導計画作成
第13回 評価と指導計画の改善

第14回 実習日誌に基づく指導計画の作成

第15回 全日指導計画作成

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領は事前に授業のテーマに関係する部分を読んでおく。
授業後、配布資料について復習するとともに出された課題について、自分なりに深めて記述できるようにする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部を通して連絡してください。

留意事項: 特になし

科目コード: 13184 **科目ナンバリング:** PC31C01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 保育実習指導I a (Nursery School Practicum Guidance I a)

担当者: 飛田 隆、中島 美那子、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 前期(木曜5限)、後期(木曜5限)

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 07.発表

08.協同学修

11.討論

17.発問回答

授業の概要: 1.保育実習に必要な心構え・倫理観・基礎知識を習得する。
2.実習の手引きを熟読し、実習に向けての自己点検・準備をする。
3.保育実習体験を通して一人一人が学習課題を具体化・明確化する。
4.実習を通して学んだことを深める。
5.実習を通して気づいた課題を整理し次の実習に生かせるようにする。

キーワード: 保育実習、保育所、施設、指導案、子どもの遊び、児童福祉、社会的養護、虐待関連、障害児保育等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習生としての心構えと責任を持つことができる。
保育士の仕事についての基礎知識を理解することができる。
子どもの発達について基礎的な知識を獲得することができる。
施設の役割について理解することができる。
障害についての基本的知識を習得できる。

評価方法: レポート、発表、実習事後のレポート、授業 **評価割合:** 50%
態度、出席率等

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 児童虐待等の子どもに関わる出来事についての基礎知識を学び理解することができる。
保育所の役割、子育て支援についても理解することができる。
保育所の環境、教材等についても理解することができる。

評価方法: レポート、発表、実習事後のレポート、授業態度、出席率等 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の発表、グループ討議の積極的な発言・意見。
実習事後の発表内容・振り返り等。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価とはしないが、実習園でのボランティア活動への参加が次の実習への学びにつながることを理解する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価とはしないが、レポートや実習事後の振り返り等の中で子どもの人権を侵害するような発言・記載等があった場合は反省を促す。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. 保育所・入所施設の理解
 2. 保育実習の意義(保育所・施設)
 3. 実習生心得
 4. 施設実習の意義と役割
 5. 施設実習の進め方
 6. 記録・日誌と保育計画
 7. 施設における保育士の役割と利用者の生活(学外講師)
 8. 施設実習反省・報告
 9. 保育所実習の意義
 10. 保育実習の具体的方法・保育計画・実習日誌
 11. 乳児保育
 12. 保育所における子どもの姿・保育士の仕事の理解
 13. 保育士の役割と実習生としての態度(学外講師)
 14. 教材研究等
 15. 総まとめ

使用テキスト: 「保育実習の手引き」、「保育所保育指針」

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 保育所保育指針の熟読、子どもの遊び、環境について事前に学んでおく。
障害児、虐待、子育て支援、紙芝居、手遊び、絵本等についても可能な限り学習しておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。事前の相談も受け付ける。心配なことは実習指導室で適宜対応する。
担当教員も相談に応じる。

授業時間外の連絡手段: 可能な限り研究室で対応する。実習指導室でも適宜対応する。指導室を通じて担当教員に連絡も可能。

留意事項: 保育実習との関連の授業であるのでマナー、態度、言葉使い等も指導する。
原則として遅刻、欠席、早退は認めないが、事情がある場合には可能な限り事前に相談すること。
欠席、遅刻の場合は原則として事前に保育実習指導室に連絡すること。

実習等で心配なことは必ず相談すること。

科目コード：13184 科目ナンバリング：PC31C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育実習指導I b(Nursery School Practicum Guidance I b)

担当者：飛田 隆、中島 美那子、清水 悦子、高野 暁子

基本情報

年次：カリキュラム 単位数：2 授業形式：実習

曜時：前期(木曜5限)、後期(木曜5限) 履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育 AL要素：07.発表
08.協同学修
11.討論
17.発問回答

授業の概要： 1.保育実習に必要な心構え・倫理観・基礎知識を習得する。
2.実習の手引きを熟読し、実習に向けての自己点検・準備をする。
3.保育実習体験を通して一人一人が学習課題を具体化・明確化する。
4.実習を通して学んだことを深める。
5.実習を通して気づいた課題を整理し次の実習に生かせるようにする。

キーワード： 保育実習、保育所、施設、指導案、子どもの遊び、児童福祉、社会的養護、虐待関連、障害児保育等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実習生としての心構えと責任を持つことができる。
保育士の仕事についての基礎知識を理解することができる。
子どもの発達について基礎的な知識を獲得することができる。
施設の役割について理解することができる。
障害についての基本的知識を習得できる。

評価方法： レポート、発表、実習事後のレポート、授業 **評価割合：** 50%
態度、出席率等

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 児童虐待等の子どもに関わる出来事についての基礎知識を学び理解することができる。
保育所の役割、子育て支援についても理解することができる。
保育所の環境、教材等についても理解することができる。

評価方法： レポート、発表、実習事後のレポート、授業 **評価割合：** 40%
態度、出席率等

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の発表、グループ討議の積極的な発言・意見。
実習事後の発表内容・振り返り等。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価とはしないが、実習園でのボランティア活動への参加が次の実習への学びにつながることを理解する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価とはしないが、レポートや実習事後の振り返り等の中で子どもの人権を侵害するような発言・記載等があった場合は反省を促す。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. 保育所・入所施設の理解
 2. 保育実習の意義(保育所・施設)
 3. 実習生心得
 4. 施設実習の意義と役割
 5. 施設実習の進め方
 6. 記録・日誌と保育計画
 7. 施設における保育士の役割と利用者の生活(学外講師)
 8. 施設実習反省・報告
 9. 保育所実習の意義
 10. 保育実習の具体的方法・保育計画・実習日誌
 11. 乳児保育
 12. 保育所における子どもの姿・保育士の仕事の理解
 13. 保育士の役割と実習生としての態度(学外講師)
 14. 教材研究等
 15. 総まとめ

使用テキスト：「保育実習の手引き」、「保育所保育指針」

予習・復習のポイントと 保育所保育指針の熟読、子どもの遊び、環境について事前に学んでおく。
参考文献・資料等： 障害児、虐待、子育て支援、紙芝居、手遊び、絵本等についても可能な限り学習しておく。

障がいのある 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談する
履修者への対応： こと。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： 可能な限り研究室で対応する。実習指導室でも適宜対応する。指導室を通じて担当教員に連絡も可能。

留意事項： 保育実習との関連の授業であるのでマナー、態度、言葉使い等も指導する。
原則として遅刻、欠席、早退は認めないが、事情がある場合には可能な限り事前に相談すること。
欠席、遅刻の場合は原則として事前に保育実習指導室に連絡すること。
実習等で心配なことは必ず相談すること。

科目コード：13185 科目ナンバリング：PC21C04J 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：初等教育実習Ⅲ(事前事後指導1単位を含む)(Elementary Education Practicum III (In
担当者：清水 悦子、飛田 隆

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：実習
曜時：前期(実習)、後期(実習) 履修可能学科・専攻：Pc
関連資格：教職 AL要素：01. 実地訓練
03. 実験・実技・体験

授業の概要： 幼稚園教諭になるためには、教育という活動が行われる幼稚園の場で、実践を通して学ぶ

ことが必要とされます。大学において学んだ幼児教育の理論や技術を総合的に実践し、自己のものの見方や考え方を振り返り、自己の課題を明らかにし、具体的に目指す教師像に向かって努力し続けることが大切です。そして、よい実習を行うためには、しっかりとした理念を持つこと、保育の技術を豊富に持つこと、子どもの状態に応じて多様な方法を考え出す柔軟性を持つことが必要です。

最初の実習として、大学附属認定こども園における観察実習を体験します。幼稚園生活の流れの中に身を置き、幼児とともに生活する中で、環境を通して行う幼稚園教育の理解を深めます。終了後の反省報告会を通して自分自身の課題を見つけ、その後の授業の中で解決策を見つけ、行動する方向への道筋をつけていきましょう。

また、さらなる実習(初等教育実習Ⅳ)に向けて数枚の指導案を作成し、教師としての援助のイメージをできるように模擬保育を通して相互に学びを深めます。その一助として、現場の教師に来ていただき、具体的な保育の展開を教示していただきます。

キーワード： 初等教育実習、幼稚園、子ども理解、体験、実践

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 観察実習を通して、幼稚園教育についての理解を深める。
保育を振り返るために重要となる実習日誌の書き方を習得する。

評価方法： 実習日誌、レポート、実習園からの評価表 等 **評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児教育の理論や技術を、実際の子どもの姿に結び付けて考えることができる。
よりよい幼稚園教諭になるための自己課題を説明できる。

評価方法： 実習日誌、レポート、実習園からの評価表 等 **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

実習園からの情報をもとに評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

実習園からの情報をもとに評価する。

評価割合： 10%

▼公正性

評価対象にしないが、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には厳重注意する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 《事前指導》

1. 教育実習の意義・目的と心得
 - (1) 教育実習の意義と目的
 - (2) 実習生の心得 実習生・社会人・職業人としての態度
2. 教育実習の内容
 - (1) 見学観察実習の目標と要点
 - (2) 参加実習・指導実習の目標と要点
 - (3) 教育実習日誌の目的と書き方
3. 教育実習の具体的方法(Ⅰ)
 - (1) 教材研究の仕方
 - (2) 実技の具体的方法

- (3) 具体的保育の展開
- 4. 教育実習の具体的方法(Ⅱ)
 - (1) 教材研究の仕方
 - (2) 実技の具体的方法
 - (3) 具体的保育の展開
- 5. 教育実習における観察の視点
 - (1) 環境構成
 - (2) クラス運営
 - (3) 心身の発達
- 6. 初等教育実習Ⅲ・事後指導
 - 報告反省会
 - 今後の課題の発見
- 7. 初等教育実習Ⅳに向けた心構え
 - 保育指導案の書き方
- 8. 初等教育実習Ⅳ・事後指導
 - 報告反省会
 - 今後の課題の発見

- 《初等教育実習Ⅲ》
 観察実習(大学附園で一週間実施)
- (1) 人的・物的環境等の観察
 - (2) 幼児理解と教育内容の理解
 - (3) 教師の役割の理解

※ 観察実習後、10日以内にレポート提出

使用テキスト: 「0～5歳児年齢別 実習の日記と指導案 完全サポート」新星出版社(2017年)
 初等教育実習Ⅲで使用する実習日記

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習日記の書き方について、1年次に学んだ内容を復習しておくこと。また、保育実習指導室や図書館にも実習日記の書き方に関する図書があるため、わからない部分は調べておくこと。

実習中は、観察した子どもたちの姿と大学での学びを結び付けて考えるように努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段: 事前事後講座のやむおえない欠席は、必ず保育実習指導室まで連絡すること。その他の相談事項等については、保育実習指導室の開室時に来訪のこと。
 実習中の遅刻および欠席については、①実習園②保育実習指導室に連絡すること。

留意事項: 特になし。

科目コード:13186 科目ナンバリング:PC22C04J 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 初等教育実習Ⅳ(Elementary Education Practicum Ⅳ)

担当者: 清水 悦子、飛田 隆

基本情報

年次:カリキュラム 単位数:3 授業形式:実習

曜時:2023年度 前期(実習)、2023年度 後期 履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 AL要素: 01. 実地訓練
 03. 実験・実技・体験

授業の概要： 幼稚園の教師になるためには、教育という活動が行われる幼稚園の場で、実践を通して学ぶことが必要とされます。大学において学んだ幼児教育の理論や技術を総合的に実践し、自己のものの見方や考え方を振り返り、自己の課題を明らかにし、具体的に目指す教師像に向かって努力し続けるということが大切です。そして、よい実習をするためには、しっかりとした理念を持つこと、保育の技術を豊富に持つこと、子どもの状態に応じて多様な方法を考え出す柔軟性を持つことが必要です。

初等教育実習Ⅲをふまえて実習協力幼稚園にて、観察実習、参加実習、指導実習を行います。

自身の体調管理を含め、十分な準備をして3週間の実習に臨みます。

キーワード： 初等教育実習、幼稚園、子ども理解、実技、体験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 観察実習を通して、幼稚園教育についての理解を深める。
保育を振り返るために重要となる実習日誌の書き方を習得する。
子どもの姿をとらえ、ねらいに添った指導案を書くことができる。

評価方法： 実習日誌、指導案、レポート、実習園からの
の評価表等 **評価割合：40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児教育の理論や技術を、実際の子どもの姿に結び付けて考えることができる。
よりよい幼稚園教諭になるための自己課題を説明できる。

評価方法： 実習日誌、指導案、レポート、実習園からの
評価表等 **評価割合：40%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習園からの情報をもとに評価する。

評価割合：10%

▼ 実践的ボランティア

実習園からの情報をもとに評価する。

評価割合：10%

▼ 公正性

評価対象にしないが、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には厳重注意する。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1. 大学附属幼稚園を含む実習協力園にて3週間の教育実習を行う。
2. 実習終了後、実習園へのお礼状の送付(3日以内)、大学への実習報告書の提出(10日以内)を行う。

使用テキスト： 初等教育実習Ⅲ・Ⅳで使用する実習日誌

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 初等教育実習Ⅲの経験を踏まえ、実習生としての心構えを再確認し、教材研究、保育指導案の作成を十分にしておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： 実習関連の相談事項等については、保育実習指導室の開室時に来訪のこと。
実習中の遅刻および欠席については、①実習園②保育実習指導室に連絡すること。

留意事項： 初等教育実習Ⅲとセットで履修すること。

科目コード：13186 科目ナンバリング：PC22C04J 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：初等教育実習Ⅳ(再履修者用)(Elementary Education Practicum Ⅳ)

担当者：清水悦子、飛田隆

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：01. 実地訓練

03. 実験・実技・体験

授業の概要： 幼稚園の教師になるためには、教育という活動が行われる幼稚園の場で、実践を通して学ぶことが必要とされます。大学において学んだ幼児教育の理論や技術を総合的に実践し、自己のものの見方や考え方を振り返り、自己の課題を明らかにし、具体的に目指す教師像に向かって努力し続けるということが大切です。そして、よい実習をするためには、しっかりとした理念を持つこと、保育の技術を豊富に持つこと、子どもの状態に応じて多様な方法を考え出す柔軟性を持つことが必要です。

初等教育実習Ⅲをふまえて実習協力幼稚園にて、観察実習、参加実習、指導実習を行います。

自身の体調管理を含め、十分な準備をして3週間の実習に臨みます。

キーワード： 初等教育実習、幼稚園、子ども理解、実技、体験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 観察実習を通して、幼稚園教育についての理解を深める。
保育を振り返るために重要となる実習日誌の書き方を習得する。
子どもの姿をとらえ、ねらいに添った指導案を書くことができる。

評価方法： 実習日誌、指導案、レポート、実習園からの評価表等 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児教育の理論や技術を、実際の子どもの姿に結び付けて考えることができる。
よりよい幼稚園教諭になるための自己課題を説明できる。

評価方法： 実習日誌、指導案、レポート、実習園からの評価表等 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

実習園からの情報をもとに評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

実習園からの情報をもとに評価する。

評価割合：10%

▼公正性

評価対象にしないが、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には嚴重注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1. 大学附属幼稚園を含む実習協力園にて3週間の教育実習を行う。
2. 実習終了後、実習園へのお礼状の送付(3日以内)、大学への実習報告書の提出(10日以内)を行う。

使用テキスト： 初等教育実習Ⅲ・Ⅳで使用する実習日誌

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 初等教育実習Ⅲの経験を踏まえ、実習生としての心構えを再確認し、教材研究、保育指導案の作成を十分にしておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： 実習関連の相談事項等については、保育実習指導室の開室時に来訪のこと。
実習中の遅刻および欠席については、①実習園②保育実習指導室に連絡すること。

留意事項： 初等教育実習Ⅲとセットで履修すること。

科目コード：13189 **科目ナンバリング：**PC30C17E **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：地域発達支援実践演習(Practical Seminar in Community-based Child Developmental
担当者：中島 美那子、菅野 ひろみ、照山 久美子

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**演習
曜時：金曜4限 **履修可能学科・専攻：**Pe Pc
関連資格：保育 **AL要素：**01.実地訓練
07.発表
11.討論
17.発問と回答

授業の概要： 本授業はおもに、近隣自治体の協力をいただきながら、少人数に分かれて保健センター等の母子保健の現場に赴きます。受講者は主体的に子どもや保護者にかかわり、支援を要する子どもや保護者とかかわりについて実践から学びます。
また、事業後のスタッフミーティングに参加することで発達支援に対する理解を深め、子どもそして保護者への支援のあり方について考えます。さらには、発達臨床の現場での実務経験をもつ担当教員それぞれの視点による解説も受けることができます。

キーワード： 発達支援、保護者支援、保育臨床、学外研修、乳幼児発達検査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 母子保健事業の取り組み、保育・教育施設との連携について理解し、知識として身につけている。
2. 母子保健事業に従事する専門職(保育士、保健師、心理士等)の職務について理解している。

評価方法： 訪問毎に提出するレポート、最終回での発表 **評価割合：**30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 支援を要する乳幼児とその保護者に対する理解を深め、自分ができ得る最善のかかわりについて考え、工夫し、表現することができる。

評価方法： 訪問毎に提出するレポート、最終回での発表 **評価割合：**60%

▼学修に主体的に取り組む態度

1. 研修先で出会う乳幼児や保護者に対して積極的にかかわることができる。

2. 事業の事前準備、後片付け等の環境整備に主体的に取り組むことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや最終発表の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

評価対象ではないが、外部での研修が主な授業内容となるため、乳幼児とその保護者とかかわるうえで失礼のないよう留意すること。身だしなみに関しては、保育実習や初等教育実習と同様にとらえること。

評価割合：評価対象ではないが、外部での研

授業計画： 少人数に分かれて、近隣自治体の保健センター等を訪問し、相談・支援について学ぶ。単に現場を経験するだけでなく、各事業での研修の後には授業内での発表とディスカッションを通した振り返りの時間を持つ。

【第1回】学内授業 一母子保健事業について知る(中島)

【第2回】学内授業 一授業における自己目標を定める(菅野)

【第3回】近隣自治体での研修 (菅野)

【第4回】近隣自治体での研修 (照山)

【第5回】近隣自治体での研修 (菅野)

【第6回】近隣自治体での研修 (照山)

【第7回】学内授業 一これまでの実践の振り返り(菅野)

【第8回】近隣自治体での研修(照山)

【第9回】近隣自治体での研修 (中島)

【第10回】近隣自治体での研修 (菅野)

【第11回】近隣自治体での研修 (照山)

【第12回】近隣自治体での研修 (菅野)

【第13回】近隣自治体での研修 (照山)

【第14回】学内授業 一これまでに参加した子育て支援事業について報告し、省察する1(中島)

【第15回】学内授業 一これまでに参加した子育て支援事業について報告し、省察する2(菅野)

使用テキスト： 授業で使用する資料は、印刷したものを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 母子保健の現場等での学修が中心となることから、事前学修としては、子どもの発達全般および発達障害、保護者の心理や子ども虐待とその対応等について知見を深めておくことをお勧めします。

事後学修としては、訪問毎に提出するレポートを通して、自己のかかわり等の振り返りを行ってください。

参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに担当教員(中島)が対応します。菅野先生、照山先生に連絡を取りたい場合には、学務部あるいは中島に相談してください。

留意事項： 原則として受講者は、「地域子育て支援実践演習」を履修していることが必要です。本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下となっています。

科目コード：13192

科目ナンバリング：PC11A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 音楽A a (Music A a)

担当者: 佐藤 真紀

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要: 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌を知ることを手始めに、発声の方法やピアノを弾く正しい姿勢や指の運び、打鍵の方法など弾き歌いの基礎を学びます。同時に楽典の学習も行い、理論との両立を図ります。

キーワード: 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・楽典

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲を知る
(2) ピアノや歌唱の基礎的奏法を習得し弾き歌いができるようになる
(3) 音符や休符、楽譜上の記号の意味を理解し、楽譜読解力を身に付ける

評価方法: 実技試験
筆記試験
課題への取り組み

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解くことができる
(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法: 実技試験
課題への取り組み

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(姿勢・運指・音楽の三要素)
- 2 春のうたと伴奏／五線譜と音名
- 3 春のうたと伴奏／変化記号
- 4 春のうたと伴奏／音の長さ(音符)
- 5 春のうたと伴奏／音の長さ(休符)
- 6 春のうたと伴奏／音の長さ(連符・タイとスラー)
- 7 春のうたと伴奏／問題演習(1)
- 8 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(拍子記号・種類)
- 9 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(強起・弱起)
- 10 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(シンコペーション)
- 11 夏のうたと伴奏／音程(長音程・短音程)
- 12 夏のうたと伴奏／音程(完全音程)
- 13 夏のうたと伴奏／音程(増・減音程)
- 14 夏のうたと伴奏／問題演習(2)
- 15 楽典と弾き歌いのまとめ

使用テキスト： <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス

<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等： この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授 業 時 間 外 の 連 絡 手 段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留 意 事 項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード：13192

科目ナンバリング：PC11A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽A b(Music A b)

担当者：佐藤 真紀

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要： 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌を知るところを手始めに、発声の方法やピアノを弾く正しい姿勢や指の運び、打鍵の方法など弾き歌いの基礎を学びます。同時に楽典の学習も行い、理論との両立を図ります。

キーワード： 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・楽典

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲を知る
(2) ピアノや歌唱の基礎的奏法を習得し弾き歌いができるようになる
(3) 音符や休符、楽譜上の記号の意味を理解し、楽譜読解力を身に付ける

評価方法： 実技試験
筆記試験
課題への取り組み

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解くことができる
(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法： 実技試験
課題への取り組み

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(姿勢・運指・音楽の三要素)
- 2 春のうたと伴奏／五線譜と音名
- 3 春のうたと伴奏／変化記号
- 4 春のうたと伴奏／音の長さ(音符)
- 5 春のうたと伴奏／音の長さ(休符)
- 6 春のうたと伴奏／音の長さ(連符・タイとスラー)
- 7 春のうたと伴奏／問題演習(1)
- 8 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(拍子記号・種類)
- 9 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(強起・弱起)
- 10 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(シンコペーション)
- 11 夏のうたと伴奏／音程(長音程・短音程)
- 12 夏のうたと伴奏／音程(完全音程)
- 13 夏のうたと伴奏／音程(増・減音程)

14 夏のうたと伴奏／問題演習(2)

15 楽典と弾き歌いのまとめ

使用テキスト： <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村
鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。
また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード：13192 科目ナンバリング：PC11A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽A c(Music A c)

担当者：佐藤 真紀

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要： 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌を知ることを手始めに、発声の方法やピアノを弾く正しい姿勢や指の運び、打鍵の方法など弾き歌いの基礎を学びます。同時に楽典の学習も行い、理論との両立を図ります。

キーワード： 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・楽典

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
- (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲を知る
 - (2) ピアノや歌唱の基礎的奏法を習得し弾き歌いができるようになる
 - (3) 音符や休符、楽譜上の記号の意味を理解し、楽譜読解力を身に付ける

評価方法： 実技試験
筆記試験
課題への取り組み

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解くことができる
(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法: 実技試験

評価割合: 20%

課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(姿勢・運指・音楽の三要素)
- 2 春のうたと伴奏／五線譜と音名
- 3 春のうたと伴奏／変化記号
- 4 春のうたと伴奏／音の長さ(音符)
- 5 春のうたと伴奏／音の長さ(休符)
- 6 春のうたと伴奏／音の長さ(連符・タイとスラー)
- 7 春のうたと伴奏／問題演習(1)
- 8 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(拍子記号・種類)
- 9 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(強起・弱起)
- 10 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(シンコペーション)
- 11 夏のうたと伴奏／音程(長音程・短音程)
- 12 夏のうたと伴奏／音程(完全音程)
- 13 夏のうたと伴奏／音程(増・減音程)
- 14 夏のうたと伴奏／問題演習(2)
- 15 楽典と弾き歌いのまとめ

使用テキスト: <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード:13192 科目ナンバリング:PC11A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽A d(Music A d)

担当者:佐藤 真紀

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要: 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌を知ることを手始めに、発声の方法やピアノを弾く正しい姿勢や指の運び、打鍵の方法など弾き歌いの基礎を学びます。同時に楽典の学習も行い、理論との両立を図ります。

キーワード: 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・楽典

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** (1)幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲を知る
(2)ピアノや歌唱の基礎的奏法を習得し弾き歌いができるようになる
(3)音符や休符、楽譜上の記号の意味を理解し、楽譜読解力を身に付ける

評価方法: 実技試験

評価割合: 80%

筆記試験

課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** (1)幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解くことができる
(2)授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法: 実技試験

評価割合: 20%

課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(姿勢・運指・音楽の三要素)
- 2 春のうたと伴奏／五線譜と音名
- 3 春のうたと伴奏／変化記号
- 4 春のうたと伴奏／音の長さ(音符)
- 5 春のうたと伴奏／音の長さ(休符)
- 6 春のうたと伴奏／音の長さ(連符・タイとスラー)
- 7 春のうたと伴奏／問題演習(1)
- 8 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(拍子記号・種類)
- 9 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(強起・弱起)
- 10 夏のうたと伴奏／リズムと拍子(シンコペーション)
- 11 夏のうたと伴奏／音程(長音程・短音程)
- 12 夏のうたと伴奏／音程(完全音程)
- 13 夏のうたと伴奏／音程(増・減音程)
- 14 夏のうたと伴奏／問題演習(2)
- 15 楽典と弾き歌いのまとめ

使用テキスト： <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめての一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等： この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授 業 時 間 外 の 連 絡 手 段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留 意 事 項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード：13193

科目ナンバリング：PC12A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽B a(Music B a)

担当者：佐藤 真紀

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要： 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌に慣れ親みながら、楽譜や歌詞内容に適した演奏を思考し、表情豊かなピアノ弾き歌いができるようにします。また楽典の知識を活かした伴奏アレンジ、弾き歌いをしながらの歌詞リードや指示だしに取り組み、応用的な技能も身に付けていきます。

キーワード： 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・豊かな表現・応用的技能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲に慣れ親しむ
(2) 歌詞内容に適した表現を支援するピアノや歌唱の基礎的スキルを習得し、表情豊かに演奏できるようになる
(3) 楽典への理解を深め、楽曲の構造を把握できるようになる

評価方法： 実技試験

評価割合： 80%

筆記試験

課題への取り組み

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解き、適切な表現を工夫することができる
(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法： 実技試験

評価割合： 20%

課題への取り組み

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(保育者としての心構え)
- 2 秋のうたと伴奏／音階と調(長音階)
- 3 秋のうたと伴奏／音階と調(短音階)

- 4 秋のうたと伴奏／音階と調(平行調)
 - 5 秋のうたと伴奏／音階と調(移調)
 - 6 秋のうたと伴奏／音階と調(音名と階名)
 - 7 秋のうたと伴奏／問題演習(1)
 - 8 冬のうたと伴奏／和音(三和音)
 - 9 冬のうたと伴奏／和音(四和音)
 - 10 冬のうたと伴奏／コードネーム(三和音)
 - 11 冬のうたと伴奏／コードネーム(四和音)
 - 12 冬のうたと伴奏／速さ、強さの表示法
 - 13 冬のうたと伴奏／曲想・奏法の表示法
 - 14 冬のうたと伴奏／問題演習(2)
 - 15 楽典と弾き歌いのまとめ
- 定期試験

使用テキスト： <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
 <楽典のテキスト>
 『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード：13193 **科目ナンバリング：**PC12A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：音楽B b(Music B b)

担当者：佐藤 真紀

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要： 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌に慣れ親みながら、楽譜や歌詞内容に適した演奏を思考し、表情豊かなピアノ弾き歌いができるようにします。また楽典の知識を活かした伴奏アレンジ、弾き歌いをしながらの歌詞リードや指示だしに取り組み、応用的な技能も身に付けていきます。

キーワード： 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・豊かな表現・応用的技能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲に慣れ親しむ
(2) 歌詞内容に適した表現を支援するピアノや歌唱の基礎的技能を習得し、表情豊かに演奏できるようになる
(3) 楽典への理解を深め、楽曲の構造を把握できるようになる

評価方法: 実技試験

評価割合: 80%

筆記試験

課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解き、適切な表現を工夫することができる
(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法: 実技試験

評価割合: 20%

課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(保育者としての心構え)
- 2 秋のうたと伴奏／音階と調(長音階)
- 3 秋のうたと伴奏／音階と調(短音階)
- 4 秋のうたと伴奏／音階と調(平行調)
- 5 秋のうたと伴奏／音階と調(移調)
- 6 秋のうたと伴奏／音階と調(音名と階名)
- 7 秋のうたと伴奏／問題演習(1)
- 8 冬のうたと伴奏／和音(三和音)
- 9 冬のうたと伴奏／和音(四和音)
- 10 冬のうたと伴奏／コードネーム(三和音)
- 11 冬のうたと伴奏／コードネーム(四和音)
- 12 冬のうたと伴奏／速さ、強さの表示法
- 13 冬のうたと伴奏／曲想・奏法の表示法
- 14 冬のうたと伴奏／問題演習(2)
- 15 楽典と弾き歌いのまとめ
定期試験

使用テキスト: <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめての一步』木村
鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。
また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード:13193 科目ナンバリング:PC12A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽B c(Music B c)

担当者:佐藤 真紀

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要: 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌に慣れ親みながら、楽譜や歌詞内容に適した演奏を思考し、表情豊かなピアノ弾き歌いができるようにします。また楽典の知識を活かした伴奏アレンジ、弾き歌いをしながらの歌詞リードや指示だしに取り組み、応用的な技能も身に付けていきます。

キーワード: 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・豊かな表現・応用的技能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲に慣れ親しむ
(2) 歌詞内容に適した表現を支援するピアノや歌唱の基礎的スキルを習得し、表情豊かに演奏できるようになる
(3) 楽典への理解を深め、楽曲の構造を把握できるようになる

評価方法: 実技試験

評価割合: 80%

筆記試験

課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解き、適切な表現を工

夫することができる

(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法: 実技試験

評価割合: 20%

課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(保育者としての心構え)
 - 2 秋のうたと伴奏／音階と調(長音階)
 - 3 秋のうたと伴奏／音階と調(短音階)
 - 4 秋のうたと伴奏／音階と調(平行調)
 - 5 秋のうたと伴奏／音階と調(移調)
 - 6 秋のうたと伴奏／音階と調(音名と階名)
 - 7 秋のうたと伴奏／問題演習(1)
 - 8 冬のうたと伴奏／和音(三和音)
 - 9 冬のうたと伴奏／和音(四和音)
 - 10 冬のうたと伴奏／コードネーム(三和音)
 - 11 冬のうたと伴奏／コードネーム(四和音)
 - 12 冬のうたと伴奏／速さ、強さの表示法
 - 13 冬のうたと伴奏／曲想・奏法の表示法
 - 14 冬のうたと伴奏／問題演習(2)
 - 15 楽典と弾き歌いのまとめ
- 定期試験

使用テキスト: <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめての一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。
また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード:13193 科目ナンバリング:PC12A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽B d(Music B d)

担当者:佐藤 真紀

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要: 保育者に必要な音楽実技の基礎的知識及び技能の習得を目指します。幼稚園や保育園で日々歌われるさまざまな子どもの歌に慣れ親みながら、楽譜や歌詞内容に適した演奏を思考し、表情豊かなピアノ弾き歌いができるようにします。また楽典の知識を活かした伴奏アレンジ、弾き歌いをしながらの歌詞リードや指示だしに取り組み、応用的な技能も身に付けていきます。

キーワード: 子どもの歌・ピアノ弾き歌い・豊かな表現・応用的技能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲に慣れ親しむ
(2) 歌詞内容に適した表現を支援するピアノや歌唱の基礎的スキルを習得し、表情豊かに演奏できるようになる
(3) 楽典への理解を深め、楽曲の構造を把握できるようになる

評価方法: 実技試験

評価割合: 80%

筆記試験

課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** (1) 幼稚園や保育園の音楽活動で用いられる楽曲の歌詞内容を読み解き、適切な表現を工夫することができる
(2) 授業での学びを通して、効果的な練習方法を自分なりに思考し、発表時の音楽表現に活かすことができる

評価方法: 実技試験

評価割合: 20%

課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 1 オリエンテーション／弾き歌いの導入(保育者としての心構え)
- 2 秋のうたと伴奏／音階と調(長音階)
- 3 秋のうたと伴奏／音階と調(短音階)
- 4 秋のうたと伴奏／音階と調(平行調)
- 5 秋のうたと伴奏／音階と調(移調)
- 6 秋のうたと伴奏／音階と調(音名と階名)
- 7 秋のうたと伴奏／問題演習(1)
- 8 冬のうたと伴奏／和音(三和音)
- 9 冬のうたと伴奏／和音(四和音)
- 10 冬のうたと伴奏／コードネーム(三和音)
- 11 冬のうたと伴奏／コードネーム(四和音)
- 12 冬のうたと伴奏／速さ、強さの表示法
- 13 冬のうたと伴奏／曲想・奏法の表示法
- 14 冬のうたと伴奏／問題演習(2)
- 15 楽典と弾き歌いのまとめ
定期試験

使用テキスト： <弾き歌いのテキスト>

『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス

<楽典のテキスト>

『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめての一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業では、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱やピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習が特に必要となります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。また人数の都合上、他学科の学生の受け入れを不可とすることがある。

科目コード：13194

科目ナンバリング：PC11A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：美術A a(Fine Arts A a)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要： 描画素材、色紙を使用して作品制作を行う。貼り絵制作における制作方法、構図を理解する。表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。色彩理論、絵画表現を理解する。

キーワード： ピクトグラム、絵文字、マイキャラクター、紋切り、壁面

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 児童の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 児童が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画： 第1回 授業内容、授業計画、評価基準を解説
第2回 造形表現の発達段階
第3回 ピクトグラム(絵文字)による表現
第4回 イメージ(心象)による表現
第5回 マイキャラクターの制作
第6回 紋切り表現の理解
第8回 紋切りによる貼り絵
第9回 切り紙、折り紙の壁面1
第10回 切り紙、折り紙の壁面2 花の折り紙
第11回 切り紙、折り紙の壁面3 動物の折り紙
第12回 切り紙、折り紙の壁面4 動物の折り紙
第13回 切り紙、折り紙の壁面5 季節感の表現
第14回 切り紙、折り紙の壁面6 構成要素
第15回 切り紙、折り紙の壁面7 構図理解

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。
考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応： 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 電話連絡して下さい、つながらない場合は電話番号にメールをください。

留意事項： クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。

科目コード：13194 **科目ナンバリング：**PC11A02E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：美術A b(Fine Arts A b)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：教職 保育

AL要素： 03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要： 描画素材、色紙を使用して作品制作を行う。貼り絵制作における制作方法、構図を理解する。表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。色彩理論、絵画表現を理解する。

キーワード： ピクトグラム、絵文字、マイキャラクター、紋切り、壁面

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 児童の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 児童が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画： 第1回 授業内容、授業計画、評価基準を解説
第2回 造形表現の発達段階
第3回 ピクトグラム(絵文字)による表現
第4回 イメージ(心象)による表現
第5回 マイキャラクターの制作
第6回 紋切り表現の理解
第8回 紋切りによる貼り絵
第9回 切り紙、折り紙の壁面1
第10回 切り紙、折り紙の壁面2 花の折り紙
第11回 切り紙、折り紙の壁面3 動物の折り紙
第12回 切り紙、折り紙の壁面4 動物の折り紙
第13回 切り紙、折り紙の壁面5 季節感の表現
第14回 切り紙、折り紙の壁面6 構成要素
第15回 切り紙、折り紙の壁面7 構図理解

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。
考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応： 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 電話連絡して下さい、つながらない場合は電話番号にメールをください。

留意事項： クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。

科目コード：13194 科目ナンバリング：PC11A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：美術A c(Fine Arts A c)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要： 描画素材、色紙を使用して作品制作を行う。貼り絵制作における制作方法、構図を理解する。表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。色彩理論、絵画表現を理解する。

キーワード： ピクトグラム、絵文字、マイキャラクター、紋切り、壁面

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 児童の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 児童が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：直接的な評価対象とはしない。ただ

- 授業計画：
- 第1回 授業内容、授業計画、評価基準を解説
 - 第2回 造形表現の発達段階
 - 第3回 ピクトグラム(絵文字)による表現
 - 第4回 イメージ(心象)による表現
 - 第5回 マイキャラクターの制作
 - 第6回 紋切り表現の理解
 - 第8回 紋切りによる貼り絵
 - 第9回 切り紙、折り紙の壁面1
 - 第10回 切り紙、折り紙の壁面2 花の折り紙
 - 第11回 切り紙、折り紙の壁面3 動物の折り紙
 - 第12回 切り紙、折り紙の壁面4 動物の折り紙
 - 第13回 切り紙、折り紙の壁面5 季節感の表現
 - 第14回 切り紙、折り紙の壁面6 構成要素
 - 第15回 切り紙、折り紙の壁面7 構図理解

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。

参考文献・資料等： 考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 電話連絡して下さい、つながらない場合は電話番号にメールをください。

留意事項： クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。

科目コード：13195

科目ナンバリング：PC12A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：美術B a(Fine Arts B a)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要： 絵の具、紙を使用して色彩構成を行う。物語を題材にした絵画、ステンシル(孔版)の制作を行う。
表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。
色彩理論、絵画表現を理解する。

キーワード： クレヨンスクラッチ、色立体、ステンシル(孔版)、バチック表現

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画： 第1回 クレヨンスクラッチの技法理解
第2回 クレヨンスクラッチの特質
第3回 クレヨンスクラッチの制作
第4回 配色研究1 12色相環
第5回 配色研究2 ファッションと色彩
第6回 配色研究3 配色パターン
第7回 配色研究4 図柄の配色
第8回 物語による絵画1 物語の背景、絵画技法
第9回 物語による絵画2 バチック表現
第10回 ステンシル(孔版)1 表現技法解説
第11回 ステンシル(孔版)2 切り抜き
第12回 ステンシル(孔版)3 配色
第13回 ステンシル(孔版)4 構図研究
第14回 ステンシル(孔版)5 連続性の表現
第15回 ステンシル(孔版)6 組み合わせ

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。
考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応: 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項: クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。

科目コード:13195 科目ナンバリング:PC12A02E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):美術B b(Fine Arts B b)

担当者: 佃 彰一郎

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要: 絵の具、紙を使用して色彩構成を行う。物語を題材にした絵画、ステンシル(孔版)の制作を行う。
表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。
色彩理論、絵画表現を理解する。

キーワード: クレオンスクラッチ、色立体、ステンシル(孔版)、パチック表現

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法: 提出作品

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法: 提出作品

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画: 第1回 クレオンスクラッチの技法理解
第2回 クレオンスクラッチの特質

- 第3回 クレヨンスクラッチの制作
- 第4回 配色研究1 12色相環
- 第5回 配色研究2 ファッションと色彩
- 第6回 配色研究3 配色パターン
- 第7回 配色研究4 図柄の配色
- 第8回 物語による絵画1 物語の背景、絵画技法
- 第9回 物語による絵画2 バチック表現
- 第10回 ステンシル(孔版)1 表現技法解説
- 第11回 ステンシル(孔版)2 切り抜き
- 第12回 ステンシル(孔版)3 配色
- 第13回 ステンシル(孔版)4 構図研究
- 第14回 ステンシル(孔版)5 連続性の表現
- 第15回 ステンシル(孔版)6 組み合わせ

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。
 考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応: 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項: クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。

科目コード:13195 科目ナンバリング:PC12A02E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):美術B c(Fine Arts B c)

担当者: 佃 彰一郎

基本情報

年次:1 単位数:1 授業形式:演習

曜時:水曜1限 履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育 AL要素: 03 実験・実技・体験
 17 発問と回答

授業の概要: 絵の具、紙を使用して色彩構成を行う。物語を題材にした絵画、ステンシル(孔版)の制作を行う。
 表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。
 色彩理論、絵画表現を理解する。

キーワード: クレヨンスクラッチ、色立体、ステンシル(孔版)、バチック表現

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法: 提出作品 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法: 提出作品 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：直接的な評価対象とはしない。ただ

- 授業計画：
- 第1回 クレヨンスクラッチの技法理解
 - 第2回 クレヨンスクラッチの特質
 - 第3回 クレヨンスクラッチの制作
 - 第4回 配色研究1 12色相環
 - 第5回 配色研究2 ファッションと色彩
 - 第6回 配色研究3 配色パターン
 - 第7回 配色研究4 図柄の配色
 - 第8回 物語による絵画1 物語の背景、絵画技法
 - 第9回 物語による絵画2 バチック表現
 - 第10回 ステンシル(孔版)1 表現技法解説
 - 第11回 ステンシル(孔版)2 切り抜き
 - 第12回 ステンシル(孔版)3 配色
 - 第13回 ステンシル(孔版)4 構図研究
 - 第14回 ステンシル(孔版)5 連続性の表現
 - 第15回 ステンシル(孔版)6 組み合わせ

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。

参考文献・資料等： 考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項： クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。

科目コード：13196

科目ナンバリング：PC31A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 労作体験I a(Labor Experience I a)

担当者： 穂積 訓、西川 綾子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻： PC

関連資格：**AL要素：** 03.実験・実技・体験
08.協同学習
09.実地調査
10.資料調査課題**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして春から初夏にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード： 園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用**学位授与方針との関係****▼知識・技能**

到達目標： 授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法： レポート等の提出物
学期末試験

評価割合： 60%**▼思考力・判断力・表現力**

到達目標： 授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法： レポート等の提出物

評価割合： 40%**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が試験やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合： 0%**▼その他**

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 はじめに：身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
 - 2 生活と植物：ハーブ類の種まきと株分け(西川)
 - 3 植物の栽培(春)1：トウモロコシの栽培(穂積)
 - 4 植物の栽培(春)2：ハーブの移植(西川)
 - 5 植物の栽培(春)3：サトイモ・ラッカセイの栽培(穂積)
 - 6 植物の栽培(春)4：ミントの挿し木と観察(西川)
 - 7 植物の栽培(春)5：畑の整備(穂積)
 - 8 植物の栽培(春)6：ハーブの鉢上げ(西川)
 - 9 自然の観察：動物の行動(穂積)
 - 10 植物の栽培(夏)1：ハーブガーデンをつくる(西川)
 - 11 植物の収穫(夏)2：ジャガイモの収穫(穂積)
 - 12 植物の収穫(夏)3：プランターと畑に植える(西川)
 - 13 植物の収穫(夏)4：トウモロコシの収穫(穂積)
 - 14 植物の収穫(夏)5：収穫方法、花束作り(西川)
 - 15 まとめ(穂積)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節によって変更されることがある。そのため授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード：13196 科目ナンバリング：PC31A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 労作体験I b(Labor Experience I b)

担当者： 穂積 訓、西川 綾子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験
08.協同学習
09.実地調査
10.資料調査課題

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして春から初夏にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、

自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード：園芸・農業体験，幼児・児童と自然，生活におけるハーブ，植物の観察と活用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法：レポート等の提出物
学期末試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法：レポート等の提出物

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が試験やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1 はじめに:身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
 - 2 生活と植物:ハーブ類の種まきと株分け(西川)
 - 3 植物の栽培(春)1:トウモロコシの栽培(穂積)
 - 4 植物の栽培(春)2:ハーブの移植(西川)
 - 5 植物の栽培(春)3:サトイモ・ラッカセイの栽培(穂積)
 - 6 植物の栽培(春)4:ミントの挿し木と観察(西川)
 - 7 植物の栽培(春)5:畑の整備(穂積)
 - 8 植物の栽培(春)6:ハーブの鉢上げ(西川)
 - 9 自然の観察:動物の行動(穂積)
 - 10 植物の栽培(夏)1:ハーブガーデンをつくる(西川)
 - 11 植物の収穫(夏)2:ジャガイモの収穫(穂積)
 - 12 植物の収穫(夏)3:プランターと畑に植える(西川)
 - 13 植物の収穫(夏)4:トウモロコシの収穫(穂積)
 - 14 植物の収穫(夏)5:収穫方法、花束作り(西川)
 - 15 まとめ(穂積)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節によって変更されることがある。そのため授業後に関連事項を調べなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード：13196 **科目ナンバリング：PC31A02E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： 労作体験I c(Labor Experience I c)

担当者： 穂積 訓、西川 綾子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 03.実験・実技・体験
08.協同学習
09.実地調査
10.資料調査課題

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして春から初夏にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード： 園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法： レポート等の提出物
学期末試験

評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法: レポート等の提出物

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が試験やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:
- 1 はじめに: 身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
 - 2 生活と植物: ハーブ類の種まきと株分け(西川)
 - 3 植物の栽培(春)1: トウモロコシの栽培(穂積)
 - 4 植物の栽培(春)2: ハーブの移植(西川)
 - 5 植物の栽培(春)3: サイモ・ラッカセイの栽培(穂積)
 - 6 植物の栽培(春)4: ミントの挿し木と観察(西川)
 - 7 植物の栽培(春)5: 畑の整備(穂積)
 - 8 植物の栽培(春)6: ハーブの鉢上げ(西川)
 - 9 自然の観察: 動物の行動(穂積)
 - 10 植物の栽培(夏)1: ハーブガーデンをつくる(西川)
 - 11 植物の収穫(夏)2: ジャガイモの収穫(穂積)
 - 12 植物の収穫(夏)3: プランターと畑に植える(西川)
 - 13 植物の収穫(夏)4: トウモロコシの収穫(穂積)
 - 14 植物の収穫(夏)5: 収穫方法、花束作り(西川)
 - 15 まとめ(穂積)

使用テキスト: 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業内容は天候や季節によって変更されることがある。そのため授業後に関連事項を調べるとなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項: 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード: 13197

科目ナンバリング: PC32A02E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 劳作体験Ⅱ a(Labor ExperienceⅡ a)

担当者: 穂積 訓、西川 綾子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格：**AL要素：** 03.実験・実技・体験
08.協同学習
09.実地調査
10.資料調査課題**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして秋から冬にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード： 園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用**学位授与方針との関係****▼知識・技能****到達目標：** 授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。**評価方法：** レポート等の提出物
学期末試験**評価割合：** 60%**▼思考力・判断力・表現力****到達目標：** 授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。**評価方法：** レポート等の提出物**評価割合：** 40%**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が試験やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合： 0%**▼その他**

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 生活と植物：秋の種まき(薬膳)(西川)
 - 2 生活と植物：身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
 - 3 植物の栽培(秋)1：挿し木(トロピカルハーブ)(西川)
 - 4 植物の栽培(秋)2：カブの栽培(穂積)
 - 5 植物の栽培(秋)3：移植, 鉢上げ(江戸時代のハーブ1)(西川)
 - 6 植物の栽培(秋)4：ラッカセイの収穫(穂積)
 - 7 秋の栽培：収穫と花束作り(江戸時代のハーブ2)(西川)
 - 8 秋の栽培：サトイモの収穫(穂積)
 - 9 植物の栽培(冬)1：収穫(カレーのスパイス)(西川)
 - 10 植物の観察1：樹木検索とドングリ(穂積)
 - 11 植物の栽培(冬)2：霜よけ・冬の準備(西川)
 - 12 植物の活用：紙作り(穂積)
 - 13 植物の活用：種の選別、ハーブティー(西川)
 - 14 植物の観察2：樹木検索と翼果(穂積)
 - 15 まとめ：種の選別(西川)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節によって変更されることがある。そのため授業後に関連事項を調べなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴, 髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード：13197 科目ナンバリング：PC32A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 労作体験Ⅱ b(Labor ExperienceⅡ b)

担当者： 穂積 訓、西川 綾子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験
08.協同学習
09.実地調査
10.資料調査課題

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして秋から冬にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について

て考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード：園芸・農業体験，幼児・児童と自然，生活におけるハーブ，植物の観察と活用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法：レポート等の提出物
学期末試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法：レポート等の提出物

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が試験やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1 生活と植物:秋の種まき(薬膳)(西川)
 - 2 生活と植物:身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
 - 3 植物の栽培(秋)1:挿し木(トロピカルハーブ)(西川)
 - 4 植物の栽培(秋)2:カブの栽培(穂積)
 - 5 植物の栽培(秋)3:移植,鉢上げ(江戸時代のハーブ1)(西川)
 - 6 植物の栽培(秋)4:ラッカセイの収穫(穂積)
 - 7 秋の栽培:収穫と花束作り(江戸時代のハーブ2)(西川)
 - 8 秋の栽培:サトイモの収穫(穂積)
 - 9 植物の栽培(冬)1:収穫(カレーのスパイス)(西川)
 - 10 植物の観察1:樹木検索とドングリ(穂積)
 - 11 植物の栽培(冬)2:霜よけ・冬の準備(西川)
 - 12 植物の活用:紙作り(穂積)
 - 13 植物の活用:種の選別、ハーブティー(西川)
 - 14 植物の観察2:樹木検索と翼果(穂積)
 - 15 まとめ:種の選別(西川)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節によって変更されることがある。そのため授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード：13197 **科目ナンバリング：PC32A02E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：労作体験Ⅱ c(Labor ExperienceⅡ c)

担当者：穂積 訓、西川 綾子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素： 03.実験・実技・体験
08.協同学習
09.実地調査
10.資料調査課題

授業の概要： 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして秋から冬にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード： 園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法： レポート等の提出物
学期末試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法： レポート等の提出物

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等が試験やレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 生活と植物：秋の種まき(葉膳)(西川)
 - 2 生活と植物：身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
 - 3 植物の栽培(秋)1：挿し木(トロピカルハーブ)(西川)
 - 4 植物の栽培(秋)2：カブの栽培(穂積)
 - 5 植物の栽培(秋)3：移植、鉢上げ(江戸時代のハーブ1)(西川)
 - 6 植物の栽培(秋)4：ラッカセイの収穫(穂積)
 - 7 秋の栽培：収穫と花束作り(江戸時代のハーブ2)(西川)
 - 8 秋の栽培：サトイモの収穫(穂積)
 - 9 植物の栽培(冬)1：収穫(カレーのスパイス)(西川)
 - 10 植物の観察1：樹木検索とドングリ(穂積)
 - 11 植物の栽培(冬)2：霜よけ・冬の準備(西川)
 - 12 植物の活用：紙作り(穂積)
 - 13 植物の活用：種の選別、ハーブティー(西川)
 - 14 植物の観察2：樹木検索と翼果(穂積)
 - 15 まとめ：種の選別(西川)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節によって変更されることがある。そのため授業後に関連事項を調べなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード：13198

科目ナンバリング：PC21A02J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：幼児体育A a(Preschool Physical Education A a)

担当者：木村 元子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：実技

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実験・実技・体験

授業の概要：【特例期間中の授業形態】 課題研究型

幼児の運動あそびは、子どもの「あそび」が本来持っている、自発的・積極的・創造的で自由な活動を基本に、調和的な健康づくりを目指すものです。この授業では、上記のことを理解し、豊かな運動あそびを展開していくために、どのように指導していけばよいのかを、講義と実技を通して、段階的・系統的に学んでいきます。

幼児の運動あそびを指導する上で正しく認識しておきたい基礎的理論の学習を進め、さらにその展開方法について具体的・実的に学んでいきます。

キーワード： 幼児期の運動あそび 幼児期のからだの発達 幼児期の心の発達 動機づけ 運動の環境と安全 運動指導 運動に関する現代的課題

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標： 幼児に対して体育的な指導を行う際に必要な理論を理解・習得することができる。

評価方法： 期末試験 **評価割合：** 40%

各回の課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児に対して体育的な指導を行うために保育士が考慮すべき項目についての考察を深めながら学修を進めていくことで、思考力・判断力を向上させることができる。

評価方法： 期末試験 **評価割合：** 40%

各回の課題

▼ 学修に主体的に取り組む態度

学修する内容、目的、手順について集中して学修し、主体的に理解に努めようとしているかを評価する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容および実技における学修内容の深みに反映されていると認められる場合には、上記の項目「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度に著しく公平性を欠く言動があった場合は減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. オリエンテーション
2. 幼児体育をどうとらえるか
3. 幼児の心と体の発達と運動あそび
4. 固定施設あそび領域の考え方とその展開

5. 固定施設あそび領域の指導法
6. マットあそび領域の考え方とその展開
7. マットあそび領域の指導法
8. 跳び箱あそび領域の考え方とその展開
9. 跳び箱あそび領域の指導法
10. 鉄棒あそび領域の考え方とその展開
11. 鉄棒あそび領域の指導法
12. かけっこあそび領域の考え方とその展開
13. かけっこあそび領域の指導法
14. Gボールあそびの考え方とその展開、指導法
15. 水あそび領域の考え方と指導の要点
前期定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付された資料について復習すると共に、関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。参考文献として以下を紹介する。
『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著, 2018, 萌文書林, 2000円

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 非常勤講師のため、授業時間外は学内にはおりませんので、学務部、または北体育館の体育事務室に問い合わせして下さい。

留意事項：

1. 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。
2. 運動に適した室内用シューズおよび運動着を着用すること。
3. 安全管理のため、更衣なしでの受講や裸足での受講は認めない。
4. 自分自身や他の受講生を傷つけないためにも、アクセサリ類は身に付けないこと。

科目コード：13198 **科目ナンバリング：**PC21A02J **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児体育A b(Preschool Physical Education A b)

担当者： 木村 元子

基本情報

年次： 2	単位数： 1	授業形式： 実技
曜時： 木曜4限	履修可能学科・専攻： Pc	
関連資格： 教職 保育	AL要素： 03 実験・実技・体験 08 協同学習	

授業の概要：【特例期間中の授業形態】 課題研究型

幼児の運動あそびは、子どもの「あそび」が本来持っている、自発的・積極的・創造的で自由な活動を基本に、調和的な健康づくりを目指すものです。この授業では、上記のことを理解し、豊かな運動あそびを展開していくために、どのように指導していけばよいのかを、講義と実技を通して、段階的・系統的に学んでいきます。

幼児の運動あそびを指導する上で正しく認識しておきたい基礎的理論の学習を進め、さらにその展開方法について具体的・実的に学んでいきます。

キーワード： 幼児期の運動あそび 幼児期のからだの発達 幼児期の心の発達 動機づけ 運動の環境と安全 運動指導 運動に関する現代的課題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 幼児に対して体育的な指導を行う際に必要な理論を理解・習得することができる。

評価方法: 期末
試験

評価割合: 40%

各回の課題

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児に対して体育的な指導を行うために保育士が考慮すべき項目についての考察を深めながら学修を進めていくことで、思考力・判断力を向上させることができる。

評価方法: 期末試験

評価割合: 40%

各回の課題

▼学修に主体的に取り組む態度

学修する内容、目的、手順について集中して学修し、主体的に理解に努めようとしているかを評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容および実技における学修内容の深みに反映されていると認められる場合には、上記の項目「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度に著しく公平性を欠く言動があった場合は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション
 2. 幼児体育をどうとらえるか
 3. 幼児の心と体の発達と運動あそび
 4. 固定施設あそび領域の考え方とその展開
 5. 固定施設あそび領域の指導法
 6. マットあそび領域の考え方とその展開
 7. マットあそび領域の指導法
 8. 跳び箱あそび領域の考え方とその展開
 9. 跳び箱あそび領域の指導法
 10. 鉄棒あそび領域の考え方とその展開
 11. 鉄棒あそび領域の指導法
 12. かけっこあそび領域の考え方とその展開
 13. かけっこあそび領域の指導法
 14. Gボールあそびの考え方とその展開、指導法
 15. 水あそび領域の考え方と指導の要点

前期定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配付された資料について復習すると共に、関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。参考文献として以下を紹介する。

『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著, 2018, 萌文書林, 2000円

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 非常勤講師のため、授業時間外は学内にはおりませんので、学務部、または北体育館の体育事務室に問い合わせして下さい。

留意事項: 1. 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。
2. 運動に適した室内用シューズおよび運動着を着用すること。
3. 安全管理のため、更衣なしでの受講や裸足での受講は認めない。
4. 自分自身や他の受講生を傷つけないためにも、アクセサリ類は身に付けないこと。

科目コード:13199 科目ナンバリング:PC22A02J 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児体育B a(Preschool Physical Education B a)

担当者: 木村 元子

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:実技

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 02 模擬実践

03 実験・実技・体験

07 発表

08 協同学習

授業の概要: 幼児の運動あそびは、子どもの「あそび」が本来持っている、自発的・積極的・創造的で自由な活動を基本に、調和的な健康づくりを目指すものです。この授業では、上記のことを理解し、豊かな運動あそびを展開していくために、どのように指導していけばよいのかを、講義と実技を通して、段階的・系統的に学んでいきます。

幼児の運動あそびを指導する上で正しく認識しておきたい基礎的理論の学習を進め、さらに指導の展開方法について、模擬指導を通して、具体的・实际的に学んでいきます。

キーワード: 幼児の運動あそび 幼児期の体の発達 幼児期の心の発達 動機づけ 運動の環境と安全 運動指導 運動に関する現代的課題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 幼児に対して体育的な指導を行う際に必要な理論を理解・取得することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

学修振り返りシート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児に対して体育的な指導を行うための教材の活用および具体的な展開に必要な運動技能・思考力・判断力を向上させ、実際に模擬指導として発表することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

実技試験

学修振り返りシート

▼学修に主体的に取り組む態度

講義に関しては、学修する内容、目的、手順について集中して学修し、主体的に理解に努めようとしているかを評価する。

実技に関しては、積極的に取り組み、他の受講生ともコミュニケーションをとって、自身のみならず互いの技術の向上が図れるように問題を解決していくことに努めているか、互いに学び合う態度で主体的に取り組んでいるかを「学修振り返りシート」で評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容および実技における学修内容の深みに反映されていると認められる場合には、上記の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度に著しく公平性を欠く言動があった場合は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【授業形態ガイドラインレベルⅢ】課題研究型オンライン授業
【授業形態ガイドラインレベルⅡ】面接授業

1. ボールあそび領域の考え方と指導の要点およびその展開①ボールを扱う楽しさ
 2. ボールあそびの展開②ボールを予測して動く楽しさ
 3. ボールあそびの展開③仲間に働きかける楽しさ
 4. なわとびあそび領域の考え方とその展開
 5. なわとびあそび領域の指導法
 6. おにごっこあそび領域の考え方とその展開
 7. おにごっこあそび領域の指導法
 8. 運動会の捉え方と内容検討、指導の要点
 9. 教材の特性理解と指導案の作成・展開①マット
 10. 教材の特性理解と指導案の作成・展開②跳び箱
 11. 教材の特性理解と指導案の作成・展開③かけっこ
 12. 教材の特性理解と指導案の作成・展開④Gボール
 13. 教材の特性理解と指導案の作成・展開⑤ボール
 14. 教材の特性理解と指導案の作成・展開⑥なわ
 15. 教材の特性理解と指導案の作成・展開⑦おにごっこ
- 後期定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付された資料について復習すると共に、関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。参考文献として以下を紹介する。
『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著、2018、萌文書林、2000円

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 非常勤講師のため、授業時間外は学内におりませんので、学務部、または北体育館の体育事務室に問い合わせして下さい。

留意事項： 1. 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。
2. 運動に適した室内用シューズおよび運動着を着用すること。
3. 安全管理のため、更衣なしでの受講や裸足での受講は認めない。
4. 自分自身や他の受講生を傷つけないためにも、アクセサリ類は身に付けないこと。

科目コード：13199

科目ナンバリング：PC22A02J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：幼児体育B b(Preschool Physical Education B b)

担当者：木村 元子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：実技

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：02 模擬実践

03 実験・実技・体験

07 発表

08 協同学習

授業の概要： 幼児の運動あそびは、子どもの「あそび」が本来持っている、自発的・積極的・創造的で自由な活動を基本に、調和的な健康づくりを目指すものです。この授業では、上記のことを理解し、豊かな運動あそびを展開していくために、どのように指導していけばよいのかを、講義と実技を通して、段階的・系統的に学んでいきます。

幼児の運動あそびを指導する上で正しく認識しておきたい基礎的理論の学習を進め、さらに指導の展開方法について、模擬指導を通して、具体的・实际的に学んでいきます。

キーワード： 幼児の運動あそび 幼児期の体の発達 幼児期の心の発達 動機づけ 運動の環境と安全 運動指導 運動に関する現代的課題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 幼児に対して体育的な指導を行う際に必要な理論を理解・取得することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 40%

学修振り返りシート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児に対して体育的な指導を行うための教材の活用および具体的な展開に必要な運動技能・思考力・判断力を向上させ、実際に模擬指導として発表することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 40%

実技試験

学修振り返りシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

講義に関しては、学修する内容、目的、手順について集中して学修し、主体的に理解に努めようとしているかを評価する。

実技に関しては、積極的に取り組み、他の受講生ともコミュニケーションをとって、自身のみならず互いの技術の向上が図れるように問題を解決していくことに努めているか、互いに学び合う態度で主体的に取り組んでいるかを「学修振り返りシート」で評価する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容および実技における学修内容の深みに反映されていると認められる場合には、上記の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度に著しく公平性を欠く言動があった場合は減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【授業形態ガイドラインレベルⅢ】課題研究型オンライン授業
【授業形態ガイドラインレベルⅡ】面接授業

1. ボールあそび領域の考え方と指導の要点およびその展開①ボールを扱う楽しさ
 2. ボールあそびの展開②ボールを予測して動く楽しさ
 3. ボールあそびの展開③仲間に働きかける楽しさ
 4. なわとびあそび領域の考え方とその展開
 5. なわとびあそび領域の指導法
 6. おにごっこあそび領域の考え方とその展開
 7. おにごっこあそび領域の指導法
 8. 運動会の捉え方と内容検討、指導の要点
 9. 教材の特性理解と指導案の作成・展開①マット
 10. 教材の特性理解と指導案の作成・展開②跳び箱
 11. 教材の特性理解と指導案の作成・展開③かけっこ
 12. 教材の特性理解と指導案の作成・展開④Gボール
 13. 教材の特性理解と指導案の作成・展開⑤ボール
 14. 教材の特性理解と指導案の作成・展開⑥なわ
 15. 教材の特性理解と指導案の作成・展開⑦おにごっこ
- 後期定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付された資料について復習すると共に、関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。参考文献として以下を紹介する。
『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著、2018、萌文書林、2000円

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 非常勤講師のため、授業時間外は学内におりませんので、学務部、または北体育館の体育事務室に問い合わせして下さい。

留意事項： 1. 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。
2. 運動に適した室内用シューズおよび運動着を着用すること。
3. 安全管理のため、更衣なしでの受講や裸足での受講は認めない。
4. 自分自身や他の受講生を傷つけないためにも、アクセサリ類は身に付けないこと。

科目コード：13200 科目ナンバリング：PC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅰa (Child-care Seminar I a)

担当者： 天野 秀哉

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験
10 資料調査課題

授業の概要：【特例期間中の授業形態】

第1回より遠隔授業(同時双方向型)で行う。教員より指示があった場合は、その会を課題研究型にて行う。

多種多様な運動種目をツールとした、体育の指導方法の模索と指導現場での有効な手段や方法を、体育科学の基礎分野から理解を深める。

キーワード： 体育科学、体力、運動能力、研究法、指導現場への応用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 体育科学の基礎や体育科教育を中心とした分野において、基礎的な知識を修得すること。
2. 計測や実験などを通じ、運動を科学的に捉える基礎的な方法について理解すること。

評価方法: 各授業時レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 運動を「できるようになる」「方法を学ぶ」「観察力をつける」「指導法を学ぶ」という点を重視し、最終的には、実践と研究、発表をするための基礎的な思考力、判断力、表現力を獲得することを目指す。

評価方法: 各授業時レポート

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や授業レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. ガイダンス
 2. 体育科学入門・健康体力学入門／形態計測法①
 3. 体育科学入門・健康体力学入門／形態計測法②
 4. 体育科学入門・健康体力学入門／体力運動能力測定法①
 5. 体育科学入門・健康体力学入門／体力運動能力測定法②
 6. 体育科学入門・健康体力学入門／体力運動能力測定法③
 7. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き①
 8. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き②
 9. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き③
 10. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き④
 11. 体育科学入門・健康体力学入門／スポーツ運動学①
 12. 体育科学入門・健康体力学入門／スポーツ運動学②
 13. 体育科学入門・体育スポーツ教育入門／体育科教育学①
 14. 体育科学入門・体育スポーツ教育入門／体育科教育学②
 15. 演習の総まとめ

使用テキスト: 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 福永哲夫、山本正嘉編著 市村出版
授業に関連する資料は配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。また、実験を伴う授業の際は、事前に実験手順などの内容理解をしておくことが望ましい。

参考資料

「設計のための人体計測マニュアル」通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所編
人間生活工学研究センター

「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良・藤井範久著 朝倉書店

「マイネル・スポーツ運動学」クルト・マイネル著 金子明友訳 大修館書店

「新版 体育科教育学入門」高橋健夫編著 大修館書店

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します

留意事項: 実験、計測などを行う際は、運動に適した服装で参加すること

科目コード:13200 科目ナンバリング:PC31A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習I c(Child-care Seminar I c)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 現代の子どもたちはさまざまな問題を抱えています。また、子どもたちの育つ家庭や教育現場にも、さまざまな問題があります。このゼミでは、こうした問題について、心理学的な観点から探究します。その際、「子どもを理解する」ということをゼミの共通テーマとしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。ゼミでは、各自テーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして皆でディスカッションしながら考察を深めます。個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「現代の子ども・家族をとりまく問題を考える: 心理・教育・福祉からのアプローチ」というテーマのもと、各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究を知る中で、あるいは各々の調査研究を進める中で、簡潔にデータを示したり、分析したり、考察を行なったりすることができる。また、これらを論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身で研究テーマを選び、それについて資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりなどの準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さず他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:
- 第1回. この授業の到達目標と概略
 - 第2回. 学術論文の検索の方法・図書館ガイダンス
 - 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)
 - 第4回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)
 - 第5回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(3)
 - 第6回. 論文発表(1)
 - 第7回. 論文発表(2)
 - 第8回. 論文発表(3)
 - 第9回. 論文発表(4)
 - 第10回. 論文発表(5)
 - 第11回. 論文発表(6)
 - 第12回. 論文発表(7)
 - 第13回. 論文発表(8)
 - 第14回. 論文発表を振り返って
 - 第15回. 演習の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」や「家族」の問題や話題に触れるようにしておきましょう。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: 心理学や、子ども、家族、障害児等に関する授業を履修しておく、あるいは、同時に履修することが望ましいです。

科目コード:13200

科目ナンバリング:PC31A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習I f(Child-care Seminar I f)

担当者: 齋藤 遼太郎

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表
10. 資料調査課題
11. 討論
13. 役割演技と疑似体験
17. 発問と回答

授業の概要: 発達障害の支援について、障害種の説明や発達段階との関連について取り上げる。最後の3回は、具体的な発達障害児の事例を基にしたケース検討を行う。また、学期の最後には、学期を通したレポートを提出する。
授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。

キーワード: 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

評価方法: プレゼンテーション

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 1 オリエンテーション
2 発達障害支援と特別支援教育・保育
3 発達障害の理解と支援(1) 学習障害(LD)
4 発達障害の理解と支援(2) 注意欠陥・多動性障害(ADHD)
5 発達障害の理解と支援(3) 自閉症スペクトラム障害(ASD)
6 発達障害の理解と支援(4) 発達性協調運動障害(DCD)
7 発達障害支援と特別支援学級、通級による指導
8 通常学校における発達障害支援システム
9 子どもの発達と障害支援(1) 乳児期
10 子どもの発達と障害支援(2) 幼児期
11 子どもの発達と障害支援(3) 学童期
12 発達障害ケース検討① 学習困難のケース
13 発達障害ケース検討② 注意・行動困難のケース
14 発達障害ケース検討② 社会性困難のケース
15 まとめ

使用テキスト： 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてもらうこと。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：13200 科目ナンバリング：PC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習I i (Child-care Seminar I i)

担当者： 佐藤 真紀

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学習

授業の概要： 音楽劇を創作し、幼児を対象に上演する。劇で用いるシナリオ、音楽や歌を制作し、その過程で学習したことをレポートにまとめて提出する。ただし、受講人数や受講者の音楽状況により内容が変更されることもある。音楽を表現する活動を基本として、柔軟に対応していく。

キーワード： 多様な音楽表現 創作活動 音楽劇

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： これまでに得た音楽や表現に関する知識を活かし、教材研究や音楽劇の創作活動に応用できる技能を身に付けている。

評価方法： 演習課題への取り組み

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児の音楽指導に関わる教材研究や音楽劇の創作活動・発表を通して、豊かな表現力を身に付けている。

評価方法: 演習課題への取り組み
レポート

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1 オリエンテーション
 - 2 音楽劇(1)教材研究
 - 3 音楽劇(2)題材検討
 - 4 音楽劇(3)役割分担
 - 5 音楽劇(4)シナリオ作成(導入部)
 - 6 音楽劇(5)シナリオ作成(中間部)
 - 7 音楽劇(6)シナリオ作成(終結部)
 - 8 音楽劇(7)シナリオ(仮)読み合わせ確認
 - 9 音楽劇(8)劇中の音楽、歌の作曲(旋律Aパターン)
 - 10 音楽劇(9)劇中の音楽、歌の作曲(旋律Bパターン)
 - 11 音楽劇(10)劇中の音楽、歌の作曲(伴奏Aパターン)
 - 12 音楽劇(11)劇中の音楽、歌の作曲(伴奏Bパターン)
 - 13 音楽劇(12)劇中の音楽、歌の作曲(試演)
 - 14 音楽劇(13)楽譜作成(旋律)
 - 15 音楽劇(14)楽譜作成(伴奏)

使用テキスト: 特になし(必要に応じて参考資料を配付します。)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実技に関しては、自宅や校内練習室での予習・復習が必要となります。また創作活動において、授業外での作業が必要になる場合があります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項: 状況により授業計画の順や内容を多少変更する場合があります。

科目コード:13200

科目ナンバリング:PC31A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習I j(Child-care Seminar I j)

担当者: 信太 進

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表
10. 資料調査課題

授業の概要: 子どもにとって、望ましい玩具とは何か、また子どもがいる日常生活で使う用具はどのようなものが適切なのかを考える。授業の前半は、各自のテーマと具体的な制作計画を立て、練習制作として工芸やハンドクラフトの実技練習をもとに、デザイン方法や材料の加工技術を学ぶ。後半では課題制作として、課題作品を制作し発表する。

キーワード: 美術研究、造形、表現、玩具、遊具、家具

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: これまで培ってきた美術や造形表現の知識や技能を生かし、課題テーマに沿って考察を深め、課題作品としてまとめることができる。

評価方法: 課題作品の内容

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもにとって望ましい玩具や、子どもがいる生活のなかで使う用具をについて考え、作品に表現することができる。

評価方法: 課題作品の内容

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品・レポート等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品・レポート等に人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. オリエンテーション
2. 課題のテーマと計画1
3. 課題のテーマと計画2
4. 練習制作1
5. 練習制作2
6. 練習制作3

7. 練習制作4
8. 発表1
9. 課題制作1
10. 課題制作2
11. 課題制作3
12. 課題制作4
13. 課題制作5
14. 課題制作6
15. 発表2、まとめ

使用テキスト： 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習のポイント
 ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
 ・授業後には、その回の活動の記録をとる。

参考文献・資料
 特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。
 ・可能ならデバイスを持参してください。

科目コード：13200 **科目ナンバリング：**PC31A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習I k(Child-care Seminar I k)

担当者： 清水 悦子

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**演習

曜時：火曜2限 **履修可能学科・専攻：** Pc

関連資格： **AL要素：** 07. 発表
 10. 資料調査課題
 12. 課題討議法
 15. レポート指導

授業の概要： この授業では、子どもや親の心や体の「健康」をテーマに自主的に学んでいきます。睡眠、食事、運動といった日常生活に密着したものから、特定の疾患や社会問題に至るまで、少しでも「健康」につながるテーマであれば、各自の関心に合わせて選択可能です。
 前期の前半では、健康行動実践の肝となる行動変容プロセスに関する課題図書を輪読し、後半からは子どもや親の健康分野から各自の興味関心のあるテーマを多面的に調べ、レポートを作成、その内容を発表し、ディスカッションを行います。後期は、各自の興味に合わせた学術論文を読み報告することで、学術的な視点からの洞察を深めます。

キーワード： 子ども、親、健康、睡眠、食事、運動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 関心のある健康問題について、多様な資料や文献などにより多面的に調べ、報告することができる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等によ **評価割合：** 30%

り総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 関心のある健康関連分野について、学術文献をまとめ、レポートを作成し、他者にわかりやすく発表を行うことができる。
グループ内で自らの意見を積極的に発言できる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により **評価割合：40%**
総合的に評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

本演習では、学生自身の主体的な課題への取り組みや発表準備が、他の学生の学びにも大きく影響するため、発表時の準備状況を評価対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 資料作成、プレゼンテーション方法についての概説
第3回 行動変容に関する課題図書 of 輪読(1)
第4回 行動変容に関する課題図書 of 輪読(2)
第5回 行動変容に関する課題図書 of 輪読(3)
第6回 行動変容に関する課題図書 of 輪読(4)
第7回 行動変容に関する課題図書 of 輪読(5)
第8回 プレゼンテーションと討論(1)
第9回 プレゼンテーションと討論(2)
第10回 プレゼンテーションと討論(3)
第11回 プレゼンテーションと討論(4)
第12回 プレゼンテーションと討論(5)
第13回 プレゼンテーションと討論(6)
第14回 プレゼンテーションと討論(7)
第15回 前期のまとめ

使用テキスト： 課題図書は授業開始時に発表する。その他、必要な資料は適宜配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各学生の興味に添って演習を行うため、発表準備や課題を怠らないこと。
また、日ごろからニュースや新聞等により、子どもや親の健康問題について関心を高めること。

障がいのある履修者への対応： できる限り対応するので、まずは担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13200

科目ナンバリング：PC31A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：幼児保育演習II(Child-care Seminar II)

担当者：高橋 和将

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：07 発表
11 討論

授業の概要： 運動・スポーツ・健康に関する事柄について、各自の興味・関心に基づくテーマを設定し、グループでのディスカッションによって知見を深める。

キーワード： 研究法, 抄録, 指導現場への応用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：** 1. 複数の資料を用いて、論理的に自らの考えをまとめ、発表することができる。
2. 内容を理解するために必要な知識を身に付けている。

評価方法： 発表資料

評価割合： 100%

プレゼン

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」と合わせて評価する

評価方法： 「知識・技能」と合わせて評価する

評価割合： 「知識・技能」と合わせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や発表資料の記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
1. オリエンテーション
 2. 各自のテーマ設定と資料収集(1)
 3. 各自のテーマ設定と資料収集(2)
 4. 研究計画・実験計画の立て方(1)
 5. 研究計画・実験計画の立て方(2)
 6. 研究計画の立案
 7. 中間報告会
 8. 調査・実験の実施(1)
 9. 調査・実験の実施(2)
 10. 調査・実験の実施(3)

11. 調査・実験の実施(4)
12. 発表準備
13. 発表とディスカッション(1)
14. 発表とディスカッション(2)
15. 演習Iのまとめ・演習IIに向けた課題設定

使用テキスト: 適宜, 資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 発表資料の作成にあたっては, 図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します

留意事項: 特になし

科目コード: 13200 **科目ナンバリング:** PC31A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習I m (Child-care Seminar I m)

担当者: 佃 彰一郎

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03 実験・実技・体験
07 発表
13 役割演技と疑似体験
15 レポート指導

授業の概要: 本来、こどもは創造力があり、絵を描いたり、ものを作ったりすることが大好きです。そして、こどもたちの表現の発達には造形的な教材が大きく関わっています。本講座では玩具・カード・絵本・紙芝居などの制作を通して、こどもたちと私たちの表現技術の発達について考え造形表現の段階、論理的学習法、指導法、「表現の楽しさ」を学んでいきます。

キーワード: 保育実習、保育内容、造形表現、子どもの発達

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 造形表現の技能を養い、玩具や絵本など子どもが生活のなかで使う用具をデザインし、制作することができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 制作について発表しレポートにまとめることができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画：

- 第1回 授業内容、授業計画、評価基準を解説
- 第2回 パネルシアター1 構成理解
- 第3回 パネルシアター2 制作
- 第4回 パネルシアター3 発表
- 第5回 紋切り 切り紙
- 第6回 紙の玩具1 紙皿フリスビー
- 第7回 紙の玩具2 ブーメラン
- 第8回 紙の玩具3 ストロー飛行機
- 第9回 紙の玩具4 ストロー吹き矢
- 第10回 紙の玩具5 ストロー伸縮カード
- 第11回 紙の玩具6 木登り動物
- 第12回 紙の玩具7 動く紙コップ
- 第13回 紙の玩具8 紙コップロケット
- 第14回 作品レポートの作成
- 第15回 作品の発表

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 多くの参考資料、作品を用意していますので注目してください、制作のヒントが見つかり
ます。
考察、制作の時間が能力向上につながります、より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある
履修者への対応： 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項： 事項なし

科目コード：13200 科目ナンバリング：PC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習I n(Child-care Seminar I n)

担当者： 飛田 隆

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 07 発表

授業の概要： 幼児教育に必要な事を学ぶ。

- ・幼児教育の基礎
- ・配慮が必要な子ども
- ・子どもの遊び
- ・教材研究
- ・幼稚園・保育園・認定こども園での環境
- ・子どもに関連した事柄について

キーワード： 幼児保育、子どもの遊び、保護者支援、教材研究等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 子どもの生活や遊びを色々な角度から考え、時には実際に授業の中で遊び道具を作る体験し、説明できるようにする。
 子どもが好む遊びの種類、遊び方などについても学んで解説できるようにする。
 紙芝居の読み方等についても実際に読んで見て読み方等を理解する。
 保育園、幼稚園等での環境等についても学び、その必要性を説明できるようにする。
 保護者支援についても学び、支援の方法等について説明できるようにする。

評価方法： レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもの発達の理解、教師のあたえる影響と関わり方について学び、その重要性について説明できるようにする。
 遊びと環境について、また友達へ関心への広がりについて学び、それぞれが子どもにあたえる事柄について説明ができるようにする。
 教材研究について学び、必要性の説明ができるようにする。

評価方法： レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価とはしないが、教育、保育、子どもに関係することについて本、雑誌、新聞等を読んでおくことが望ましい。
 子どもの発達について学んでおく。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価とはしない、興味・関心に応じて行うこと。子どもの関わり方を学ぶのにボランティアは適していることを理解する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 項目によっては発表する。

- 第1回. 学生の関心のあるテーマについて検討する
- 第2回. 教材研究について
- 第3回. 子どもに関する課題・問題について学ぶ
- 第4回. 素材を使っての玩具づくり
- 第5回. 配慮が必要な子どもについて学ぶ
- 第6回. 子どもの生活について
- 第7回. 紙芝居を読んで読み方を学ぶ
- 第8回. 紙芝居を読んで読み方を学ぶ
- 第9回. 本を読んで学んだことを発表する
- 第10回. 幼児施設での教材と環境学ぶ
- 第11回. 簡単な玩具または壁面を作る
- 第12回. 親子支援について学ぶ
- 第13～15回. 子どもに関連したことについて調べて発表する

使用テキスト: 必要に応じて用意する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 子どもに関連する文献、資料等は適宜こちらで用意する。
 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと

障がいのある履修者への対応: 相談に応じて可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて研究室で対応する。

留意事項: 特になし。

科目コード:13200 科目ナンバリング:PC31A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習I o (Child-care Seminar I o)

担当者: 中島 美那子

基本情報

年次:3	単位数:2	授業形式:演習
曜時:火曜3限		履修可能学科・専攻: Pc
関連資格:		AL要素: 01.実地訓練 07.発表 08共同学修 11.討論 15レポート指導 17発問と回答

授業の概要: 本授業は、教育者・保育者にとって必要となる柔軟な思考を養うために、子どもを取り巻くさまざまな問題について、調査・発表・討論を行います。前期は受講者全員で共通のテーマに基づいて考えを深め、後期には受講者一人ひとりが関心のある個別のテーマに取り組みます。
 また、地域の親子教室や子育て支援事業への積極的参加により、実践的能力も養います。

キーワード: 子育て支援、発達支援、特別支援教育、保護者支援、地域連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 子どもを取り巻く社会問題について自ら調査・分析するなかで知見を深める。
 2. 実際に地域の子育て支援に触れ、その現状と課題について理解を深める。

評価方法: レポート、発表、討論内容

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

評価方法: レポート、発表、討論内容

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

1. 地域子育て支援等の研修で会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや発表、討論での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 前期

- 【第1回】 オリエンテーション、前期テーマの選択
- 【第2回】 資料作成や発表の仕方についての説明
- 【第3回】 作成した資料をもとに発表、討論(1)
- 【第4回】 作成した資料をもとに発表、討論(2)
- 【第5回】 作成した資料をもとに発表、討論(3)
- 【第6回】 作成した資料をもとに発表、討論(4)
- 【第7回】 作成した資料をもとに発表、討論(5)
- 【第8回】 進路、自らのキャリア形成について考える
- 【第9回】 ゲストティーチャーから保育を学ぶ
- 【第10回】 ゲストティーチャーから親子教室について学ぶ
- 【第11回】 地域の親子教室参加の計画(1)
- 【第12回】 地域の親子教室参加の計画(2)
- 【第13回】 地域の親子教室での実践活動(1)
- 【第14回】 地域の親子教室での実践活動(2)
- 【第15回】 これまでのまとめと後期の授業について

使用テキスト: 授業内で指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前学修として、子どもを取り巻く社会的課題や子どもの発達、保護者の心理やその対応等についての新聞記事や書籍に触れておくことをお勧めします。
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行ってください。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業時の発表やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深めたとみとめられる考察や、お話や絵本についての探求と気づきが認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容や模擬保育での発表に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃などの不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える教育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 『えほんのせかい こどものせかい』輪読
第3回 模擬授業 お話会 (1)
第4回 模擬授業 お話会 (2)
第5回 「覚えること」輪読
第6回 模擬授業 お話会 (3)
第7回 模擬授業 お話会 (4)
第8回 模擬授業 お話会 (5)
第9回 模擬授業 お話会 (6)
第10回 模擬授業 お話会 (7)
第11回 模擬授業 お話会 (8)
第12回 模擬授業 お話会 (9)
第13回 模擬授業 お話会 (10)
第14回 覚えて語るおはなし会(1)
第15回 覚えて語るおはなし会(2)
定期試験

使用テキスト： 松岡享子著『楽しいお話シリーズ4「覚えること」1979年』(東京子ども図書館刊行)500円程度、
『えほんのせかい こどものせかい』2018年 文春文庫 680円
『よみかかせのきほん』東京子ども図書館 750円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習として「おはなしのろうそく1～31」(東京子ども図書館)などの、語るためのテキストを読み込み、語ってみたいお話を見つけておく。
教科書『えほんのせかい こどものせかい』や『よみきかせのきほん』(東京子ども図書館)などに紹介されている、読み継がれてきた絵本のリストを手掛かりに、なるべく多くの絵本を手に取り、読み聞かせをして味わっておく。
「おはなしを覚える」とは、どういうことであるか考え、覚えて語るお話会に備えて、選んだお話を、しっかり自分のものにしておく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：13200 **科目ナンバリング：**PC31A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習I r (Child-care Seminar I r)

担当者： 穂積 訓

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 03.実験・実技・体験
07.発表
08.協同学修
14.輪読活動

授業の概要： 自然や環境に関する事象からテーマを選び、小学校や幼児教育の現場で教材として活用できるような自然体験や身近な素材を活用した実験活動に取り組みます。ゼミでは、実務経験を活かして自然を調べるための方法や態度、身の回りの動植物などの基本的な知識や関わり方について、論文の講読や野外・実験室での調査活動を通して習得します。また、子どもと環境の関わりについても計画を立て実践し、調査した事象の教材化や成果の発表を通して表現力の向上を図ります。

キーワード： 理科, 環境, 栽培, 生物, 科学体験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 身近な自然環境について学び、児童・生徒が「ものの性質」や「生物」、「環境」に興味を持ち、生命の尊さを感じられるような教材についての基礎知識や扱い方に習熟する。

評価方法： レポート
調査発表

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 身の回りの自然における「なぜ」について、現象を科学的に考え表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な取り組みが自身の課題についての探求と気づきに深み

を与える場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション
 - 2 自然と環境について1
 - 3 自然と環境について2
 - 4 環境表現の方法1
 - 5 環境表現の方法2
 - 6 子どもと環境1
 - 7 子どもと環境2
 - 8 子どもと環境3
 - 9 子どもと環境4
 - 10 環境評価の方法3
 - 11 植物の調査:論文講読1
 - 12 植物の調査:論文講読2
 - 13 植物の調査:論文講読3
 - 14 動物の調査:論文講読1
 - 15 動物の調査:論文講読2

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷して配布します。

予習・復習のポイントと 必要に応じて参考資料を配付します。関連する資料等は検索して閲覧すること。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応します。授業担当者、または学務部まで連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日時間等の詳細は、最初の授業でお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：13200 科目ナンバリング：PC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習I s (Child-care Seminar I s)

担当者： 三橋 翔太

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表

授業の概要： 特別支援教育や発達障害と関連して、基礎的な障害児心理学に関する研究方法を学生同士を相手にして実施する。各自の興味や関心に沿った発表を順番に行う。また、文献や資料の基本的な収集方法、資料の読み方についても講義する。

キーワード： 特別支援教育, 障害児心理学, 心理学研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 特別支援教育や発達障害と関連して、自らの興味や関心のあるテーマについての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 心理学研究における基礎的方法論についての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が発表に反映されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表内容の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 1 はじめに
- 2 心理学の基礎的事柄(1)
- 3 心理学の基礎的事柄(2)
- 4 心理学研究の方法(1)
- 5 心理学研究の方法(2)
- 6 心理検査の実践(1) ウェクスラー式知能検査 言語理解
- 7 心理検査の実践(2) ウェクスラー式知能検査 知覚推理
- 8 心理検査の実践(3) ウェクスラー式知能検査 ワーキングメモリ
- 9 心理検査の実践(4) ウェクスラー式知能検査 処理速度
- 10 文献検討(1) 知的障害
- 11 文献検討(2) 学習障害
- 12 文献検討(3) 注意欠如多動性障害
- 13 文献検討(4) 自閉スペクトラム症
- 14 文献検討(5) 発達性協調運動障害
- 15 まとめ

使用テキスト： 特になし。授業内で適宜配布する授業者が独自に作成した資料を使用して進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習については、随時配布する障害児心理学に関する文献の該当箇所の印刷したものを配布するので、目を通しておくこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。参考文献：奥住秀之「どうして?教えて!発達障害の理解」ISBN-10: 4881341553

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：13200 科目ナンバリング：PC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：幼児保育演習I t(Child-care Seminar I t)

担当者：柳橋 晃

基本情報

年次：3 単位数：2 授業形式：演習

曜時：水曜4限 履修可能学科・専攻：Pc

関連資格： AL要素：07. 発表
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： 幼児教育に関する事柄を、広い視野と多様な観点から考察するための視点を身に付けるられるように演習を行います。この演習では、教育に関する様々なテーマの中から、各々の受講生が興味関心のあるテーマを選定し、そのテーマについて発表します。そして、受講生同士でのディスカッションを行っていきます。

キーワード： 幼児教育、絵本、遊び、祭り、生活綴方教育、実践記録、教師の資質・能力、体罰、話し方の技術、学び合い活動、マーチング活動、LGBT、自己肯定感、幼児理解、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについて、教科書的な知識を理解した上で、その正負の両面から客観的に考察することができる。

評価方法： ・発表資料 **評価割合：40%**

・最終レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについての自分なりの考えを、論理的かつ分かりやすい正確な日本語を使用して、レポートで表現することができる。

・他者の意見を承り、それらの意見と比較しながら、自分の意見を述べる(話す・書く)ことができる。

評価方法： ・発表資料 **評価割合：40%**

・最終レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度と習慣を身につけ、ディスカッションに積極的参加し、建設的な発言を行えているか(発言内容)を主たる評価対象とする。

また、授業内で他者の学習に良好な影響を与える発言ができていても評価対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	オリエンテーション
	第2回	各自のテーマ選定の相談
	第3回	個人発表①
	第4回	個人発表②
	第5回	個人発表③
	第6回	個人発表④
	第7回	レポート相互添削①
	第8回	レポート相互添削②
	第9回	グループディスカッション①
	第10回	グループディスカッション②
	第11回	レポート相互添削③
	第12回	レポート相互添削④
	第13回	グループディスカッション③
	第14回	グループディスカッション④
	第15回	クラスディスカッション

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：発表者は、必要な資料を読解し、レジュメを作成する。他の受講者は、その授業回で扱われるテーマについて情報収集するなどして知見を深めておく。
復習：授業内の関連事項について自主学修を通じて知見を深める。発表者は、ディスカッションを振り返りつつ、自身の主張の根拠を説得力のあるものとしてゆく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：13201 科目ナンバリング：PC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅱ a (Child-care Seminar II a)

担当者： 天野 秀哉

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：07 発表

授業の概要：【授業形態ガイドラインレベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型オンライン授業
 多種多様な運動種目をツールとした、体育の指導方法の模索と指導現場での有効な手段や方法を、体育科学の基礎分野から理解を深める。
 各自の興味・関心に応じて論文を選択し、抄録を作成したうえで発表・討論を行う。発表内容についての質疑・討論を重ねることで、より多くの知識の修得を目指す。

キーワード： 体育科学、体力、運動能力、研究法、抄録、指導現場への応用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 体育科学の基礎や体育科教育を中心とした分野において、基礎的な知識を修得すること。
 2. 論文の内容を理解するために必要な知識を身に付けている。

評価方法： 発表資料
 プレゼン
 授業レポート **評価割合：40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 運動を「できるようになる」「方法を学ぶ」「観察力をつける」「指導法を学ぶ」という点を重視し、最終的には、実践と研究、発表をするための基礎的な思考力、判断力、表現力を獲得することを目指す。
 適切な表現で論文をまとめ、資料を作成することができる。

評価方法： 発表資料
 プレゼン
 授業レポート **評価割合：60%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や授業レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. オリエンテーション
2. 文献検索の方法
3. 論文の読み方・まとめ方
4. 論文抄読(1)
5. 論文抄読(2)
6. 論文抄読(3)
7. 論文抄読(4)
8. 論文抄読(5)

9. 論文抄読(6)
10. 論文抄読(7)
11. 論文抄読(8)
12. 先行研究のまとめと課題研究テーマの発表(1)
13. 先行研究のまとめと課題研究テーマの発表(2)
14. 先行研究のまとめと課題研究テーマの発表(3)
15. まとめ

使用テキスト: 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 福永哲夫、山本正嘉編著 市村出版
 授業に関連する資料は配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。また、実験を伴う授業の際は、事前に実験手順などの内容理解をしておくことが望ましい。

参考資料
 「設計のための人体計測マニュアル」通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所編 人間生活工学研究センター
 「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良・藤井範久著 朝倉書店
 「マイネル・スポーツ運動学」クルト・マイネル著 金子明友訳 大修館書店
 「新版 体育科教育学入門」高橋健夫編著 大修館書店

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します

留意事項: 特になし

科目コード:13201 科目ナンバリング:PC32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習Ⅱc (Child-care Seminar II c)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次:3 単位数:2 授業形式:演習

曜時:火曜3限 履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: AL要素: 07. 発表
 08. 共同学習
 09. 資料調査課題
 11. 討論
 14. 輪読活動
 15. レポート指導
 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 現代の子どもたちはさまざまな問題を抱えています。また、子どもたちの育つ家庭や教育現場にも、さまざまな問題があります。このゼミでは、こうした問題について、心理学的な観点から探究します。その際、「子どもを理解する」ということをゼミの共通テーマとしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。ゼミでは、各自テーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして皆でディスカッションしながら考察を深めます。個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「現代の子ども・家族をとりまく問題を考える:心理・教育・福祉からのアプローチ」というテーマのもと、各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究を知る中で、あるいは各々の調査研究を進める中で、簡潔にデータを示したり、分析したり、考察を行なったりすることができる。また、これらを論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身で研究テーマを選び、それについて資料を収集したり、そのまとめを行なったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりなどの準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回. この授業の到達目標と概略
 - 第2回. 学術論文の検索の方法・図書館ガイダンス
 - 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)
 - 第4回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)
 - 第5回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(3)
 - 第6回. 論文発表(1)
 - 第7回. 論文発表(2)
 - 第8回. 論文発表(3)
 - 第9回. 論文発表(4)
 - 第10回. 論文発表(5)
 - 第11回. 論文発表(6)
 - 第12回. 論文発表(7)
 - 第13回. 論文発表(8)
 - 第14回. 論文発表を振り返って
 - 第15回. 演習の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」や「家族」の問題や話題に触れるようにしておきま

しょう。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 心理学や、子ども、家族、障害児等に関する授業を履修しておく、あるいは、同時に履修することが望ましいです。

科目コード：13201 科目ナンバリング：PC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅱ f(Child-care Seminar II f)

担当者： 齋藤 遼太郎

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

17. 発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

特別支援学校の制度システムについて取り上げる。最後の3回は、学習指導案作成の実践をする。また、学期の最後には、学期を通したレポートを提出する。

授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。

キーワード： 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

評価方法： プレゼンテーション

評価割合： 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション
 - 2 日本における学校教育システムと特別支援学校
 - 3 特別支援学校とそれ以外の学校の共通点と差異
 - 4 特別支援学校の目的、対象、学部
 - 5 特別支援学校学習指導要領
 - 6 特別支援学校のセンター的機能
 - 7 特別支援学校における個別の教育支援計画と個別の指導計画
 - 8 特別支援学校における交流及び共同学習
 - 9 特別支援学校の授業(1) 各教科等(自立活動を除く)
 - 10 特別支援学校の授業(2) 自立活動
 - 11 特別支援学校の授業(3) 各教科等を合わせた指導
 - 12 特別支援学校学習指導案の作成(1) 日常生活の指導
 - 13 特別支援学校学習指導案の作成(2) 生活単元学習
 - 14 特別支援学校学習指導案の作成(3) 作業学習
 - 15 まとめ

使用テキスト： 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてくること。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：13201 科目ナンバリング：PC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅱ i (Child-care Seminar II i)

担当者： 佐藤 真紀

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学習

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

音楽劇を創作し、幼児を対象に上演する。劇で用いるシナリオ、音楽や歌、小道具や大道具を制作し、その過程で学習したことをレポートにまとめて提出する。ただし、受講人数や受講者の音楽状況により内容が変更されることもある。音楽を表現する活動を基本として、柔軟に対応していく。

キーワード: 多様な音楽表現 創作活動 音楽劇

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: これまでに得た音楽や表現に関する知識を活かし、教材研究や音楽劇の創作活動に応用できる技能を身に付けている。

評価方法: 演習課題への取り組み

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児の音楽指導に関わる教材研究や音楽劇の創作活動・発表を通して、豊かな表現力を身に付けている。

評価方法: 演習課題への取り組み
課題レポート

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1 音楽劇(15)大道具作成, 小道具作成、衣装作成準備
 - 2 音楽劇(16)大道具作成
 - 3 音楽劇(17)小道具作成
 - 4 音楽劇(18)衣装作成
 - 5 音楽劇(19)シナリオ本読み
 - 6 音楽劇(20)立ち稽古
 - 7 音楽劇(21)歌の練習・振り付け
 - 8 音楽劇(22)通し稽古-台詞、歌の確認
 - 9 音楽劇(23)通し稽古-大道具、小道具の確認
 - 10 音楽劇(24)通し稽古-楽器の確認
 - 11 音楽劇(25)試演会
 - 12 音楽劇(26)音楽劇上演の準備
 - 13 音楽劇(27)音楽劇上演

14 音楽劇(28) 音楽劇の反省

15 音楽劇(29) レポート提出

使用テキスト: 特になし(必要に応じて参考資料を配付します。)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実技に関しては、自宅や校内練習室での予習・復習が必要となります。また創作活動において、授業外での作業が必要になる場合があります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項: 状況により授業計画の順や内容を多少変更する場合があります。

科目コード: 13201

科目ナンバリング: PC32A01E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習II j (Child-care Seminar II j)

担当者: 信太 進

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表
10. 資料調査課題

授業の概要: 前期の演習 I をもとに、子どもにとって望ましい玩具とは何か、また子どもがいる日常生活で使う用具はどのようなものが適切なのか考えを深める。授業の前半は各自のテーマと具体的な制作計画を立て、練習制作としてデザイン方法や材料の加工技術を学ぶ。後半では研究制作として、研究作品を制作し発表する。

キーワード: 美術研究、造形、表現、玩具、遊具、家具

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: これまで培ってきた美術や造形表現の知識や技能を生かし、研究テーマに沿って考察を深め、研究作品としてまとめることができる。

評価方法: 研究作品の内容

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもにとって望ましい玩具や、子どもがいる生活のなかで使う用具をについて考え、作品に表現することができる。

評価方法: 研究作品の内容

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品・レポート等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品・レポート等に人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. オリエンテーション
2. 研究のテーマと計画1
3. 研究のテーマと計画2
4. 練習制作1
5. 練習制作2
6. 練習制作3
7. 練習制作4
8. 発表1
9. 研究制作1
10. 研究制作2
11. 研究制作3
12. 研究制作4
13. 研究制作5
14. 研究制作6
15. 発表2、まとめ

使用テキスト： 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント

参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
・授業後には、その回の活動の記録をとる。

参考文献・資料

特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

障がいのある 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。

科目コード：13201

科目ナンバリング：PC32A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習II k(Child-care Seminar II k)

担当者： 清水 悦子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

12. 課題討議法

15. レポート指導

授業の概要： この授業では、子どもや親の心や体の「健康」をテーマに自主的に学んでいきます。睡眠、食事、運動といった日常生活に密着したものから、特定の疾患や社会問題に至るまで、少し

でも「健康」につながるテーマであれば、各自の関心に合わせて選択可能です。

幼児保育演習ⅠとⅡはつながりを持って実施します。

前期に実施するⅠの前半では、健康行動実践の肝となる行動変容プロセスに関する課題図書を輪読し、後半からは子どもや親の健康分野から各自の興味関心のあるテーマを学術的に調べ、レポートを作成、その内容を発表し、ディスカッションを行います。後期から始まるⅡは、議論の分かれる特定のテーマについて、これまでの学術的な検索技術やまとめる力を生かし、グループディスカッションを行い、それぞれの立場での洞察を深めます。

キーワード： 子ども、親、健康、睡眠、食事、運動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 関心のある健康問題について、多様な資料や文献などにより多面的に調べ、報告することができる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により総合的に評価する。 **評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 関心のある健康関連分野について、学術文献をまとめ、レポートを作成し、他者にわかりやすく発表を行うことができる。

グループ内で自らの意見を積極的に発言できる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により総合的に評価する。 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

本演習では、学生自身の主体的な課題への取り組みや発表準備が、他の学生の学びにも大きく影響するため、発表時の準備状況を評価対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学術論文の検索方法とまとめ方
- 第3回 論文発表と討論(1)
- 第4回 論文発表と討論(2)
- 第5回 論文発表と討論(3)
- 第6回 論文発表と討論(4)
- 第7回 論文発表と討論(5)
- 第8回 論文発表と討論(6)
- 第9回 論文発表と討論(7)
- 第10回 論文発表と討論(8)
- 第11回 研究の方法論について(1)
- 第12回 研究の方法論について(2)

- 第13回 研究の方法論—統計学的視点から
第14回 研究テーマについての意見交換
第15回 1年間のまとめと今後の展望

使用テキスト: 課題図書は授業開始時に発表する。その他、必要な資料は適宜配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 各学生の興味に添って演習を行うため、発表準備や課題を怠らないこと。また、日ごろからニュースや新聞等により、子どもや親の健康問題について関心を高めること。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応するので、まずは担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項: 特になし。

科目コード:13201 科目ナンバリング:PC32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習II I(Child-care Seminar II I)

担当者: 高橋 和将

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 07 発表
11 討論

授業の概要: 運動・スポーツ・健康に関連する事柄について、各自の興味・関心に応じて文献を選択し、抄録を作成したうえで発表・討論を行う。発表内容についての質疑・討論を重ねることで、より多くの知識の修得を目指す。

キーワード: 研究法, 抄録, 指導現場への応用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 適切な表現で文献をまとめ、資料を作成することができる。

2. 内容を理解するために必要な知識を身に付けている。

評価方法: 発表資料

評価割合: 100%

プレゼン

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する

評価方法: 「知識・技能」と合わせて評価する

評価割合: 「知識・技能」と合わせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や発表資料の記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 文献検索の方法
 2. 論文の読み方・まとめ方
 3. 論文抄読(1)
 4. データの収集法
 5. 論文抄読(2)
 6. データの分析法
 7. 論文抄読(3)
 8. 中間報告会
 9. 論文抄読(4)
 10. データの解釈と考察(1)
 11. データの解釈と考察(2)
 12. データの解釈と考察(3)
 13. データのまとめ方とプレゼン方法(1)
 14. データのまとめ方とプレゼン方法(2)
 15. まとめ

使用テキスト： 適宜、資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方，福永哲夫・山本正嘉編著，市村出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します

留意事項： 特になし

科目コード：13201 科目ナンバリング：PC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習II m (Child-care Seminar II m)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験
07 発表

授業の概要： 本来、こどもは創造力があり、絵を描いたり、ものを作ったりすることが大好きです。そして、こどもたちの表現の発達には造形的な教材が大きく関わっています。本講座では玩具・カード・絵本・紙芝居などの制作を通して、こどもたちと私たちの表現技術の発達について考え造形表現の段階、論理的学習法、指導法、「表現の楽しさ」を学んでいきます。

キーワード： 保育実習、保育内容、造形表現、子どもの発達

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 造形表現の技能を養い、玩具や絵本など子どもが生活のなかで使う用具をデザインし、制作することができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 制作について発表しレポートにまとめることができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画: 第1回 制作に必要な資料の選択。
第2回 制作に必要な材料素材の選択。
第3回 ペープサート1 物語の構成
第4回 ペープサート2 制作計画
第5回 ペープサート3 画材選択
第6回 ペープサート4 彩色
第7回 ペープサート5 発表
第8回 1枚の紙によるカード1 制作計画
第9回 1枚の紙によるカード2 画材選択
第10回 1枚の紙によるカード3 彩色
第11回 1枚の紙による絵本1 制作計画
第12回 1枚の紙による絵本2 画材選択
第13回 1枚の紙による絵本3 彩色
第14回 作品レポートの作成
第15回 作品の発表

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 多くの参考資料、作品を用意していますので注目してください、制作のヒントが見つかります。
考察、制作の時間が能力向上につながります、より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応: 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 電話連絡して下さい、つながらない場合は電話番号にメールをください。

留意事項: 事項なし

科目コード:13201 科目ナンバリング:PC32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習Ⅱn(Child-care Seminar II n)

担当者: 飛田 隆

基本情報

年次:3 単位数:2 授業形式:演習

曜時:金曜1限 履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: AL要素: 07 発表

08 協同学修

11 討論

授業の概要: 幼児教育に必要な事を学ぶ。
・幼児教育の基礎的な知識
・配慮が必要な子ども
・子どもの遊び
・教材研究
・幼稚園・保育園・認定こども園での環境
・子どもに関連した事柄について

キーワード: 幼児保育、子どもの遊び、保護者支援、教材研究等、配慮の必要な子ども

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 子どもの生活や遊びを色々な角度から考え、時には実際に授業の中で遊び道具を作る体験し、説明できるようにする。
子どもが好む遊びの種類、遊び方などについても学んで解説できるようにする。
紙芝居の読み方等についても実際に読んで見て読み方等を理解する。
保育園、幼稚園等での環境等についても学び、その必要性を説明できるようにする。
保護者支援についても学び、支援の方法等について説明できるようにする。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもの発達の理解、教師のあたえる影響と関わり方について学び、その重要性について説明できるようにする。
遊びと環境について、また友達へ関心への広がりについて学び、それぞれが子どもにあたえる事柄について説明ができるようにする。
教材研究について学び、必要性の説明ができるようにする。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価とはしないが、教育、保育、子どもに関係することについて本、雑誌、新聞等を読んでおくことが望ましい。
子どもの発達について学んでおく。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価とはしない、興味・関心に応じて行うこと。子どもの関わり方を学ぶのにボランティアは適していることを理解する。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 必要に応じて発表する。

- 第1回. 子育て支援について調べて発表する
- 第2回. 子育て支援について調べて発表する
- 第3回. 子育て支援について調べて発表する
- 第4回. 虐待をしてしまう保護者について学ぶ
- 第5回. 虐待について学ぶ
- 第6回. 配慮が必要な子どもについて学ぶ
- 第7回. 子どもにプレゼントするカードづくり
- 第8回. 子どもの遊びについて
- 第9回. 幼児施設の環境について学ぶ
- 第10回. 子どもの教材について学ぶ
- 第11回. 切り紙の作製
- 第12回. 対応が難しい子どもの対応について学ぶ
- 第13～15回. 子どもに関連したことについて調べて発表する

使用テキスト： 必要に応じて用意する。

予習・復習のポイントと 子どもに関連する文献、資料等は適宜こちらで用意する。

参考文献・資料等： 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと

障がいのある 必要に応じて可能な限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13201

科目ナンバリング：PC32A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅱ○(Child-care Seminar II ○)

担当者： 中島 美那子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 01.実地訓練
07.発表
08.共同学修
11.討論
15.レポート指導
17.発問と回答

授業の概要： 本授業は、教育者・保育者にとって必要となる柔軟な思考を養うために、子どもを取り巻くさ

さまざまな問題について、調査・発表・討論を行います。前期は受講者全員で共通のテーマに基づいて考えを深め、後期には受講者一人ひとりが関心のある個別のテーマに取り組みます。

また、地域の親子教室や子育て支援事業への積極的参加により、実践的能力も養います。

キーワード： 子育て支援、発達支援、特別支援教育、保護者支援、地域連携、チーム保育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 子どもを取り巻く社会問題について自ら調査・分析するなかで知見を深める。
2. 実際に地域の子育て支援に触れ、その現状と課題について理解を深める。

評価方法： レポート、発表、討論内容

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

評価方法： レポート、発表、討論内容

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

1. 地域子育て支援等の研修で会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや発表、討論での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 後期

【第1回】 それぞれのテーマ選択について

【第2回】 資料作成の方法

【第3回】 作成した資料をもとに発表、討論(1)

【第4回】 作成した資料をもとに発表、討論(2)

【第5回】 作成した資料をもとに発表、討論(3)

【第6回】 作成した資料をもとに発表、討論(4)

【第7回】 作成した資料をもとに発表、討論(5)

【第8回】 子育て支援について学ぶ

【第9回】 子育て支援(学外)実践活動(1)

【第10回】 子育て支援(学外)実践活動(2)

【第11回】 子育て支援(学外)実践活動(3)

【第12回】 先輩との交流授業(1) 研究論文発表会

【第13回】 先輩との交流授業(2) 進路、就職活動について

【第14回】 調査・研究の方法について

【第15回】 これまでのまとめと次年度の授業について

使用テキスト： 授業内で指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前学修として、子どもを取り巻く社会的課題や子どもの発達、保護者の心理やその対応等についての新聞記事や書籍に触れておくことをお勧めします。
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行ってください。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：13201 **科目ナンバリング：**PC32A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習II p (Child-care Seminar II p)

担当者： 原口 なおみ

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 02. 模擬実践
13. 役割演技と疑似体験
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： ストーリーテリングの理論を学び、おはなしを覚えて語る。テキスト『えほんのせかい こどものせかい』『覚えること』の講読によって理論を学ぶと同時に、絵本・お話を朗読して耳から作品を味わい、覚えるおはなしを選ぶ。1話選んで覚え、自分のものにして語ってみる。子どもにお話を届けることを意識して、詩や絵本・わらべうたを自分の声で表現する。学外でのお話会に聞き手として参加し、おはなしを聞く耳を育てる。読み継がれてきた絵本を読み聞かせる模擬授業。覚えるお話を選び、しっかり自分のものにして語るお話会演習。聞き手となる子どもに合わせてプログラムを立て、おはなし会を構成する模擬授業。読み聞かせ・ストーリーテリングに関する基本図書の輪読活動。

キーワード： ストーリーテリング、昔話の様式、イメージ、覚える、読書興味発達の四段階

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分の担当したお話会を、学んだ理論を踏まえ、十分に作品を研究し、作品に合った読み聞かせ・語りができる。

評価方法： 担当したお話会での発表およびレポート **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：自分の選んだお話を、十分に研究・理解し、自分のものにして、その話に合った語り方ができる。
子どもの発達段階にふさわしい語りかけができる。

評価方法：担当したお話会での発表およびレポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業時の発表やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深めたとみとめられる考察や、お話や絵本についての探求と気づきが認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容や模擬保育での発表に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃などの不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える教育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 『子どもと本』第2章輪読
第3回 模擬授業 お話会 (1)
第4回 模擬授業 お話会 (2)
第5回 模擬授業 お話会 (3)
第6回 模擬授業 お話会 (4)
第7回 模擬授業 お話会 (5)
第8回 模擬授業 お話会 (6)
第9回 模擬授業 お話会 (7)
第10回 模擬授業 お話会 (8)
第11回 模擬授業 お話会 (9)
第12回 模擬授業 お話会 (10)

- 第13回 模擬授業 お話会 (11)
第14回 模擬授業 お話会 (12)
第15回 覚えて語るおはなし会
定期試験

使用テキスト: 松岡享子著『楽しいお話シリーズ4「覚えること」1979年』(東京子ども図書館刊行)500円程度、
『えほんのせかい こどものせかい』2018年 文春文庫 680円
『よみかかせのきほん』東京子ども図書館 750円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習として「おはなしのろうそく1〜31」(東京子ども図書館)などの、語るためのテキストを読み込み、語ってみたいお話を見つけておく。
教科書『えほんのせかい こどものせかい』や『よみかかせのきほん』(東京子ども図書館)などに紹介されている、読み継がれてきた絵本のリストを手掛かりに、なるべく多くの絵本を手に取り、読み聞かせをして味わっておく。
「おはなしを覚える」とは、どういうことであるか考え、覚えて語るお話会に備えて、選んだお話を、しっかり自分のものにしておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:13201 科目ナンバリング:PC32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習Ⅱr(Child-care SeminarⅡr)

担当者: 穂積 訓

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03.実験・実技・体験
07.発表
08.協同学修
14.輪読活動

授業の概要: 自然や環境に関する事象からテーマを選び、小学校や幼児教育の現場で教材として活用できるような自然体験や身近な素材を活用した実験活動に取り組みます。ゼミでは、実務経験を活かして自然を調べるための方法や態度、身の回りの動植物などの基本的な知識や関わり方について、論文の講読や野外・実験室での調査活動を通して習得します。また、調査した事象の教材化や成果の発表を通して表現力の向上を図ります。

キーワード: 理科, 環境, 栽培, 生物, 科学体験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 身近な自然環境について学び、児童・生徒が「ものの性質」や「生物」、「環境」に興味を持ち、生命の尊さを感じられるような教材についての基礎知識や扱い方に習熟する。

評価方法: レポート

評価割合: 70%

調査発表

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 身の回りの自然における「なぜ」について、現象を科学的に考え表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な取り組みが自身の課題についての探求と気づきに深みを与える場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 1 身近な自然の調査1(論文講読)
 - 2 身近な自然の調査2(論文講読)
 - 3 身近な自然の調査3(論文講読)
 - 4 課題準備
 - 5 課題調査A1
 - 6 課題調査A2
 - 7 課題調査A3
 - 8 課題報告A1(図表作成・表現)
 - 9 課題報告A2(図表作成・表現)
 - 10 課題報告A3
 - 11 課題調査B1
 - 12 課題調査B2
 - 13 課題調査B3
 - 14 課題報告B1(文章表現)
 - 15 課題報告B2 (文章表現)

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必要に応じて参考資料を配付します。関連する資料等は検索して閲覧すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。授業担当者、または学務部まで連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日時間等の詳細は、最初の授業でお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード:13201

科目ナンバリング:PC32A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習II s (Child-care Seminar II s)

担当者: 三橋 翔太

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
11. 討論

授業の概要： 特別支援教育や発達障害と関連して、基礎的な障害児心理学に関する研究方法を学生同士を相手にして実施する。各自の興味や関心に沿った発表を順番に行う。また、文献や資料の基本的な収集方法、資料の読み方についても講義する。

キーワード： 特別支援教育, 障害児心理学, 心理学研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 特別支援教育や発達障害と関連して、自らの興味や関心のあるテーマについての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 心理学研究における基礎的方法論についての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が発表に反映されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表内容の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 1 はじめに
- 2 文献検討(1) 発達障害の感覚・知覚
- 3 文献検討(2) 発達障害の認知
- 4 文献検討(3) 発達障害の社会性
- 5 文献検討(4) 発達障害の実行機能
- 6 心理学研究の基礎的事柄 記述統計
- 7 心理学研究の基礎的事柄 平均値の比較
- 8 心理学研究の基礎的事柄 相関
- 9 心理学研究の基礎的事柄 統計手法のまとめ
- 10 心理学実験作成(1) 感覚・知覚

- 11 心理学実験作成(2)認知
- 12 心理学実験作成(3)社会性
- 13 心理学実験作成(4)発達障害へ利用
- 15 まとめ

使用テキスト: 特になし。授業内で適宜配布する授業者が独自に作成した資料を使用して進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習については、随時配布する障害児心理学に関する文献の該当箇所の印刷したものを配布するので、目を通しておくこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。参考文献: 奥住秀之「どうして?教えて!発達障害の理解」ISBN-10: 4881341553

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード:13201 科目ナンバリング:PC32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習II t(Child-care Seminar II t)

担当者: 柳橋 晃

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 07. 発表
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要: 幼児教育に関する事柄を、広い視野と多様な観点から考察するための視点を身に付けるられるように演習を行います。この演習では、教育に関する様々なテーマの中から、各々の受講生が興味関心のあるテーマを選定し、そのテーマについて発表します。そして、受講生同士でのディスカッションを行っていきます。

キーワード: 幼児教育、絵本、遊び、祭り、生活綴方教育、実践記録、教師の資質・能力、体罰、話し方の技術、学び合い活動、マーチング活動、LGBT、自己肯定感、幼児理解、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについて、教科書的な知識を理解した上で、その正負の両面から客観的に考察することができる。

評価方法: ・発表資料

評価割合: 40%

・最終レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ・自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについての自分なりの考えを、論理的かつ分かりやすい正確な日本語を使用して、レポートで表現することができる。

・他者の意見を承り、それらの意見と比較しながら、自分の意見を述べる(話す・書く)ことができる。

評価方法: ・発表資料

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度と習慣を身につけ、ディスカッションに積極的参加し、建設的な発言を行えているか(発言内容)を主たる評価対象とする。

また、授業内で他者の学習に良好な影響を与える発言ができているかも評価対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	オリエンテーション
	第2回	各自のテーマ選定の相談
	第3回	個人発表①
	第4回	個人発表②
	第5回	個人発表③
	第6回	個人発表④
	第7回	レポート相互添削①
	第8回	レポート相互添削②
	第9回	グループディスカッション①
	第10回	グループディスカッション②
	第11回	レポート相互添削③
	第12回	レポート相互添削④
	第13回	グループディスカッション③
	第14回	グループディスカッション④
	第15回	クラスディスカッション

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：発表者は、必要な資料を読解し、レジュメを作成する。他の受講者は、その授業回で扱われるテーマについて情報収集するなどして知見を深めておく。
復習：授業内の関連事項について自主学修を通じて知見を深める。発表者は、ディスカッションを振り返りつつ、自身の主張の根拠を説得力のあるものとしてゆく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：13202

科目ナンバリング：PC41A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ a (Child-care Seminar III a)

担当者：天野 秀哉

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験
07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 児童教育演習I・IIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、個人もしくはグループで調査・研究に取り組む。

キーワード： 研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 先行研究の理解、レビューができている
2. 適切な研究計画が立案できる

評価方法： レポート

評価割合： 100%

プレゼンテーション

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」と合わせて評価する

評価方法： 「知識・技能」と合わせて評価する

評価割合： 「知識・技能」と合わせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 1. オリエンテーション
2. 文献研究の進め方(1)
3. 文献研究の進め方(2)
4. 文献研究の進め方(3)
5. 文献研究の進め方(4)

6. 先行研究の報告および討論(1)
7. 先行研究の報告および討論(2)
8. 先行研究の報告および討論(3)
9. 先行研究の報告および討論(4)
10. 先行研究の報告および討論(5)
11. 研究計画と実験計画の立て方(1)
12. 研究計画と実験計画の立て方(2)
13. 研究計画と実験計画の立て方(3)
14. 研究計画と実験計画の立て方(4)
15. 前期のまとめと後期への課題について

使用テキスト: 適宜資料を配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 13202

科目ナンバリング: PC41A01E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習III c (Child-care Seminar III c)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業の概要】

現代の子どもたちはさまざまな問題を抱えています。また、子どもたちの育つ家庭や教育現場にも、さまざまな問題があります。このゼミでは、こうした問題について、心理学的な観点から探究します。その際、「子どもを理解する」ということをゼミの共通テーマとしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。4年次のゼミでは、各自、3年次での学びをふまえ、改めてテーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして皆でディスカッションしながら考察を深めます。個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標:「現代の子ども・家族をとりまく問題を考える:心理・教育・福祉からのアプローチ」というテーマのもと、各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究を知る中で、あるいは各々の調査研究を進める中で、簡潔にデータを示したり、分析したり、考察を行なったりすることができる。また、これらを論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身で研究テーマを選び、それについて資料を収集したり、そのまとめを行なったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりなどの準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や厳重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回. この授業の到達目標と概略
 - 第2回. 学術論文の検索の方法・図書館ガイダンス
 - 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)
 - 第4回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)
 - 第5回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(3)
 - 第6回. 論文発表(1)
 - 第7回. 論文発表(2)
 - 第8回. 論文発表(3)
 - 第9回. 論文発表(4)
 - 第10回. 論文発表(5)
 - 第11回. 論文発表(6)
 - 第12回. 論文発表(7)
 - 第13回. 論文発表(8)
 - 第14回. 論文発表を振り返って
 - 第15回. 演習の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」や「家族」の問題や話題に触れるようにしておきま

しょう。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 心理学や、子ども、家族、障害児等に関する授業を履修しておく、あるいは、同時に履修することが望ましいです。

科目コード：13202 科目ナンバリング：PC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習III f(Child-care Seminar III f)

担当者： 齋藤 遼太郎

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 03. 実験・実技・体験

07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

17. 発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

特別支援学校の制度システムについて取り上げる。最後の3回は、学習指導案作成の実践をする。また、学期の最後には、学期を通したレポートを提出する。

授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。

キーワード： 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

評価方法： プレゼンテーション

評価割合： 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション
 - 2 日本における学校教育システムと特別支援学校
 - 3 特別支援学校とそれ以外の学校の共通点と差異
 - 4 特別支援学校の目的、対象、学部
 - 5 特別支援学校学習指導要領
 - 6 特別支援学校のセンター的機能
 - 7 特別支援学校における個別の教育支援計画と個別の指導計画
 - 8 特別支援学校における交流及び共同学習
 - 9 特別支援学校の授業(1) 各教科等(自立活動を除く)
 - 10 特別支援学校の授業(2) 自立活動
 - 11 特別支援学校の授業(3) 各教科等を合わせた指導
 - 12 特別支援学校学習指導案の作成(1) 日常生活の指導
 - 13 特別支援学校学習指導案の作成(2) 生活単元学習
 - 14 特別支援学校学習指導案の作成(3) 作業学習
 - 15 まとめ

使用テキスト： 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてくること。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：13202 科目ナンバリング：PC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ i (Child-care Seminar III i)

担当者： 佐藤 真紀

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学習

授業の概要： 音楽劇を創作し、幼児を対象に上演する。劇で用いるシナリオ、音楽や歌を制作し、その過程で学習したことをレポートにまとめて提出する。ただし、受講人数や受講者の音楽状況により内容が変更されることもある。音楽を表現する活動を基本として、柔軟に対応していく。

キーワード： 多様な音楽表現 創作活動 音楽劇

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： これまでに得た音楽や表現に関する知識を活かし、教材研究や音楽劇の創作活動に応用できる技能を身に付けている。

評価方法： 演習課題への取り組み

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児の音楽指導に関わる教材研究や音楽劇の創作活動・発表を通して、豊かな表現力を身に付けている。

評価方法： 演習課題への取り組み
レポート

評価割合： 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 1 オリエンテーション
 - 2 音楽劇(1)教材研究
 - 3 音楽劇(2)題材検討
 - 4 音楽劇(3)役割分担
 - 5 音楽劇(4)シナリオ作成(導入部)
 - 6 音楽劇(5)シナリオ作成(中間部)
 - 7 音楽劇(6)シナリオ作成(終結部)
 - 8 音楽劇(7)シナリオ(仮)読み合わせ確認
 - 9 音楽劇(8)劇中の音楽、歌の作曲(旋律Aパターン)
 - 10 音楽劇(9)劇中の音楽、歌の作曲(旋律Bパターン)
 - 11 音楽劇(10)劇中の音楽、歌の作曲(伴奏Aパターン)
 - 12 音楽劇(11)劇中の音楽、歌の作曲(伴奏Bパターン)
 - 13 音楽劇(12)劇中の音楽、歌の作曲(試演)
 - 14 音楽劇(13)楽譜作成(旋律)
 - 15 音楽劇(14)楽譜作成(伴奏)

使用テキスト： 特になし(必要に応じて参考資料を配付します。)

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 実技に関しては、自宅や校内練習室での予習・復習が必要となります。
また創作活動において、授業外での作業が必要になる場合があります。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に
問い合わせてください。

留意事項： 状況により授業計画の順や内容を多少変更する場合があります。

科目コード：13202 科目ナンバリング：PC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ k(Child-care Seminar III k)

担当者： 清水 悦子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

12. 課題討議法

15. レポート指導

授業の概要： この授業では、子どもや親の心身の「健康」をテーマに自ら積極的に学び、他者に伝え、ディスカッションを行うことにより、視野を広げつつ自身の興味関心について洞察を深めていく。また、自身の探究するテーマについてリサーチクエスチョンを立て調査・研究を行い、卒業論文や卒業レポートというかたちで学術的にまとめることを目指す。

キーワード： 子ども、親、健康、睡眠、食事、運動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 関心のある健康問題について、多様な資料や文献などにより多面的に調べ、報告することができる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により 評価割合：30%
り総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 関心のある健康関連分野について、学術文献を調べ、調査・研究を通じて論文やレポートにまとめることができる。
グループ内で自らの意見を積極的に発言できる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により 評価割合：40%
総合的に評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

本演習では、学生自身の主体的な課題への取り組みが自身の論文やレポートの進捗に直接的に影響する。そのため、定められた課題の提出期限の順守を評価対象に含める。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 卒業論文・卒業レポート作成の取り組み方
第2回 テーマ・リサーチクエスチョン設定①
第3回 テーマ・リサーチクエスチョン設定②
第4回 テーマ・リサーチクエスチョン設定③
第5回 データの収集と分析方法の検討①
第6回 データの収集と分析方法の検討②
第7回 データの収集と分析方法の検討③
第8回 データの収集の準備①
第9回 データの収集の準備②
第10回 データの収集の準備③
第11回 データの収集の準備④
第12回 前期報告会①
第13回 前期報告会②
第14回 前期報告会③
第15回 振り返り

使用テキスト： 必要な資料は適宜配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 各学生の興味に添って演習を行うため、発表準備や課題を怠らないこと。
また、日ごろからニュースや新聞等により、子どもや親の健康問題について関心を高めること。

障がいのある
履修者への対応： できる限り対応するので、まずは担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13202 科目ナンバリング：PC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ I (Child-care Seminar III I)

担当者： 高橋 和将

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験
07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 演習I・IIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、グループで調査・研究に取り組む。

キーワード： 研究計画，論理的思考，指導現場への還元

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 先行研究の理解、レビューができている
2. 適切な研究計画が立案できる

評価方法: レポート

評価割合: 100%

プレゼンテーション

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する

評価方法: 「知識・技能」と合わせて評価する

評価割合: 「知識・技能」と合わせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション
 2. 各自のテーマ設定と資料収集(1)
 3. 各自のテーマ設定と資料収集(2)
 4. 研究計画・実験計画の立案(1)
 5. 研究計画・実験計画の立案(2)
 6. 先行研究の報告および討論(1)
 7. 中間報告会
 8. 調査・研究の実施(1)
 9. 調査・研究の実施(2)
 10. 調査・研究の実施(3)
 11. 調査・研究の実施(4)
 12. 発表準備
 13. 発表とディスカッション(1)
 14. 発表とディスカッション(2)
 15. 演習IIIのまとめと演習IVに向けた課題設定

使用テキスト: 適宜資料を配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 特になし

科目コード:13202 科目ナンバリング:PC41A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習III m (Child-care Seminar III m)

担当者: 佃 彰一郎

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03 実験・実技・体験
07 発表

授業の概要: 本来、こどもは創造力があり、絵を描いたり、ものを作ったりすることが大好きです。そして、こどもたちの表現の発達には造形的な教材が大きく関わっています。本講座では玩具・カード・絵本・紙芝居などの制作を通して、こどもたちと私たちの表現技術の発達について考え造形表現の段階、論理的学習法、指導法、「表現の楽しさ」を学んでいきます。

キーワード: 保育実習、保育内容、造形表現、子どもの発達

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 造形表現の技能を養い、玩具や絵本など子どもが生活のなかで使う用具をデザインし、制作することができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 制作について発表しレポートにまとめることができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：直接的な評価対象とはしない。ただ

授業計画： 第1回 授業内容、授業計画、評価基準を解説
第2回 パネルシアター1 構成理解
第3回 パネルシアター2 素材研究
第4回 パネルシアター3 制作計画
第5回 パネルシアター4 画材選択
第6回 パネルシアター5 彩色
第7回 パネルシアター6 発表
第8回 クイズ・ゲーム玩具1 構成理解
第9回 クイズ・ゲーム玩具2 制作計画
第10回 クイズ・ゲーム玩具3 画材選択
第11回 クイズ・ゲーム玩具4 立体構成
第12回 クイズ・ゲーム玩具5 彩色
第13回 クイズ・ゲーム玩具6 発表
第14回 作品レポートの計画、写真撮影
第15回 作品レポートの作成

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 多くの参考資料、作品を用意していますので注目してください、制作のヒントが見つかります。
考察、制作の時間が能力向上につながります、より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応： 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項： 事項なし

科目コード：13202 **科目ナンバリング：**PC41A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ n (Child-care Seminar III n)

担当者： 飛田 隆

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 07 発表

08 協同学修

11 討論

授業の概要： 幼児教育に必要な事を学ぶ。

- ・原則として全員が前期はボランティアに参加して発表をする
- ・ボランティアで学んだこと等の振り返り
- ・配慮が必要な子ども
- ・子どもの貧困
- ・子どもの虐待について
- ・環境教育
- ・教材研究
- ・壁面制作
- ・子どもに関連した事柄について

キーワード： 幼児保育・教育、子どもの遊び、保護者支援、教材研究等、保育・教育現場での学び、環境、子どもの問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 子どもの生活や遊びを色々な角度から考え、時には実際に授業の中で遊び道具を作る体験し、指導案が作成できるようにする。

子どもが好む遊びの種類、遊び方などについて子どもに教えられるようにする。

紙芝居の読み方等についても実際に読んで見て読み方等を理解する。

保育園、幼稚園等での環境等についても学び、環境整備ができるようにする。

保護者支援についても学び、支援の方法等について計画できるようにする。

評価方法： レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもの発達の理解、教師のあたえる影響と関わり方について学び、実習、ボランティア等で実践できるようにする。

遊びと環境について、また友達へ関心への広がりについて学び、それぞれが子どもにあたえる事柄について説明ができるようにする。

ボランティアを通して保育士、教員の役割について具体的に学ぶ。

教材研究について学び、実践で活用できるようにする。

配慮の必要な子どもについて学び、適切な指導方法がわかるようにする。

評価方法： レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価とはしないが、教育、保育、子どもに関係することについて本、雑誌、新聞等を読んでおくことが望ましい。

子どもの発達、遊びについて学んでおく。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価とはしない、興味・関心に応じて行うこと。

ボランティアを通して具体的な保育士、幼稚園教師の仕事についての理解を深める。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 必要に応じて発表する。

第1回. 学生の関心のあるテーマについて検討する

第2回. ボランティアについて学ぶ

第3回. 配慮が必要な子どもの課題・問題について学ぶ

第4回. 子どもの虐待について学ぶ

第5回. ボランティアの中間発表(課題を明確にする)

第6回. ボランティアの中間発表(それぞれの疑問について討論する)

第7回. ボランティアの中間発表(それぞれの疑問について討論する)

- 第8回. ボランティアの中間発表(それぞれの疑問について討論する)
- 第9回. ボランティアの中間発表(まとめ)
- 第10回. 切りえ制作
- 第11回. 身近な素材でのおもちゃ作り
- 第12回. 幼児施設の環境について学ぶ
- 第13～15回. 学生の関心のあるテーマについて学ぶ

使用テキスト: 必要に応じて用意する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 子どもに関連する文献等を読んでおくこと。
 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領、子どもに関する新聞、雑誌等も読んでおくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて対応する。

留意事項: 特になし。

科目コード: 13202 **科目ナンバリング:** PC41A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習Ⅲ o (Child-care Seminar III o)

担当者: 中島 美那子

基本情報

年次: 4	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 火曜2限		履修可能学科・専攻: Pc
関連資格:		AL要素: 01.実地訓練 04.課題解決 07.発表 08共同学修 11.討論 15レポート指導 17発問と回答

授業の概要: 本授業は、受講者それぞれが調査・研究を進めているものを発表し、その内容について全員で議論する。
 各自、議論の中で抽出された課題について更なる探究を進め、再び発表を通して皆で共有する。最終的には、各自が論文形式で執筆し、ゼミ内の論文集を作成する。
 また、学外研修として、地域の子育て支援の現場や母子保健関連機関(保健センターなど)に赴き、実践からの学びも深める。

キーワード: 発達支援、子育て支援、特別支援教育、保育臨床、地域連携、チーム保育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 幼児保育演習Iで自ら興味を持ち探究したテーマについて、さらに調査し、分析するなかで知見を深める。
 2. 現代の保育臨床とその課題について説明することができる。

評価方法: レポート、発表、討論内容 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

評価方法: レポート、発表、討論内容 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

1. 研修で出会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 【第1回】 オリエンテーション
【第2回】 研究の進め方(1) 論文とは
【第3回】 研究の進め方(2) 論文講読を通して論文の構成について学ぶ
【第4回】 研究の進め方(3) 論文講読を通して資料収集の方法、資料の読み方を学ぶ
【第5回】 研究の進め方(4) 具体的内容について
【第6回】 就職活動について
【第7回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、討論(1)
【第8回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、討論(2)
【第9回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、討論(3)
【第10回】 親子教室参加の計画(1)
【第11回】 親子教室参加の計画(2)
【第12回】 親子教室での実践活動(1) 学外授業
【第13回】 親子教室での実践活動(2) 学外授業
【第14回】 母子保健事業を通じた実践活動(1) 学外授業
【第15回】 これまでのまとめと後期の授業について

使用テキスト： 授業で使用する資料は、印刷したものを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前学修として、地域母子保健のあり方、子どもの発達支援、保護者の心理やその対応等について知見を深めておくこと。
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行うこと。
また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行うこと。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13202

科目ナンバリング：PC41A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ p(Child-care Seminar Ⅲ p)

担当者： 原口 なおみ

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：02. 模擬実践
13. 役割演技と疑似体験
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： 聞き手となる子どもを理解し、絵本を選び、読み聞かせる模擬保育。
聞き手となる子どもを理解し、覚えるお話を選び、子どもに届くように語る模擬保育。
聞き手となる子どもに合わせてプログラムを立て、おはなし会を構成する模擬保育。
読み聞かせの実践記録『絵本はともだち』を読み、読み継がれてきた作品と、子どもの反応を理解し、子どもの読書体験の意味を識る輪読活動。
子どもの読書体験における昔話の意味を識る『子どもと本第3章』『昔話と子どもの空想』輪読活動
自分の進路を考えて、聞き手となる子どもに合わせてプログラムを立て、おはなし会を行う。
実践記録を参考にして、読み継がれて来た絵本を読み、作品と子どもの反応を理解し、子どもの読書体験の意味を考える。

キーワード： 昔話、語りの様式、空想、

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自分の担当したお話会を、学んだ理論を踏まえ、十分に作品を研究し、適切なプログラムを構成することができる。

評価方法： 担当したお話会での発表およびレポート **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 子どもの発達段階にふさわしい語りかけができる。
自分の選んだお話を、十分に研究・理解し、自分のものにして、その話に合った語り方ができる。

評価方法： 担当したお話会での発表およびレポート **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業時の発表やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深めたとみとめられる考察や、お話や絵本についての探求と気づきが認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容や模擬保育での発表に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃などの不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 課題発表
第2回 『絵本はともだち』『子どもと本』第3章輪読
第3回 お話会 演習(1)
第4回 お話会 演習(2)
第5回 お話会 演習(3)
第6回 お話会 演習(4)
第7回 お話会 演習(5)
第8回 お話会 演習(6)
第9回 お話会 演習(7)
第10回 お話会 演習(8)
第11回 お話会 演習(9)
第12回 お話会 演習(10)
第13回 お話会 演習(11)
第14回 覚えて語るおはなし会(1)
第15回 覚えて語るおはなし会(2)
定期試験

使用テキスト： 中村 証子 著『絵本はともだち』1997年（福音館書店）
松岡 享子 著『子どもと本』岩波新書1533

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習として「おはなしのろうそく1～31」（東京子ども図書館）などの、語るためのテキストを読み込み、語ってみたいお話を見つけておく。
「よみきかせのきほん」（東京子ども図書館）などの、読み継がれてきた絵本のリストを手掛かりに、なるべく多くの絵本を手に取り、読み聞かせをして味わっておく。
前期・後期各1回づつの覚えて語るお話会に備えて、選んだお話を、しっかり自分のものにしておく。
輪読活動テキスト『子どもと本』第3章「昔話の持っている魔法の力」を、あらかじめ読み、レジュメを作ってみる。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：13202 科目ナンバリング：PC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅲ r (Child-care Seminar III r)

担当者： 穂積 訓

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 03.実験・実技・体験
07.発表
08.協同学修
11.討論
14.輪読活動
15.レポート活動

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

当面の授業は課題研究型で行います。授業形態の変更がある場合は、随時連絡します。

自然や環境に関する事象からテーマを選び、小学校や幼児教育の現場で教材として活用できるような調査活動や教材研究に取り組みます。ゼミでは、論文の講読や野外・実験室での調査活動を通して、自然を調べるための方法や態度、身の回りの動植物などの知識や関わり方についてさらに深く学びます。また、実務経験を活かして調査した事象の教材化や成果発表を通して科学的な表現力の向上を図ります。

キーワード： 理科, 野外調査, 自然・環境, 生物, ものの特徴

学位授与方針との関係**▼知識・技能**

到達目標：身近な自然環境について学び、幼児・児童が「ものの性質」や「生物」、「環境」に興味を持ち、生命の尊さを感じられるような教材の作成や自然環境の調査を遂行することができる。

評価方法： レポート
調査報告

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 野外調査や先行研究、実験などを通して調査した成果をまとめ、科学的に表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、課題に対する積極的な取り組みが、成果に深みを与える場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただし学校ボランティアの実践に基づく知見等が成果に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

- 授業計画：**
- 1 はじめに
 - 2 テーマ選定のための予備調査1
 - 3 テーマ選定のための予備調査2
 - 4 テーマ選定のための予備調査3
 - 5 テーマ決定および内容発表
 - 6 事前調査
 - 7 研究計画作成1
 - 8 研究計画作成2
 - 9 調査準備
 - 10 調査活動1
 - 11 調査活動2
 - 12 調査活動3(中間報告)

- 13 調査活動4
- 14 調査活動5
- 15 調査活動6(中間報告)

使用テキスト: 必要な資料を印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 理科, 自然, 環境に関する書籍や論文などを講読して下さい。また, 必要に応じて文献を配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, 授業担当者(穂積)または学務まで連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。詳細は初回時に説明します。

留意事項: 野外活動や試薬を用いた実験を行うことがありますので, 適切な服装等で臨んで下さい。また継続的な観察・測定や報告会などがありますので毎回参加して下さい。

科目コード: 13202 **科目ナンバリング:** PC41A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習III s (Child-care Seminar III s)

担当者: 三橋 翔太

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: PC

関連資格:

AL要素: 02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
11. 討論

授業の概要: 特別支援教育や発達障害と関連して、基礎的な障害児心理学に関する研究方法を学生を相手として実際に取り組む。各自の興味や関心に沿った発表を順番に行う。また、文献や資料の基本的な収集方法、資料の読み方についても講義する。

キーワード: 特別支援教育, 障害児心理学, 心理学研究

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 特別支援教育や発達障害と関連して、自らの興味や関心のあるテーマについての理解を深める。

評価方法: 討論内容, 発表内容

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 心理学研究における基礎的方法論についての理解を深める。

評価方法: 討論内容, 発表内容

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が発表に反映されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接の評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表内容の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 はじめに
 - 2 研究方法の実践(1)論文執筆について
 - 3 研究方法の実践(2)心理統計について—記述統計・推測統計
 - 4 研究方法の実践(3)心理統計について—t検定・相関分析
 - 5 研究方法の実践(4)心理統計について—分散分析・重回帰分析
 - 6 実証研究の知見の教育実践への応用(1)通常学級
 - 7 実証研究の知見の教育実践への応用(2)特別支援学校
 - 8 文献発表と討論(1)担当者1
 - 9 文献発表と討論(2)担当者2
 - 10 文献発表と討論(3)担当者3
 - 11 文献発表と討論(4)担当者4
 - 12 文献発表と討論(5)担当者5
 - 13 文献発表と討論(6)担当者6
 - 14 文献発表と討論(7)担当者7
 - 15 文献発表と討論(8)担当者8
 - 16 まとめ

使用テキスト：特になし。授業内で適宜配布する授業者が独自に作成した資料を使用して進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：予習については、随時配布する障害児心理学に関する文献の該当箇所の印刷したものを配布するので、目を通しておくこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。参考文献：本郷一夫(監修), 湯沢正通(著), 知的発達の理論と支援: ワーキングメモリと教育支援(シリーズ 支援のための発達心理学) ISBN-10: 4760895736

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：特になし。

科目コード：13203 科目ナンバリング：PC42A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：幼児保育演習IV a(Child-care Seminar IV a)

担当者：天野 秀哉

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験
07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要：【授業形態ガイドラインレベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型オンライン授業
児童教育演習I・II・Ⅲで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、個人もしくはグループで調査・研究に取り組む。

キーワード: 研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. データを適切に分析・理解し、論理的な考察ができる
2. 研究内容を理解しやすいプレゼンテーションができる

評価方法: レポート

評価割合: 100%

プレゼンテーション

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する

評価方法: 「知識・技能」と合わせて評価する

評価割合: 「知識・技能」と合わせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 研究計画の確認
 2. 研究の実施:データ収集(1)
 3. 研究の実施:データ収集(2)
 4. 研究の実施:データ収集(3)
 5. 研究の実施:データ分析(1)
 6. 研究の実施:データ分析(2)
 7. 研究の実施:データ分析(3)
 8. 中間報告会
 9. 研究の実施:データの解釈と考察(1)
 10. 研究の実施:データの解釈と考察(2)
 11. 研究の実施:データの解釈と考察(3)
 12. 研究の実施:まとめ
 13. プレゼン資料の作成(1)
 14. プレゼン資料の作成(2)
 15. 研究発表・総括

使用テキスト: 適宜資料を配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 特になし

科目コード:13203 科目ナンバリング:PC42A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習IV c(Child-care Seminar IV c)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 現代の子どもたちはさまざまな問題を抱えています。また、子どもたちの育つ家庭や教育現場にも、さまざまな問題があります。このゼミでは、こうした問題について、心理学的な観点から探究します。その際、「子どもを理解する」ということをゼミの共通テーマとしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。ゼミでは、各自テーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして皆でディスカッションしながら考察を深めます。4年次では、各自が3年次の演習で行った発表をもとに、それらについて、さらに探究を深めていくことを目標とします。

個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。[<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>]

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「現代の子ども・家族をとりまく問題を考える: 心理・教育・福祉からのアプローチ」というテーマのもと、各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究を知る中で、あるいは各々の調査研究を進める中で、簡潔にデータを示したり、分析したり、考察を行なったりすることができる。また、これらを論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身で研究テーマを選び、それについて資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりなどの準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や厳重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:
- 第1回. この授業の到達目標と概略
 - 第2回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)
 - 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)
 - 第4回. 論文発表(1)
 - 第5回. 論文発表(2)
 - 第6回. 論文発表(3)
 - 第7回. 論文発表(4)
 - 第8回. 論文発表(5)
 - 第9回. 論文発表(6)
 - 第10回. 論文発表(7)
 - 第11回. 論文発表(8)
 - 第12回. プレゼンテーション技法の解説(1)
 - 第13回. プレゼンテーション技法の解説(2)
 - 第14回. 演習の総まとめ
 - 第15回. 演習の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」や「家族」の問題や話題に触れるようにしておきましょう。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: 履修にあたっては原則的に3年次からの継続履修者を優先させます。

科目コード:13203

科目ナンバリング:PC42A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習IV f(Child-care Seminar IV f)

担当者: 斎藤 遼太郎

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

17. 発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

特別支援学校の教育について取り上げる。授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。ただし、授業計画に取り上げているテーマは一例であるため、履修者のニーズにより、そのテーマは変更される場合がある。

キーワード： 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

評価方法： プレゼンテーション

評価割合： 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション

第2回 特別支援学校の教育 テーマ決め(履修者のニーズに応じてテーマの変更あり)

第3回～第4回 特別支援学校の教育 キャリア教育

第5回～第6回 特別支援学校の教育 福祉との連携

- 第7回～第8回 特別支援学校の教育 保幼小連携
- 第9回～第10回 特別支援学校の教育 個別の教育支援計画と個別の指導計画
- 第11回～第12回 特別支援学校の教育 センターの機能
- 第13回～第14回 特別支援学校の教育 交流及び共同学習
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくる。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてくる。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 13203 **科目ナンバリング:** PC42A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習IV i (Child-care Seminar IV i)

担当者: 佐藤 真紀

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学習

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
音楽劇を創作し、幼児を対象に上演する。劇で用いるシナリオ、音楽や歌、小道具や大道具を制作し、その過程で学習したことをレポートにまとめて提出する。ただし、受講人数や受講者の音楽状況により内容が変更されることもある。音楽を表現する活動を基本として、柔軟に対応していく。

キーワード: 多様な音楽表現 創作活動 音楽劇

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: これまでに得た音楽や表現に関する知識を活かし、教材研究や音楽劇の創作活動に応用できる技能を身に付けている。

評価方法: 演習課題への取り組み

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児の音楽指導に関わる教材研究や音楽劇の創作活動・発表を通して、豊かな表現力を身に付けている。

評価方法: 演習課題への取り組み
課題レポート

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1 音楽劇(15)大道具作成, 小道具作成、衣装作成準備
 - 2 音楽劇(16)大道具作成
 - 3 音楽劇(17)小道具作成
 - 4 音楽劇(18)衣装作成
 - 5 音楽劇(19)シナリオ本読み
 - 6 音楽劇(20)立ち稽古
 - 7 音楽劇(21)歌の練習・振り付け
 - 8 音楽劇(22)通し稽古-台詞、歌の確認
 - 9 音楽劇(23)通し稽古-大道具、小道具の確認
 - 10 音楽劇(24)通し稽古-楽器の確認
 - 11 音楽劇(25)試演会
 - 12 音楽劇(26)音楽劇上演の準備
 - 13 音楽劇(27)音楽劇上演
 - 14 音楽劇(28)音楽劇の反省
 - 15 音楽劇(29)レポート提出

使用テキスト： 特になし(必要に応じて参考資料を配付します。)

予習・復習のポイントと 実技に関しては、自宅や校内練習室での予習・復習が必要となります。

参考文献・資料等： また創作活動において、授業外での作業が必要になる場合があります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAを確認、又は担当教員に問い合わせてください。

留意事項： 状況により授業計画の順や内容を多少変更する場合があります。

科目コード：13203

科目ナンバリング：PC42A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：幼児保育演習IV k(Child-care Seminar IV k)

担当者：清水悦子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

授業の概要： この授業では、子どもや親の心身の「健康」をテーマに自ら積極的に学び、他者に伝え、ディスカッションを行うことにより、視野を広げつつ自身の興味関心について洞察を深めていく。また、自身の探究するテーマについてリサーチクエスチョンを立て調査・研究を行い、卒業論文や卒業レポートというかたちで学術的にまとめることを目指す。

キーワード： 子ども、親、健康、睡眠、食事、運動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 関心のある健康問題について、多様な資料や文献などにより多面的に調べ、報告することができる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により総合的に評価する。 **評価割合：30%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 関心のある健康関連分野について、学術文献を調べ、調査・研究を通じて論文やレポートにまとめることができる。
グループ内で自らの意見を積極的に発言できる。

評価方法： 授業への参加態度、発表、レポート等により総合的に評価する。 **評価割合：40%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

本演習では、学生自身の主体的な課題への取り組みが自身の論文やレポートの進捗に直接的に影響する。そのため、定められた課題の提出期限の順守を評価対象に含める。

評価割合：30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 卒業論文・卒業レポート作成の進め方
- 第2回 プレゼンテーションを学ぶ
- 第3回 進捗報告発表
- 第4回 進捗報告発表
- 第5回 進捗報告発表
- 第6回 進捗報告発表
- 第7回 進捗報告発表
- 第8回 進捗報告発表
- 第9回 進捗報告発表
- 第10回 進捗報告発表
- 第11回 卒業論文・卒業レポート発表会の進め方
- 第12回 最終発表準備
- 第13回 最終発表準備
- 第14回 振り返りと反省

第15回 卒業論文・卒業レポートの総まとめ

使用テキスト： 必要な資料は適宜配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各学生の興味に添って演習を行うため、発表準備や課題を怠らないこと。
また、日ごろからニュースや新聞等により、子どもや親の健康問題について関心を高めること。

障がいのある履修者への対応： できる限り対応するので、まずは担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13203 **科目ナンバリング：**PC42A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習IV I(Child-care Seminar IV I)

担当者： 高橋 和将

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 03 実験・実技・体験
07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： 演習I・IIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、個人で調査・研究に取り組む。

キーワード： 研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. データを適切に分析・理解し、論理的な考察ができる
2. 研究内容を理解しやすいプレゼンテーションができる

評価方法： レポート

評価割合： 100%

プレゼンテーション

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」と合わせて評価する

評価方法： 「知識・技能」と合わせて評価する

評価割合： 「知識・技能」と合わせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 課題の設定
 2. 研究計画の立案
 3. 研究の実施：データ収集(1)
 4. 研究の実施：データ収集(2)
 5. 研究の実施：データ分析(1)
 6. 研究の実施：データ分析(2)
 7. 研究の実施：データ分析(3)
 8. 中間報告会
 9. 研究の実施：データの解釈と考察(1)
 10. 研究の実施：データの解釈と考察(2)
 11. 研究の実施：データの解釈と考察(3)
 12. 研究の実施：まとめ
 13. プレゼン資料の作成(1)
 14. プレゼン資料の作成(2)
 15. 研究発表・総括

使用テキスト： 適宜資料を配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方、福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：13203 科目ナンバリング：PC42A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習IV m (Child-care Seminar IV m)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験
07 発表

授業の概要： 本来、こどもは創造力があり、絵を描いたり、ものを作ったりすることが大好きです。そして、こどもたちの表現の発達には造形的な教材が大きく関わっています。本講座では玩具・カード・絵本・紙芝居などの制作を通して、こどもたちと私たちの表現技術の発達について考え造形

表現の段階、論理的学習法、指導法、「表現の楽しさ」を学んでいきます。

キーワード： 保育実習、保育内容、造形表現、子どもの発達

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 造形表現の技能を養い、玩具や絵本など子どもが生活のなかで使う用具をデザインし、制作することができる。

評価方法： レポート
発表

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 制作について発表しレポートにまとめることができる。

評価方法： レポート
発表

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。ただ

- 授業計画：**
- 第1回 手袋シアター1 資料の選択
 - 第2回 手袋シアター2 材料素材の選択
 - 第3回 手袋シアター3 制作計画
 - 第4回 手袋シアター4 制作
 - 第5回 紙芝居制作1 資料の選択
 - 第6回 紙芝居制作2 物語の構成
 - 第7回 紙芝居制作3 制作計画
 - 第8回 紙芝居制作4 画材選択
 - 第9回 紙芝居制作5 制作
 - 第10回 絵本制作1 資料の選択
 - 第11回 絵本制作2 物語の構成
 - 第12回 絵本制作3 制作計画
 - 第13回 絵本制作4 画材選択
 - 第14回 絵本制作5 彩色
 - 第15回 作品レポートの作成

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 多くの参考資料、作品を用意していますので注目してください、制作のヒントが見つかります。

考察、制作の時間が能力向上につながります、より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応: 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 電話連絡して下さい、つながらない場合は電話番号にメールをください。

留意事項: 事項なし

科目コード: 13203 **科目ナンバリング:** PC42A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 幼児保育演習IV n(Child-care Seminar IV n)

担当者: 飛田 隆

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 07 発表

08 協同学修

11 討論

授業の概要: 幼児教育に必要な事を学ぶ。

- ・ボランティアで学んだこと等の振り返り
- ・配慮が必要な子ども
- ・子どもの貧困
- ・子どもの虐待について
- ・環境教育
- ・教材研究
- ・壁面制作
- ・子どもに関連した事柄について

キーワード: 幼児保育・教育、子どもの遊び、保護者支援、教材研究等、保育・教育現場での学び、環境、子どもの問題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 子どもの生活や遊びを色々な角度から考え。時には実際に授業の中で遊び道具を作る体験し、指導案が作成できるようにする。

子どもが好む遊びの種類、遊び方などについて子どもに教えられるようにする。

紙芝居の読み方等についても実際に読んで見て読み方等を理解する。

保育園、幼稚園等での環境等についても学び、環境整備ができるようにする。

保護者支援についても学び、支援の方法等について計画できるようにする。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 子どもの発達の理解、教師のあたえる影響と関わり方について学び、実習、ボランティア等で実践できるようにする。

遊びと環境について、また友達へ関心への広がりについて学び、それぞれが子どもにあたえる事柄について説明ができるようにする。

ボランティアを通して保育士、教員の役割について具体的に学ぶ。

教材研究について学び、実践で活用できるようにする。

配慮の必要な子どもについて学び、適切な指導方法がわかるようにする。

評価方法: レポート、発表、製作物への取り組み、授業態度 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価とはしないが、教育、保育、子どもに関係することについて本、雑誌、新聞等を読んでおくことが望ましい。

子どもの発達、遊びについて学んでおく。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価とはしない、興味・関心に応じて行うこと。

ボランティアを通して具体的な保育士、幼稚園教師の仕事についての理解を深める。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 必要に応じて発表する。

- 第1回. ボランティアのまとめの発表
- 第2回. ボランティアのまとめの発表
- 第3回. ボランティアのまとめの発表
- 第4回. ボランティアのまとめの発表
- 第5回. ボランティアでの学びのまとめ(課題を明確にする)
- 第6回. 幼稚園・保育所等の環境整備について学ぶ
- 第7回. 子どもの自発的な遊びについて学ぶ
- 第8回. 各グループでの壁面制作
- 第9回. 各グループでの壁面制作
- 第10回. 各グループでの壁面制作
- 第11回. 保護者支援について学ぶ
- 第12回. 障害のある子どもについて学ぶ
- 第13～15回. 学生の関心のあるテーマについて学ぶ

使用テキスト： 必要に応じて用意する。

予習・復習のポイントと 子どもに関連する文献等を読んでおくこと。

参考文献・資料等： 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領、子どもに関する新聞、雑誌等も読んでおくこと。

障がいのある 可能な限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて研究室で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：13203

科目ナンバリング：PC42A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習Ⅳ ○(Child-care Seminar IV ○)

担当者： 中島 美那子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：**AL要素：** 01.実地訓練
04.課題解決
07.発表
08.共同学修
11.討論
15.レポート指導
17.発問と回答**授業の概要：** 本授業は、受講者それぞれが調査・研究を進めているものを発表し、その内容について全員で議論する。

各自、議論の中で抽出された課題について更なる探究を進め、再び発表を通して皆で共有する。最終的には、各自が論文形式で執筆し、ゼミ内の論文集を作成する。

また、学外研修として、地域の子育て支援の現場や母子保健関連機関(保健センターなど)に赴き、実践からの学びも深める。

キーワード： 発達支援、子育て支援、特別支援教育、保育臨床、地域連携、チーム保育**学位授与方針との関係****▼ 知識・技能****到達目標：** 1. 幼児保育演習I、IIおよびIIIで自ら興味を持ち探究したテーマについて、さらに調査し、分析するなかで知見を深める。
2. 現代の保育臨床とその課題について説明することができる。**評価方法：** レポート、発表、討論内容**評価割合：** 40%**▼ 思考力・判断力・表現力****到達目標：** 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。**評価方法：** レポート、発表、討論内容**評価割合：** 40%**▼ 学修に主体的に取り組む態度**1. 研修で出会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。**評価割合：** 20%**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%**▼ 公正性**

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

評価割合： 0%**▼ その他**

特になし。

評価割合： 特になし。**授業計画：** 【第1回】 それぞれの進捗状況の報告
【第2回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(1)
【第3回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(2)
【第4回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(3)
【第5回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(4)
【第6回】 子育て支援実践活動(1) 学外授業
【第7回】 子育て支援実践活動(2) 学外授業

- 【第8回】 母子保健事業を通した実践活動(1) 学外授業
- 【第9回】 母子保健事業を通した実践活動(2) 学外授業
- 【第10回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(5)
- 【第11回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(6)
- 【第12回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(7)
- 【第13回】 3年生との交流授業(1) 研究論文発表会
- 【第14回】 3年生との交流授業(2) 就職活動について
- 【第15回】 2年間のふり返り

使用テキスト: 授業で使用する資料は、印刷したものを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前学修として、地域母子保健のあり方、子どもの発達支援、保護者の心理やその対応等について知見を深めておくこと。
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確かなものとするための振り返りを行うこと。また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行うこと。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談すること。事前の相談も受け付ける。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項: 特になし。

科目コード:13203 科目ナンバリング:PC42A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児保育演習IV p(Child-care Seminar IV p)

担当者: 原口 なおみ

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:

AL要素: 02. 模擬実践
13. 役割演技と疑似体験
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要: 聞き手となる子どもを理解し、絵本を選び、読み聞かせる模擬保育。
聞き手となる子どもを理解し、覚えるお話を選び、子どもに届くように語る模擬保育。
聞き手となる子どもに合わせてプログラムを立て、おはなし会を構成する模擬保育。
読み聞かせの実践記録『絵本はともだち』を読み、読み継がれてきた作品と、子どもの反応を理解し、子どもの読書体験の意味を識る輪読活動。
子どもの読書体験における昔話の意味を識る『子どもと本第3章』『昔話と子どもの空想』輪読活動
自分の進路を考えて、聞き手となる子どもに合わせてプログラムを立て、おはなし会を行う。
実践記録を参考にして、読み継がれて来た絵本を読み、作品と子どもの反応を理解し、子どもの読書体験の意味を考える。

キーワード: 昔話、語りの様式、空想、

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分の担当したお話会を、学んだ理論を踏まえ、十分に作品を研究し、適切なプログラムを構

成することができる。

評価方法：担当したお話会での発表およびレポート **評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：子どもの発達段階にふさわしい語りかけができる。
自分の選んだお話を、十分に研究・理解し、自分のものにして、その話に合った語り方ができる。

評価方法：担当したお話会での発表およびレポート **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業時の発表やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深めたとみとめられる考察や、お話や絵本についての探求と気づきが認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容や模擬保育での発表に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃などの不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回 課題発表
 - 第2回 『絵本はともだち』輪読
 - 第3回 お話会 演習(1)
 - 第4回 お話会 演習(2)
 - 第5回 お話会 演習(3)
 - 第6回 お話会 演習(4)
 - 第7回 お話会 演習(5)
 - 第8回 お話会 演習(6)
 - 第9回 お話会 演習(7)
 - 第10回 お話会 演習(8)
 - 第11回 お話会 演習(9)
 - 第12回 お話会 演習(10)
 - 第13回 お話会 演習(11)
 - 第14回 覚えて語るおはなし会(1)
 - 第15回 覚えて語るおはなし会(2)
- 定期試験

使用テキスト： 中村 紘子 著 『絵本はともだち』1997年 (福音館書店)
松岡 享子 著 『子どもと本』岩波新書1533

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習として「おはなしのろうそく1～31」(東京子ども図書館)などの、語るためのテキストを読み込み、語ってみたいお話を見つけておく。
「よみきかせのきほん」(東京子ども図書館)などの、読み継がれてきた絵本のリストを手掛かりに、なるべく多くの絵本を手に取り、読み聞かせをして味わっておく。
前期・後期各1回づつの覚えて語るお話会に備えて、選んだお話を、しっかり自分のものにしておく。
輪読活動テキスト『子どもと本』を、あらかじめ読み、レジメを作ってみる。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：13203 **科目ナンバリング：**PC42A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習IV r(Child-care Seminar IV r)

担当者： 穂積 訓

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pc

関連資格：

AL要素： 03.実験・実技・体験
07.発表
08.協同学修
11.討論
14.輪読活動
15.レポート活動

授業の概要： 自然や環境に関する事象からテーマを選び、小学校や幼児教育の現場で教材として活用できるような調査活動や教材研究に取り組みます。ゼミでは、論文の講読や野外・実験室での調査活動を通して、自然を調べるための方法や態度、身の回りの動植物などの知識や関わり方についてさらに深く学びます。また、実務経験を活かして調査した事象の教材化や成果発表を通して科学的な表現力の向上を図ります。

キーワード： 理科, 野外調査, 自然・環境, 生物, ものの特徴

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 身近な自然環境について学び、幼児・児童が「ものの性質」や「生物」、「環境」に興味を持ち、生命の尊さを感じられるような教材の作成や自然環境の調査を遂行することができる。

評価方法： レポート
調査報告

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 野外調査や先行研究、実験などを通して調査した成果をまとめ、科学的に表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、課題に対する積極的な取り組みが、成果に深みを与える場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただし学校ボランティアの実践に基づく知見等が成果に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 はじめに
 - 2 内容改善, 補足のための調査1
 - 3 内容改善, 補足のための調査2
 - 4 内容改善, 補足のための調査3
 - 5 調査資料まとめ1
 - 6 調査資料まとめ2
 - 7 調査資料まとめ3
 - 8 研究成果の中間報告
 - 9 教材・小論文作成1(図表指導)
 - 10 教材・小論文作成2(図表指導)
 - 11 教材・小論文作成3(文章指導)
 - 12 教材・小論文作成4(文章指導)
 - 13 教材・小論文作成5(文章指導)
 - 14 発表資料作成(体裁指導)
 - 15 最終成果発表会2

使用テキスト： 必要な資料を印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 理科, 自然, 環境に関する書籍や論文などを講読して下さい。また, 必要に応じて文献を配布します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので, 授業担当者(穂積)または学務まで連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。詳細は初回時に説明します。

留意事項： 野外活動や試薬を用いた実験を行うことがありますので, 適切な服装等で臨んで下さい。また継続的な観察・測定や報告会などがありますので毎回参加して下さい。

科目コード：13203 科目ナンバリング：PC42A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育演習IV s (Child-care Seminar IV s)

担当者： 三橋 翔太

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：

AL要素：02. 模擬実践
03. 実験・実技・体験
07. 発表
11. 討論

授業の概要： 特別支援教育や発達障害と関連して、各自の興味や関心に沿った発表を順番に行う。ま

た、文献や資料の基本的な収集方法についても講義する。更に、心理学研究における基礎的方法論やその実際について、データ処理法やプレゼンテーション法、特別支援教育との関連性も含めながら概観していく。

キーワード： 特別支援教育, 障害児心理学, 心理学研究

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 特別支援教育や発達障害と関連して、自らの興味や関心のあるテーマについての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 心理学研究における基礎的方法論についての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が発表に反映されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接の評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表内容の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 1 はじめに
- 2 研究方法の実践(1)
- 3 研究方法の実践(2)
- 4 研究方法の実践(3)
- 5 研究方法の実践(4)
- 6 研究方法の実践(5)
- 7 研究方法の実践(6)
- 8 研究方法の実践(7)
- 9 文献発表と討論(1)
- 10 文献発表と討論(2)
- 11 文献発表と討論(3)
- 12 文献発表と討論(4)
- 13 文献発表と討論(5)
- 14 文献発表と討論(6)
- 15 文献発表と討論(7)
- 16 まとめ

使用テキスト： 特になし。授業内で適宜配布する授業者が独自に作成した資料を使用して進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習については、随時配布する障害児心理学に関する文献の該当箇所の印刷したものを配布するので、目を通しておくこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要

語句の内容をまとめておくこと。参考文献: 本郷一夫(監修), 湯沢正通(著), 知的発達の理論と支援: ワーキングメモリと教育支援 (シリーズ 支援のための発達心理学) ISBN-10: 4760895736

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード:13204 科目ナンバリング:PC21C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 音楽C c(Music C c)

担当者: 井上 修

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜6限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

07.発表

08.協同学習

13.役割演技と疑似体験

授業の概要: 子どもの音楽的発達や、保育・幼児教育の場における音楽の意味及び重要性を理解し、幼児の音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につける。

キーワード: 音楽表現 こどもの歌 手遊び 弾き歌い 幼児の音楽遊び 幼児打楽器

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 年齢や月齢に応じた子どもの身体表現や音楽遊び、幼児用楽器に関する知識を深める。また、歌唱、手遊び、弾き歌いなどの実技の習得を通し、保育者として基本的な音楽活動を立案し実践することができる。

評価方法: 定期試験(実技)

評価割合: 50%

小テスト

演習課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った音楽実技について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法: 定期試験(実技)

評価割合: 50%

演習課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的・協同的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性

を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション＜保育者に求められる音楽技能＞
第2回：4月の歌/子どもの身体表現(1)子どもの動き
第3回：4月の歌/子どもの身体表現(2)振りつけと表現
第4回：5月の歌/手遊び演習(1)手遊びを覚えよう
第5回：5月の歌/手遊び演習(2)手遊びを教えよう(模擬保育)
第6回：弾き歌い演習(行事の歌)/幼児の体操曲
第7回：5月の歌/幼児の打楽器(1)種類と奏法
第8回：6月の歌/幼児の打楽器(2)リズム遊び演習
第9回：6月の歌/音の地図をつくろう
第10回：6月の歌/2歳までの音楽活動
第11回：弾き歌い演習(季節の歌)/幼児の体操曲
第12回：7月の歌/音楽遊び(1)3～5歳の音楽遊び
第13回：7月の歌/音楽遊び(2)音楽遊びの発展・展開方法
第14回：8月の歌/音楽遊び(3)音楽遊び創作
第15回：8月の歌/音楽遊び(4)音楽遊び発表(模擬保育)
定期試験(実技)

使用テキスト：【教科書】

- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他 カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

- 『和音伴奏による幼児のうた100曲[第2版]』在原章子他 全音楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社
- 『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえん・ほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

[予習]

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

[復習]

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については IC UNIPA を確認、又は学務部に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13204

科目ナンバリング：PC21C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽C d(Music C d)

担当者：井上 修

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

07.発表

08.協同学習

13.役割演技と疑似体験

授業の概要： 子どもの音楽的発達や、保育・幼児教育の場における音楽の意味及び重要性を理解し、幼児の音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につける。

キーワード： 音楽表現 こどもの歌 手遊び 弾き歌い 幼児の音楽遊び 幼児打楽器

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 年齢や月齢に応じた子どもの身体表現や音楽遊び、幼児用楽器に関する知識を深める。また、歌唱、手遊び、弾き歌いなどの実技の習得を通し、保育者として基本的な音楽活動を立案し実践することができる。

評価方法： 定期試験(実技)
小テスト
演習課題への取り組み

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った音楽実技について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法： 定期試験(実技)
演習課題への取り組み

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的・協同的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション<保育者に求められる音楽技能>
第2回:4月の歌/子どもの身体表現(1)子どもの動き
第3回:4月の歌/子どもの身体表現(2)振りつけと表現
第4回:5月の歌/手遊び演習(1)手遊びを覚えよう
第5回:5月の歌/手遊び演習(2)手遊びを教えよう(模擬保育)
第6回:弾き歌い演習(行事の歌)/幼児の体操曲
第7回:5月の歌/幼児の打楽器(1)種類と奏法
第8回:6月の歌/幼児の打楽器(2)リズム遊び演習

- 第9回:6月の歌/音の地図をつくろう
- 第10回:6月の歌/2歳までの音楽活動
- 第11回:弾き歌い演習(季節の歌)/幼児の体操曲
- 第12回:7月の歌/音楽遊び(1)3～5歳の音楽遊び
- 第13回:7月の歌/音楽遊び(2)音楽遊びの発展・展開方法
- 第14回:8月の歌/音楽遊び(3)音楽遊び創作
- 第15回:8月の歌/音楽遊び(4)音楽遊び発表(模擬保育)
- 定期試験(実技)

使用テキスト:【教科書】

- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他 カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

- 『和音伴奏による幼児のうた100曲[第2版]』在原章子他 全音楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社
- 『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえんほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

[予習]

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

[復習]

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 曜日・時限等については IC UNIPA を確認、又は学務部に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード: 13204 **科目ナンバリング:** PC21C01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 音楽C a (Music C a)

担当者: 長澤 順

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学習

13. 役割演技と疑似体験

授業の概要: 子どもの音楽的発達や、保育・幼児教育の場における音楽の意味及び重要性を理解し、音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につける。

キーワード: 音楽表現 こどもの歌 手遊び 弾き歌い 幼児の音楽遊び 幼児打楽器

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 年齢や月齢に応じた子どもの身体表現や音楽遊び、幼児用楽器に関する知識を深める。また、歌唱、手遊び、弾き歌いなどの実技の習得を通し、保育者として基本的な音楽活動を立案し実践することができる。

評価方法: 定期試験(実技)
少テスト
演習課題への取り組み

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標:

授業で扱った音楽実技について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法: 定期試験(実技)
演習課題への取り組み

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション<保育者に求められる音楽技能>
第2回:4月の歌/子どもの身体表現(1)子どもの動き
第3回:4月の歌/子どもの身体表現(2)振りつけと表現
第4回:5月の歌/手遊び演習(1)手遊びを覚えよう
第5回:5月の歌/手遊び演習(2)手遊びを教えよう(模擬保育)
第6回:弾き歌い演習(行事の歌)/幼児の体操曲
第7回:5月の歌/幼児の打楽器(1)種類と奏法
第8回:6月の歌/幼児の打楽器(2)リズム遊び演習
第9回:6月の歌/音の地図をつくろう
第10回:6月の歌/2歳までの音楽活動
第11回:弾き歌い演習(季節の歌)/幼児の体操曲
第12回:7月の歌/音楽遊び(1)3~5歳の音楽遊び
第13回:7月の歌/音楽遊び(2)音楽遊びの発展・展開方法
第14回:8月の歌/音楽遊び(3)音楽遊び創作
第15回:8月の歌/音楽遊び(4)音楽遊び発表(模擬保育)
定期試験(実技)

使用テキスト: 【テキスト】

- ・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
- ・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス

・『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

『和音伴奏による幼児の歌100曲[第2版]』在原章子他、全音楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社

『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえんほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

〔予習〕

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

〔復習〕

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード：13204 科目ナンバリング：PC21C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽C b(Music C b)

担当者：長澤 順

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学習

13. 役割演技と疑似体験

授業の概要： 子どもの音楽的発達や、保育・幼児教育の場における音楽の意味及び重要性を理解し、音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につける。

キーワード： 音楽表現 こどもの歌 手遊び 弾き歌い 幼児の音楽遊び 幼児打楽器

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 年齢や月齢に応じた子どもの身体表現や音楽遊び、幼児用楽器に関する知識を深める。また、歌唱、手遊び、弾き歌いなどの実技の習得を通し、保育者として基本的な音楽活動を立案し実践することができる。

評価方法： 定期試験(実技)

評価割合： 50%

少テスト

演習課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：

授業で扱った音楽実技について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法: 定期試験(実技)
演習課題への取り組み

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション<保育者に求められる音楽技能>
第2回:4月の歌/子どもの身体表現(1)子どもの動き
第3回:4月の歌/子どもの身体表現(2)振りつけと表現
第4回:5月の歌/手遊び演習(1)手遊びを覚えよう
第5回:5月の歌/手遊び演習(2)手遊びを教えよう(模擬保育)
第6回:弾き歌い演習(行事の歌)/幼児の体操曲
第7回:5月の歌/幼児の打楽器(1)種類と奏法
第8回:6月の歌/幼児の打楽器(2)リズム遊び演習
第9回:6月の歌/音の地図をつくろう
第10回:6月の歌/2歳までの音楽活動
第11回:弾き歌い演習(季節の歌)/幼児の体操曲
第12回:7月の歌/音楽遊び(1)3~5歳の音楽遊び
第13回:7月の歌/音楽遊び(2)音楽遊びの発展・展開方法
第14回:8月の歌/音楽遊び(3)音楽遊び創作
第15回:8月の歌/音楽遊び(4)音楽遊び発表(模擬保育)
定期試験(実技)

使用テキスト: 【テキスト】

・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス

・『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ—これだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

『和音伴奏による幼児の歌100曲[第2版]』在原章子他、全音楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社

『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえんほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと 参考文献・資料等:

この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

[予習]

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

[復習]

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード:13205 科目ナンバリング:PC22C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽D c(Music D c)

担当者:井上 修

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜6限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

07.発表

08.協同学習

13.役割演技と疑似体験

授業の概要: 保育・幼児教育の場における音楽の重要性や子どもの音楽的発達を理解し、音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につけるとともに、幼児用楽器類の扱い方や指導方法を修得する。

キーワード: 音楽表現 弾き歌い 鍵盤ハーモニカ 楽器指導 幼児合奏

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 子どもの歌や手遊びなどの音楽実技のレパートリーを拡げ、応用的なピアノ弾き歌いの技能を修得している。また、子どもの音楽的な発達に合わせた指導方法を理解し、年齢や季節に適した音楽活動を立案、実施できる。幼児に対する楽器類の指導方法や合奏形態について理解する。

評価方法: 定期試験(実技)

評価割合: 50%

小テスト

演習課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った音楽実技や指導法について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法: 定期試験(実技)

評価割合: 50%

演習課題への取り組み

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的・協同的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション＜音楽的視点からみる子どもの発達＞
第2回：9月の歌/音遊び～ミュージックベルを使って～
第3回：9月の歌/リズム遊び・ボディーパーカッション
第4回：10月の歌/子どもの打楽器指導(1)無音程打楽器
第5回：10月の歌/子どもの打楽器指導(2)有音程打楽器
第6回：弾き歌い演習(動物の歌)/手遊び演習
第7回：10月の歌/鍵盤ハーモニカ指導①楽器のつくり、奏法と管理
第8回：11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導②実践と問題点
第9回：11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導③指導計画(指導案作成)
第10回：弾き歌い演習(生活の歌・遊び歌)/手遊び演習
第11回：12月の歌/合奏指導法(1)合奏楽譜の記号、リズム指導
第12回：12月の歌/合奏指導法(2)年齢に合わせた選曲と指導
第13回：12月の歌/合奏指導法(3)練習法と配置、発表
第14回：1月の歌/合奏演習(1)打楽器を用いて
第15回：2月の歌/合奏演習(2)メロディー楽器を用いて
定期試験(実技)

使用テキスト：【教科書】

- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他 カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

- 『和音伴奏による幼児のうた100曲[第2版]』在原章子他 全音楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社
- 『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえんほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

[予習]

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

[復習]

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については IC UNIPA を確認、又は学務部に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13205

科目ナンバリング：PC22C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽D d(Music D d)

担当者：井上 修

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

07.発表

08.協同学習

13.役割演技と疑似体験

授業の概要： 保育・幼児教育の場における音楽の重要性や子どもの音楽的発達を理解し、音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につけるとともに、幼児用楽器類の扱い方や指導方法を修得する。

キーワード： 音楽表現 弾き歌い 鍵盤ハーモニカ 楽器指導 幼児合奏

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 子どもの歌や手遊びなどの音楽実技のレパートリーを拡げ、応用的なピアノ弾き歌いの技能を修得している。また、子どもの音楽的な発達に合わせた指導方法を理解し、年齢や季節に適した音楽活動を立案、実施できる。幼児に対する楽器類の指導方法や合奏形態について理解する。

評価方法： 定期試験(実技)
小テスト
演習課題への取り組み

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った音楽実技や指導法について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法： 定期試験(実技)
演習課題への取り組み

評価割合：50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的・協同的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション<音楽的視点からみる子どもの発達>
第2回:9月の歌/音遊び~ミュージックベルを使って~
第3回:9月の歌/リズム遊び・ボディーパーカッション
第4回:10月の歌/子どもの打楽器指導(1)無音程打楽器

- 第5回:10月の歌/子どもの打楽器指導(2)有音程打楽器
- 第6回:弾き歌い演習(動物の歌)/手遊び演習
- 第7回:10月の歌/鍵盤ハーモニカ指導①楽器のつくり、奏法と管理
- 第8回:11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導②実践と問題点
- 第9回:11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導③指導計画(指導案作成)
- 第10回:弾き歌い演習(生活の歌・遊び歌)/手遊び演習
- 第11回:12月の歌/合奏指導法(1)合奏楽譜の記号、リズム指導
- 第12回:12月の歌/合奏指導法(2)年齢に合わせた選曲と指導
- 第13回:12月の歌/合奏指導法(3)練習法と配置、発表
- 第14回:1月の歌/合奏演習(1)打楽器を用いて
- 第15回:2月の歌/合奏演習(2)メロディー楽器を用いて
- 定期試験(実技)

使用テキスト: 【教科書】

- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他 学研プラス
- 『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他 カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

- 『和音伴奏による幼児のうた100曲[第2版]』在原章子他 全音楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社
- 『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社
- 『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえんほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

〔予習〕

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

〔復習〕

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 曜日・時限等については IC UNIPA を確認、又は学務部に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード:13205

科目ナンバリング:PC22C01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽D a(Music D a)

担当者:長澤 順

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学習

13. 役割演技と疑似体験

授業の概要: 保育・幼児教育の場における音楽の重要性や子どもの音楽的発達を理解し、音楽活動や表

現活動に必要な知識・技能・実践力を身につけるとともに、幼児用楽器類の取り扱いや指導法を修得する。

キーワード： 音楽表現 弾き歌い 鍵盤ハーモニカ 楽器指導 幼児合奏

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 子どもの歌や手遊びなどの音楽実技のレパートリーを拡げ、応用的なピアノ弾き歌いの技能を修得している。また、子どもの音楽的な発達に合わせた指導方法を理解し、年齢や季節に適した音楽活動を立案、実施できる。幼児に対する楽器類の指導方法や合奏形態について理解する。

評価方法： 定期試験(実技)
少テスト
演習課題への取り組み

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った音楽実技や指導法について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法： 定期試験(実技)
演習課題への取り組み

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション<音楽的視点からみる子どもの発達>
第2回:9月の歌/音遊び~ミュージックベルを使って~
第3回:9月の歌/リズム遊び・ボディーパーカッション
第4回:10月の歌/子どもの打楽器指導(1)無音程打楽器
第5回:10月の歌/子どもの打楽器指導(2)有音程打楽器
第6回:弾き歌い演習(動物の歌)/手遊び演習
第7回:10月の歌/鍵盤ハーモニカ指導①楽器のつくり、奏法と管理
第8回:11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導②実践と問題点
第9回:11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導③指導計画(指導案作成)
第10回:弾き歌い演習(生活の歌・遊び歌)/手遊び演習
第11回:12月の歌/合奏指導法(1)合奏楽譜の記号、リズム指導
第12回:12月の歌/合奏指導法(2)年齢に合わせた選曲と指導
第13回:12月の歌/合奏指導法(3)練習法と配置、発表
第14回:1月の歌/合奏演習(1)打楽器を用いて
第15回:2月の歌/合奏演習(2)メロディー楽器を用いて

定期試験(実技)

使用テキスト: 【テキスト】

・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス

・『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

『和音伴奏による幼児の歌100曲[第2版]』在原章子他、全音楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社

『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用版ようちえんほいくえんのうた大集合決定版』デプロMP

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

[予習]

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

[復習]

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード:13205 科目ナンバリング:PC22C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 音楽D b(Music D b)

担当者: 長澤 順

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜5限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学習

13. 役割演技と疑似体験

授業の概要: 保育・幼児教育の場における音楽の重要性や子どもの音楽的発達を理解し、音楽活動や表現活動に必要な知識・技能・実践力を身につけるとともに、幼児用楽器類の取り扱いや指導法を修得する。

キーワード: 音楽表現 弾き歌い 鍵盤ハーモニカ 楽器指導 幼児合奏

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 子どもの歌や手遊びなどの音楽実技のレパートリーを拡げ、応用的なピアノ弾き歌いの技能を修得している。また、子どもの音楽的な発達に合わせた指導方法を理解し、年齢や季節に適した音楽活動を立案、実施できる。幼児に対する楽器類の指導方法や合奏形態について理解する。

評価方法: 定期試験(実技)

評価割合: 50%

少テスト
演習課題への取り組み

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った音楽実技や指導法について、自ら課題を設定し、その解決を図ろうとする。それにより、技能に関する成果が認められる。

評価方法: 定期試験(実技)
演習課題への取り組み

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修により成果等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション<音楽的視点からみる子どもの発達>
第2回:9月の歌/音遊び~ミュージックベルを使って~
第3回:9月の歌/リズム遊び・ボディーパーカッション
第4回:10月の歌/子どもの打楽器指導(1)無音程打楽器
第5回:10月の歌/子どもの打楽器指導(2)有音程打楽器
第6回:弾き歌い演習(動物の歌)/手遊び演習
第7回:10月の歌/鍵盤ハーモニカ指導①楽器のつくり、奏法と管理
第8回:11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導②実践と問題点
第9回:11月の歌/鍵盤ハーモニカ指導③指導計画(指導案作成)
第10回:弾き歌い演習(生活の歌・遊び歌)/手遊び演習
第11回:12月の歌/合奏指導法(1)合奏楽譜の記号、リズム指導
第12回:12月の歌/合奏指導法(2)年齢に合わせた選曲と指導
第13回:12月の歌/合奏指導法(3)練習法と配置、発表
第14回:1月の歌/合奏演習(1)打楽器を用いて
第15回:2月の歌/合奏演習(2)メロディー楽器を用いて
定期試験(実技)

使用テキスト: 【テキスト】

・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス
・『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 改訂版』大海由佳・古谷和子他、学研プラス

・『一保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへーこれだけは知ってほしい楽典はじめの一步』木村鈴代・田中美江他、カワイ出版

【参考書】※購入は不要です

『和音伴奏による幼児の歌100曲[第2版]』在原章子他、全音楽譜出版社

『簡易ピアノ伴奏による 実用こどもの歌曲200選』ドレミ楽譜出版社

『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： この授業は、実技の修得を目的としています。そのため、歌唱や手遊び、ピアノ実技、ピアノ伴奏による弾き歌いについては、自宅や学内練習室での予習・復習・自主練習が特に必要となります。

〔予習〕

事前に配布した資料に基づき、各回に実践する歌や手遊びの譜読み、練習をおこなってください。各回の予習には15分程度かかると想定されます。

〔復習〕

音楽技能を習得するために、授業で扱った歌や手遊びの反復練習を必ずおこなってください。各回の復習には30分程度かかると予想されます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード：13206 **科目ナンバリング：PC21C02E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：美術III(Fine Arts III)

担当者：信太 進

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学修

授業の概要：

授業の課題では、シンプルかつ変化に富んだ表現ができるようにしました。また、児童教育や幼児教育の現場で役立つ手法も取り入れ、幅広い視点で表現できるようにしています。単に、美術を楽しんだり創作体験をしたりするだけではなく、この授業を通して、美術表現の技能と、それを教育活動に生かす力を高めます。

キーワード： 造形、表現、図画工作、教材研究

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 児童教育や幼児教育における美術や造形表現の基本的な知識・技能について、十分に内容を理解し修得することができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 作る力と描く力、構成し表現する力を高め、基礎的な造形力を伸ばすことができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合：50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品等に人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション
 - 2 平面デザイン1(計画)
 - 3 平面デザイン2(材料)
 - 4 平面デザイン3(構成)
 - 5 平面デザイン4(まとめ)
 - 6 立体デザイン1(計画)
 - 7 立体デザイン2(材料)
 - 8 立体デザイン3(構成1)
 - 9 立体デザイン4(構成2)
 - 10 立体デザイン5(まとめ)
 - 11 インスタレーション1(計画)
 - 12 インスタレーション2(材料と準備)
 - 13 インスタレーション3(制作1)
 - 14 インスタレーション4(制作と発表準備)
 - 15 インスタレーション5(発表)

使用テキスト： 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習・復習のポイント
・授業前には、その回のテーマについて調べる。
・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料
特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。

科目コード：13207 科目ナンバリング：PC22C02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：美術IV(Fine Arts IV)

担当者：信太 進

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修

授業の概要： 授業の課題では、シンプルかつ変化に富んだ表現ができるようにしました。また、児童教育や幼児教育の現場で役立つ内容も取り入れ、幅広い視点で表現できるようにしています。単に、美術を楽しんだり創作体験をしたりするだけではなく、この授業を通して、美術表現の技

能と教育活動に生かす力を高めます。

キーワード： 造形、表現、美術教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 児童教育や幼児教育における美術や造形表現の基本的な知識・技能について、十分に内容を理解し修得することができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 作る力と描く力、構成し表現する力を高め、基礎的な造形力を伸ばすことができる。また、造形表現の指導案を立案する発想力を伸ばすことができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 1 オリエンテーション
 - 2 フロッタージュとバチック1(計画)
 - 3 フロッタージュとバチック2(素材制作)
 - 4 フロッタージュとバチック3(構成)
 - 5 フロッタージュとバチック4(まとめ)
 - 6 絵本とイラストレーション1(計画)
 - 7 絵本とイラストレーション2(下絵)
 - 8 絵本とイラストレーション3(着色1)
 - 9 絵本とイラストレーション4(着色2)
 - 10 絵本とイラストレーション5(仕上げ)
 - 11 折り紙1
 - 12 折り紙2
 - 13 切り紙1
 - 14 切り紙2
 - 15 まとめ

使用テキスト： 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント

参考文献・資料等：

- ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
- ・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料

特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。
・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13208 科目ナンバリング：PC20C30K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもの保健(Child Health)

担当者：清水悦子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

授業の概要： 保育士資格を取得するには必ず履修する必要がある科目である。子どもに関わる職業に就くということは、子どもの命を預かり、良好な環境を提供することでもある。本授業では、子どもの体の仕組みや心身の発育発達過程、子どものかかりやすい病気や予防、感染症対策、事故防止と安全な環境づくり健康増進を図る保健活動について、担当教員の臨床経験を共有しながら学ぶ。講義・グループ協議・事例検討なども取り入れて保育現場で行うべき保健活動について考えていく。学生自身が健康に関心を持つこともねらいとしている。

キーワード： 子どもの発達、感染症、事故防止、環境づくり

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った子どもの権利・健康・疾患等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。 ※評価Aの基準とする。

評価方法： 各回で課せられる課題、および期末試験

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容から、子どもの安全対策や健康管理等の保健活動について、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 各回で課せられる課題、および期末試験

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 ガイダンス／保健活動の意義と目的
- 第2回 母子保健の意義および現状と課題
- 第3回 子どもの身体発育と運動機能の発達
- 第4回 生理機能の発達と生活習慣
- 第5回 地域における保健活動と子どもの虐待防止
- 第6回 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握
- 第7回 子どもの病気①子どもの免疫の発達と感染症の特徴
- 第8回 子どもの病気②感染症の予防および適切な対応
- 第9回 子どもの病気③救急疾患の特徴と適切な対応
- 第10回 子どもの病気④新生児期の病気と先天性疾患
- 第11回 子どもの病気⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応
- 第12回 子どもの病気⑥慢性疾患の特徴と適切な対応
- 第13回 保護者との情報共有と家族の支援
- 第14回 子どもの健康診断と関係機関との連携
- 第15回 振り返り

定期試験

使用テキスト：「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改定第2版」小林美由紀（編著）、診断と治療社、2021年

予習・復習のポイントと 前回の授業の復習をして次の授業に臨むこと(90分)。
参考文献・資料等：

障がいのある できる限り対応するので、まずは担当教員もしくは学務部に相談すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 2回目の授業から、追加の授業資料の紙での配布は行いません。
授業時のデバイスの使用については初回授業時にアナウンスします。

科目コード：13210 科目ナンバリング：PC20C18E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児保育特殊演習A(Special Seminar in Childcare A)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻： Pe Pc

関連資格：

AL要素： 03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要： ・デッサン、水彩画、絵画表現、イラスト表現を学ぶ。
・絵画における具象表現の基礎である透視図法を理解する。

キーワード： 具象絵画、透視図法、水彩画

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 正しい透視図法を理解して絵画表現を行う。

評価方法： 作品提出

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 具象絵画表現を正しく理解出来る。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 直接的な評価対象とはしない。ただ

- 授業計画:
- 第1回 絵画表現の歴史
 - 第2回 透視図法の理解
 - 第3回 クロッキーの考え方
 - 第4回 構図の理解
 - 第5回 デッサン1 立方体を描く
 - 第6回 デッサン2 球体を描く
 - 第7回 デッサン3 円柱を描く
 - 第8回 デッサン3 円柱を描く
 - 第9回 資料(写真、絵本など)を見て描く
 - 第10回 水彩画の制作1 モチーフを考える
 - 第11回 水彩画の制作2 絵画表現の計画
 - 第12回 水彩画の制作3 構図を考える
 - 第13回 水彩画の制作4 色彩の構成
 - 第14回 水彩画の制作5 明暗の構成
 - 第15回 絵画表現の多様性

使用テキスト:

授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。

参考文献・資料等: 考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項: ・初回の授業には必ず出席してください、欠席する場合は事前にメールで連絡すること。
・個人で使用する筆記具、スケッチブックは各自で購入してください。(合計 1,000円程度)
・教室の都合上、履修者定員があります。(24名程度)

科目コード: 13211

科目ナンバリング: PC20C19E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 幼児保育特殊演習B(Special Seminar in Childcare B)

担当者: 信太 進

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：Pe Pc

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修

授業の概要： 授業には、大きく2つの課題を設定しました。それぞれの課題では、様々な表現技術を用い変化に富んだ表現ができるようにしました。さらに、保育や幼児教育の現場で役立つ手法も取り入れ、幅広い視点で表現できるようにしています。また、グループワークによる共同制作を基本とした作品作りを行います。

キーワード： 造形、表現、幼児教育、美術教材

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 保育や幼児教育における美術や造形表現の基本的な知識・技能について、十分に内容を理解し修得することができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 作る力と描く力、構成し表現する力を高め、基礎的な造形力を伸ばすことができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 授業の説明とグループ編成について
2. 壁面制作1 (計画: テーマと日程)
3. 壁面制作2 (制作: 素材と構成計画)
4. 壁面制作3 (制作: 接着と構成)
5. 壁面制作4 (制作: 壁面と掲示効果)
6. 壁面制作5 (制作: 仕上げ)
7. 壁面制作6 (発表準備)
8. 発表1
9. プレイハウス1 (計画: テーマと日程)
10. プレイハウス2 (制作: 素材と構成計画)
11. プレイハウス3 (制作: デザインと構成)
12. プレイハウス4 (制作: 配色と構成)

- 13. プレイハウス5 (制作:安全性と耐久性)
- 14. プレイハウス6 (発表準備)
- 15. 発表2

使用テキスト: 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント
 ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
 ・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料
 特に指定しません。必要な資料は、授業時に指示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。
 ・可能ならデバイスを持参してください。
 ・デザイン館の教室を使用しますので、受講数を抽選などで制限することがあります。

科目コード: 13212 **科目ナンバリング:** PC20C20E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 幼児保育特殊演習C(Special Seminar in Childcare C)

担当者: 国府田 はるか

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 02.模擬実践
 03.実験・実技・体験
 07.発表
 08.協同学修
 11.討論
 13.役割演技と疑似体験
 16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 多様なダンスや自由な即興表現を通して、子どもと関わる上で求められる創造的で個性豊かな身体表現を実践します。また、グループ創作を通じて表現の多様性を認め、子どもや他者の表現を捉え受け入れ共感する姿勢を養います。また、担当者のダンサー・振付家としての実務経験や幼児教育・保育現場でのファシリテーターの経験を生かし、実演パフォーマンスを交えながら、望ましい身体表現について理論と実践の両面から追求していきます。

キーワード: 身体表現、創作ダンス、ダンス教育、子どもと身体表現、ファシリテーター、バレエ、ベリーダンス、フラダンス、ヒップホップダンス、ジャズダンス、モダンダンス、ヨガ、ピラティス、マッサージ、エアロビクス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 子どもの表現をこころとからだ全体で感受し共感し促し広げることができます。

評価方法: 実技

評価割合: 40%

発表
 ディスカッション
 レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 生き生きと豊かに表現することのできる柔らかなからだを修得することができます。

評価方法: 実技

評価割合: 40%

発表

ディスカッション

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

実技や発表での主体的な取り組みや創造的な表現、およびディスカッションやレポートの内容において、テーマについての理解や気づきが記載されているかどうかを評価の対象とします。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が、授業中の発言やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがあります。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言やレポートの記述において人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となります。

評価割合: 0%

▼その他

実技、グループワーク、ディスカッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の意見や表現を受け入れ共感するとともに、共に創りあう姿勢を心がけてください。

評価割合: 実技、グループワーク、ディスカッション

授業計画: 【第01回】自己紹介、授業概要説明、運動経験アンケート

【第02回】からだほぐしのフロアストレッチ、ヨガ、幼児向けのダンス、ミニ発表

【第03回】エアロビクス、即興表現(音を身体で表現する、床に溶ける・再生する)、ディスカッション、振り返りレポート

【第04回】からだほぐしのフロアストレッチ、ヨガ、ピラティス

【第05回】ヒップホップダンスの基本テクニック、ヒップホップダンス振付、ミニ発表

【第06回】ジャズダンスの基本テクニック、ジャズダンス振付、ミニ発表、ディスカッション、振り返りレポート

【第07回】からだほぐしのフロアストレッチ、ヨガ

【第08回】フラダンスの基本テクニック、フラダンス振付、ミニ発表、屋外での自然スケッチ

【第09回】モダンダンスの基本テクニック、ミニ発表、ディスカッション、振り返りレポート

【第10回】からだほぐしのフロアストレッチ、バレエの基本テクニック、マッサージ

【第11回】ベリーダンスの基本テクニック、ベリーダンス振付、ミニ発表

【第12回】子どもと身体表現(ミラーマン、エアーボール、Yesマン、Noマン、スプーンとフォーク、人間知恵の輪)、ディスカッション、振り返りレポート

【第13回】からだほぐしのフロアストレッチ、2人組あそび、バレエの基本テクニック、マッサージ

【第14回】子どもと身体表現(新聞紙遊び、絵本と身体表現、布と身体表現)、ミニ発表、ディスカッション

【第15回】まとめ、振り返りレポート

使用テキスト: 授業で使用する資料(映像・プリント)は、すべてオンライン上(OneDrive等)に示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習にあたっては、オンライン上(OneDrive等)に示した解説動画(ストレッチ・ヨガ・ピラティス・幼児向けダンス・バレエ・フラ・ベリーダンス・ヒップホップダンス・ジャズダンス、モダンダンス、エアロビクス等)を参照してください。経験したことのないダンスやエクササイズについては、授業前に成り立ちや特徴等を調べておいてください。授業後には、授業で扱った身体活動を継続し、子どもの身体表現については幼児教育・保育現場で実践するなどして自主学修を重ね、実践知を深めることが望ましいです。心身のコンディションに関心を持ち、向上させていくための主体的な身体活動を日々実践するように心がけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。参考書として以下を紹介します。西洋子・本山益子・岡本雅子 編著「保育内容 表現 からだからはじまる保育のアート—創造と表現がつながってあふれる—」(2018)市村出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: メール(haruka.226@ezweb.ne.jp)等で対応します。

留意事項: この授業では運動に適した動きやすい服装を着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。

科目コード:13213 科目ナンバリング:PC20C23K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 子ども家庭支援の心理学 a(Child and Family Support Psychology a)

担当者: 照山 久美子

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 03・11・13・16・17

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

ヒトは、他の生物と比べて、環境から後天的に学習する能力が著しく大きな生き物です。「子どもの最善の利益」を計ろうとするには、子どもの置かれている環境としての家庭について十分に理解する必要があります。そこで、本講座では、変化のスピードの速い現代社会の中で、子育て環境がどう変化してきたのか、そこから生じる子育ての課題は何か、その解決に向けて保育者が担う役割は何か、それは、具体的にどう実践されるか、等について学びます。そのために実践をより現実的に想定できるよう、母子保健心理職の実務経験から、事例や場面を豊富に提示し、ロールプレイやワークシートの作成、ケーススタディ等の活動によって、理解を深めていきたいと思います。

キーワード: 保護者支援 子どもの権利条約 子どもの最善の利益 発達課題 セルフエスティームの確立 リフレクティングチームアプローチ

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 子ども家庭支援の理念を理解し、主に保護者支援のために必要な技能や知識についてを含めた問いに概ね80%正答することができる。

評価方法: 14回実施する小テスト

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見、あるいは、これまでの生活経験をふまえて考察し、論理的かつオリジナリティーのある文章表現をもって自らの所見を述べるこ

できる。

評価方法:レポート作成

評価割合:30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
- 第1回:保護者支援を中心とした子ども家庭支援の意義
 - 第2回:ライフサイクルにおける発達段階と発達課題
 - 第3回:家庭や家族の意義と機能
 - 第4回:社会状況の変化に伴う子育ての変化とその課題
 - 第5回:子ども家庭支援の原理
 - 第6回:子ども家庭支援の実践に必要な基本的態度
 - 第7回:特別な配慮を要する保護者への支援(1)ー精神的不調をかかえる保護者ー
 - 第8回:特別な配慮を要する保護者への支援(2)ー対応が難しい保護者ー
 - 第9回:特別な配慮を要する保護者への支援(3)ー発達の偏りが気になる子どもの保護者ー
 - 第10回:特別な配慮を要する保護者への支援(4)ー神経発達症の子どもの保護者ー
 - 第11回:特別な配慮を要する保護者への支援(5)ー不適切な養育が日常的に観察される保護者ー
 - 第12回:特別な配慮を要する保護者への支援(6)ー多くの問題をかかえる保護者ー
 - 第13回:子どもの心の健康と生育環境
 - 第14回:子ども家庭支援における事例検討の方法
 - 第15回:子ども家庭支援における事例検討の実際

使用テキスト: 授業で使用する資料は、事前にユニパに掲示するので持参すること。その他に、必要に応じて授業時に配布する。

予習・復習のポイント 事前に配布された資料を熟読して授業に臨むこと。(20分)

参考文献・資料等: 授業中に配布された資料を熟読して復習すること。

宿題をすること。(20分)

小テストの誤りを資料を参照しながら確認し、十分理解すること。

自主学修として、子どもに関する新聞記事をスクラップすることを勧奨する。

参考文献 子どもによる子どものための「子どもの権利条約」 小口尚子・福岡鮎美 文 小学館

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部等に、仲介を依頼してください。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード:13213

科目ナンバリング:PC20C23K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 子ども家庭支援の心理学 b (Child and Family Support Psychology b)

担当者: 照山 久美子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜6限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 03・11・13・16・17

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

ヒトは、他の生物と比べて、環境から後天的に学習する能力が著しく大きな生き物です。「子どもの最善の利益」を計ろうとするには、子どもの置かれている環境としての家庭について十分に理解する必要があります。そこで、本講座では、変化のスピードの速い現代社会の中で、子育て環境がどう変化してきたのか、そこから生じる子育ての課題は何か、その解決に向けて保育者が担う役割は何か、それは、具体的にどう実践されるか、等について学びます。そのために実践をより現実的に想定できるよう、母子保健心理職の実務経験から、事例や場面を豊富に提示し、ロールプレイやワークシートの作成、ケーススタディ等の活動によって、理解を深めていきたいと思えます。

キーワード: 保護者支援 子どもの権利条約 子どもの最善の利益 発達課題 セルフエスティームの確立 リフレクティングチームアプローチ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 子ども家庭支援の理念を理解し、主に保護者支援のために必要な技能や知識についてを含めた問いに概ね80%正答することができる。

評価方法: 14回実施する小テスト

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見、あるいは、これまでの生活経験をふまえて考察し、論理的かつオリジナリティーのある文章表現をもって自らの所見を述べるができる。

評価方法: レポート作成

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 保護者支援を中心とした子ども家庭支援の意義
第2回: ライフサイクルにおける発達段階と発達課題

- 第3回:家庭や家族の意義と機能
- 第4回:社会状況の変化に伴う子育ての変化とその課題
- 第5回:子ども家庭支援の原理
- 第6回:子ども家庭支援の実践に必要な基本的態度
- 第7回:特別な配慮を要する保護者への支援(1)―精神的不調をかかえる保護者―
- 第8回:特別な配慮を要する保護者への支援(2)―対応が難しい保護者―
- 第9回:特別な配慮を要する保護者への支援(3)―発達の違いが気になる子どもの保護者―
- 第10回:特別な配慮を要する保護者への支援(4)―神経発達症の子どもの保護者―
- 第11回:特別な配慮を要する保護者への支援(5)―不適切な養育が日常的に観察される保護者―
- 第12回:特別な配慮を要する保護者への支援(6)―多くの問題をかかえる保護者―
- 第13回:子どもの心の健康と生育環境
- 第14回:子ども家庭支援における事例検討の方法
- 第15回:子ども家庭支援における事例検討の実際

使用テキスト: 授業で使用する資料は、事前にユニバに掲示するので持参すること。その他に、必要に応じて授業時に配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前に配布された資料を熟読して授業に臨むこと。(20分)
 授業中に配布された資料を熟読して復習すること。
 宿題をすること。(20分)
 小テストの誤りを資料を参照しながら確認し、十分理解すること。
 自主学修として、子どもに関する新聞記事をスクラップすることを奨励する。
 参考文献 子どもによる子どものための「子どもの権利条約」 小口尚子・福岡結美 文 小学館

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部等に、仲介を依頼してください。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード:13214 科目ナンバリング:PC10C11K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児教育課程論 a(Early Childhood Education Curriculum Theory a)

担当者: 高野 暁子

基本情報

年次:1	単位数:2	授業形式:講義
曜時:火曜2限		履修可能学科・専攻: Pc
関連資格:教職		AL要素: 07 発表 08 協同学修 16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 子どもの育ちに明確な道筋をつけるのが「教育課程」です。この授業では、受講生の皆さんが学んでいく内容を、以下の三つにわけています。

- (1)「教育課程」の概念や法的位置づけを明確にし、幼稚園教育要領の性格、変遷の内容的な特徴およびその社会的背景について取り扱う
 - (2)教育課程の原理と方法・内容、地域と子どもの関わりについての理解、教育課程の社会的な役割を取り上げる
 - (3)幼稚園教育の評価と「カリキュラム・マネジメント」の考え方およびその具体的な「カリキュラムづくり」を取り上げる
- 幼児教育課程の知識を体系的に示すとともに、現在求められている教育上の留意点についても見ていきます。

キーワード: 幼児教育の基本、幼稚園教育要領、教育課程編成の原理と方法、子どもの発達、子育て支援体制、災害への備え、カリキュラム・マネジメント、幼小連携教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で取り上げた幼児教育課程の基本的な知識について、明確に理解することができる。

評価方法: 学期末のレポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げた内容を踏まえて、幼児教育課程の編成について具体的に考え、表現することができる。

評価方法: 編成に向けての取り組みと発表

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組み、発表の工夫が求められます。評価の対象とはしません。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、嚴重注意のうえ減点の対象となることがあります。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画:

- 第1回: 幼稚園・学校教育の役割と教育課程の概念: 幼稚園・学校教育の役割と教育課程の概念について
- 第2回: 幼児教育・学童期教育の必要性和特徴: 幼児期および学童期教育の必要性和特徴について
- 第3回: 幼児教育の思想と教育課程: 幼児教育の歴史・思想と教育課程について
- 第4回: 「幼稚園教育要領」の内容と領域: 「幼稚園教育要領」の法的位置づけと目的・内容・領域について
- 第5回: 「幼稚園教育要領」の内容的変遷: 「教育要領」の変遷と時代的背景について
- 第6回: 教育課程の編成原理と方法: 教育課程編成の考え方と手順について
- 第7回: 子どもの発達と教育課程の編成: 「子どもの成長」をふまえた教育課程の編成について
- 第8回: 教育課程の機能: 教育課程の「潜在的な働き」と「顕在的な働き」について
- 第9回: 教育課程の類型と内容: 「系統的なカリキュラム」と「子ども中心のカリキュラム」の基本類型および「領域的カリキュラム」について
- 第10回: 子どもの遊びとカリキュラム: 遊びを取り入れたカリキュラムの編成について
- 第11回: 地域と連携したカリキュラム: 小学校や地域人材の支援体制と連携したカリキュラムについて
- 第12回: 安全・防災教育のカリキュラム: 安全・防災教育のためのカリキュラムについて
- 第13回: 幼稚園教育・学校教育の評価とカリキュラム・マネジメント: 園・学校のPDCA評価によるカリキュラム・マネジメントについて
- 第14回: 幼稚園教育に対する社会的役割: 「幼小連携教育」とその社会的要請について
- 第15回: 幼稚園教育の現状と課題: 現代の幼児教育の課題に対応した教育課程編成について

使用テキスト: 授業で使用する資料はTeams等に掲示しますが、「幼稚園教育要領解説」(平成29年告示 文部科学省)を携帯しておくことが望ましい。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修を深めるとともに、時事的な教育の問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 公開されているメール等で連絡してください。

留意事項: デバイス必携とします。

科目コード:13214 科目ナンバリング:PC10C11K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 幼児教育課程論 b(Early Childhood Education Curriculum Theory b)

担当者: 高野 暁子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職

AL要素: 07 発表

08 協同学修

16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 子どもの育ちに明確な道筋をつけるのが「教育課程」です。この授業では、受講生の皆さんが学んでいく内容を、以下の三つにわけています。

(1)「教育課程」の概念や法的位置づけを明確にし、幼稚園教育要領の性格、変遷の内容的な特徴およびその社会的背景について取り扱う

(2)教育課程の原理と方法・内容、地域と子どもの関わりについての理解、教育課程の社会的な役割を取り上げる

(3)幼稚園教育の評価と「カリキュラム・マネジメント」の考え方およびその具体的な「カリキュラムづくり」を取り上げる

幼児教育課程の知識を体系的に示すとともに、現在求められている教育上の留意点についても見ていきます。

キーワード: 幼児教育の基本、幼稚園教育要領、教育課程編成の原理と方法、子どもの発達、子育て支援体制、災害への備え、カリキュラム・マネジメント、幼小連携教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で取り上げた幼児教育課程の基本的な知識について、明確に理解することができる。

評価方法: 学期末のレポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げた内容を踏まえて、幼児教育課程の編成について具体的に考え、表現することができる。

評価方法: 編成に向けての取り組みと発表

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組み、発表の工夫が求められません。評価の対象とはしません。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、厳重注意のうえ減点の対象となることがあります。

評価割合：0%

▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

授業計画： 第1回：幼稚園・学校教育の役割と教育課程の概念：幼稚園・学校教育の役割と教育課程の概念について
第2回：幼児教育・学童期教育の必要性和特徴：幼児期および学童期教育の必要性和特徴について
第3回：幼児教育の思想と教育課程：幼児教育の歴史・思想と教育課程について
第4回：「幼稚園教育要領」の内容と領域：「幼稚園教育要領」の法的位置づけと目的・内容・領域について
第5回：「幼稚園教育要領」の内容的変遷：「教育要領」の変遷と時代的背景について
第6回：教育課程の編成原理と方法：教育課程編成の考え方と手順について
第7回：子どもの発達と教育課程の編成：「子どもの成長」をふまえた教育課程の編成について
第8回：教育課程の機能：教育課程の「潜在的な働き」と「顕在的な働き」について
第9回：教育課程の類型と内容：「系統的なカリキュラム」と「子ども中心のカリキュラム」の基本類型および「領域的カリキュラム」について
第10回：子どもの遊びとカリキュラム：遊びを取り入れたカリキュラムの編成について
第11回：地域と連携したカリキュラム：小学校や地域人材の支援体制と連携したカリキュラムについて
第12回：安全・防災教育のカリキュラム：安全・防災教育のためのカリキュラムについて
第13回：幼稚園教育・学校教育の評価とカリキュラム・マネジメント：園・学校のPDCA評価によるカリキュラム・マネジメントについて
第14回：幼稚園教育に対する社会的役割：「幼小連携教育」とその社会的要請について
第15回：幼稚園教育の現状と課題：現代の幼児教育の課題に対応した教育課程編成について

使用テキスト： 授業で使用する資料はTeams等に掲示しますが、「幼稚園教育要領解説」(平成29年告示 文部科学省)を携帯しておくことが望ましい。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修を深めるとともに、時事的な教育の問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 公開されているメール等で連絡してください。

留意事項： デバイス必携とします。

科目コード：13215

科目ナンバリング：PC20C27E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 子育て支援演習 a(Childcare Support Seminar a)

担当者: 安藤 みゆき

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜6限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要:

保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例を通して具体的に説明していきます。

キーワード: 子育て支援、関係機関との連携、多様なニーズを抱える家庭

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開と具体的に理解できる。

評価方法: レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって自身の知見によって追加された成果等がレポート内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象としない。ただしボランティア活動によって深められた知見がレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 日常的・継続的な関りを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
第2回 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
第3回 子ども及び保護者の状況・状態の把握
第4回 支援の計画と環境の構成
第5回 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
第6回 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
第7回 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
第8回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

使用テキスト: 「保育者だからできるソーシャルワーク」川村隆彦・倉内恵理子著 中央法規 2017年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前にテキストを読み、演習課題を行う(60分)。授業後にテキストの復習を行う(60分)

「子育て支援」公益財団法人児童育成協会＝監修／西村重稀、青井夕貴編集 2019年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問合せ下さい。

留意事項： 本授業は、保育士関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード：13215 **科目ナンバリング：**PC20C27E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：子育て支援演習 b(Childcare Support Seminar b)

担当者：安藤 みゆき

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜6限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：

保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例を通して具体的に説明していきます。

キーワード： 子育て支援、関係機関との連携、多様なニーズを抱える家庭

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開と具体的に理解できる。

評価方法： レポート

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって自身の知見によって追加された成果等がレポート内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象としない。ただしボランティア活動によって深められた知見がレポートの内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 第1回 日常的・継続的な関りを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
第2回 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
第3回 子ども及び保護者の状況・状態の把握
第4回 支援の計画と環境の構成
第5回 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
第6回 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
第7回 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
第8回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

使用テキスト：「保育者だからできるソーシャルワーク」川村隆彦・倉内恵理子著 中央法規 2017年

予習・復習のポイントと 授業前にテキストを読み、演習課題を行う(60分)。授業後にテキストの復習を行う(60分)
参考文献・資料等：

「子育て支援」公益財団法人児童育成協会＝監修／西村重稀、青井夕貴編集 2019年

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に問合せ下さい。

留意事項： 本授業は、保育士関連の科目のため児童福祉法施行規則により50名以下とする。

科目コード：13216 科目ナンバリング：PC20C28E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児理解 a(Understanding Preschoolers a)

担当者： 菊地 知子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：11.討論

16. 振り返り用紙と回答

授業の概要：

幼児の生活する姿から幼児の内的世界を理解し、幼児の持っている活動的、創造的な特性を生かし、幼児とともに歩むことが幼稚園教育では重要な事柄である。そのためには幼児理解が出発点となる。授業の前半では、幼児理解の基本についての考え方や基礎的態度を学ぶ。後半では、幼児理解の方法について具体的に学ぶ。事例の検討やロールプレイ体験を通して、実践的な力の習得を目指す。

キーワード： 幼稚園教育の基本、幼児理解と評価、遊びを通しての総合的な指導、記録の重要性、小学校教育への円滑な接続

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標： 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
2)保育記録や文献購読により事例検討と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の認識、動き等を予想し、保育を構想し、情報機器及び教材を活用し、指導案を作成することができる。

評価方法: 授業内課題・学期末レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

しかし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験の記述内容に認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。しかし、ボランティアの活動等の実践から得られた知見が学期末試験の記述内容に表れている場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション 現代社会における子育ての諸課題と幼稚園教育の役割
第2回:幼稚園教育における幼児理解の意義と保育者の基本的姿勢
第3回:幼児理解の意義と保育者の役割(1)未来につながる今を支える視点
第4回:幼児理解の意義と保育者の役割(2)集団と個をどう捉えるか
第5回:幼児理解の意義と保育者の役割(3)3歳児事例研究
第6回:幼児理解の意義と保育者の役割(4)4歳児事例研究
第7回:幼児理解の意義と保育者の役割(5)5歳児事例研究
第8回:幼児理解と保育者の自己理解およびネットワーク

使用テキスト: どの子にも あ～楽しかった!の毎日を
～発達の視点と保育の手立てをむすぶ～ ひとなる書房

予習・復習のポイントと ・授業前には、その回のテーマを確認し、わからない用語は調べる。

参考文献・資料等: ・授業後には、教科書について復習すると共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(90分)課題の提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 出校日の昼休みに対応します。初回の授業時に詳しく説明します。

留意事項: なし

科目コード: 13216

科目ナンバリング: PC20C28E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 幼児理解 b(Understanding Preschoolers b)

担当者: 菊地 知子

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 11.討論

16. 振り返り用紙と回答

授業の概要:

幼児の生活する姿から幼児の内的世界を理解し、幼児の持っている活動的、創造的な特性を生かし、幼児とともに歩むことが幼稚園教育では重要な事柄である。そのためには幼児理

解が出发点となる。授業の前半では、
幼児理解の基本についての考え方や基礎的態度を学ぶ。後半では、幼児理解の方法について具体的に学ぶ。
事例の検討やロールプレイ体験を通して、実践的な力の習得を目指す。

キーワード： 幼稚園教育の基本、幼児理解と評価、遊びを通しての総合的な指導、記録の重要性、小学校教育への円滑な接続

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
2)保育記録や文献購読により事例検討と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の認識、動き等を予想し、保育を構想し、情報機器及び教材を活用し、指導案を作成することができる。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。
しかし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験の記述内容に認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。しかし、ボランティアの活動等の実践から得られた知見が学期末試験の記述内容に表れている場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション 現代社会における子育ての諸課題と幼稚園教育の役割
第2回:幼稚園教育における幼児理解の意義と保育者の基本的姿勢
第3回:幼児理解の意義と保育者の役割(1)未来につながる今を支える視点
第4回:幼児理解の意義と保育者の役割(2)集団と個をどう捉えるか
第5回:幼児理解の意義と保育者の役割(3)3歳児事例研究
第6回:幼児理解の意義と保育者の役割(4)4歳児事例研究
第7回:幼児理解の意義と保育者の役割(5)5歳児事例研究
第8回:幼児理解と保育者の自己理解およびネットワーク

使用テキスト： どの子にも あ～楽しかった！の毎日を
～発達の視点と保育の手立てをむすぶ～ ひとなる書房

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマを確認し、わからない用語は調べる。
・授業後には、教科書について復習すると共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(90分)課題の提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段：出校日の昼休みに対応します。初回の授業時に詳しく説明します。

留意事項：なし

科目コード：13217 科目ナンバリング：PC20C29E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育相談 a(School Counseling a)

担当者：中島 美那子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：08.共同学修 11.討論
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 幼児期の発達に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義や理論、技法を含む)を習得します。そのため授業前半はおもに教育相談の意義、幼児期の発達の特徴、保護者の心理について学び、後半では不適応や問題行動に対する教育相談のあり方や保護者への教育相談、関係機関との連携について実践的に学びます。

キーワード： 教育相談、カウンセリング、保護者支援、多職種連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 保育・教育施設における教育相談の意義について説明することができる。
 2. 保育・教育施設における教育相談の課題について理解している。
 3. 教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

評価方法： 振り返りシート、学期末筆記試験

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
1. 幼児期に起こる行動問題を理解し、その対応について考えることができる。
 2. 保護者や関係機関との連携について状況に応じた対応を示すことができる。
 3. 保護者に対する教育相談の実際について理解している。

評価方法： 振り返りシート、学期末筆記試験

評価割合： 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。しかし、主体的な取り組みによると思われる気づきや理解の深まりが振り返りシートや定期筆記試験の中に認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、レポートや学期末筆記試験で子どもの人権侵害や差別的発言等が見られた時には減点の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 幼児期における教育相談の意義
第2回 幼児期における教育相談の課題
第3回 幼児期の発達をとらえる視点
第4回 発達上の行動問題
第5回 保護者への教育相談、機関との連携
第6回 教育相談の技法
第7回 園内体制と教育相談の目標・方針
第8回 教育相談の実際
定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は、印刷したものを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前学修として、現代社会における子どもの育つ環境、子どもの特性、さらには子どもを取り巻く今日的課題について書籍やメディアなどを通して理解を深めておいてください。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは授業担当に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：13217 科目ナンバリング：PC20C29E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育相談 b(School Counseling b)

担当者：中島 美那子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：08.共同学修 11.討論
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 幼児期の発達に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義や理論、技法を含む)を習得します。そのため授業前半はおもに教育相談の意義、幼児期の発達の特徴、保護者の心理について学び、後半では不適応や問題行動に対する教育相談のあり方や保護者への教育相談、関係機関との連携について実践的に学びます。

キーワード： 教育相談、カウンセリング、保護者支援、多職種連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 保育・教育施設における教育相談の意義について説明することができる。
2. 保育・教育施設における教育相談の課題について理解している。
3. 教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

評価方法： 振り返りシート、学期末筆記試験

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 幼児期に起こる行動問題を理解し、その対応について考えることができる。
2. 保護者や関係機関との連携について状況に応じた対応を示すことができる。

3. 保護者に対する教育相談の実際について理解している。

評価方法: 振り返りシート、学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。しかし、主体的な取り組みによると思われる気づきや理解の深まりが振り返りシートや定期筆記試験の中に認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、レポートや学期末筆記試験で子どもの人権侵害や差別的発言等が見られた時には減点の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 幼児期における教育相談の意義
第2回 幼児期における教育相談の課題
第3回 幼児期の発達をとらえる視点
第4回 発達上の行動問題
第5回 保護者への教育相談、機関との連携
第6回 教育相談の技法
第7回 園内体制と教育相談の目標・方針
第8回 教育相談の実際
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は、印刷したものを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前学修として、現代社会における子どもの育つ環境、子どもの特性、さらには子どもを取り巻く今日的課題について書籍やメディアなどを通して理解を深めておいてください。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは授業担当に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 13218

科目ナンバリング: PC21C06K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 乳児保育I(Infant Care I)

担当者: 清水 悦子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 保育

AL要素: 07. 発表
17. 発問と回答

授業の概要： この授業では、近年、需要と期待の高まりを見せている乳児保育について、その社会背景や意義と目的、保育士に求められる専門性、発達や生活の変化などを講義形式で学ぶ。また、保育士や子育て支援活動の実務経験を活かし、実例を示しながら保護者支援についての視点を共有し、多面的に物事を捉える力を養う。
なお、乳児保育では、保育分野の慣習に則り3歳未満児までを学修の対象とする。

キーワード： 乳児、発達、遊び、環境構成、子育て支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 乳児の心身の発達と遊びや生活がつながっていることを理解し、保育者の援助内容を考えてることができる
2. 乳児の活動場面を記録し、乳児が何を学んでいるか言語化できる
3. 年齢に応じた手遊びやふれあい遊びを暗記して実践できる

評価方法： 授業時に課される課題、およびレポートにより総合的に評価する。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で課す課題について、授業で得た新しい視点を取り入れながら、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法： 授業時に課される課題、およびレポートにより総合的に評価する。 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業課題への準備状況や、グループで取り組む課題への貢献度、グループワークへの参加態度についてを評価の対象とする。

明らかな準備不足や、他の学生の学修意欲をそぐ態度については減点の対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 乳児保育の目的と役割とその意義
第2回 0～3歳までの発育・発達
第3回 乳児の生活：デイリープログラム
第4回 食事の援助と環境
第5回 排泄の援助と環境
第6回 睡眠・休息の援助と環境
第7回 着脱に関する援助と環境
第8回 清潔に関する援助と環境
第9回 乳児保育における健康と安全
第10回 乳児(0歳児)の保育内容と遊び
第11回 1歳以上3歳未満児の保育内容
第12回 1歳以上3歳未満児の遊び
第13回 乳児保育における計画と評価
第14回 乳児保育を支える連携
第15回 乳児の手作りおもちゃ発表会と振り返り

使用テキスト：「演習で学ぶ乳児保育」善本眞弓編著、わかば社、2020年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、授業で取り扱った範囲の復習を十分に行うこと(90分)。
また、日頃から乳児のいる遊び場に出向いたり、ボランティア活動を行うなど、乳児と身近に触れる機会が持てるよう努力すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間帯については初回に知らせる。

留意事項： 2回目の授業から、追加の授業資料の紙での配布は行いません。
授業時のデバイスの使用については初回授業時にアナウンスします。

科目コード：13219 科目ナンバリング：PC22C06E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：乳児保育II a (Infant Care II a)

担当者：秋山 智代

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：保育

AL要素：03.実験・実技・体験
08.協同学修
13.役割演技と疑似体験

授業の概要：【授業形態ガイドラインレベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型または課題研究型
乳幼児の生理と発育・発達過程や特性を理解し、人間形成の基礎を培う乳幼児期の子供の生活の在り方・援助方法について必要な知識・技能・態度を養う。また、保育体験などを通して実践技能の習得を図る。
妊娠出産から胎児期、新生児期を学び、乳児の発育と発達を理解する。
またこれらについて、グループワークや実習を行い、理解を深める。

キーワード： 幼児 乳児 胎児 新生児 妊娠 発達

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 3歳未満の子どもの心身発達に関して、基礎知識と養育に関する技能を身につける。

評価方法： レポートや期末テスト、授業態度等により **評価割合：40%**
総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 3歳未満児保育の具体的な援助の方法について説明できる。
保護者を含めた保育の対象者の特性について理解する。
保育士の専門性について認識し、保護者や地域との連携の必要性を知る。

評価方法： レポートや期末テスト、授業態度等により **評価割合：40%**
総合的に評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

演習授業のため、グループワークや実習への参加態度を評価対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01回】対象者の理解 妊娠～出産
【第02回】3歳未満児の生理と保育 ①成長と発達
【第03回】3歳未満児の生理と保育 ②栄養
【第04回】3歳未満児の生理と保育 ③睡眠と活動
【第05回】3歳未満児の生理と保育 ④環境と事故予防
【第06回】3歳未満児の生理と保育 ⑤病気・感染症・予防接種
【第07回】保育の実際(演習①)
【第08回】保育の実際(演習②)
定期試験

使用テキスト： 初回授業の際に示す。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 保育所保育指針(厚生労働省)の乳児保育に関する箇所を読んでおくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するため、まずは担当教員もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： メールにて対応する。アドレスは初回授業時に示す。

留意事項： 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード：13219 科目ナンバリング：PC22C06E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：乳児保育II b (Infant Care II b)

担当者：秋山 智代

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：PC

関連資格：保育

AL要素：03.実験・実技・体験
08.協同学修
13.役割演技と疑似体験

授業の概要：【授業形態ガイドラインレベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型または課題研究型

乳幼児の生理と発育・発達の過程や特性を理解し、人間形成の基礎を培う乳幼児期の子供の生活の在り方・援助方法について必要な知識・技能・態度を養う。また、保育体験などを通して実践技能の習得を図る。

妊娠出産から胎児期、新生児期を学び、乳児の発育と発達を理解する。
またこれらについて、グループワークや実習を行い、理解を深める。

キーワード： 幼児 乳児 胎児 新生児 妊娠 発達

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 3歳未満の子どもの心身発達に関して、基礎知識と養育に関する技能を身につける。

評価方法： レポートや期末テスト、授業態度等により **評価割合：40%**
総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 3歳未満児保育の具体的な援助の方法について説明できる。

保護者を含めた保育の対象者の特性について理解する。
保育士の専門性について認識し、保護者や地域との連携の必要性を知る。

評価方法: レポートや期末テスト、授業態度等により総合的に評価する。 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

演習授業のため、グループワークや実習への参加態度を評価対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01回】対象者の理解 妊娠～出産
【第02回】3歳未満児の生理と保育 ①成長と発達
【第03回】3歳未満児の生理と保育 ②栄養
【第04回】3歳未満児の生理と保育 ③睡眠と活動
【第05回】3歳未満児の生理と保育 ④環境と事故予防
【第06回】3歳未満児の生理と保育 ⑤病気・感染症・予防接種
【第07回】保育の実際(演習①)
【第08回】保育の実際(演習②)
定期試験

使用テキスト: 初回授業の際に示す。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 保育所保育指針(厚生労働省)の乳児保育に関する箇所を読んでおくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するため、まずは担当教員もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メールにて対応する。アドレスは初回授業時に示す。

留意事項: 本授業は、保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード: 13220 **科目ナンバリング:** PC20C31K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 特別支援教育(Special Needs Education)

担当者: 三橋 翔太

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職

AL要素: 03. 実験・実技・体験

04. 課題解決

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 発達障害者支援法の制定以降、発達障害のある者への幼児期から成人期までの一貫した支援が求められている。本講義では、通常の幼稚園や認定こども園に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別の支援を必要とする幼児を取り上げ、各障害の特性や学習の過程と支援の方法について述べる。更に、「個別の指導計画」や「通級による指

導、「園内委員会」など幼稚園や認定こども園における特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え、障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児の学習上・生活上の困難と支援についても述べる。

キーワード： 特別支援教育, 教育的ニーズ, 障害

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 通常の幼稚園や認定こども園に在籍している発達障害などにより特別の支援を必要とする幼児の特性と支援の方法に加え、幼稚園や認定こども園における特別支援教育制度の基礎的事柄を理解することにより、個別の教育的ニーズに対応するための知識を身に付ける。

評価方法： 期末試験

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 理解した知識や身につけた知識を考察・応用することができる。

評価方法： コメントペーパー

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に特別なニーズを持つ児と関わる機会を自ら設け、その内容が授業終了時に回収するコメントペーパーなどに記載されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業後に回収するコメントペーパーや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 第1回: インクルーシブ教育の理念とその法的根拠
- 第2回: 特別支援教育と乳幼児健診
- 第3回: 幼稚園・認定こども園における特別支援教育の教育課程～通級による指導及び自立活動～
- 第4回: 個別の指導計画と教育支援計画の作成及び評価の実際
- 第5回: 特別支援教育コーディネーター及び関係機関(医療・行政・小学校)や家庭との連携
- 第6回: 注意欠如多動性障害(ADHD)のある幼児の理解と支援方法
- 第7回: 自閉症スペクトラム障害(ASD)のある幼児の理解と支援方法(1) 自閉症・広汎性発達障害
- 第8回: 自閉症スペクトラム障害(ASD)のある幼児の理解と支援方法(2) アスペルガー症候群
- 第9回: 情緒障害や言語障害のある幼児の理解と支援方法(かん黙・吃音・言語発達遅滞)
- 第10回: 限局性学習障害(LD)や軽度知的障害のある児童の理解と支援方法
- 第11回: 病弱児の理解と支援及び二次障害(心身症・問題行動)を示した幼児への対応
- 第12回: 感覚障害(視覚障害, 聴覚障害)のある幼児の理解と支援方法
- 第13回: 運動障害(肢体不自由, 発達性協調運動障害)のある幼児の理解と支援方法
- 第14回: 母国語や貧困の問題に伴う特別な教育的ニーズのある幼児への支援方法
- 第15回: まとめ

使用テキスト: 適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- 1 湯浅恭正(編)よくわかる特別支援教育, ミネルヴァ書房
- 2 幼稚園教育要領(文部科学省, 平成29年3月)
- 3 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府, 平成29年3月)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード: 13221 **科目ナンバリング:** PC20C32E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 保育内容総論 a(Fundamentals of Nursery Care a)

担当者: 菊地 知子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜1限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格: 教職 保育

AL要素: 11.討論

16振り返り用紙と回答

授業の概要: [特例中の授業形態]課題研究型

幼稚園教育では、環境を通して行う教育の考え方や幼児理解に始まる保育の展開について理解を深めた上で、各領域のねらいや内容を理解し、子どもの具体的な姿から保育を構想することが大切です。保育内容の変遷を学び、子どもの発達に応じた保育を考え、保育者の専門性について省察していきます。

キーワード: 幼稚園教育の基本、幼児理解と評価、遊びを通しての総合的な指導、記録の重要性、小学校教育への円滑な接続

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
2)保育記録や文献購読により事例検討と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

評価方法: 授業内課題・学期末レポート

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の認識、動き等を予想し、保育を構想し、情報機器及び教材を活用し、指導案を作成することができる。

評価方法: 授業内課題・学期末レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

しかし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験の記述内容に認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。しかし、ボランティアの活動等の実践から得られた知見が学期末試験の記述内容に表れている場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：幼児教育の基本と保育内容
第2回：保育内容総論の基本
第3回：子どもの育ちと保育内容のつながり
第4回：遊びを通しての総合的な指導
第5回：環境を生かした保育方法（保育室の環境構成、園庭の環境構成）
第6回：保育内容の変遷
第7回：乳児期（0, 1, 2 歳児）の特性と保育内容：総合的なとらえ方
第8回：幼児期（3, 4, 5歳児）の特性と保育内容
第9回：子どもの育ちと学びの可視化
第10回：保育内容の多様性
第11回：障がいのある子どもの指導 インクルージョンの実現に向けて
第12回：多様な保育ニーズの取り組みと課題
第13回：世界の保育内容から学ぶ記録の重要性
第14回：世界の保育内容から学ぶ保育者の専門性
第15回：小学校教育との連携・接続

使用テキスト： 子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論 北大路書房

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマを確認し、わからない用語は調べる。
・授業後には、教科書について復習すると共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。（90分）課題の提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： 出校日の昼休みに対応します。初回の授業時に詳しく説明します。

留意事項： なし

科目コード：13221 科目ナンバリング：PC20C32E 主な使用言語：日本語

授業名（英文）： 保育内容総論 b(Fundamentals of Nursery Care b)

担当者： 菊地 知子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職 保育

AL要素：11.討論
16振り返り用紙と回答

授業の概要： [特例中の授業形態]課題研究型

幼稚園教育では、環境を通して行う教育の考え方や幼児理解に始まる保育の展開について

理解を深めた上で、各領域のねらいや内容を理解し、子どもの具体的な姿から保育を構想することが大切です。保育内容の変遷を学び、子どもの発達に応じた保育を考え、保育者の専門性について省察していきます。

キーワード： 幼稚園教育の基本、幼児理解と評価、遊びを通しての総合的な指導、記録の重要性、小学校教育への円滑な接続

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
2)保育記録や文献購読により事例検討と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の認識、動き等を予想し、保育を構想し、情報機器及び教材を活用し、指導案を作成することができる。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

しかし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験の記述内容に認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。しかし、ボランティアの活動等の実践から得られた知見が学期末試験の記述内容に表れている場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回: 幼児教育の基本と保育内容
第2回: 保育内容総論の基本
第3回: 子どもの育ちと保育内容のつながり
第4回: 遊びを通しての総合的な指導
第5回: 環境を生かした保育方法(保育室の環境構成、園庭の環境構成)
第6回: 保育内容の変遷
第7回: 乳児期(0, 1, 2歳児)の特性と保育内容: 総合的なとらえ方
第8回: 幼児期(3, 4, 5歳児)の特性と保育内容
第9回: 子どもの育ちと学びの可視化
第10回: 保育内容の多様性
第11回: 障がいのある子どもの指導 インクルージョンの実現に向けて
第12回: 多様な保育ニーズの取り組みと課題
第13回: 世界の保育内容から学ぶ記録の重要性
第14回: 世界の保育内容から学ぶ保育者の専門性
第15回: 小学校教育との連携・接続

使用テキスト: 子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論 北大路書房

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業前には、その回のテーマを確認し、わからない用語は調べる。
・授業後には、教科書について復習すると共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(90分)課題の提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 出校日の昼休みに対応します。初回の授業時に詳しく説明します。

留意事項: なし

科目コード: 13222 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 教育基礎演習B(Education Basic Seminar B)

担当者: 柳橋 晃

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 金曜5限 **履修可能学科・専攻:** Pc

関連資格: **AL要素:** 07 発表
08 協同学修
10 資料調査課題
11 討論
17 発問と回答

授業の概要: 児童教育に関係する研究領域に関して、その内容と方法をについて演習形式で学ぶことを目的とする。また全ての研究分野で必要となるライティングスキルについても演習形式で身に付ける。

キーワード: 研究内容・研究法・ライティングスキル

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: (1) 児童教育に関連する研究内容について説明することができる。
(2) 児童教育に関連する研究に関して、様々な方法があることを理解し、どのように用いるのか理解することができる。

評価方法: 毎時課題 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: (1) 学術的成果物をまとめ、それらを適切な文章で表現することができる。
(2) 学術的成果物の要点をまとめ、従来の知見を整理することができる。

評価方法: 最終レポート **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の人権侵害、その他いちじるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(こ

の授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 第1回:イントロダクション
第2回:児童教育に関連する研究内容・手法
第3回:研究実践の紹介① ゼミでの活動の紹介を通して
第4回:研究実践の紹介② ゼミでの活動の紹介を通して
第5回:研究実践の紹介③ ゼミでの活動内容の紹介を通して
第6回:研究実践の紹介④ ゼミでの活動の紹介を通して
第7回:研究実践の紹介⑤ ゼミでの活動の紹介を通して
第8回:研究実践の紹介⑥ ゼミでの活動の紹介を通して
第9回:研究実践の紹介⑦ ゼミでの活動の紹介を通して
第10回:研究実践の紹介⑧ ゼミでの活動の紹介を通して
第11回:研究実践に向けて① ー文献の収集・論文の構成ー
第12回:研究実践に向けて② ーテキストの読み方ー
第13回:研究実践に向けて③ ーテキストのまとめ方ー
第14回:先行研究をまとめてみる①
第15回:先行研究をまとめてみる②

使用テキスト: 事前購入を要するテキストなし
授業において随時指示する

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じ知見を深めることが望ましい。
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

障がいのある
履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: デバイスの持参を推奨します。

科目コード:13226 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 子どもと言葉 a(Children and Language a)

担当者: 原口 なおみ

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: Pc

関連資格:教職

AL要素: 02. 模擬実践
13. 役割演技と疑似体験
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 3歳児クラス4月から卒園までの子どもの言葉の発達過程を示し、それぞれの発達段階に合った児童文化財を紹介する。特に、絵本の読み聞かせ、わらべうた、「おはなし」すなわち、覚えて語る素話・ストーリーテリングが、子どもの成長に与える意義を理解し、保育の場にふさわしい語り・声の技を身につける。
幼児期の言葉の育ちについて知り、語り継がれて来た昔話を親しい大人の声で子どもに届

ける意義を認識する。
読み継がれて来た絵本・昔話・幼年童話を通して、子ども理解を深め、子どもの心に届く作品の選び方、語りかけ方を習得する。
子どもの育ちを支える児童文化財を知り、子どもの成長にあった保育計画を立てる。
集団で遊べるわらべ歌について学び、指導案を書いて、模擬保育を行う。
手遊び・わらべうた・詩などの導入と、絵本の読み聞かせを組み合わせ、おはなし会形式の指導案を書き、模擬保育を行う。
保育記録を取る意味、子どもの学びを読み取る視点を知り、保育者としての子ども観を構築する。

キーワード： 一次的事ば、二次的事ば、わらべうた、伝承の昔話、昔話の様式、ストーリーテリング(素話)、詩、などなど、物語絵本、科学絵本、幼年童話、学びの物語(ラーニングストーリー)

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1)3歳児クラス4月から卒園までの幼児の言語発達を、個人および集団の視点から理解する。
2)子どもの発達段階に応じた絵本・わらべうた・おはなし・詩などの児童文化財のうち、基本的なものを知り、子どもに伝える術(語り方、提示の仕方など)を心得て、模擬保育を行うことができる。
3)指導案の形で保育計画を立て、実践できる。

評価方法： * 授業終了時提出の振り返り用紙
* 保育指導案形式のレポート
* おはなし会形式の実技発表

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た知識・考え方を、自らの体験と照らし合わせて、自らの子ども観を深め、広げることができる。
子どもの発達段階に合った児童文化財を保育教材として選び、作品に合わせた表現をすることができる。

評価方法： * 授業終了時提出の振り返り用紙
* 保育指導案形式のレポート
* おはなし会形式の実技発表

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、振り返り用紙やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深める考察や、保育教材となる児童文化財についての探求と気づきが記載されている場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象と

することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 幼児期のことばとおはなし
 2. 韻律のあることばとおはなし
 3. わらべうたと日常の物語(指導案3～4歳)
 4. ○○ちゃんのおはなし(主人公への同化)
 5. 昔話絵本から劇遊びへ「おおきなかぶ」「三びきのやぎのがらがらどん」「てぶくろ」
 6. 言い間違え・吃音・うそ・ことばあそび
 7. 創作絵本とファンタジー(導入＋読み聞かせ指導案)
 8. 心の理論・メタ認知能力「マーシャとくま」
 9. 伝承の昔話と子どもの空想－先取り－「おおかみと七ひきのこやぎ」
 10. 伝承の昔話と子どもの空想－声のカー「雌牛のブーコー」
 11. わらべうたあそび(指導案 5～6歳児)
 12. なぞなぞ・カルタ(指導案 年中長児)
 13. おはなし会実技－昔話絵本－(導入＋読み聞かせ指導案)
 14. おはなし会実技－科学絵本－(導入＋読み聞かせ指導案)
 15. おはなし会実技－幼年童話－(導入＋読み聞かせ指導案)
- 定期試験

使用テキスト：教科書は定めず、授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献

- 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
『愛蔵版 おはなしのろうそく1～12』東京子ども図書館
『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎 実業之日本社
TCLブックレット『よみきかせのきほん』東京子ども図書館
近藤信子『にほんのわらべうた』1～4 福音館書店
松岡享子『えほんのせかい こどものせかい』文春文庫
松岡享子『子どもと本』岩波新書
岡本夏木『子どもとことば』『ことばと発達』『幼児期』岩波新書
松岡享子「ことばの力」「こどもとしょかん168 冬』所収 東京子ども図書館
TCLブックレット『昔話と子どもの空想』東京子ども図書館

授業で得た知識を真に自分のものとするためには、参考文献を自分の体験・実習と結び付けて読み込むことが大切。

実技習得のためには、参考文献として紹介した本から、わらべうたや読み継がれてきた絵本、語り継がれてきた昔話を語りに向くテキストにまとめた本を、自分の声で、子どもに伝えるつもりで唄ってみる、読み聞かせてみる必要がある。また、子どもに伝える場面をイメージして保育指導案を書いてみると、保育教材を使いこなすコツがつかめる。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード：13226 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：子どもと言葉 b(Children and Language b)

担当者：原口 なおみ

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：02. 模擬実践

13. 役割演技と疑似体験

15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 3歳児クラス4月から卒園までの子どもの言葉の発達過程を示し、それぞれの発達段階に合った児童文化財を紹介する。特に、絵本の読み聞かせ、わらべうた、「おはなし」すなわち、覚えて語る素話・ストーリーテリングが、子どもの成長に与える意義を理解し、保育の場にふさわしい語り・声の技を身につける。
幼児期の言葉の育ちについて知り、語り継がれて来た昔話を親しい大人の声で子どもに届ける意義を認識する。
読み継がれて来た絵本・昔話・幼年童話を通して、子ども理解を深め、子どもの心に届く作品の選び方、語りかけ方を習得する。
子どもの育ちを支える児童文化財を知り、子どもの成長にあった保育計画を立てる。
集団で遊べるわらべ歌について学び、指導案を書いて、模擬保育を行う。
手遊び・わらべうた・詩などの導入と、絵本の読み聞かせを組み合わせ、おはなし会形式の指導案を書き、模擬保育を行う。
保育記録を取る意味、子どもの学びを読み取る視点を知り、保育者としての子ども観を構築する。

キーワード： 一次的事物、二次的事物、わらべうた、伝承の昔話、昔話の様式、ストーリーテリング(素話)、詩、なぞなぞ、物語絵本、科学絵本、幼年童話、学びの物語(ラーニングストーリー)

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
- 1) 3歳児クラス4月から卒園までの幼児の言語発達を、個人および集団の視点から理解する。
 - 2) 子どもの発達段階に応じた絵本・わらべうた・おはなし・詩などの児童文化財のうち、基本的なものを知り、子どもに伝える術(語り方、提示の仕方など)を心得て、模擬保育を行うことができる。
 - 3) 指導案の形で保育計画を立て、実践できる。

評価方法：＊授業終了時提出の振り返り用紙
＊保育指導案形式のレポート
＊おはなし会形式の実技発表

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で得た知識・考え方を、自らの体験と照らし合わせて、自らの子ども観を深め、広げることができる。
子どもの発達段階に合った児童文化財を保育教材として選び、作品に合わせた表現をすることができる。

評価方法：＊授業終了時提出の振り返り用紙
＊保育指導案形式のレポート
＊おはなし会形式の実技発表

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、振り返り用紙やレポートの記述内容において、自身の子ども観を深める考察や、保育教材となる児童文化財についての探求と気づきが記載されている場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし子どもに関わるボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。また、子どもの人権に配慮し、子どもの健やかな成長を支える保育者としての責務を識るよう努めること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 幼児期のことばとおはなし
 2. 韻律のあることばとおはなし
 3. わらべうたと日常の物語(指導案3～4歳)
 4. ○○ちゃんのおはなし(主人公への同化)
 5. 昔話絵本から劇遊びへ「おおきなかぶ」「三びきのやぎのがらがらどん」「てぶくろ」
 6. 言い間違い・吃音・うそ・ことばあそび
 7. 創作絵本とファンタジー(導入+読み聞かせ指導案)
 8. 心の理論・メタ認知能力「マーシャとくま」
 9. 伝承の昔話と子どもの空想 ー先取りー「おおかみと七ひきのこやぎ」

10. 伝承の昔話と子どもの空想一声のカー「雌牛のブーコーラ」
 11. わらべうたあそび(指導案 5～6歳児)
 12. なぞなぞ・カルタ(指導案 年中長児)
 13. おはなし会実技―昔話絵本―(導入＋読み聞かせ指導案)
 14. おはなし会実技―科学絵本―(導入＋読み聞かせ指導案)
 15. おはなし会実技―幼年童話―(導入＋読み聞かせ指導案)
- 定期試験

使用テキスト： 教科書は定めず、授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと 参考文献

参考文献・資料等：

- 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
 『愛蔵版 おはなしのろうそく1～12』東京子ども図書館
 『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎 実業之日本社
 TCLブックレット『よみかかせのきほん』東京子ども図書館
 近藤信子『にほんのわらべうた』1～4 福音館書店
 松岡享子『えほんのせかい こどものせかい』文春文庫
 松岡享子『子どもと本』岩波新書
 岡本夏木『子どもとことば』『ことばと発達』『幼児期』岩波新書
 松岡享子「ことばの力」「こどもとしょかん168 冬』所収 東京子ども図書館
 TCLブックレット『昔話と子どもの空想』東京子ども図書館

授業で得た知識を真に自分のものとするためには、参考文献を自分の体験・実習と結び付けて読み込むことが大切。

実技習得のためには、参考文献として紹介した本から、わらべうたや読み継がれてきた絵本、語り継がれてきた昔話を語りに向くテキストにまとめた本を、自分の声で、子どもに伝えるつもりで読んでみる、読み聞かせてみる必要がある。また、子どもに伝える場面をイメージして保育指導案を書いてみると、保育教材を使いこなすコツがつかめる。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 本授業は保育士資格関連の科目のため児童福祉法施行規則により受講者数を50名以下とする。

科目コード：13227

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもと造形表現 a(Children and Creative Expression a)

担当者：信太 進

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：03. 実験・実技・体験
 07. 発表
 08. 協同学修

授業の概要： 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本をふまえ、領域「表現」のねらいおよび内容の理解を深めるとともに、幼児の表現の姿やその発達、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて知識・技能、表現力を身につける。

キーワード： 造形、表現、保育、幼児教育、保育教材、指導案

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 身のまわりの物を身体の諸感覚でとらえ、素材の特性を生かした表現をすることができる。また、様々な表現の基礎的な知識技能を生かして、幼児の表現活動に展開させることができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。また、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて考え、表現する力を伸ばすことができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題作品等の内容により認められる場合は、上記の項目「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回：領域「表現」と幼児の造形表現
- 第2回：造形表現の素材研究1(紙)
- 第3回：造形表現の素材研究2(布)
- 第4回：造形表現の素材研究3(粘土)
- 第5回：自然環境と造形表現1(草花)
- 第6回：自然環境と造形表現2(石)
- 第7回：自然環境と造形表現3(風)
- 第8回：年中行事と造形表現1(七夕)
- 第9回：年中行事と造形表現2(クリスマス)
- 第10回：年中行事と造形表現3(正月)
- 第11回：伝統文化と造形表現1(お面)
- 第12回：伝統文化と造形表現2(和紙)
- 第13回：ICTと造形表現1(写真表現)
- 第14回：ICTと造形表現2(鑑賞)
- 第15回：振り返りとまとめ

使用テキスト： 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- 予習・復習のポイント
- ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
- ・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料
授業時に参考資料を配布したりスクリーンに投影したりする。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・造形活動に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。
・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13227 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：子どもと造形表現 b(Children and Creative Expression b)

担当者：信太 進

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素： 03. 実験・実技・体験
07. 発表
08. 協同学修

授業の概要： 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本をふまえ、領域「表現」のねらいおよび内容の理解を深めるとともに、幼児の表現の姿やその発達、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて知識・技能、表現力を身につける。

キーワード： 造形、表現、保育、幼児教育、保育教材、指導案

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 身のまわりの物を身体の諸感覚でとらえ、素材の特性を生かした表現をすることができる。また、様々な表現の基礎的な知識技能を生かして、幼児の表現活動に展開させることができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。また、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて考え、表現する力を伸ばすことができる。

評価方法： 課題作品の内容

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等の内容により認められる場合は、上記の項目「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等の記述等において人権侵害・差別的発

言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：領域「表現」と幼児の造形表現
第2回：造形表現の素材研究1(紙)
第3回：造形表現の素材研究2(布)
第4回：造形表現の素材研究3(粘土)
第5回：自然環境と造形表現1(草花)
第6回：自然環境と造形表現2(石)
第7回：自然環境と造形表現3(風)
第8回：年中行事と造形表現1(七夕)
第9回：年中行事と造形表現2(クリスマス)
第10回：年中行事と造形表現3(正月)
第11回：伝統文化と造形表現1(お面)
第12回：伝統文化と造形表現2(和紙)
第13回：ICTと造形表現1(写真表現)
第14回：ICTと造形表現2(鑑賞)
第15回：振り返りとまとめ

使用テキスト： 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習・復習のポイント
・授業前には、その回のテーマについて調べる。
・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料
授業時に参考資料を配布したりスクリーンに投影したりする。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・造形活動に適した服装やエプロンなどを用意してください。
・可能ならデバイスを持参してください。
・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

科目コード：13227 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：子どもと造形表現 c(Children and Creative Expression c)

担当者： 佃 彰一郎

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：Pc

関連資格：教職

AL要素：03 実験・実技・体験
17 発問と回答

授業の概要： ・一般的な幼児の造形表現の発達段階を解説する。
・幼児の発達に対応した表現活動、そのための教材を制作することで理解を深める。

キーワード： 造形表現、保育内容、発達段階

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解する。

評価方法： レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児が自発的な造形表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行うことができる。

評価方法： 提出作品

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。ただし片付け、清掃を行わない、工作素材の乱用、工作用具に対する乱雑な扱い等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。ただ

- 授業計画：**
- 第1回 幼児の造形表現の発達段階
 - 第2回 現在のメディアが幼児に与える影響について
 - 第3回 自分自身の表現の発達を振り返る
 - 第4回 幼児の色彩感覚
 - 第5回 年中行事と造形表現1(七夕)
 - 第6回 年中行事と造形表現2(クリスマス)
 - 第7回 フロッタージュによる表現
 - 第8回 現在のメディアが幼児に与える影響について
 - 第9回 絵本の表現
 - 第10回 絵本の構成要素
 - 第11回 絵本の制作
 - 第12回 絵本の制作発表
 - 第13回 幼児保育の参考書、教材の活用
 - 第14回 クレヨンと水彩絵具の表現
 - 第15回 保育者と幼児の関係性

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て配布します。

予習・復習のポイントと 多くの参考作品に注目してください、制作のヒントが見つかります。

参考文献・資料等： 考察、制作の時間が能力向上につながります、授業で指定する提出作品の数量より多くの制作に取り組むことが重要です。

障がいのある履修者への対応： 申し出てください、可能な限り対応します。または授業開始以前に学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段： 電話(番号は教室内に掲示)またはメールで連絡して下さい。

留意事項： クラス指定以外の履修者は初回の授業時に申し出てください。
